

石川原遺跡(4)

の建物4
遺構以外冊

前原遺跡

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第78集

二〇二一

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

石川原遺跡(4)

第4分冊 建物以外の遺構編

前原遺跡

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第78集

2021

国 土 交 通 省

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

石川原遺跡(4)

第4分冊 建物以外の遺構編

前原遺跡

八ツ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第78集

2021

国 土 交 通 省

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

目 次

挿図目次・表目次・写真目次

写真図版目次

第4章 建物以外の遺構	1
第1節 浅間山天明噴火災害からの復旧にかかる遺構	1
第1項 概要	1
第2項 復旧坑群	1
第2節 浅間山天明噴火堆積物直下の遺構	26
第1項 概要	28
第2項 記載の方法	29
第3項 道・水路・溝	31
第4項 第1区画	76
第5項 第2区画	83
第6項 第3区画	87
第7項 第4区画	87
第8項 第5区画	112
第9項 第6区画	120
第10項 第7区画	133
第11項 第8区画	134
第12項 第9区画	144
第13項 第10区画	169
第14項 第11区画	178
第15項 第12区画	178
第16項 第13区画	186
第17項 第14区画	191
第3節 補遺	194
第4節 付 石川原遺跡の天明泥流下畠遺構をめぐって	195
前原遺跡	
第1節 発掘調査の経過	208
第2節 発掘された遺構	209
第4分冊掲載遺構一覧表	215

写真図版

挿図目次

第1図	復旧坑と天明泥流下遺構	2	第64図	道・水路・溝部分図5詳細図3	69
第2図	復旧坑の位置	3	第65図	道・水路・溝部分図5詳細図4	70
第3図	復旧坑第1群	4	第66図	道・水路・溝部分図5詳細図5	71
第4図	復旧坑第1群部分図1	5	第67図	道・水路・溝部分図5詳細図5高低図	72
第5図	復旧坑第1群部分図2	7	第68図	第1区画	73
第6図	復旧坑第2群	8	第69図	第1区画断面図	75
第7図	復旧坑第2群第4列断面	9	第70図	天明泥流下第1区画部分図1	76
第8図	復旧坑第2群部分図1	9	第71図	天明泥流下第1区画部分図2	77
第9図	復旧坑第2群部分図2	10	第72図	天明泥流下第1区画部分図3	78
第10図	復旧坑第2群部分図3	11	第73図	第1区画平坦面	79
第11図	復旧坑第2群部分図4・6	12	第74図	第2・3区画	81
第12図	復旧坑第2群部分図5・7	13	第75図	第2・3区画部分図1・第2区画	82
第13図	復旧坑第2群部分図8	14	第76図	第2・3区画部分図1詳細図1	83
第14図	復旧坑第2群部分図9	15	第77図	第2・3区画部分図1詳細図2	84
第15図	復旧坑第3群	16	第78図	第2・3区画部分図1詳細図3	84
第16図	復旧坑第3群側別図1	17	第79図	第2区画平坦面	85
第17図	復旧坑第3群側別図2	18	第80図	第2・3区画部分図2・第3区画	86
第18図	復旧坑第3群側別図3	19	第81図	第4区画	88
第19図	復旧坑第3群側別図4	20	第82図	第4区画高低図	90
第20図	復旧坑第4群	21	第83図	第4区画堆・平坦面位置図	91
第21図	復旧坑第4群全部	21	第84図	第4区画部分図1	92
第22図	復旧坑第4群南部	22	第85図	第4区画部分図2・3	93
第23図	復旧坑第4群南部断面	23	第86図	第4区画部分図4	95
第24図	単独の復旧坑	23	第87図	第4区画部分図5・6	97
第25図	参考・復旧坑第5群	24	第88図	第4区画平坦面1	99
第26図	天明泥流下の遺構	26	第89図	第4区画平坦面2	101
第27図	道・水路・溝部分図1	30	第90図	第4区画平坦面3	103
第28図	道・水路・溝部分図1詳細図1	31	第91図	第5区画	106
第29図	道・水路・溝部分図1詳細図1断面	32	第92図	第5区画高低図	107
第30図	道・水路・溝部分図1詳細図2	33	第93図	第5区画部分図1	108
第31図	道・水路・溝部分図1詳細図2-1・2	34	第94図	第5区画部分図2	109
第32図	道・水路・溝部分図1詳細図3	35	第95図	第5区画部分図3	110
第33図	道・水路・溝部分図1詳細図4	36	第96図	第5区画ヤックラ断面	111
第34図	道・水路・溝部分図1詳細図5・6	38	第97図	第5区画平坦面1	111
第35図	道・水路・溝部分図1詳細図6-1	39	第98図	第5区画平坦面2	113
第36図	道・水路・溝部分図1詳細図7・8・9	40	第99図	第6・7区画	115
第37図	道・水路・溝部分図1詳細図10	41	第100図	第6・7区画高図	116
第38図	道・水路・溝部分図1詳細図10-1	42	第101図	第6・7区画部分図1	117
第39図	道・水路・溝部分図1詳細図10-2	43	第102図	第6・7区画部分図2	119
第40図	道・水路・溝部分図1詳細図10-3	44	第103図	第6・7区画部分図3・第7区画	121
第41図	道・水路・溝部分図1詳細図10-4	45	第104図	第6区画平坦面1	122
第42図	道・水路・溝部分図1詳細図11	46	第105図	第6区画平坦面2	123
第43図	道・水路・溝部分図1詳細図11-1・2	47	第106図	第8区画	124
第44図	道・水路・溝部分図1詳細図11-3	48	第107図	第8区画高低図1	125
第45図	道・水路・溝部分図1詳細図11-4・5・6	49	第108図	第8区画高低図2	126
第46図	道・水路・溝部分図2	51	第109図	第8区画高低図3	127
第47図	道・水路・溝部分図2詳細図1・2	52	第110図	第8区画高低図4	128
第48図	道・水路・溝部分図2詳細図3・4	53	第111図	第8区画部分図1	130
第49図	道・水路・溝部分図2詳細図5	54	第112図	第8区画部分図2	131
第50図	道・水路・溝部分図3	55	第113図	第8区画部分図3	132
第51図	道・水路・溝部分図3詳細図1	56	第114図	第8区画部分図4	133
第52図	道・水路・溝部分図3詳細図2	57	第115図	第8区画平坦面	135
第53図	道・水路・溝部分図3詳細図3	58	第116図	第9区画	136
第54図	道・水路・溝部分図3詳細図4	59	第117図	第9区画高低図1	138
第55図	道・水路・溝部分図4	60	第118図	第9区画高低図2	139
第56図	道・水路・溝部分団4詳細図1	61	第119図	第9区画部分図1	141
第57図	道・水路・溝部分団4詳細図2・3	62	第120図	第9区画部分団2	142
第58図	道・水路・溝部分団4詳細図4	63	第121図	第9区画部分団3	143
第59図	道・水路・溝部分団4詳細図4-1	64	第122図	第9区画部分団4	145
第60図	道・水路・溝部分団4詳細団4-2・3	65	第123図	第9区画部分団5	146
第61図	道・水路・溝部分団4詳細団4-4・5・6	66	第124図	第9区画部分団6	147
第62図	道・水路・溝部分団5	67	第125図	第9区画部分団7	149
第63図	道・水路・溝部分団5詳細図1・2	68	第126図	第9区画部分団7詳細図1	151

第127図	第9区画平坦面1	152
第128図	第9区画平坦面2	153
第129図	第9区画平坦面3	154
第130図	第9区画平坦面4	155
第131図	第9区画平坦面5	157
第132図	9号柵	157
第133図	第10・11区画	158
第134図	第10区画高低図	159
第135図	第10・11区画部分図1	160
第136図	第10・11区画部分図2	161
第137図	第10・11区画部分2詳細図1	162
第138図	第10・11区画部分図3	163
第139図	第10・11区画部分図4	164
第140図	第10・11区画部分図5	165
第141図	第10区画平坦面	166
第142図	第11区画平坦面	167
第143図	1624号土坑	167
第144図	第12区画	169
第145図	第12区画部分図1	170
第146図	第12区画部分図2	171
第147図	第12区画・1・5区画平坦面	173
第148図	第13区画	174
第149図	第13区画部分図1	175
第150図	第13区画部分図2	177
第127図	第13区画平坦面	179
第128図	第14区画	180
第129図	第14区画高低図1	182
第130図	第14区画高低図2	183
第131図	第14区画高低図3	184
第132図	第14区画部分図1	185
第133図	第14区画部分図2	187
第134図	第14区画部分図3	189
第135図	第14区画部分図4	190
第136図	25号集石(近世相当面)	194
第137図	26号集石(古代相当面)	194
第138図	81号焼土(古代相当面)	194
第139図	烟のバリエーション1	196
第140図	烟のバリエーション2	197
第141図	東宮道路Ⅲ区4号柵	203
第142図	「上野国郡村誌」から見た川原湯村周辺の大麻生産	205
第143図	川原湯熱沼道路の歴断面解釈	205
第144図	前原道跡の位置	208
第145図	前原道跡周辺の地形と遺構	209
第146図	トレンチと遺構の位置	210
第147図	調査区の断面と基本土層	211
第148図	1号・2号・5号トレンチ	212
第149図	3号トレンチ	213
第150図	4号トレンチと烟道構	214

写真目次

写真1 桜木町鹿沼市の大麻畑 201
写真2 光信「麻菜業園」による大麻畑の耕作工程 202

表 目 次

第1表 ハッ場ダム地域の天明泥流下畑の発掘と
自然科学分析 199

写真図版目次

PL. 1	1 復旧坑第2群 第5列 西から	3 61号復旧坑断面 東から
2	復旧坑第2群 第3列南部 東から	4 62号復旧坑 北から
PL. 2	1 復旧坑第2群第4号南部 東から	5 62号復旧坑断面 南から
2	復旧坑第2群第4号北部 東から	PL. 6 1 発掘区西部第4・5区画 中央は21号道・53号溝 西から
3	復旧坑第2群第5号北部 東から	PL. 7 1 21号道・53号溝 12号・9号加敷周辺 上が北
4	復旧坑第2群第4号北部 西から	2 21号道・53号溝 8号屋敷周辺 上が北
5	復旧坑第2群北部上層観察状況 南西から	PL. 8 1 21号道・53号溝と湖面2号橋(不動大橋) 東から
6	復旧坑第2群第2層上層観察状況 北東から	2 21号道・53号溝 石橋1周辺 東から
7	復旧坑第2群南端上層観察状況 南西から	3 21号道・53号溝 石橋1 東から
8	復旧坑第2群61号復旧坑 北西から	4 21号道・53号溝 石橋1 下部 東から
PL. 3	1 復旧坑第2群3a号復旧坑断面 西から	5 21号道・53号溝 石橋2 西から
2	復旧坑第2群57a号復旧坑断面 西から	PL. 9 1 21号道・53号溝 石橋2 西から
3	復旧坑第2群88b号復旧坑断面 西から	2 21号道・53号溝 石橋3 西から
4	復旧坑第2群89a号復旧坑断面 西から	3 21号道・53号溝 石橋3 東から
5	復旧坑第2群90a号復旧坑断面 西から	4 21号道・53号溝 石橋4 周辺 南から
6	復旧坑第2群91a号復旧坑断面 西から	5 21号道・53号溝 石橋4 南から
7	復旧坑第2群93a号復旧坑断面 西から	6 21号道・53号溝 石橋4 東から
8	復旧坑第2群94a号復旧坑断面 西から	7 21号道・53号溝 石橋4 下部 東から
PL. 4	1 復旧坑第2群4a号復旧坑断面 西から	8 21号道・53号溝 石橋5 東から
2	復旧坑第2群95b号復旧坑断面 西から	PL. 10 1 21号道・53号溝 石橋5 南から
3	復旧坑第2群96号復旧坑断面 西から	2 21号道・53号溝 断面Iライン・西部 東から
4	復旧坑第2群97号復旧坑断面 西から	3 21号道・53号溝 断面Iライン・中部 東から
5	復旧坑第3群・第4群 上が北	4 21号道・53号溝 断面Iライン・東部 東から
PL. 5	1 復旧坑第4群 上が北西	5 21号道・53号溝 断面Nライン・21号道部分 西から
2	61号・62号復旧坑 上が北	6 21号道・53号溝 断面Oライン・53号溝部分 西から

PL.11	7 21号道・53号溝 断面Oライン21号道部分 8 21号道・53号溝 断面Pライン21号道部分 東から 1 21号道・53号溝 14号道との交点 南から 2 21号道・53号溝 木種部分上の建材等 東から 3 21号道・53号溝 木種部分上の建材等 北から 4 21号道・53号溝 木種部分上の建材等 部分 北から 5 21号道・53号溝 木種 南から 6 21号道・53号溝 木種端部 南から 7 21号道・53号溝 木種端部 南から 8 21号道・53号溝 木種身部 南から PL.12	21号道・53号溝 木種身部 南から 2 21号道・53号溝 木種身部 西から 3 21号道・53号溝 木種身部堆積物 南から 4 21号道・53号溝 木種身部東端部 南から 5 21号道・53号溝 木種掘り方 北から 6 21号道・53号溝 木種掘り方 西から 7 21号道・53号溝 木種	PL.23	2 13号石組 北西から 3 13号石組部分 北西から 4 13号石組部分 北から 5 13号石組部分 北から 1 25号道・57号溝南部 上が南 2 25号道・57号溝中部 上が北 3 25号道・57号溝北部 上が南 4 25号道・57号溝南部 北から 5 25号道・57号溝南部 南から PL.24	1 25号道・57号溝南部杭列 北東から 2 25号道・57号溝南部杭列 西から 3 25号道・57号溝南部杭列上の竹 草本基部東 4 25号道・57号溝断面Aライン 南から 5 25号道・57号溝石橋1・2周辺 南から 6 25号道・57号溝石橋1 北から 7 25号道・57号溝石橋2 東から 8 25号道・57号溝石橋1・2除去後 北から PL.25	1 25号道・57号溝洗い場周辺 南から 2 25号道・57号溝洗い場周辺 北から 3 23号道・55号溝 南東から 4 23号道・55号溝 部分 北西から 5 23号道・55号溝 部分 北から 6 23号道・55号溝断面Hライン周辺 東から 7 23号道・55号溝断面Hライン 北西から PL.26	1 7号道 27号道・25号道・53号溝との接点 上が北 2 7号道 27号道建物と51号建物との間 上が南 PL.27	1 7号道 第9-第10区両側 上が北 2 7号道 1号水路・26号道との交点 上が北 3 7号道 第9-第10区両側23号集石付近 北東から 4 7号道 第9-第12区両側 PL.28	1 7号道理段状況 東から 2 7号道 断面Bライン 東から 3 7号道 断面Cライン 西から 4 1号水路中部(3号水路部分) 北東から 5 1号水路南部(3号水路部分) 北西から PL.29	1 1号水路断面Eライン周辺 北から 2 1号水路 部分 西から 3 1号水路断面Eライン周辺 西から 4 1号水路断面Aライン 北から 5 1号水路断面Bライン 南から 6 1号水路断面Cライン 南から 7 1号水路断面Dライン 北から PL.30	1 1号水路 26号道から7号道への接続部 南西から 2 1号水路 26号道から7号道への接続部 南西から 3 1号水路 泥流堆積状況 南西から 4 1号水路 断面Jライン 南から 5 25号道・57号道から東に延びる石列・道 上が北 6 20号道 東から 7 20号道 西から PL.31	1 24号道西部 東から 2 24号道 部分 西から 3 25号道断面Aライン 東から 4 25号道断面Bライン 東から 5 19号道 東から 6 19号道 西から 7 19号道 西から 8 19号道 発掘風景 西から PL.32	1 天明記流下道構の確認作業 第9区画 西から 2 第4区画の発掘 西から PL.33	1 第1区画畑13号石垣周辺 東から 2 第1区画畑13号石垣周辺 北から PL.34	1 第1区画上断面確認状況(Aライン) 西から 2 第1区画上断面Aライン 南東から 3 第1区画上断面Bライン北部 南東から 4 第1区画上断面Bライン南部 南東から 5 第1区画上断面Cライン 南から
PL.13	1 21号道・53号溝 2号屋敷西 北西から 2 21号道・53号溝 2号屋敷西 北から 3 21号道・53号溝 2号屋敷西 北西から 4 21号道・53号溝 2号屋敷西 北から PL.14	1 21号道・53号溝 断面Wライン周辺 西から 2 21号道・53号溝 25-90-C-23Gグリッドの材 東から 3 21号道・53号溝 25-90-C-23Gグリッドの材 東から 4 21号道・53号溝 断面Wライン周辺 東から 5 21号道・53号溝 断面Xライン周辺 西から 6 21号道・53号溝 断面Xライン 東から 7 14号道 南から PL.15	1 14号道 断面Aライン周辺 南から 2 14号道 断面Bライン 北西から 3 14号道 断面Bライン 部分 北東から 4 15号道と10号石組 南から 5 15号道 断面Cライン削除状況 北から 6 15号道 断面Cライン 部分 西から 7 5号溝・10号道 南東から PL.16	1 5号溝・10号道北部 15号建物周辺 南東から 2 5号溝・10号道南部 21号道・53号溝木種との交点 西から PL.17	1 5号溝・10号道 南から 2 5号溝・10号道北部 南東から 3 5号溝・10号道北部 北西から 4 5号溝・10号道 北から 5 5号溝・10号道北部 部分 南西から 6 5号溝・10号道北部 部分 東北から PL.18	1 10号道・5号溝東部 西から 2 10号道・5号溝東端部 北から 3 10号道・5号溝石橋2 北から 4 10号道・5号溝石橋2 北から 5 10号道・5号溝断面Bライン 南東から 6 10号道・5号溝断面Fライン 南から 7 10号道・5号溝断面Gライン 北西から 8 10号道・5号溝断面Gライン 部分 北西から PL.19	1 10号道・5号溝断面Hライン 北西から 2 10号道・5号溝断面Hライン 部分 北西から 3 10号道・5号溝断面Jライン 東から 4 10号道・5号溝断面Jライン 東から 5 10号道・5号溝西南部 南から PL.20	1 16号道と21号道の交点 東から 2 16号道南部 東から 3 16号道南部 西から 4 16号道 東から 5 16号道 分岐部 西から PL.21	1 16号道 北部 南から 2 16号道 北部 北から 3 16号道 北部 南から 4 16号道 北部 北から PL.22	1 16号道北端部 北から					

6	第1区画上層断面Dライン	南から	PL.44	1	第11区画1号烟	東から		
7	第1区画上層断面Eライン	南から		2	第11区画1号烟樹木出土状況	西から		
8	第1区画上層断面Fライン	南から		3	第13区画	上が北西		
PL.35	1	第4区画南東部	上が北西		4	第13区画4号・5号烟	西から	
	2	第4区画南東部	12号～15号烟周辺	上がる北		5	第13区画5号烟	西から
PL.36	1	第4区画南東部	16号・18号烟周辺	上がる北	PL.45	1	第14区画西部	上がる北
	2	第4区画北東部	8号～11号烟周辺	上がる北		2	第14区画西部	東から
PL.37	1	第4区画北東部	22号烟周辺	上がる西		3	第14区画1号～3号烟	東から
	2	第4区画中央部	9号烟・10号平坦面周辺	上がる西		4	第14区画断面Bライン	東から
	3	第4区画東部	8号・10号烟周辺	東から		5	第14区画断面Cライン	東から
	4	第4区画10号・11号平坦面	東から	PL.46	1	第14区画東部	上がる北	
	5	第4区画21号平坦面	南東から		2	第14区画東部	南から	
	6	第4区画8号平坦面断面	東から		3	第14区画東部	西から	
PL.38	1	第5区画12号屋敷周辺	上がる西		4	第14区画断面Bライン	西から	
	2	第5区画5号烟周辺	北西から		5	第14区画断面Cライン	南から	
PL.39	1	第6・第7区画	南東から	PL.47	1	前原遺跡遺景	西から	
	2	第8区画7号烟周辺	上がる北		2	調査区全貌	上がる北	
PL.40	1	第8区画1号烟	6号烟周辺	西から	PL.48	1	調査前の前原道路	西から
	2	第8区画1号烟北部	東から		2	1号・2号トレンチ	西から	
	3	第9区画7号・8号烟周辺	上がる北		3	1号トレンチ	南から	
	4	第9区画7号・8号烟周辺	南から		4	2号トレンチ	西から	
	5	第9区画14号烟	北から		5	2号トレンチ断面	西から	
PL.41	1	第9区画14号烟西側	北西から		6	3号トレンチ	北から	
	2	第9区画14号烟西側	北西から		7	3号トレンチ	南西から	
	3	第9区画14号烟西側	西から		8	5号トレンチ	西から	
	4	第9区画14号烟西側	西から	PL.49	1	烟道構全貌	西から	
	5	第9区画14号烟西側上の植物遺物			2	4号トレンチ	西から	
PL.42	1	第9区画13号烟・38号平坦面周辺	東から		3	烟道構西部	上がる北	
	2	第9区画6号平坦面	東から		4	烟道構中部	上がる北	
	3	第9区画断面Aライン	東から		5	烟道構東部	上がる北	
	4	第9区画断面Bライン	東から		6	烟道構 部分	西から	
	5	第9区画9号櫛列	北東から		7	烟道構 部分	西から	
	6	第9区画9号櫛列	南東から	PL.50	1	25号集石確認状況	北から	
	7	第9区画9号櫛列P1断面	東から		2	25号集石断面	東から	
	8	第9区画9号櫛列P3断面	東から		3	25号集石沈殿状況	東から	
PL.43	1	第10区画2号・4号烟	27号建物周辺	北から		4	81号塗土	南から
	2	第10区画4号烟	50号建物西部	東から		5	81号塗土断面	南から
	3	第10区画4号・6号烟	東から					
	4	第10区画4号・6号・7号烟	北から					
	5	第10区画7号烟	西から					
	6	第10区画7号烟木村集中1	東から					
	7	第10区画4号烟人骨出土状況	西から					
	8	第10区画4号烟人骨出土状況	南から					

第4章 建物以外の遺構

本章では、天明泥流上面にあって、浅間山天明噴火災害からの復旧にかかる遺構としての復旧坑及び、天明泥流下面の諸遺構のうち、前章まで扱った屋敷・建物及びその付属施設を除く遺構、すなわち、道、溝、水路等及びこれらに区画された耕地とこれに付属する平坦面、ヤックラ等を扱う。遺物については、遺構の性格上、空間的属性が希薄であるため、資料的価値が高いと思われるものを抽出し、建物出土遺物とともに第2・3分冊に掲載した。

第1節 浅間山天明噴火災害からの復旧にかかる遺構

第1項 概要

ここでは浅間山天明噴火災害からの復興・復旧にかかる遺構として、「復旧坑」と通称される土坑群を報告する。復旧坑は耕地などを覆った泥流等の上面から、溝状あるいは細長い土坑状に掘削を行い、覆土下の旧表土、旧耕土を覆土上の地表面に掘り上げて新たな耕土とする一方、掘削した土坑中に、覆土である泥流等の土砂を埋め込むことによって土壤改良を行うという、耕地復旧行為の痕跡である。復旧坑掘削は、噴火による泥流災害に限らず、厚い降灰、あるいは洪水等を原因とする土砂の被覆からの耕地復旧にあたって、広く採用された方法である。前橋市から伊勢崎市、玉村町にかけての利根川沿いの遺跡では、天明泥流災害への対応として掘削された復旧坑が整然と、一面に広がる光景が見られる。計画的、組織的に行われた復旧事業の遺跡である。一方、本遺跡およびその周辺では、天明泥流がありにも厚く堆積しているためであろう、広域にわたる耕地をこの方法によって復旧するという状況は、さほど顕著には認められない。本遺跡における復旧坑の特徴も、泥流堆積層が比較的薄い地点の狭い範囲に、限定的に見られるにとどまることにある。

この地域における天明噴火被災後の耕地復旧は、被災前の地割りを踏襲して行われたことが知られている。本

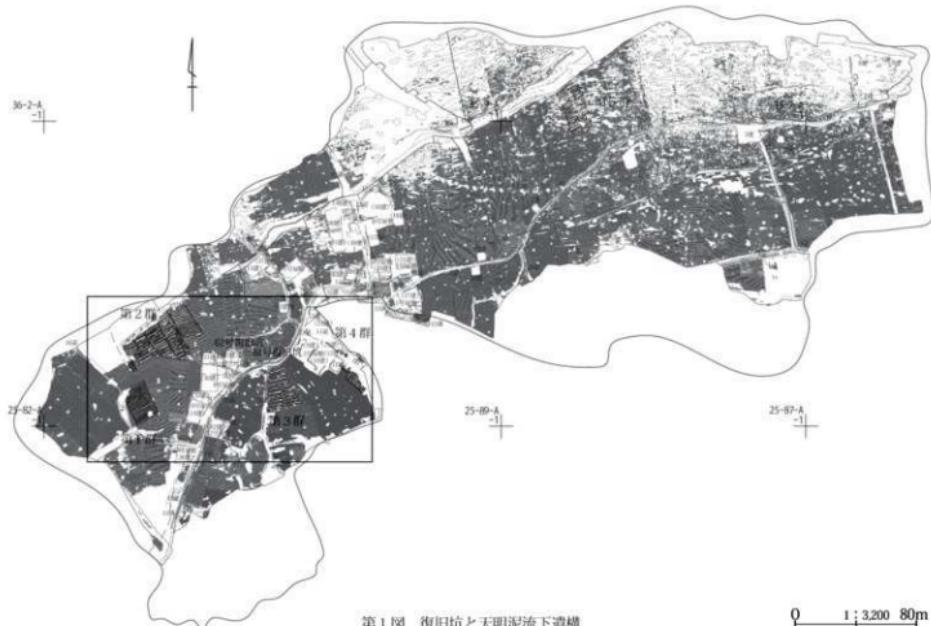
遺跡の復旧坑は、泥流下の土地区画から見ると、次節で報告する第4区画にある第1・2群と第6区画にある第3・4群、及び第1-1区画(前報告第1区画)の一部にある第5群のみである。前報告では、当該地点泥流下畠の所有者が、私的な耕地復旧を目指して作業を始めたものの、中途で断念したものと想定したが、本報告の事例もこれに近いものと考える。復旧坑掘削の方法や手順、作業の単位や労働力編成復元の手がかりを示す好例であろう。一方、単独で掘られた復旧坑もあるが、これは群在するものとは性格を異にするものであろう。

なお、前報告では本遺構について、発掘時の遺構名称を踏襲して復旧「溝」としているが、2018年11月7日付当事業団調査部長からの報告により、当該種の遺構の名称を復旧「坑」として統一することとされたため、本報告では復旧坑を用いることとする。また、発掘時点では群を問わず確認順に番号が付されており、隣接する復旧坑に大きく離れた番号が付されていることがある。このため、本書では群ごとの通番として復旧坑番号を付すこととし、単独の復旧坑については発掘時の番号を踏襲することとした。発掘時の各復旧坑番号については、計測値等とともに本冊末の遺構一覧表に記した。

第2項 復旧坑群

1 復旧坑第1群

26-81-G～L-1～8 グリッド 標高542.0～543.6m の北向き緩傾斜部にある。天明泥流下の遺構から見ると、第4区画1～3号畠にまたがっている。4号平坦面を切る。狭長な平面形の復旧坑19列25基が、およそN-60°-Eに長軸を描えて並ぶ。北端の1号復旧坑上端北縁から南端にある19号復旧坑上端南縁までの南北長約23.3m、東西幅16.8m。1～4号復旧坑は以南の復旧坑と東端は並ぶが、西辺北部は擾乱に沿うように長さが漸減する。全体で350mほどの範囲を占めることになる。最も長い12号復旧坑の長は16.4mある。3・4・5・9・10・18号復旧坑は途中で切れ、a・bとした二つの土坑が直列する。最も短かい9b号復旧坑は長4.15mだが、a・b



第1図 復旧坑と天明泥流下遺構

0 1 3,200 80m

両坑を併せた端部は他の復旧坑と揃う。各復旧坑の幅は68~100cmとややばらつきがあるが、平均すると83.8cmである。復旧坑間の距離は32~64cmある。断面図に示された6基では、泥流下旧地表面からの深さが32~42cmある。横断面形は、壁が小さな丸みを持って立ち上がるコ字状を呈する。長軸方位はN-65°-E前後で揃う。下位にあたる2号煙の歓方向はN-83°-Eほどを示していて、これとは一致しない。1号煙のN-53°-E方向とも異なっていて、下位の烟区画や歓方位との相関は認められない。

この復旧坑群から得られる旧表土以下の土量を復旧坑の縱横及び深さの積として概算すると、86.48m³になる。これに砂質土相当のはぐし率1.3を乗ずると、112.43m³が得られる。復旧坑掘削により求める被覆土厚を10cmと仮定すると、1124m³分の新たな耕土が削出されることになる。第4区画の煙のうち、復旧坑第2群以南にある1~4号・6~9号煙の全域をほぼカバーしうる土量である。

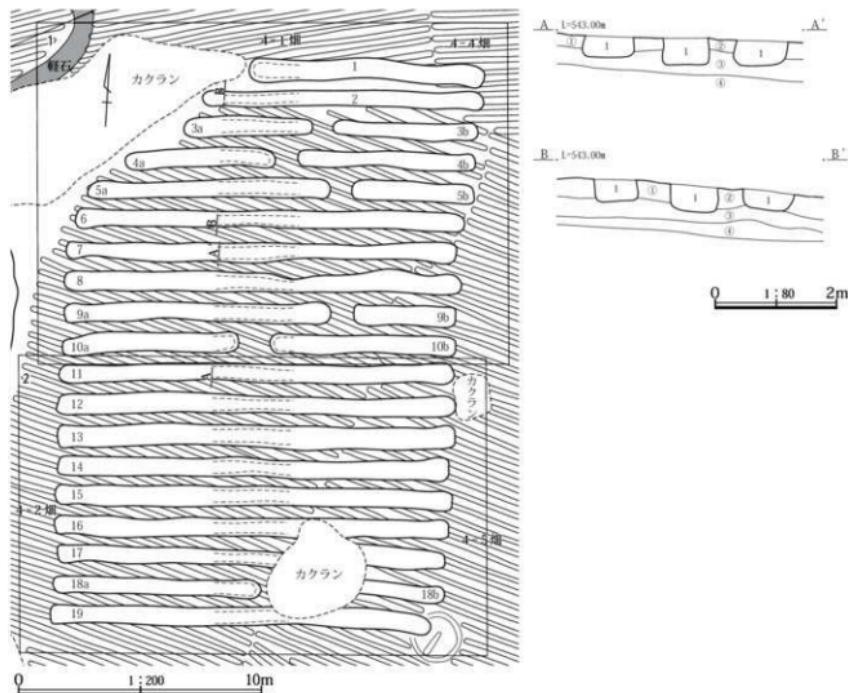
2 復旧坑第2群

26-90-Y~81-L-10~20グリッド 標高542~540mの北向き緩傾斜部にある。天明泥流下烟第4区画1号烟北部から5号烟にまたがっている。33号建物を切る。この群については、後述する第4例でトレンチ掘削による土層断面図作成が行われており、各復旧坑の断面形状や発掘時表土からの掘削深度などが記録されている。63-65 b号復旧坑間でみると、現表土から泥流下面までの深さ104cm、68-70号復旧坑間は76cm、88 b-89 a号復旧坑間は72cmとなっている。一方、平面図に示された復旧坑輪郭線と土層断面に示された復旧坑の間に、相違があることとこの図を通じて理解される。以下における各復旧坑の規模、区分や切り合い関係は、平面図からの読み取りであり、こうした制約・限界の下での記載であることに留意されたい。東西方向に長軸を持つ復旧坑が144基確認された。およそ5列に分けられる。西端の第1列上端西縁から東端第5列上端倒東縁まで52m。第2~4列の北辺は下位段丘との傾斜変換線に沿って掘られる。最も

第1節 浅間山天明噴火災害からの復旧にかかる遺構



第2図 復旧坑の位置



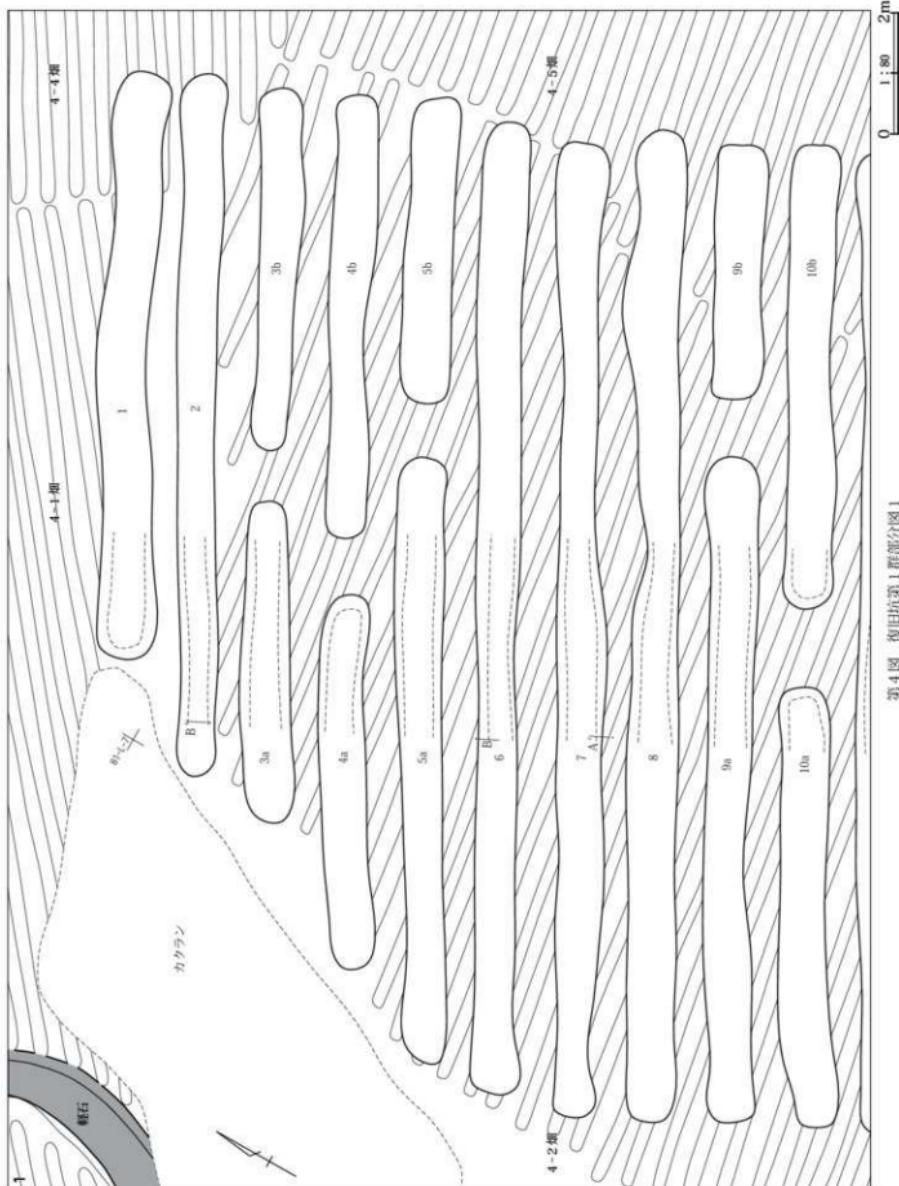
第3図 復旧坑第1群

多くの復旧坑が並列する第4列は北端の61号復旧坑上縁から南端の97号復旧坑上縁まで約34mを測る。西端の第1列はごく短い土坑のみによって構成され、東端の第5列は以西と方位を異にする。東西両端の各列は並列する復旧坑同士の重複がないのに対し、中央部の3列は列内、列間で重複がある。第1列、第2～4列、第5列の3者がそれぞれ異なる性格を持つかに見える。

第1列 81-J～L-9～11グリッド 復旧坑第2群の西南端にある。およそN-54°-Eに長軸を描いて、7基の復旧坑が並列する。下位の天明泥流下4区画1号烟の歛方向とほぼ一致する。北端の1号復旧坑から南端の7号復旧坑まで6.88m、列全体の面積は16m²ほどある。1号復旧坑が最も短く、2.18m、南端の7号復旧坑が最も長く2.62mで、1号から7号にかけて、僅かながら順次長くなる。平均2.34m。幅は最も狭い2号復旧坑で70cm、

最も広い4号・7号復旧坑で80cm、平均76cm。復旧坑間は25～40cm。

第2列 26-81-G～L-10～16グリッド 第1列の東にある。北端の8号復旧坑から南端の26号復旧坑まで、18.4m間に19基の復旧坑が、およそN-62°-Eに長軸を描いて並ぶ。下位の天明泥流下4区画1号烟の歛方向とほぼ一致する。370m²ほどの面積を占める。第1列との間は50cmほどあって、切り合わない。東の第3列との関係を見ると、第2列10b号、13e号復旧坑はそれぞれ第3列30・31号および33a・35a号復旧坑を切り、第2列18c号復旧坑は第3列41号復旧坑に切られ、かつ44号復旧坑を切り、21d号復旧坑は第3列45号復旧坑に切られるなど、交錯した様相を呈する。列内を見ても、10・11・13・15・16・18・21号復旧坑は短い復旧坑が切り合ひながら直列する。並列する復旧坑間でも10b号復旧坑



が11b号復旧坑を、12号復旧坑が13e号復旧坑を切り、また20号復旧坑は21号復旧坑にほぼ全体が切られるなど、これも重複が激しいものとして捉えられている。14号(3.44m)・17号(4.4m)・25号復旧坑(2.3m)は他の復旧坑と直列関係は認められていないが、ごく短い。一方、12号(15.55m)・20号(確認長11.65m)・22号(確認長12.8m)・23号(12.98m)・24号(15.96m)の各復旧坑は10mを越える長さを持ち、直列する復旧坑を連続するものと見れば、16m近い平均長が得られる。幅は16d号復旧坑の72cmから26号復旧坑の134cmまで差があるが、平均すると93.7cmほどとなる。

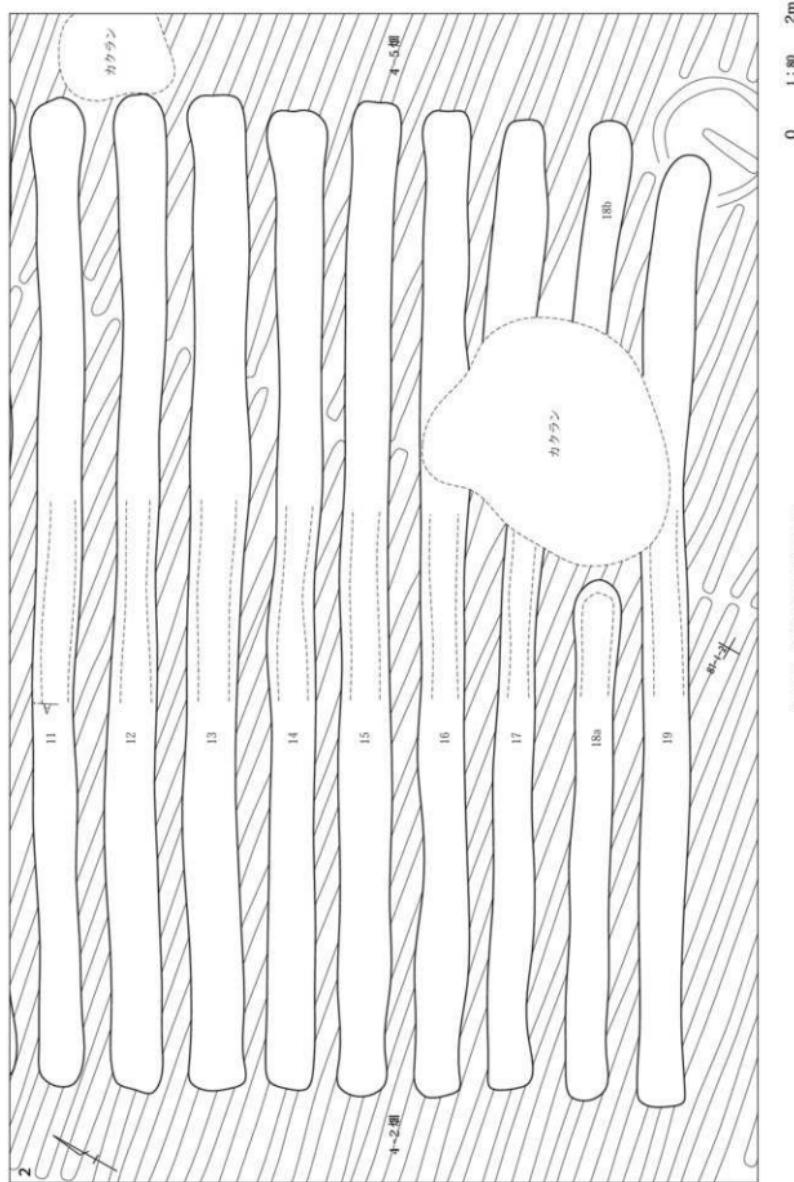
第3列 26-81-D～G-12～17グリッド 第2列の北東に並んである。北端の27号復旧坑から南端の60号復旧坑まで25.5m間に、N-62～66°-Eに長軸を揃えた、39基の復旧坑が並ぶ。下位の天明泥流下4区画1号畠と5号畠にまたがり、1号畠から5号畠西半部の歛方向と近い。およそ360m²ほどの面積を占める。28号から51号復旧坑までは第2列の復旧坑と端部を接し、あるいは切り合いかながら直列する。43号復旧坑は東の第4列まで連続して、長16.8mに達するが、これを除くと28号復旧坑が11.05m、29・44～46号復旧坑が10m台である。第2列より全体が短く、第4列に近い長さである。長さの揃う28号から53号復旧坑を平均すると、およそ11.7mほどの長となる。53号復旧坑以南は東端を揃いつつ徐々に短くなる。59号は長2.8m、60号では長2.75mとごく短くなるほか、やや離れた位置にある54号復旧坑の長は2.7mしかない。幅は52号復旧坑の70cmから58号復旧坑の155cmまであるが、平均すると第2列とほぼ同じ93.4cmほどとなる。第2列との切り合いは先述したが、東部の第4列とは切り合わない。列内では32・33・35・37号復旧坑は短い復旧坑が直列する。39号復旧坑も40号復旧坑の西に接した短いもので、一連のものである可能性がある。28号復旧坑は29号復旧坑東部を切り、49号復旧坑が50号復旧坑西部を切るほか、32・34～36・38・40号復旧坑や40～43号復旧坑はそれぞれ複雑に切り合う。

第4列 26-81-B～G-11～20グリッド 第3列の東にある。北端の61号復旧坑から南端の97号復旧坑までおよそ33.8m間に、群中最も多い45基の復旧坑が長軸を揃えて並ぶ。長軸方位はN-64°-E前後で、下位の天明泥流下4区画5号畠西部の歛方向と近い。457m²ほどの面積

を占める。43号復旧坑が西の第3列と連続するが、東の第5列とは切り合わない。段丘が僅かに北に広がる部分に当たり、61号～63号復旧坑が第3列より北に張り出す。また、94号～97号復旧坑は第3列より南に延びる。87号～95号復旧坑までは西側に長い復旧坑があつて、東に短い復旧坑が付属するかのような形状を示す。また、75号復旧坑は2基が直列すると共に、東端では76号・77号の2基の復旧坑を切る。並列する復旧坑を見ても、65号から79号復旧坑までが密に切り合う。単独の復旧坑としては84号復旧坑が9.3mで最も長く、92号復旧坑はa・b号合わせると10.2mほどになる。長さの揃う64号から95号復旧坑までを平均すると8.9mほどで、第2・3列より短い。幅は77号(50cm)、72号復旧坑(55cm)のように特に狭いものから、67号復旧坑のように135cm以上の幅広のものまであるが、平均97.5cmほどで、第2・3列よりやや広い。土層断面図では、65a・75b・79号復旧坑が旧地表面からの深さ12cmほどと浅く、93a号復旧坑は64cm、97号復旧坑は68cmと深い。記録された26基の深さを平均すると、34.8cmほどとなる。なお、平面図に示された67b号・69号・71号・74号・78号復旧坑の5基は断面図には現れないため、遺構確認時に想定されたそれが、実際には存在しなかったものかと思われる。

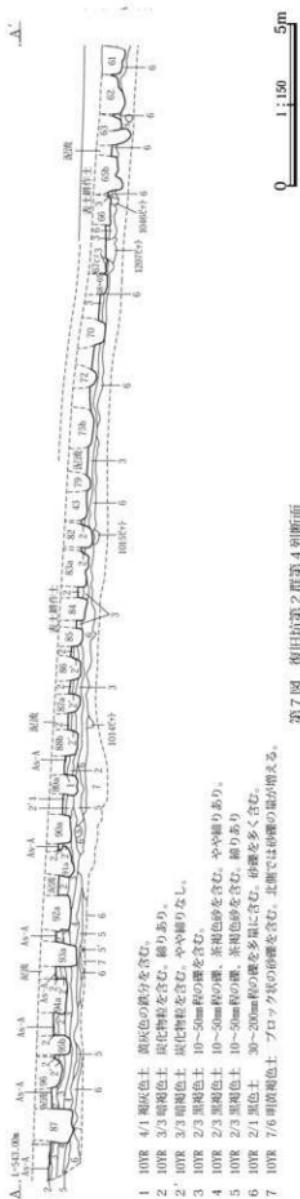
第5列 25-90-Y～26-81-E-15-21グリッド 第2群の東端にあたる。32号建物を切る。北端の98号復旧坑から南端の116号復旧坑までのおよそ22.8m間に、N-73°-E前後に長軸を揃えて、19基の復旧坑が並列する。第1～4列とは方向を異にする。下位の天明泥流下5号畠東部の歛方向とも異なるが、以西に比して南に傾くという点では同傾向にある。およそ350m²ほどの面積を占める。98号～100号復旧坑は、東端を以南とほぼ揃えているが、98号3.9m、99号6.45m、100号9mと短い。101～113号復旧坑は第4列の復旧坑と40～80cmほどの間隔を置いて直列する。長12～13.8mほどで、この部分の平均長は12.7mほどある。南端の116号復旧坑は5.18mと短く、平面形も乱れる。並列する復旧坑間では、98・99号が接する状態にあるほかは切り合いはなく、20～40cmほどの間隔がある。幅は114号が88cmと一番狭く、116号が155cmと広いが、他にはあまり大きな差は無く、平均値では102cmほどである。

第2群は復旧坑同士の切り合いが多く、復旧坑掘削に

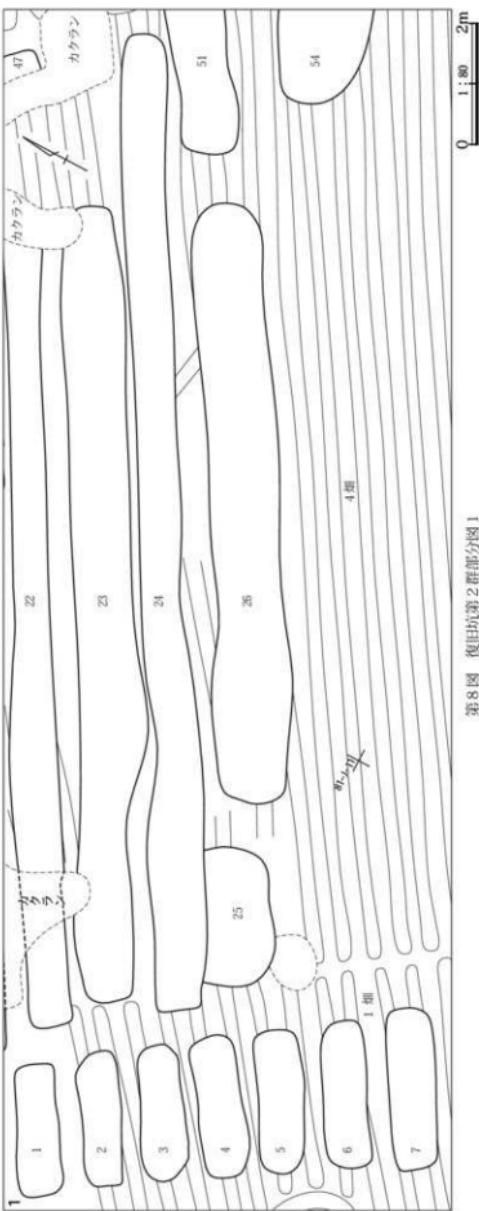


第5図 復旧済第1群部分図2

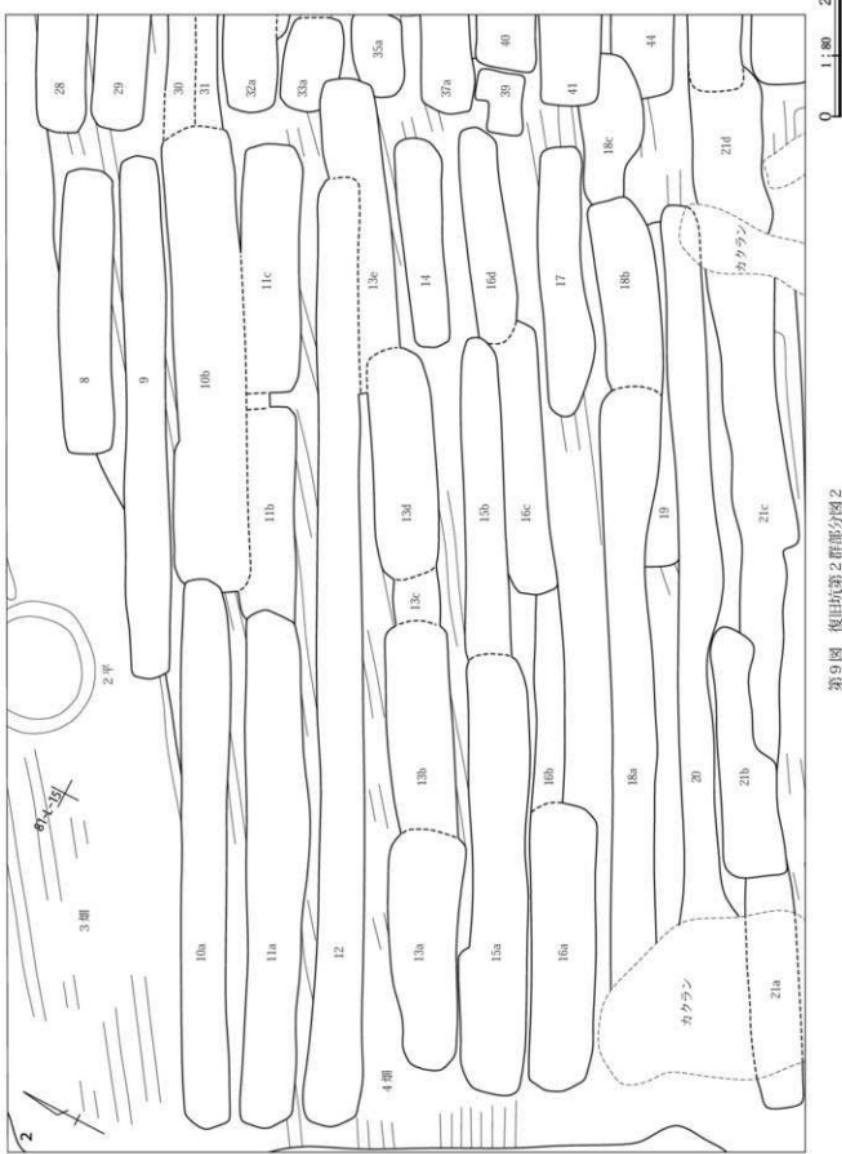




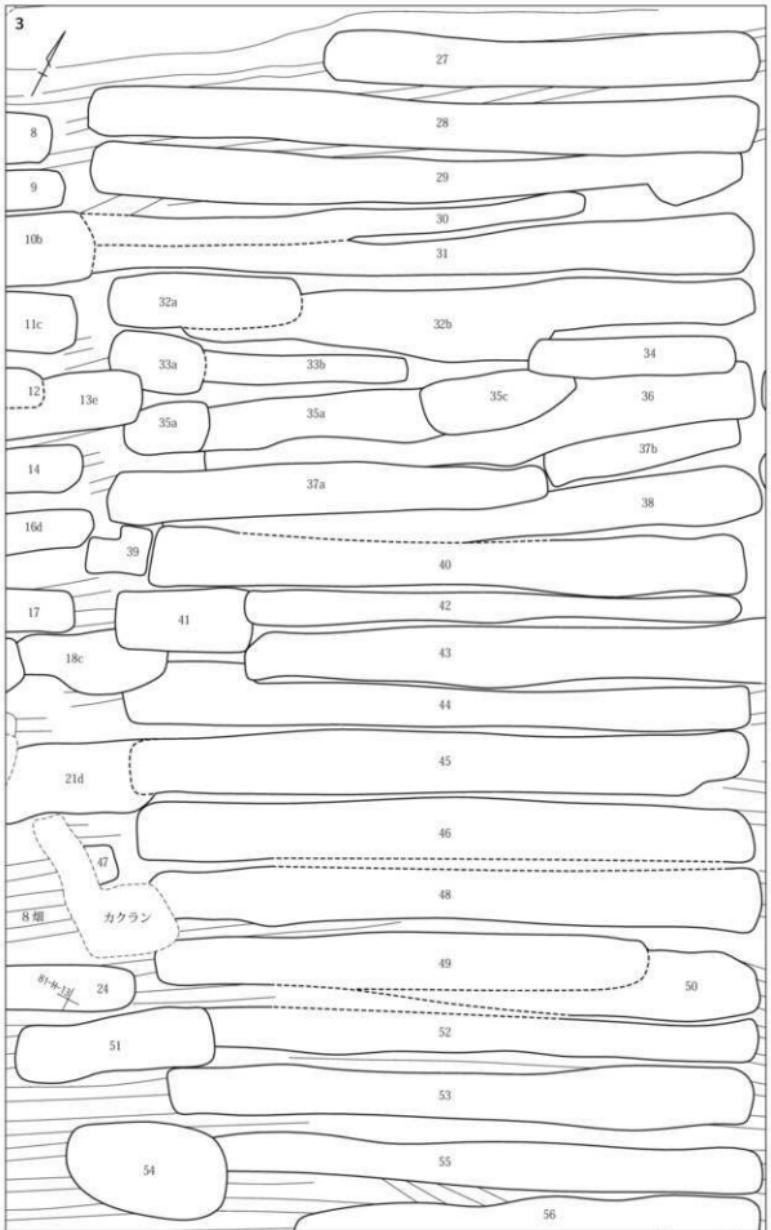
第7図 復旧坑道2群第34号断面



第8図 復旧坑道2群部分図1

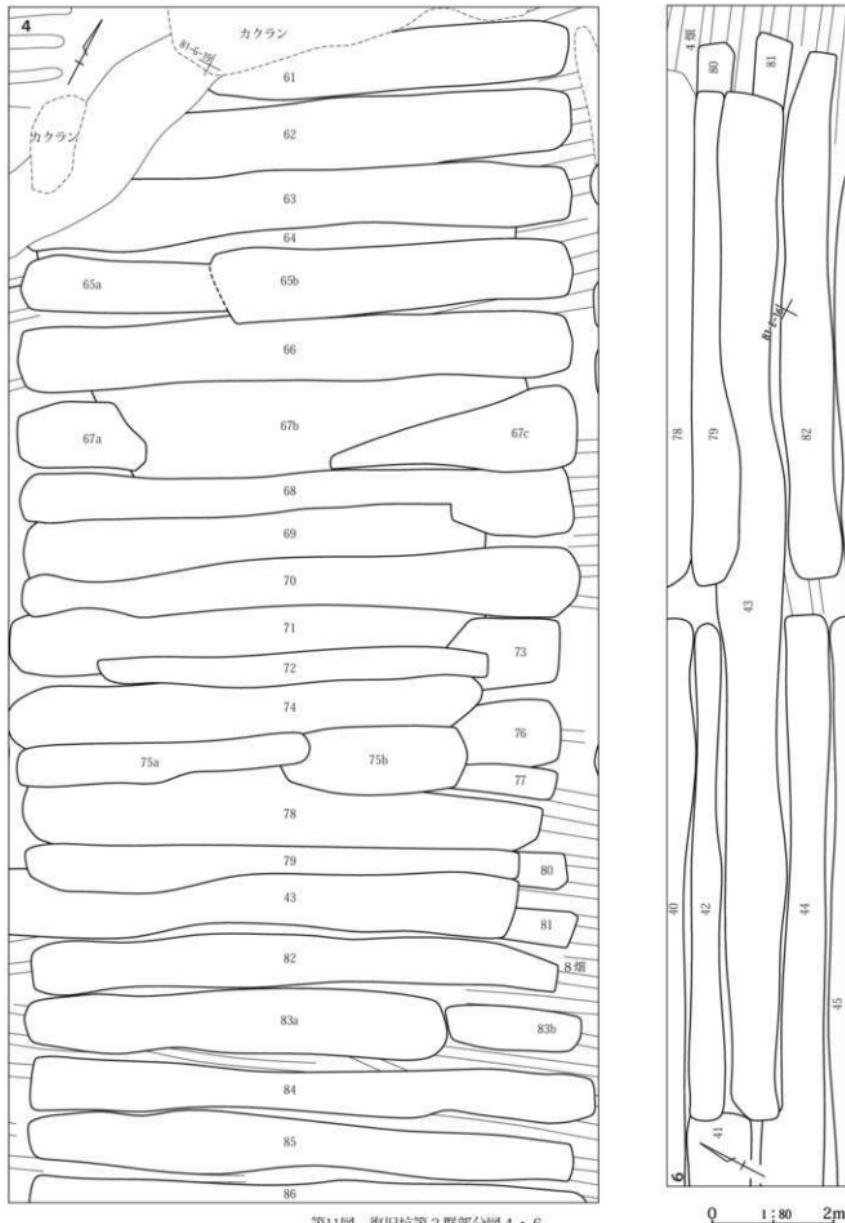


第9図 復旧坑第2群部分図2

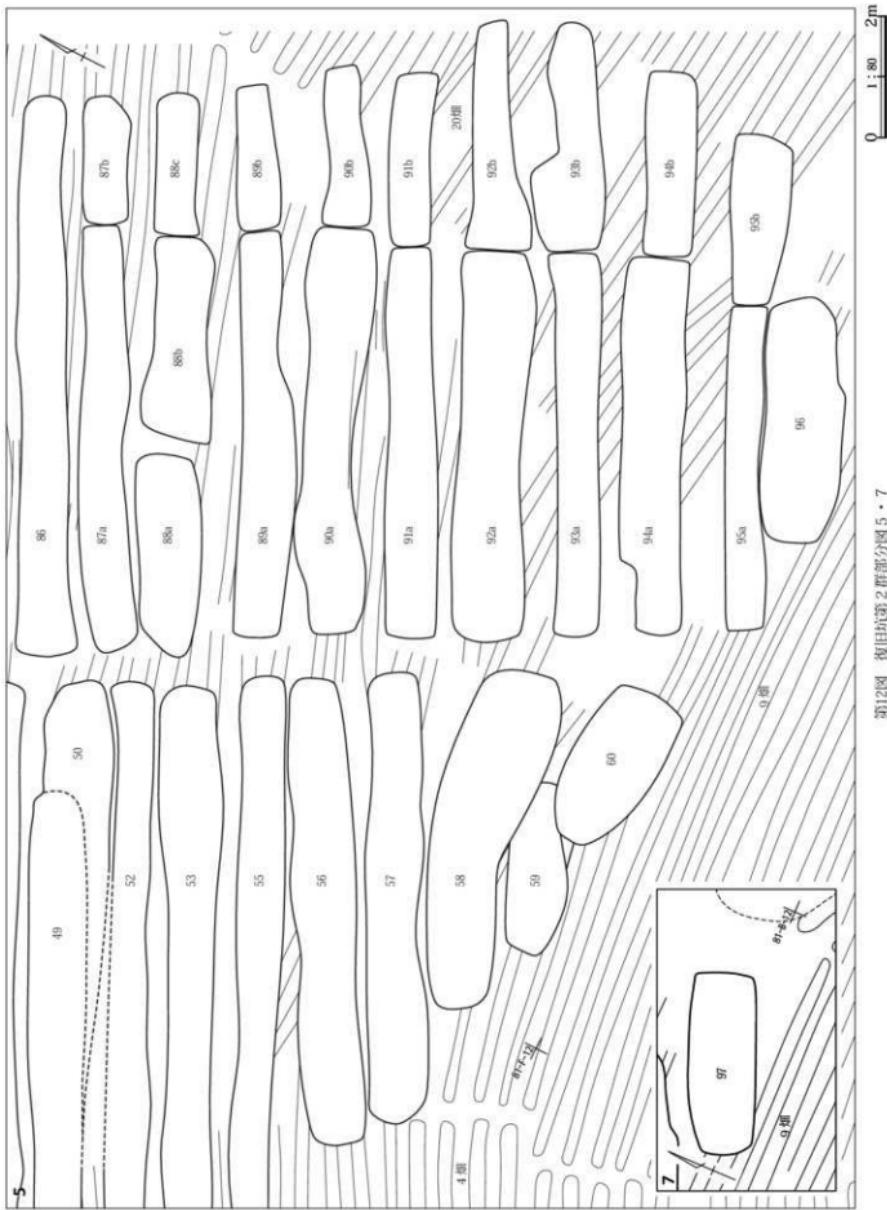


第10図 複丘坑第2群部分図3

0 1 : 80 2m



第11図 復旧坑第2群部分図 4・6



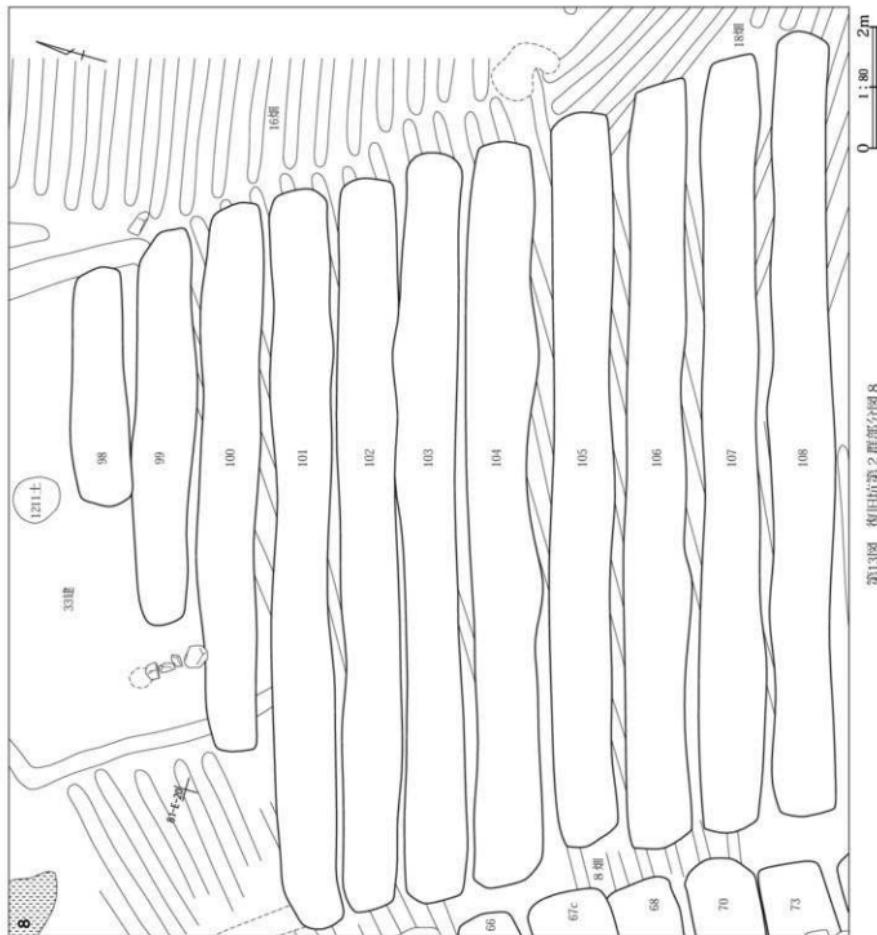
第12図 復旧坑第2群部分図5・7

よって得られた土量を量りがたいが、各復旧坑で確認された長幅に、平均的な深度として35cmを掛け、砂質土相当のぼぐし率1.3を乗じ、被覆土厚を10cmと仮定すると、およそ4,384m³分の新たな耕土が得られたことになる。泥流下第4区画畑西部の広い範囲を賄いうる土量である。

3 復旧坑第3群

25-90-I～N-3～10グリッド 標高523.2～541.7mの

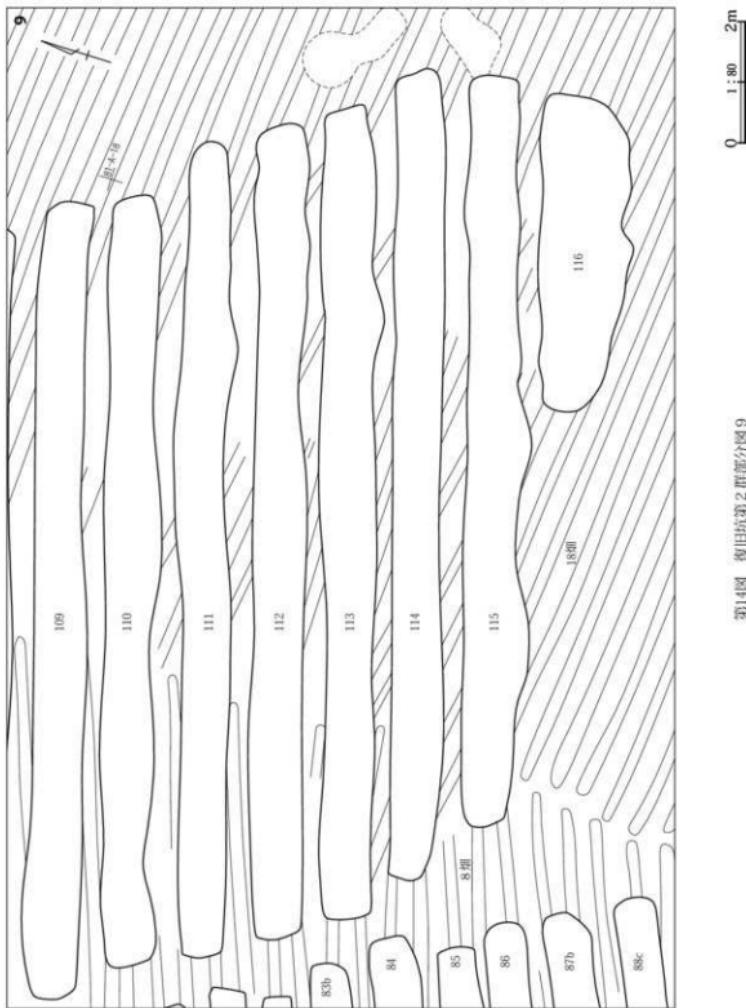
北向き緩傾斜部にある。天明泥流下の遺構からみると、第6区画1号畑に相当し、東には同2号畑を経て2号屋敷があり、西は14号道に接する。西南には単独の建物である28号建物があり、南は3号・4号畑と接する。北は2号畑と連続して延びる畠・畠間溝を介して、21号道に画される範囲にある。狭長な平面形の復旧坑12基が長軸を揃えて並ぶ。長軸方位はN-76～78°-Eで、天明泥流下畑の畠方向と近い。西辺は14号道に規制され、1号

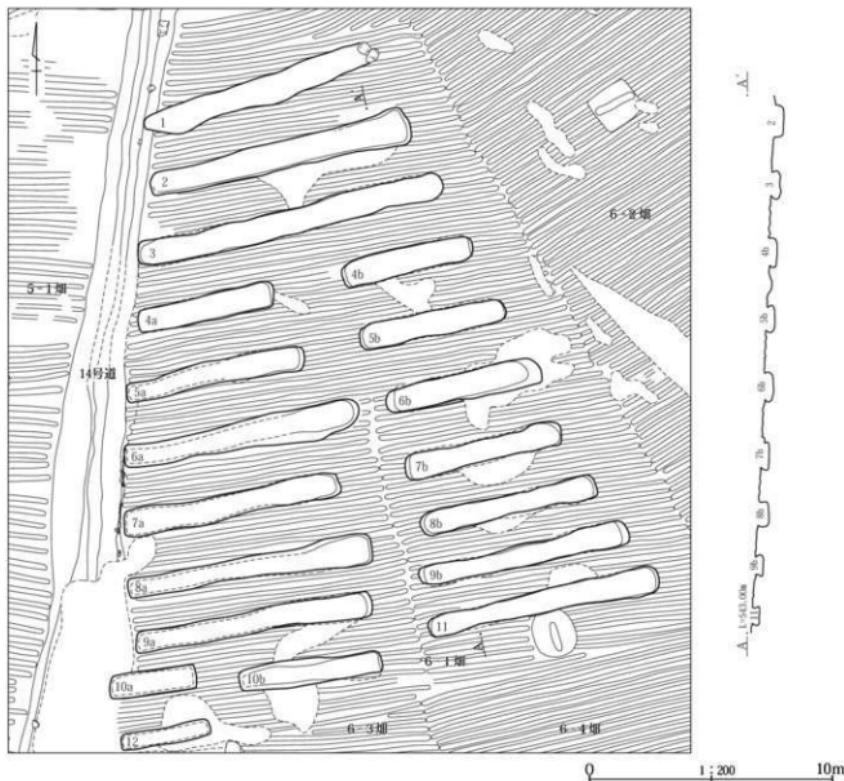


第1節 浅間山天明噴火災害からの復旧にかかる遺構

復旧坑が道にややくい込むように掘られる他は、道直前で止まっている。東辺は2号畠との間の敵境に並行するようす南部で東に張り出す。14号道が東に傾くため、掘削範囲総体としては1号復旧坑を上底、10号、11号復旧坑を下底とする台形に近い平面形状を示す。1号復旧坑上縁北端から、12号復旧坑上縁南端までおよそ20m。10

号復旧坑西端から11号復旧坑東端まで18.4m。全体でおよそ285m²ほどを占める。1号～3号復旧坑は単独で掘削される。1号復旧坑は長10m、幅1.2mほどだが、平面形が他の復旧坑より乱れており、長軸方位もN-70°-Eと北に振れる。発掘時点が以前の復旧坑とは異なつていて、深さ、断面形に関する記録がないのだが、14号



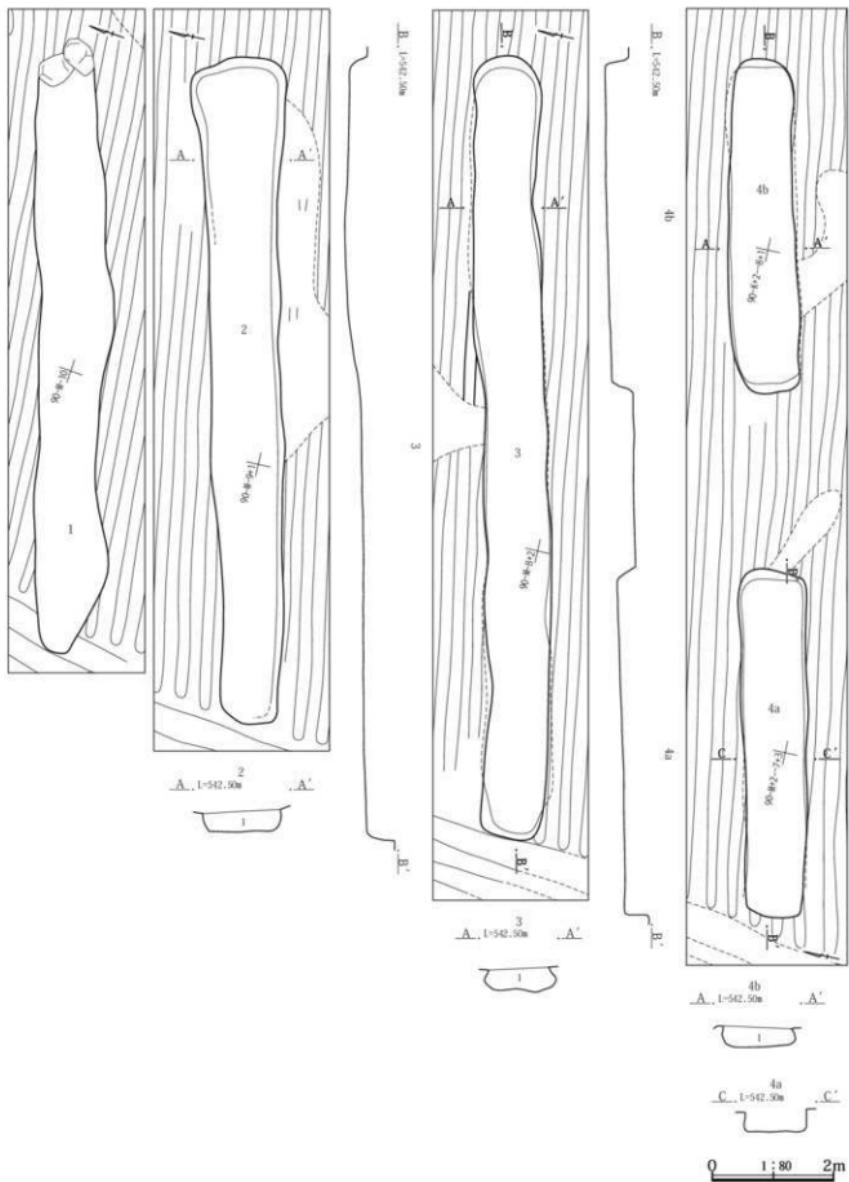


第15図 復旧坑第3群

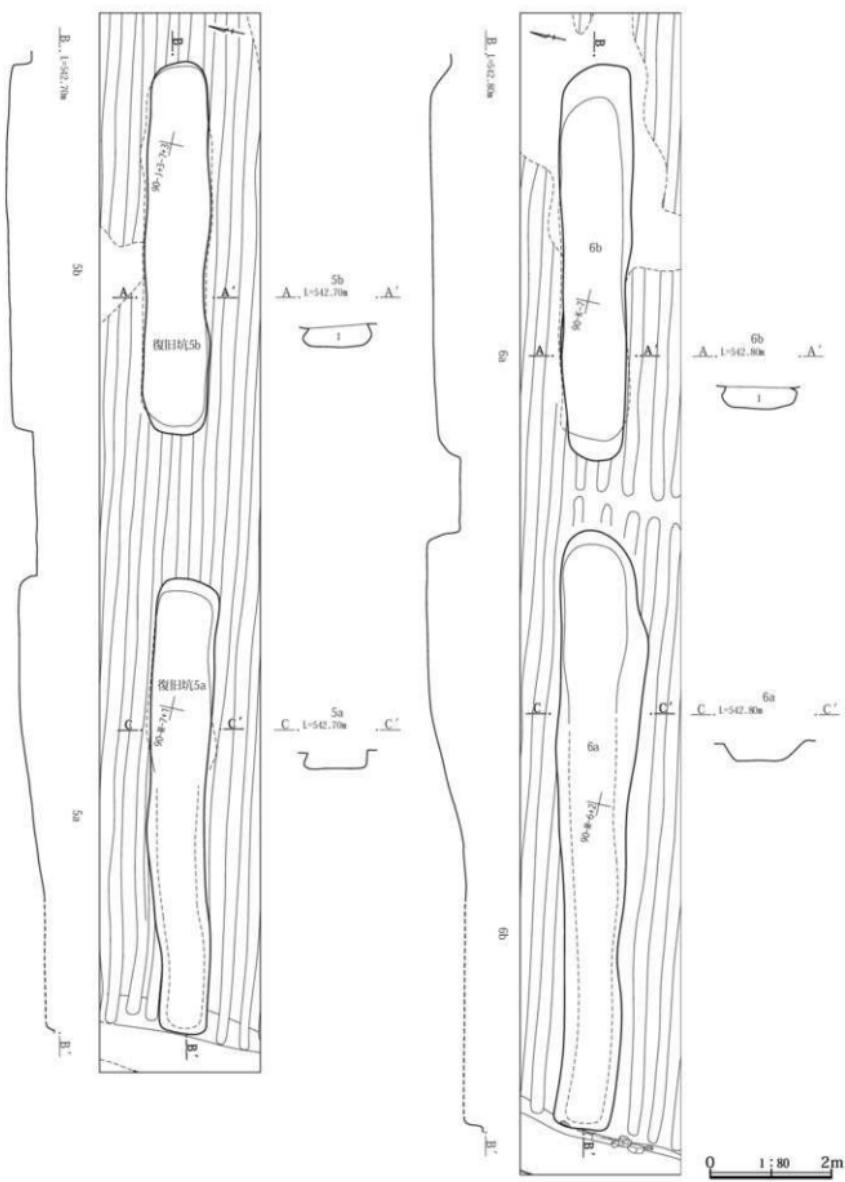
道を切る点も含め、以南の復旧坑とは性格が異なるものとも考えられるだろう。4号～9号復旧坑はやや短い復旧坑が間隔を置いて直列する。4号復旧坑はこれらの中で最も短いが、4a号5.7m、4b号5.5mの間が2.84mほど開き、全体で見ると14mほどの長さとなる。6号復旧坑は、6a号が9.8m、6b号が6.49mあり、両復旧坑の間が1.12mほどあるので、全体では17.4mとなる。9号復旧坑は9a号9.8m、9b号8.75m、両者の間が2.2mあって全長20.7mとなるが、a・b号の両端部が南北に若干ずれ、必ずしも直列しない。この傾向は8号復旧坑から生じていて、10b号と11号では列を異にするようになる。また、12号復旧坑は長3.7mと短いもので、

10a号復旧坑と西辺が揃うが、東に連続しない。幅は12号復旧坑の72cmから2号復旧坑の160cmまで広狭があるが、平均すると113.7cmほどになる。図示した高低図の他、1号、10a号、12号復旧坑以外は掘削深に関する記載がある。旧地表面からの最大深は、10b号が58cm、6a号57cm、6b号51cmなどが深く、5a号は28cmしかない。平均すると40.88cmほどとなる。ただし、6a号は東部が深いのに対して中央部ではわずか9cmの深さしかなく、底面が一様な平面ではなかったことが示される。横断面では、底部近くの両側壁がややえぐれて袋状を示す。他遺跡での復旧坑でもよく見られる断面形である。

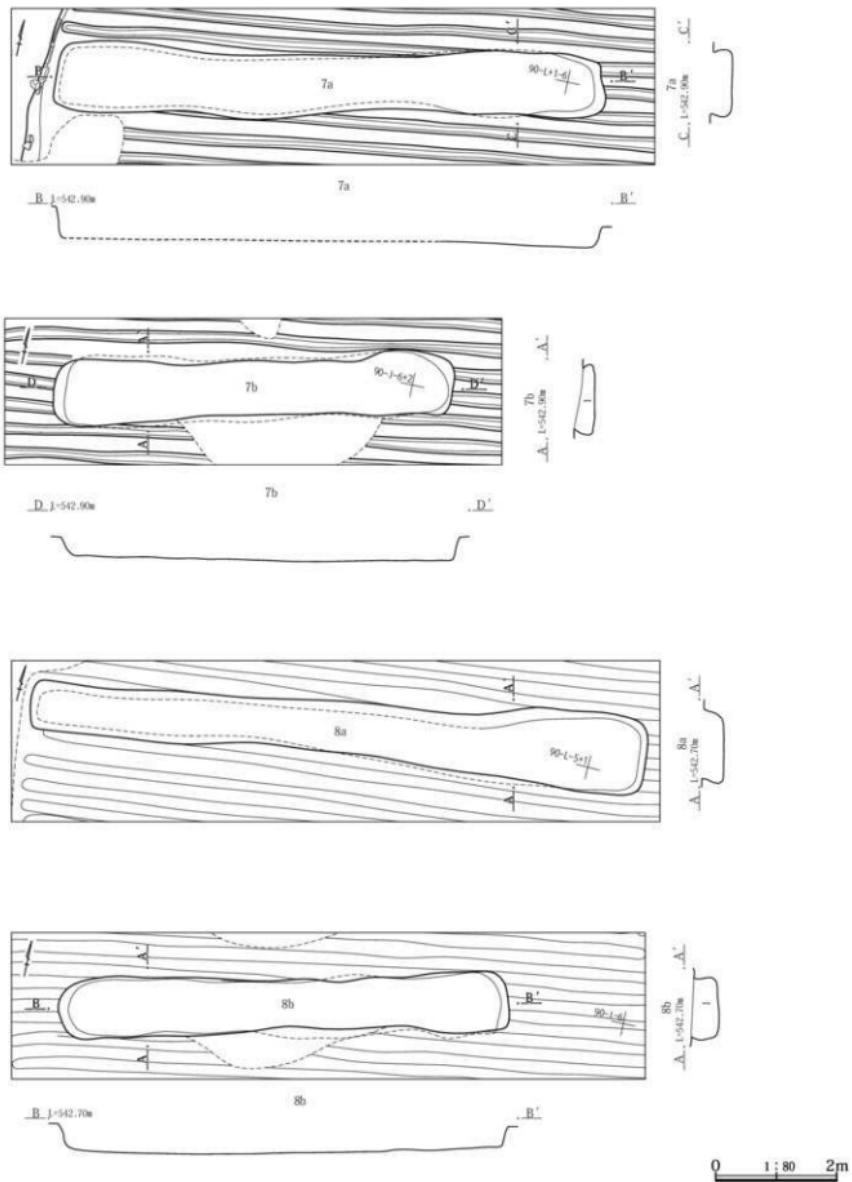
この復旧坑群から得られる旧表土以下の土量を考える



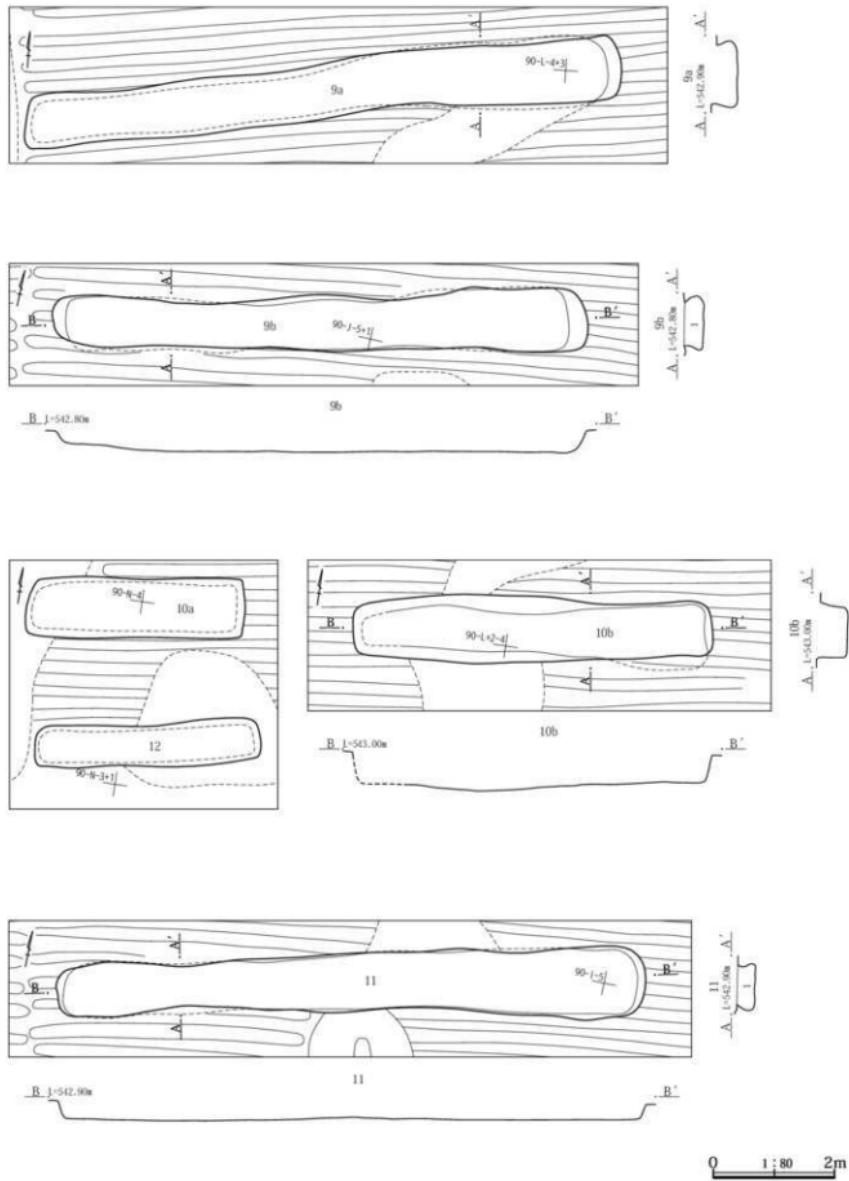
第16図 復旧坑第3群個別図1



第17図 復旧坑第3群個別図2

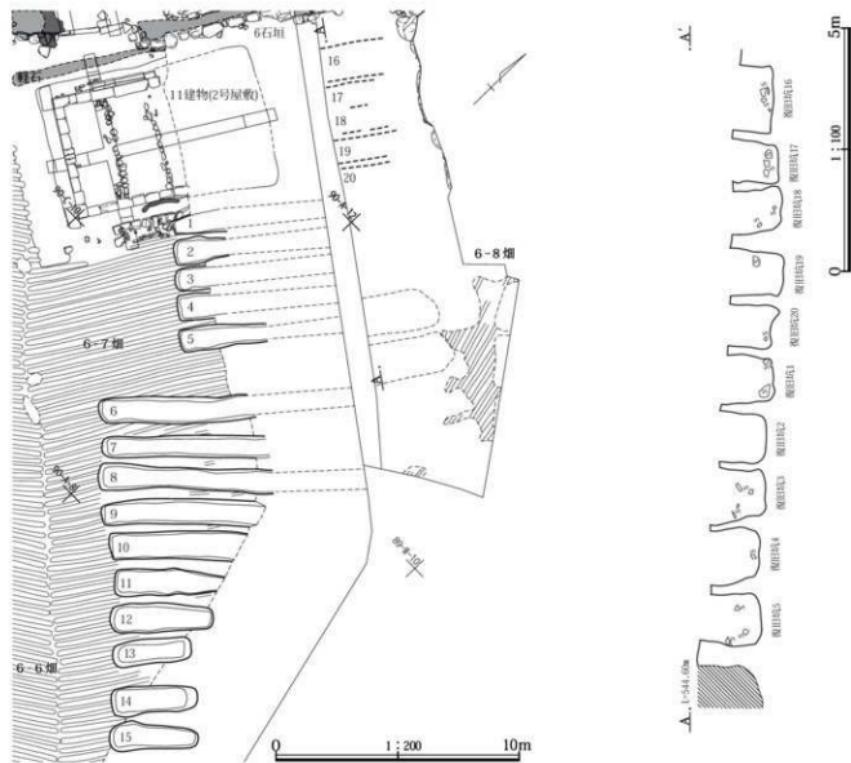


第18図 復旧坑第3群個別図3

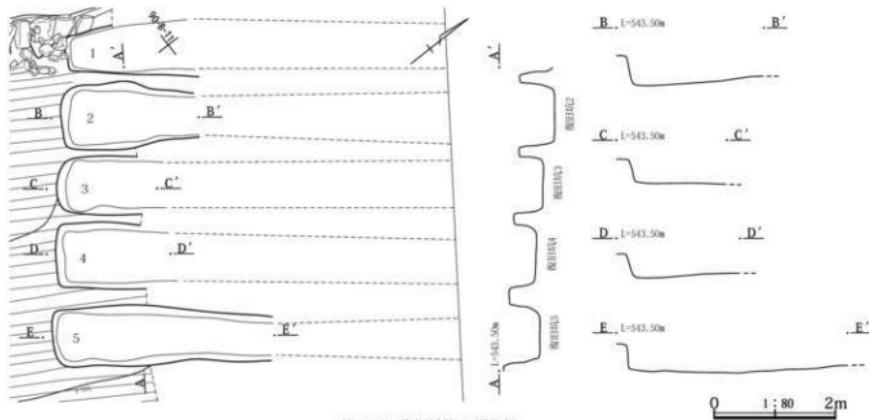


第19図 復旧坑第3群個別図4

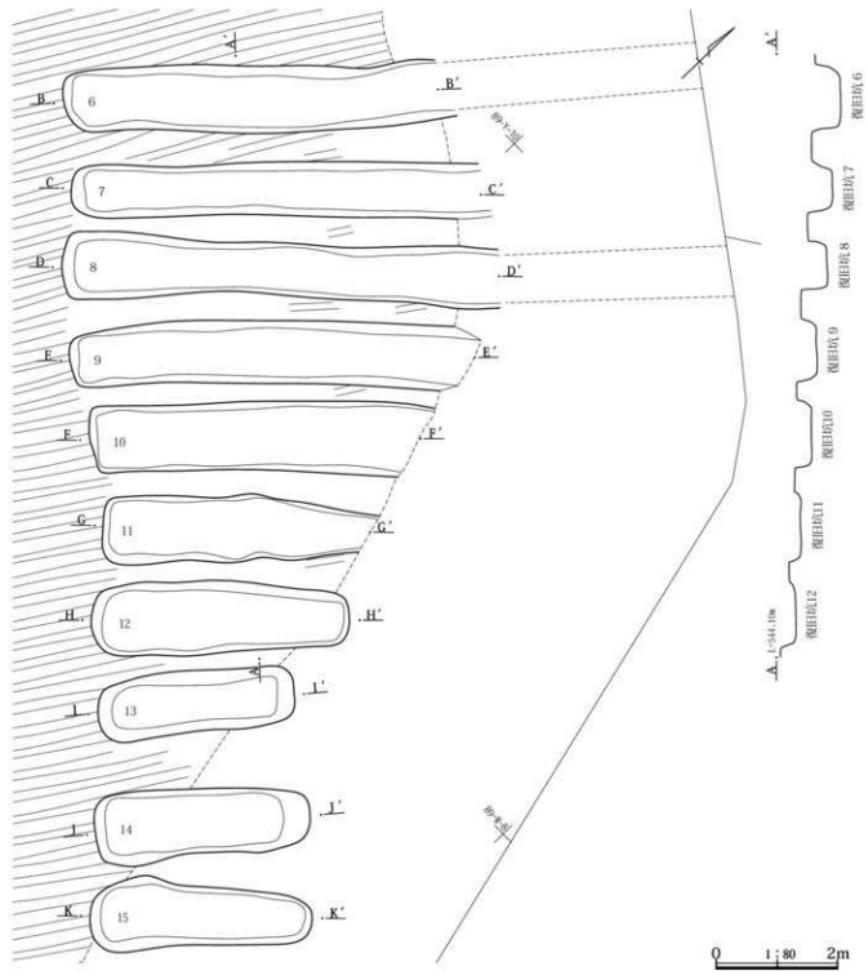
第1節 浅間山天明噴火災害からの復旧にかかる遺構



第20図 復旧坑第4群



第21図 復旧坑第4群北部



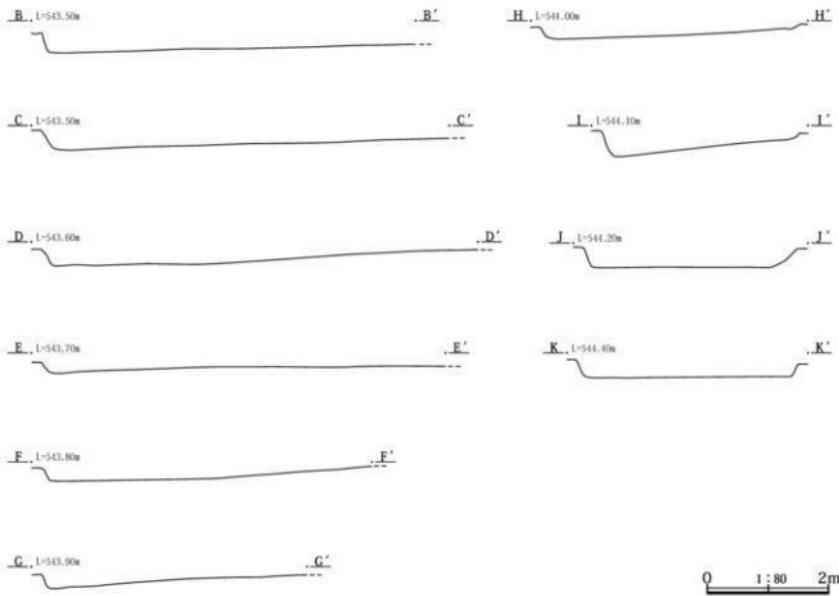
第22図 複旧坑第4群南部

と、平均深さを40cmとして69.75m²が得られ、砂質土相当のぼぐし率1.3を乗ずると90.68m²となる。新たな被覆土厚を10cmと仮定すると、およそ900m²分の新たな耕土が得られたことになる。下位の1号畑には十分な量ではあるが、2号畑を含めるには、やや不足する。

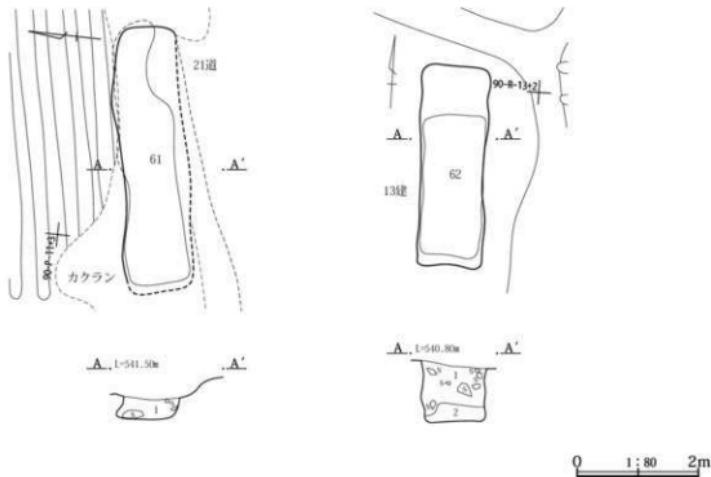
4 複旧坑第4群

25-89-W～90-B-5-10グリッド 標高544.3～543.4mの北西向き緩傾斜部にある。天明泥流下の遺構からみると、第6区画7号畑内にあり、2号屋敷の南から東に位置する。2号屋敷11号建物の南のものを1号～15号、同建物の西にあるものを16号～20号復旧坑とした。16号

第1節 浅間山天明噴火災害からの復旧にかかる遺構



第23図 復旧坑第4群南部断面

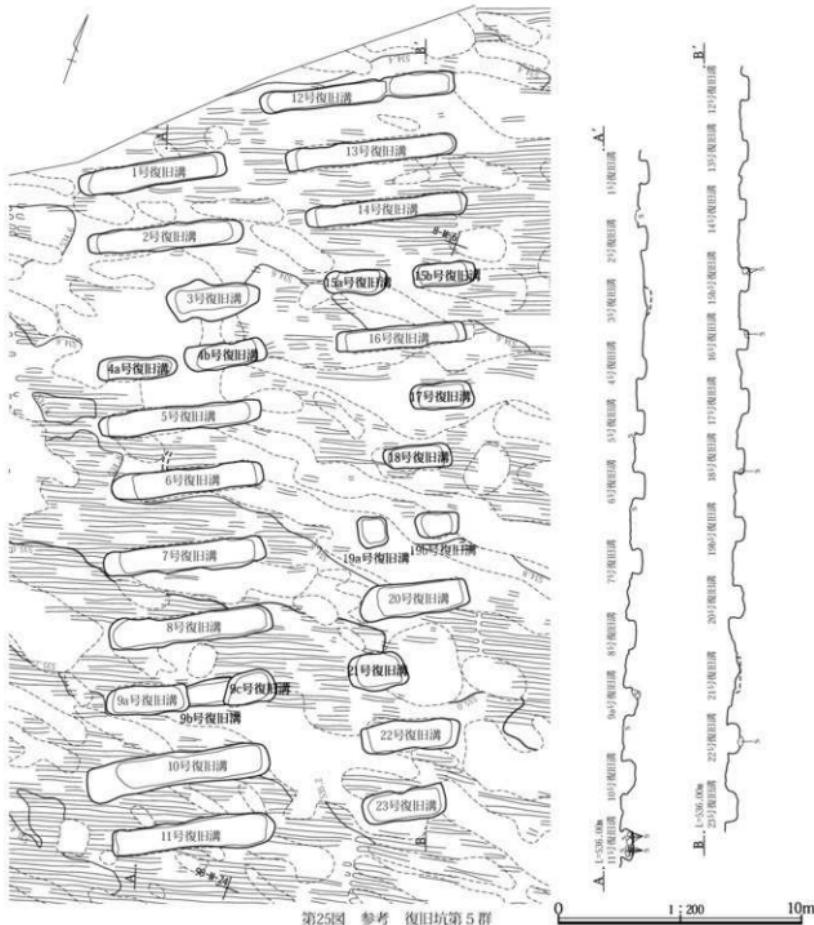


第24図 単独の復旧坑

復旧坑上縁北端から15号復旧坑上縁南端まで31.5m間に20基の復旧坑が並列する。東部が大きく攪乱され、また調査区界にもあたるため、全容が把握できる復旧坑はない。南部の12号～15号復旧坑については、両端が完結した図が採取されているが、東部は攪乱中にあって、原形を示すものではない。11号建物南にある1号～5号復旧坑は西端を揃えているが、東端は調査区界で確認できなくなる。確認長は1.4～3.6mしかないが、いずれも調査区界までは延びており、本来は6.2～6.6m以上あったも

のと想定される。1号復旧坑は畠を越えて11号建物に接する位置にまで達する。幅は100～115cmで、平均108cm。復旧坑間は、確認面における上端で10～30cmある。泥流下の旧地表面からの深さは4号復旧坑が最も浅く42cm、1号復旧坑が最も深く65cm。平均すると53.2cmほどの深さがある。断面形は深い鍋状で、底面は広がらない。

5号復旧坑と6号復旧坑の間は1.8mほどあって、16～20号復旧坑を含めたこれ以北の復旧坑と6号復旧坑以南のものとはやや様相が異なる。6～15号復旧坑は西端



第255図 参考 復旧坑第5群
(郡埋文640集 石川原遺跡(1)第11回再掲)

線が1～5号復旧坑のそれより3.5mほど西にある。8号復旧坑は長さ7.16mまで確認されているが、調査区界までの11m以上はあったものと想定される。6号復旧坑も10.5m以上が想定されている。幅は7号復旧坑が最も狭く105cm、11・14・15号復旧坑が広く140cmあり、平均では127.3cm。復旧坑間は確認面における上端で20～40cmあり、13号・14号復旧坑間は80cmほどある。深さは9号(18cm)、11号(17cm)が浅く、13号復旧坑(43cm)が深いが、平均26cmほどで、1～5号復旧坑の半分ほどの深さしかない。

16号から20号復旧坑は1～5号復旧坑の北、11号建物の東にある。上面が擾乱されていて、痕跡的に確認されたのみであるが、調査区界で良好な土層断面が採取されている。各復旧坑とも長2.5mほどの痕跡が残るのみで、長さに関する情報は乏しい。幅は16号復旧坑が特に広く130cmほどあるが、他は85～95cmほどで揃う。深さは16号土坑が浅く50cm、19号復旧坑は80cmほどある。断面形は深い鍋状に近く、底面は広がらない。

部分的な確認にとどまるものが多く、復旧坑掘削によって得られた土量を量りがたいが、各復旧坑で確認された長、幅、深を掛け、砂質土相当のほぐし率1.3を乗ずると438.4m³が得られ、被覆土厚を10cmと仮定すると、およそ500m³の新たな耕土が得られたことになる。

5 単独の復旧坑

61号復旧坑 25-90-O・P-11グリッド 天明泥流下の21号道と14号道の交点近くに、21号道に沿って掘られている。北は第4区画21号烟にあたる。最高位標高541.14m。長軸長4.08m、短軸長94～109cm、N-84°-Eに長軸を持つ隅丸長方形の形面形を呈する。深さ34～39cmで、横断面は鍋状に近いが、烟側にあたる北側の底面は袋状に張り出す。縦断面も鍋状を呈するが、西側底面は東側よりも低く、東壁はえぐれるように強い立ち上がりを示す。覆土に関する記載を欠く。

62号復旧坑 25-90-R-12グリッド 天明泥流下7号屋敷北東隅にある。屋敷を囲む溝からやや内側に入った所で、13号建物の北東隅と本復旧坑の北西隅が接するかのような位置にある。最高位標高540.58m。長軸長3.24m、短軸長108～114cm、N-3°-Wとほぼ南北に長軸を置く隅丸長方形の平面形を呈する。深さ51～85cmで、横断面は底面や壁がやや乱れるものの箱形に近い。縦断面では

北側がスロープを持って下り、中央やや北側が最も深くなる。南に向かって徐々に浅くなり、南壁は強く立ち上がる。南から北に向けて掘り進めたのかもしれない。覆土に関する記載を欠く。

6 参考 第5群の復旧坑

前報告に記載した復旧坑群を第5群として略述する。25-98/35-8-K～P-23～8グリッド 標高534.4～535.4mの北向き緩傾斜部にある。長さ30m、幅15m、450mほどの範囲に、東西2列、23基の復旧坑が並ぶ。西列は11基、東列は西列より1基分北に張り出して12基で構成される。各列の溝間は90～180cmほどである。東西両端のいすれかが丸みを帯びたり、なだらかな傾斜を持ち、反対端が直線的に切れるような形状の差も見えるが、細長い隅丸長方形が標準な平面形としてとらえられる。横断面は鍋形を呈し、袋状に広がりを見せるものも多い。長6～7m、幅105～130cmほどの規模である。底面全部が泥流下面までは達せず、短く途切れてしまうなどの状況も見られる。9号、12号および4・15・19号の状況をみると、東西に短い土坑を、東の土坑は東から、西の土坑は西から掘り始めて、両者を繋ぐことによって最終的に長い復旧坑を形成したものと思われる。短い土坑は、片方が泥流下の耕土に達しない状態で掘削が中断されたものであろうか。これでは復旧坑の目的が達成されないことになる。西列では「標準形」に近い復旧坑が多いのにに対し、東列では長いものがある一方、途中が途切れたり、短いままであつたりするものが多い。さらに、西列では底面両側を多少なりとも掘り広げる様子が見られるのにに対し、東列ではこれが乏しい。泥流下の烟区画から見ると、長軸方位は天明泥流下烟の歛方向と近似する。また、歛間溝終端を繋ぐ線と東列溝の東端を繋ぐ線とがほぼ一致する。こうした様相を見ると、組織的、計画的な復旧事業の所産ではなく、烟の耕作者が私的な耕地復旧を目指して作業を始めたものの、中途で断念したもののようにも思える。

第2節 浅間山天明噴火堆積物直下の遺構



第26図 天明泥流下の遺構



25-89-A
-1

25-87-A
-1

1 : 1,600 40m

第1項 概要

天明泥流を初めとする浅間山天明噴火堆積物下面の遺構群は、この地域の遺跡が有する大きな特徴の一つである。As-Aおよび天明泥流に覆われて保護された旧地表面が残されており、泥流による削剥を受けつつも、さまざまな遺構を発掘区全面にわたって認めることができる。

浅間山天明噴火の火山活動は新曆の5月から8月のクライマックスを経て9月まで、およそ5ヶ月間に及ぶ長いものであった。この間に様々なイベントが断続的に生じており、本遺跡で顕著に見られる堆積物であるAs-Aの軽石や、これに先立つ火山灰の降下と、天明泥流の到達にも時間差がある事が知られている。従って、本節で言う「噴火堆積物直下」の遺構にあっても、As-Aの火山灰や軽石下の遺構と、As-A降下後にこの地に到達した火山泥流(天明泥流)下の遺構がある。本遺跡においても前報告第7区画で記載したAs-Aを鏁き込んだ耕作の痕跡や、後述する第2区画6号烟で見られたというAs-A軽石降下後の歛立てなど、As-A降下と天明泥流到達の間に耕作行動があったことが示されるが、本節ではこれらを一括して扱い、記載上の必要に応じてそれぞれを区分するにとどめる。

前章までで記載したように、浅間山天明噴火堆積物下では、複数の建物から構成される屋敷や、山門、本堂、庫裏、鐘楼や庭園を伴う寺院、堂宇も見つかっている。本節では、これら建物以外の遺構を扱う。具体的には、烟、屋敷に接する部分以外の道、溝・水路、石垣、「ヤックラ」、集石を対象とする。

烟は、発掘区のほぼ全面で確認された。烟面はAs-Aおよび天明泥流に覆われるが、泥流による削剥も受けている。泥流は吾妻川に沿った流下方向を基本としつつ、微地形の影響を受けて角度、強弱を変えている。旧地表面に残された切削痕跡はこれを反映する。下段東部から上段の北東部では、烟の歛・歛間溝痕跡がほとんど捉えられないほどに削剥を受ける。上段西部でも、巨岩が転々としたと思われる、長く連続する斑状の痕跡が示すように、北西-南東方向に延びる。旧地表面の切削痕跡が顕著である。一方南北に延びる尾根状部の西側では削剥が弱く、かつ尾根に規制されて南北方向を示す小規模な切削痕跡が残る。

土層断面の記録によると、現地表を含め厚さ1mを超える泥流下に、歛間溝を中心に1~3cmほどのAs-Aがあつて烟面を覆う。天明泥流除去後の旧地表面には白色の軽石が縞状に見いだされる。烟の耕土は白色粒子を含む暗褐色土が主体で、厚さ20~25cmほどある。旧地表面近くでは、還元的環境にあったためか、厚さ3~7cmほどにわたって灰褐色を呈する。烟表面には鉄分が凝集して、作物かと思われる植物を示す痕跡や、炭化物の集中地点などが見られる。

烟の歛・歛間溝は、屋敷地に接するまでに耕作されていることもある。歛が長く、歛間が比較的密に構成されたものが、周辺遺跡の発掘調査によっても広い範囲で確認されており、織錦用の大麻を栽培したものと想定されてきたものである。また、屋敷周りにはやや歛幅の広い、前栽植的な性格を持つものと想定される烟もみられる。これらの烟は道や水路、段差や屋敷、石垣、あるいは歛方向を異にするなどによって区画される。前報告では対象発掘区の西から第1~第11区画を設定して記載を行った。本報告においても、対象発掘区東部から順に第1~第12区画を、さらに下位段丘部に第13・14区画を設定した。発掘区は天明泥流下の地割りとは一致しないため、本報告の第9区画は前報告の第1区画と連続し、第12区画が前報告第4区画を含むことになる。各区画内には、耕作単位を示すと思われる歛・歛間溝のまとまりがあり、これを単位烟として番号を付した。

烟面に残された円形あるいは方形の平面形を呈するする平坦な痕跡を「平坦面」として発掘している。ハッカム地域の天明泥流下烟にあっては通有かつ特徴的に見られるものである。面形が円形／方形、周囲を囲む溝(平坦面溝)がある／ない、中央に直径方向に切られる溝(中央溝)がある／ない、烟の歛間溝が平坦面を切る／切らない、などによっていくつかの類型が考えられている。ただし、微弱な痕跡であることもあるが、形状や溝のあり方の図示表現には発掘区によって差があり、平坦面と烟の歛間溝との重複関係が矛盾するなどもあるが、本遺跡での類型化は行っていない。半切り桶を置いた跡、あるいは作物種子と堆肥を混ぜ合わせる作業の場などの性格が想定されているが、規模形状の差から見ると、両者ともにあったものかもしれない。

また、烟地内あるいは烟地の片隅の斜面に寄せかける

ように、人為的に礫が集められ、積み上げられた場所が見られる。従前の調査では、周間に比較的大ぶりの礫を巡らした中に中小の礫が集積されている例が多く、開墾時に発生した礫を処理する場所であり、その後の耕作時に出た礫などが順次積み上げられていったものと考えられている。現在でも遺跡周辺地域では、耕作中に出た礫などをまとめ置く部分を「ヤックラ」と呼んでいるが、これに相当するものであろうとされる。本遺跡では南縁の傾斜面近くに見られるものである。

道は、上位面を東西に走る21号道、7号道が幹線と見られ、これから南北に16号・14号・23号・25号・26号・4号・9号・8号道・27号道などが派生する。1号、13号、27号道は屋敷へ通じる道、2号、3号、12号道は畑内の作業道、5号・6号道は作業痕跡程度の道であろう。このうち、7号道東部、2号～6号・8号道については前報告に記した。また、1号・13号・27号道については、屋敷・建物と併せて記載される。12号道は畑の一部として記載する。

溝・水路は、調査担当者によって付される名称が異なるが、水路として機能しているものが多い。1号水路の東部及び2号水路については前報告で記載した。1号水路と3号水路は発掘時期が異なるために別番号とされたが、一連のものである。西部では7号道に沿い、26号道との交点近くで7号道から離れる。1号・3号水路と21号道に沿った53号溝がこの地域の基幹水路で、これから5号・55号・57号溝が派生する。

屋敷廻りや水路の側壁、地形変換部や畑の境界部には、独立した遺構番号を持たないものも含め、石垣や石列が設けられる。1号水路に伴う1号・2号石垣、畑内の4号・5号石列については前報告で記載した。ここでは、畑を区画する12号・13号石垣及び15号道に伴う10号石垣、21号道に伴う15号石垣などについて記載する。

第2項 記載の方法

前報告では畑と平坦面、ヤックラをそれぞれ別項として記載したが、本報告では発掘区界、地形境界や、道、水路・溝、石垣などで結界された「区画」を基本単位として、この範囲内の畑、平坦面、ヤックラ等を併せて記載する。次項で、区画の分界線であり、区画を越えて存在する道、溝、水路等について、遺構単位で全体的な記載

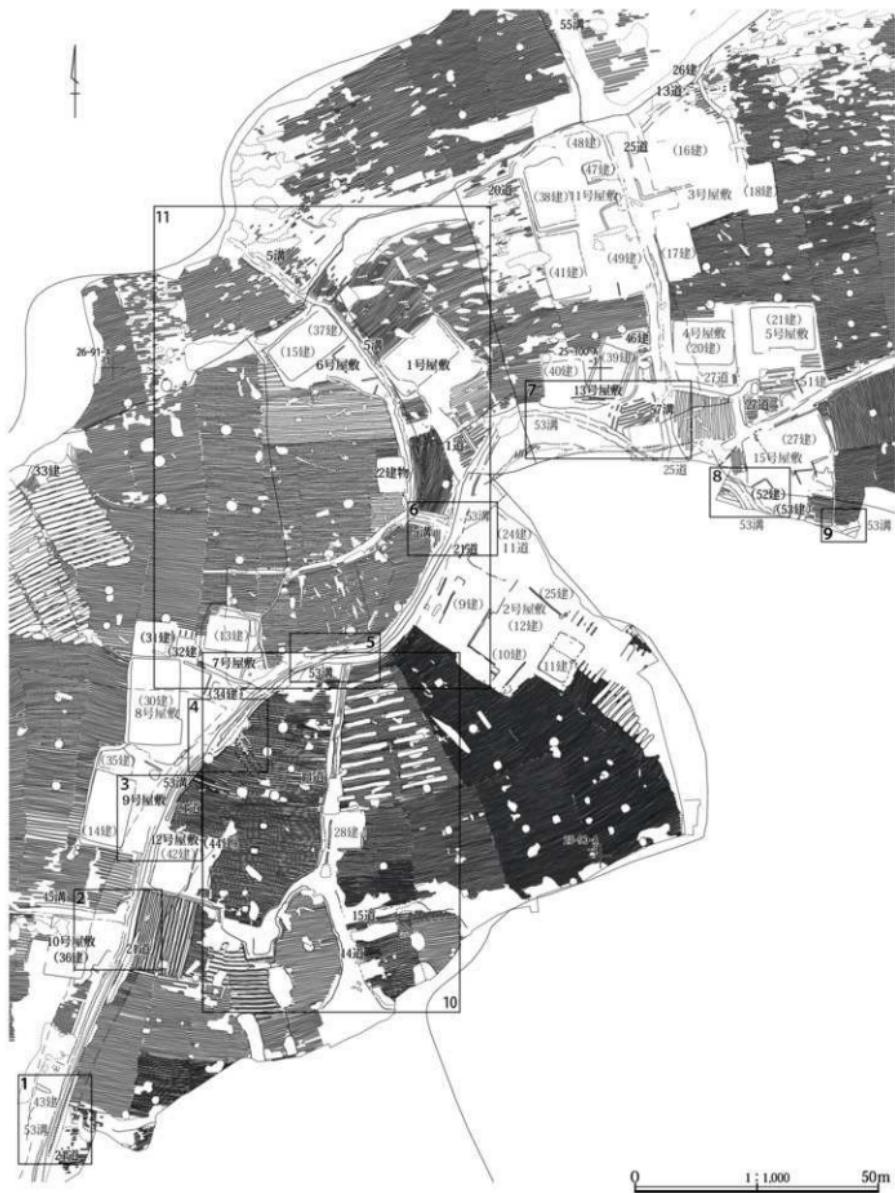
を行い、次いで第4項として区画毎の記載を行う。区画番号は、第26図のとおりであり、およそ吾妻川上流にあたる発掘区の西から東、傾斜方向に沿って低位の北から南へ順に付した。第13区画、14区画は下位段丘にあたる。前報告は発掘区の西端部を扱っていて、畑遺構を第1～第11区画に区分して記載した。本報告では、これを1-1区画から1-11区画と呼称する。本報告第9区画は1-1区画(前報告第1区画)、第12区画は1-4区画(前報告第4区画)と連続する。

発掘区全体については1/400図を付図として添付したほか、必要部分を1/800・1/1000図等で示した。各区画については、広狭、遺構の密度等が様々であるため、1/200・1/250図を基本としつつ、特に注意すべき情報を有する部分および区間については適宜1/100・1/80・1/60等の図を用いて示した。なお、土層断面図は1/60を基本として、分層の状況に応じて縮尺を変更しており、平面図の縮尺とは対応しない場合がある。

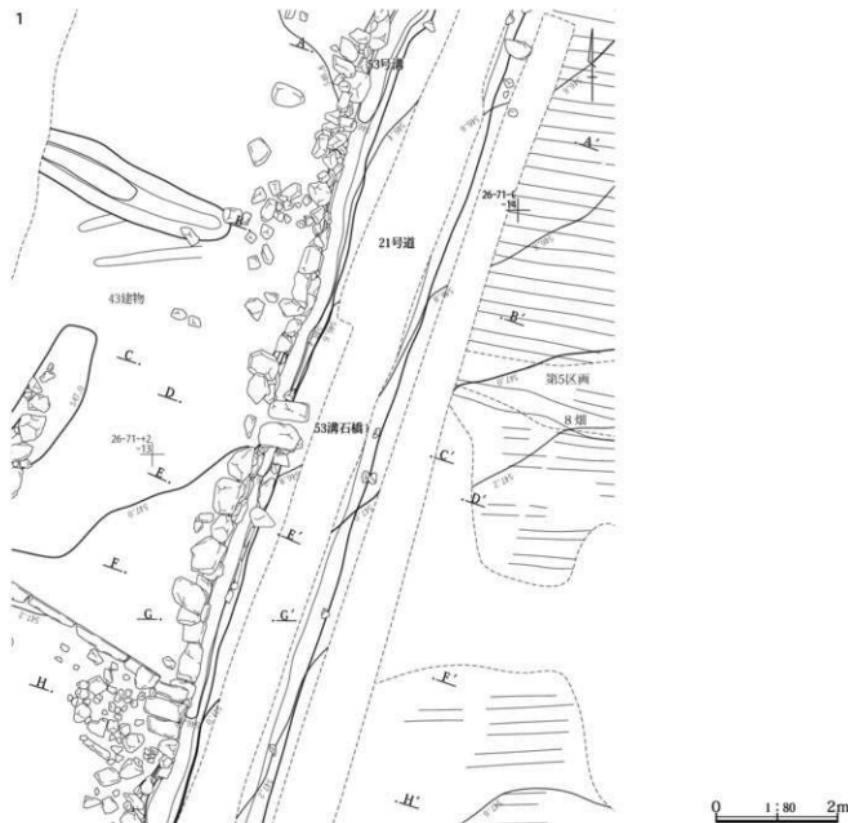
畑を区画する道、溝・水路、石垣等は1/60から1/100図で個別に記載した。また、ヤックラや畑内にあって、畑の一部をなす石列等についても1/60を基本として図示した。平坦面は、畑図中に位置を示したほか、各平坦面の個別図を1/60で示した。道、溝・水路は長大にわたるため、全体は付図に委ね、特に注意すべき情報を有する部分や断面図、高低図については適宜1/200・1/100・1/80・1/60等の図を用いて示した。

畑は作付け面が主役たるべきではあるが、遺構としての記録は、畠を盛り上げ、維持する機能を持つ畠間溝を中心とした図が中心にならざるを得ない。畠間溝の間が畠であり、畠・畠間溝の繰り返しが並列して畠群を形成する。同時に、畠間溝は、食い違う部分はあるものの、端部を突き合わせるように次の畠間溝と直列する。こうした畠群が連続して、畑が形成されることになる。ここでは、畑の最小耕作単位であろうこの畠群に畠番号を付けて記載する。

各遺構の計測値等については節末の遺構一覧表に示した。なお、発掘期間が長期にわたり、かつ発掘区が複雑に細分されていること、発掘担当者が多人数に渡ることなどから、隣接し、連続すべき畠・畠間溝であっても、上端・下端等の測点の選択や図示表現が異なる場合がある。畠・畠間溝の長幅、深さなどの値はこれら平面図からの読



第27図 道・水路・溝部分図 1



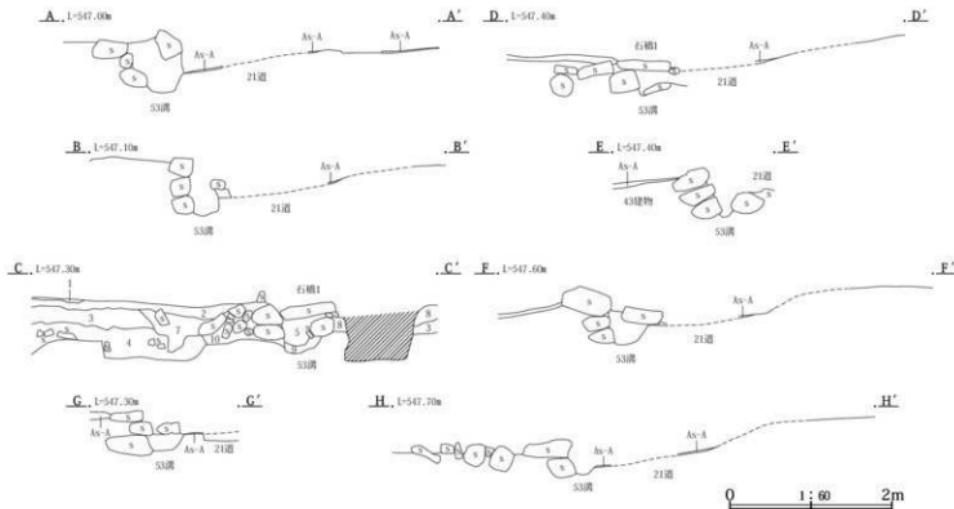
第28図 道・水路・溝部分図1 詳細図1

み取り値である。歛/歛間溝間(条間)の距離については、歛間溝底部間を採る場合が多いが、発掘区・担当者による図表現の差違が目立つため、計測可能な歛間溝群の総長を歛間溝数で除した単純平均値を本文中に示すこととした。

なお、発掘区が複雑に細分されているため、畑や道、水路などでは全体を把握できる写真記録が行えず、部分写真のみにとどまる場合がある。

第3項 道・水路・溝

上位段丘中央近くを蛇行しながら、幹線道路である21号-7号道が東西に走り、これと並行するように、北の段丘下には19号・24号道、南には4号・9号道が走る。21号-7号道からは、北に向かって16号・25号・23号が派生し、前報告記載の3号、4号道がやや西に離れた位置でやはり北に向かって派生する。南に向かっては14号・26号及び前報告記載の4号・8号道が派生する。調査区界にあたって把握されていないが、25号道も南に連続するものかもしれない。14号道からは南に15号道が分岐す



第29図 道・水路・溝部分図1 詳細図1 断面

るほか、1号・13号・27号道はそれぞれ屋敷地へ通じる。21号-7号および23号-25号道は幅広の幹線的な道路で、4号-9号道、8号道も幅広で且つ直線性の高い幹線路とみられる。一方、2号・5号・6号道などはごく細く、微弱な痕跡で畠内の作業道とも見られる。

第2面における溝・水路は、調査担当者によって付される名称が異なるものの、多くが水路として機能している。主要な道には多くの場合水路・溝が並行して走るが、道から離れるものもある。1号水路は7号道に沿う幹線水路だが、26号道との分岐点からやや離れ、3号水路に連続する。21号道に沿う53号溝も、基幹水路として機能したものであろう。この水路からは5号・55号・57号溝が南に派生する。5号溝は1号屋敷と6号屋敷の間を走り、10号道がこれに沿う。55号・57号溝は23号・25号道の中央を走る。

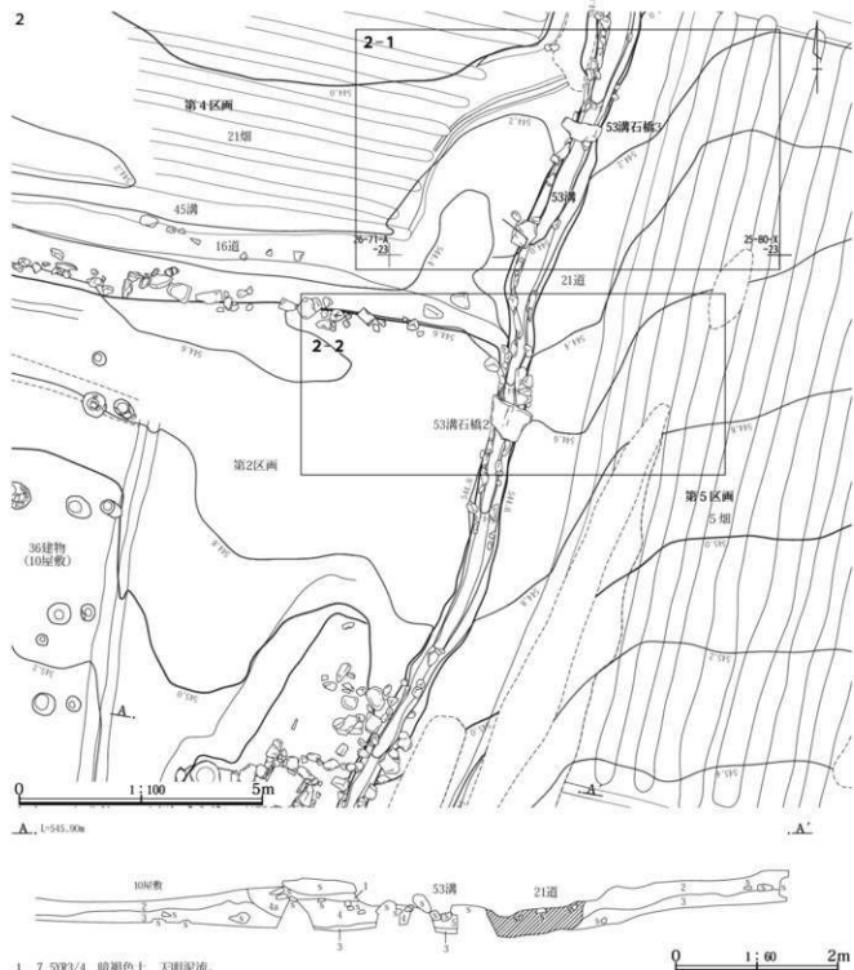
7号道東部、2号～6号・8号道、1号水路東部、2号水路については前報告に記した。また、1号・11号・13号・22・27号道など屋敷に付属する道については、屋敷・建物と併せて前章までに記載した。本項では、遺構名は異なるものの、連続性があるものと考えられる道及びこれに沿う溝・水路をセットとして、21号道・53号溝、14

号・15号道・10号石垣、10号道・5号溝、16号道・45号溝・13号石垣、25号道・57号溝及び23号道・55号溝、7号道・1号水路及び3号水路、19号・20号・24号道及び下位段丘南縁の石列等を扱う。

1 21号道・53号溝

21号道・53号溝は、発掘区南端近くの26-71-D-9グリッド付近から北東に延びる道・水路として確認された。第2区画と第5区画、第4区画と第5区画、第4区画と第6区画の境界をなし、南北に張り出す尾根の先端を繋って第8区画の南辺、第9区画の南西隅、第10区画の西辺を画する。途中、25-80-Y-21グリッドでは45号溝・16号道、25-90-M・N-10グリッドでは14号道が南側にとりつく。25-90-H-17グリッドでは5号溝・10号道が北にとりつくほか、2号屋敷に入る11号道や1号屋敷に向かう1号道もこの道にとりついている。5か所の石橋と、53号溝から5号溝に落水する木樋1か所がある。なお、発掘時の記録では、尾根の先端部から東では21号道が明確に捉えられなかっただしく、図面には遺構名称が記載されていないが、尾根先端部から確認された東端にあたる25-89-L-17グリッドに至るまで、53号溝の北側に平坦面が伴っており、これを21号道の延長にあたるもの

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



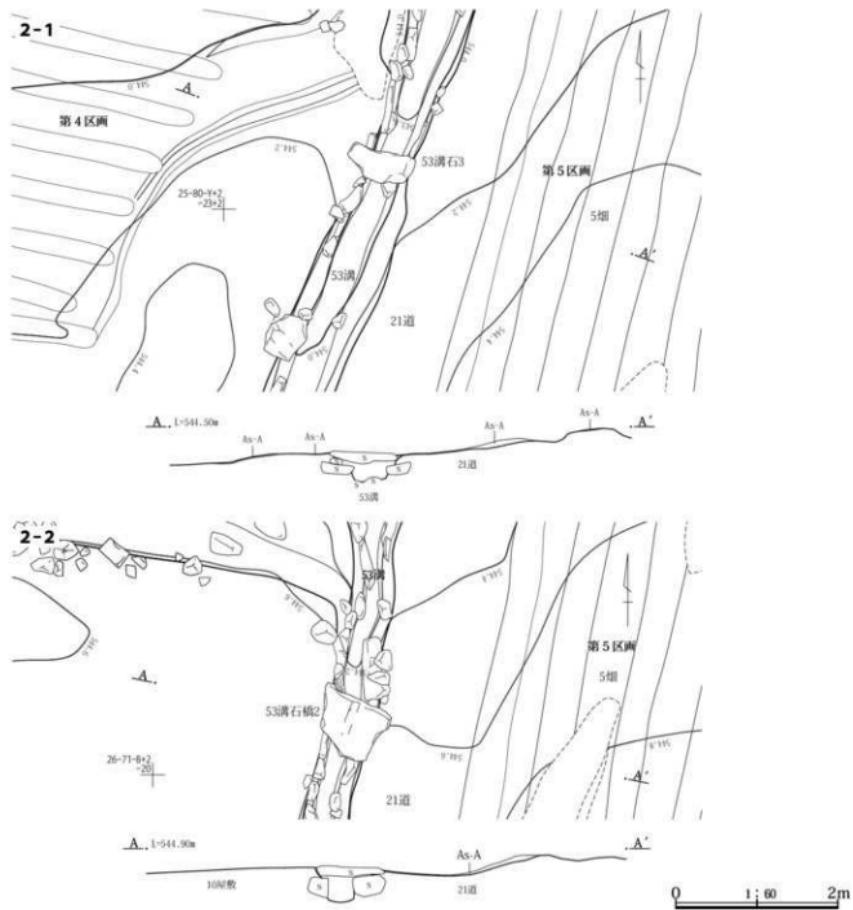
- 1 7.5TR3/4 暗褐色土 天明泥流。
 2 7.5TR3/4 暗褐色土 小砾石含む。白色粒・褐色粒・炭化物粒を僅かに含む。
 3 7.5TR2/2 黑褐色土 小砾石含む。白色粒を少量含む。褐色粒・粘土粒を僅かに含む。
 4 7.5TR3/4 暗褐色土 粘土を多量に含む。砂礫粒を多く含む。炭化物粒を僅かに含む。
 4a 7.5TR3/4 暗褐色土 粘土を多量に含む。砂礫粒・炭化物粒を僅かに含む。
 5 2.5TR5 黄褐色土 砂礫層。5号溝覆土。

第30図 道・水路・溝部分図1 詳細図2

と見ることができるだろう。東に向かう幹線道である7号道との接続を直接捉えることができないが、25号道との交点近くで分岐し、屋根を回り込みながら直進に向か

い、南の急斜面を上がり、また、斜面下を縫って4号道と接続するものであろうか。

第28図は南端近くの、43号建物の西辺を画する部分で

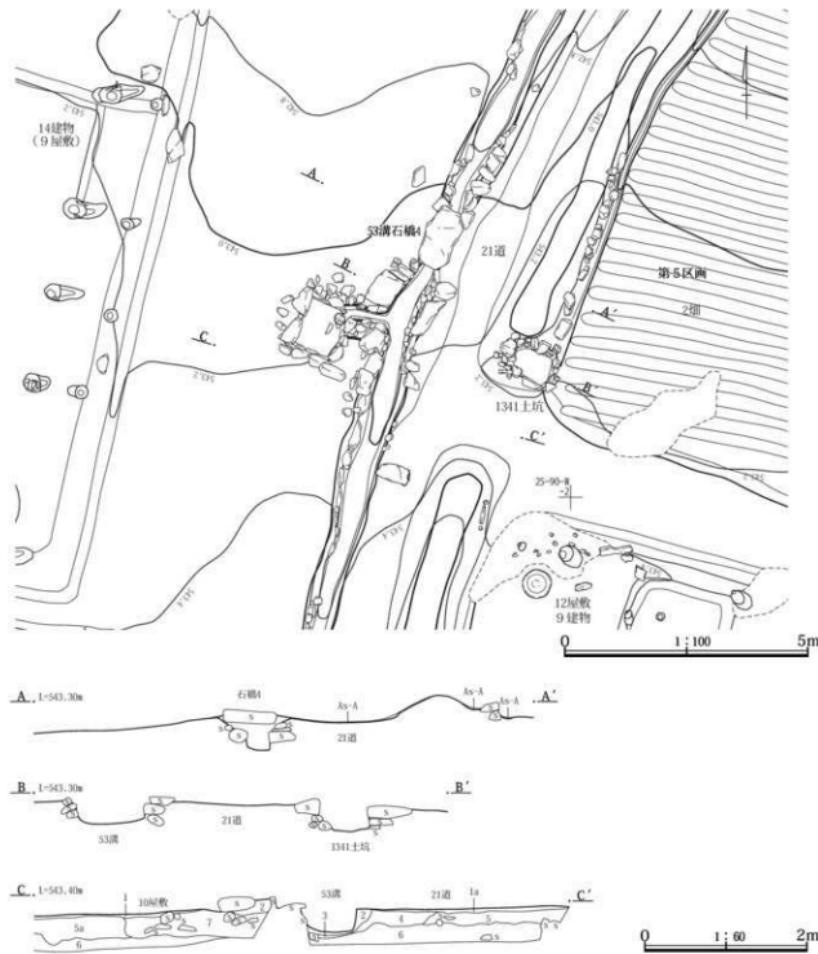


第31図 道・水路・溝部分図1 詳細図2-1・2

ある。21号道は、中央部と東側に擾乱が入るため、詳細が捉えがたいが、図中北端近くにあたる断面AラインのAs-A堆積範囲から見ると、1.6mほどの道幅が想定される。路面の標高は東側で546.59m、西側で546.36m。道の西に53号溝が沿う。この西は43号建物で、溝の西側壁には43号建物の東辺をなす石組みが良く残っている。道側の東側壁には石組みはない。溝の底面標高は546.15mで、路面からの深さは21cmほどとなる。直近の43号建物

は標高546.82mで、ここからの深さ67cmをはかる。これを亜角礫3石を積んで側壁としている。A・B・E・F・Gラインでは、礫の大きさはまちまちであるものの、ともに3石を積んでいる。第28図は、道から43号建物に渡る石橋1の部分である。道から屋敷地に2枚の扁平な石を掛け渡している。南の石は長75cm、幅40cm、厚15cm、北の石は長さ66cm、幅30cmほどあって、両者を合わせた幅は80cmほどになる。この石橋の部分では、東側にも礫

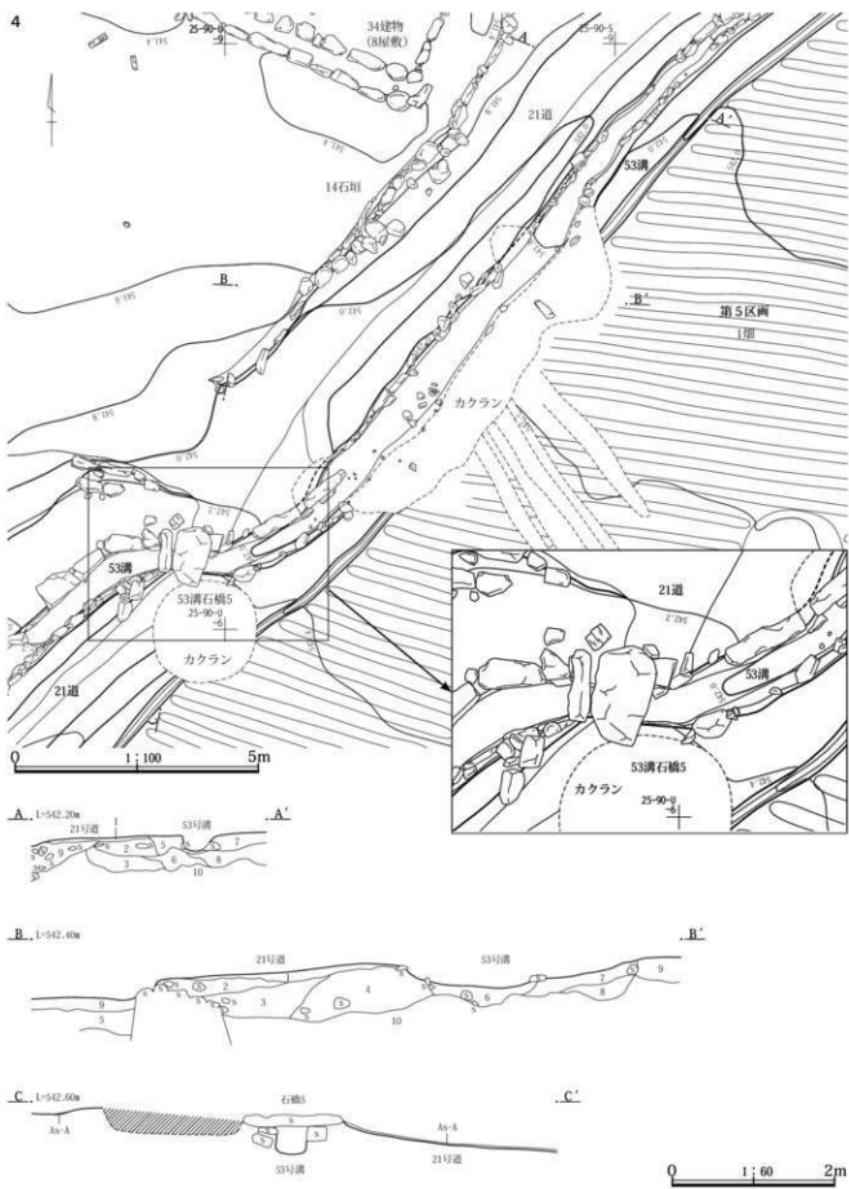
3



C-C'

- 1 7.SVR3/4 暗褐色上 小礫を含む。白色粒・褐色粒・炭化粒を僅かに含む。鉄分が付着する。踏み締められて硬い。
 1a 7.SVR3/4 暗褐色上 1層に近い。鉄分が多く付着する。礫の径が大きく量も多い。
 2 7.SVR3/4 暗褐色上 小礫を含む。白色粒・褐色粒を僅かに含む。乾くと硬い。
 3 2.SVR5/3 黄褐色上 砂礫層。
 4 7.SVR3/4 暗褐色上 磨を多く含む。鉄分が多く付着する。締まっている。
 5 7.SVR3/4 暗褐色上 径2~3cmの礫を多く含む。白色粒・褐色粒・炭化粒を僅かに含む。踏み締められて硬い。
 5a 7.SVR3/4 暗褐色上 5層にはほぼ同じ。礫が少なく、締まりがない。
 6 7.SVR2/2 黒褐色上 小礫を含む。白色粒を少量含む。褐色粒・相色粒を僅かに含む。
 7 7.SVR4/1 褐灰色上 炭化物・径10cmの礫を多く含む。白色粒を僅かに含む。

第32図 道・水路・溝部分図1 詳細図3



第33図 道・水路・溝部分図1 詳細図4

A-A'

1. 7.5R3/ 4 暗褐色土 小礫を多く含む。白色粒・褐色粒・炭化物粒を僅かに含む。鉄分の付着が多く見られる。踏み締められ硬い。
2. 7.5R3/ 4 暗褐色土 磨きを含む。白色粒・褐色粒・炭化物粒を僅かに含む。鉄分付着が見られる。やや軟質。
3. 7.5R4/ 1 褐灰色土 多量の砂礫を含む。細まりあり。
4. 7.5R4/ 1 褐灰色土 多量の砂礫を含む。鉄分の付着が多く見られる。細まりあり。
5. 7.5R2/ 2 黒褐色土 小礫を含む。白色粒を少量含む。褐色粒・橙色粒を僅かに含む。
6. 7.5R3/ 4 暗褐色土 多量の砂礫を含む。鉄分付着が見られる。
7. 7.5R3/ 4 暗褐色土 磨きを少量含む。白色粒・褐色粒を僅かに含む。鉄分の付着が見られる。
8. 7.5R3/ 4 暗褐色土 砂粒を少量含む。白色粒・褐色粒を僅かに含む。鉄分の付着が見られる。
9. 7.5R3/ 4 暗褐色土 白色粒・褐色粒を僅かに含む。磨きを少量含む。鉄分の付着が見られる。
10. 2.5R5/ 3 黄褐色砂礫層。

B-B'

1. 7.5R3/ 4 暗褐色土 小礫を多く含む。白色粒・褐色粒・炭化物粒を僅かに含む。鉄分の付着が多く見られる。踏み締められ硬い。
2. 7.5R4/ 1 褐灰色土 多量の砂礫を含む。鉄分の付着が多く見られる。細まりあり。
3. 7.5R4/ 1 褐灰色土 多量の砂礫を含む。細まりあり。
4. 7.5R3/ 4 暗褐色土 磨きを多く含む。白色粒・褐色粒・炭化物粒を僅かに含む。鉄分の付着が僅かに見られる。
5. 7.5R3/ 4 暗褐色土 褐色粒を僅かに含む。鉄分の付着が僅かに見られる。
6. 7.5R3/ 4 暗褐色土 多量の砂礫を含む。
7. 7.5R4/ 1 褐灰色土 磨きを多く含む。白色粒・褐色粒・炭化物粒を僅かに含む。鉄分の付着が僅かに見られる。
8. 7.5R4/ 1 褐灰色土 小礫を含む。白色粒・褐色粒を僅かに含む。鉄分の付着が僅かに見られる。
9. 7.5R3/ 4 暗褐色土 多量の砂礫を含む。白色粒を僅かに含む。
10. 7.5R2/ 2 黑褐色土 小礫を含む。白色粒を少量含む。褐色粒・橙色粒を僅かに含む。

が据え置かれ、西側は大振りの礫2石を積んで、さらに裏込めに礫を詰める造作を行っている。

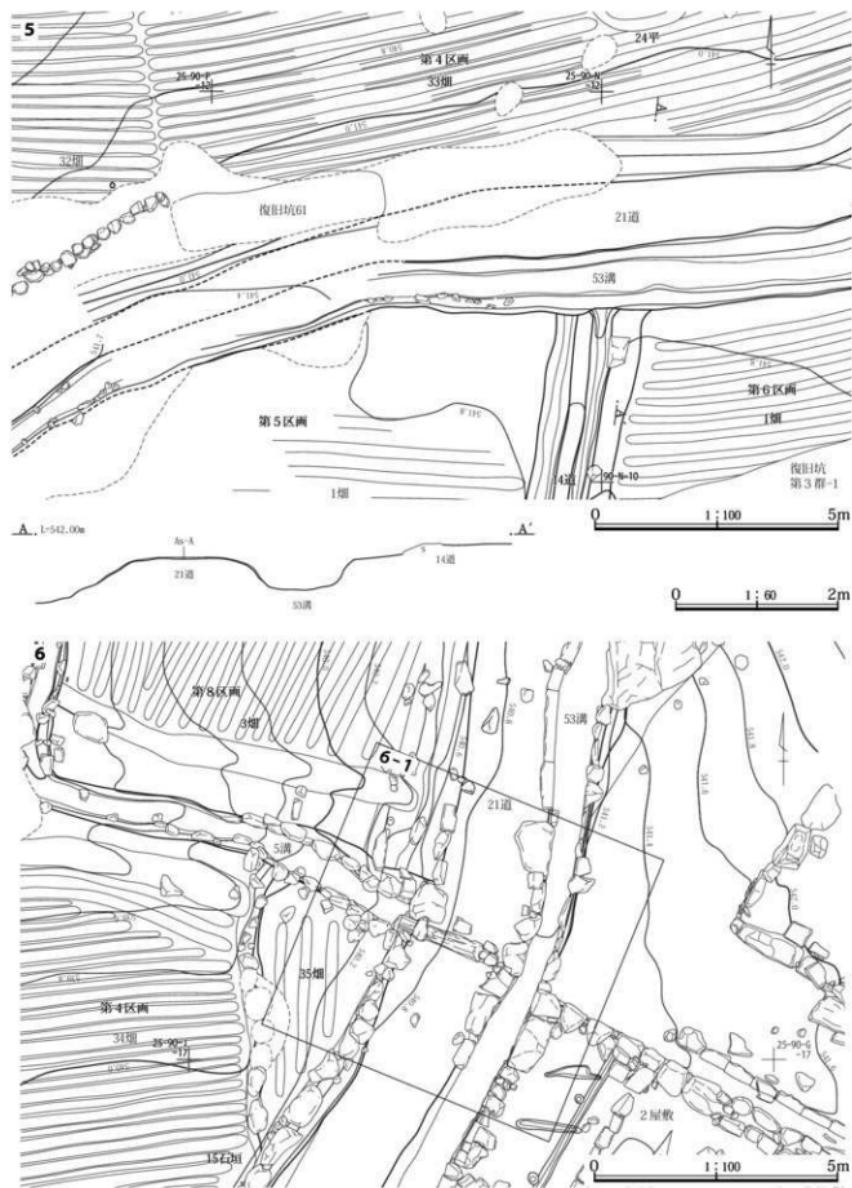
第30図は16号道との交点周辺で、ここでの21号道は、道幅が1.7~1.8mある。10号屋敷の東辺を画する部分で、53号溝から取水する36号建物の洗い場、10号屋敷の北東に渡る石橋2や、その北の畑に渡る石橋3が認められる。Aラインでの路面標高は544.9~545m、53号溝底面の標高は544.75m。石橋2部分では、路面標高544.55m、溝底面544.29mである。第32図は9号屋敷と12号屋敷の間を通る場所である。道幅は1.3~1.6m。西側には53号溝がある。石橋4周辺では上端幅30~40cmほどと狭いが、南のBラインでは上端幅が95cm、Cラインでも60cmほどある。道の西側には、53号溝から取水する洗い場や、9号屋敷に渡る石橋4がある。東側には12号屋敷及び第5区画の畑西辺を画する土手状の高まりがある。42号建物の北ではこの土手が切れて、12号屋敷に入る開口部をなす。北側には上縁に石組みを作り1341号土坑が認められた。Aラインは9号屋敷に渡る石橋4の部分で、路面標高543.07m、溝底面の標高は542.84m。東側の土手頂部は543.24mほどある。両側壁は扁平な礫を2~3段積む。石橋4は幅1.2m、長65cm、厚30cmほどの扁平な礫を横長に渡したもので、これを渡ると14号建物に達する。

第33図は東側が第5区画畑、西側が8号屋敷の南東部にある。東が高く西が低い傾斜面で、Cライン付近での路面標高は542.46m、溝底面の標高は542.1mほど。8号屋敷30号建物は標高541.9mほどにあり、東の畑面

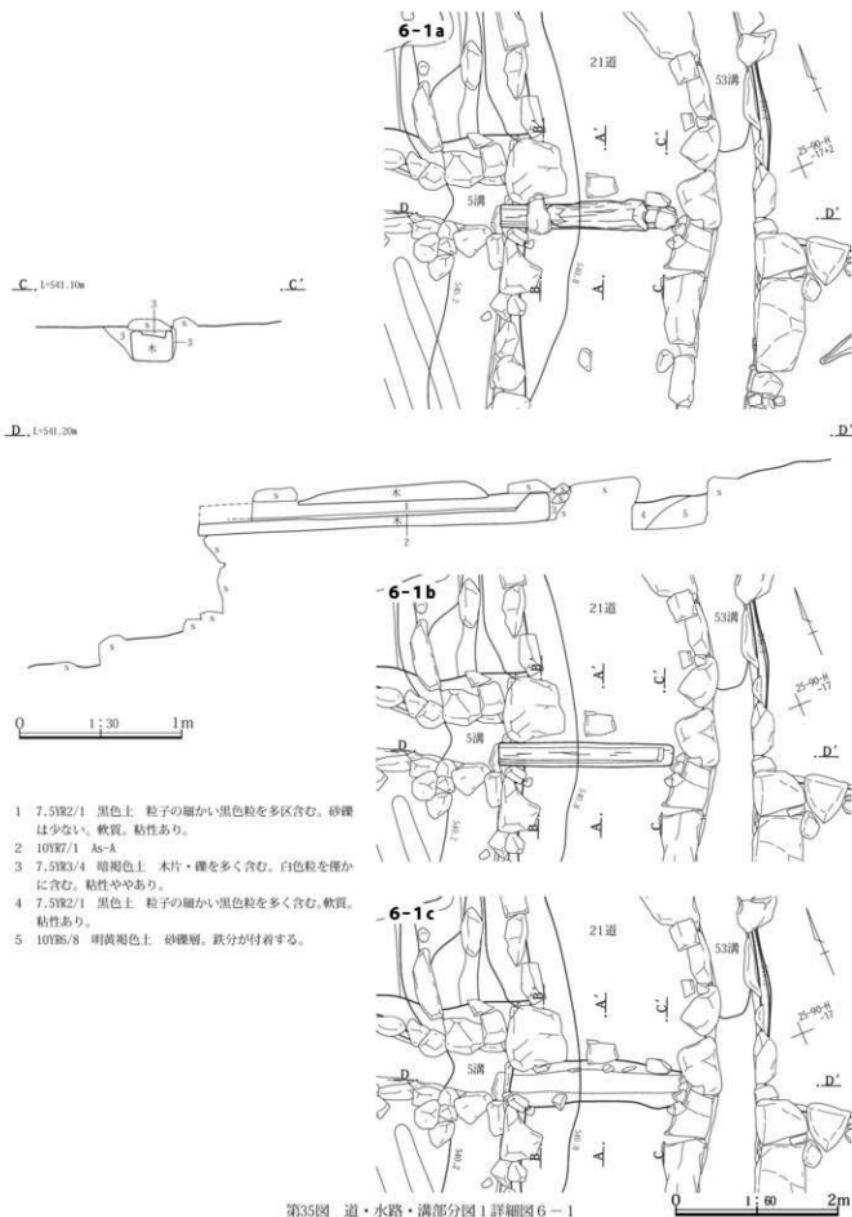
は標高542.2~542.4m内外にある。Cラインで53号溝は東に屈曲し、21号道を横断して道の東側に沿う。21号道は石橋5を渡って北東に向かう。部分図5は14号道との交点近くで、21号道・53号溝はほぼ東西に走る。53号溝両側の石組みは、部分図4の北東から粗になり、2号屋敷北西の石垣に至るまでは、石組みを伴わない素掘りの溝になる。上端幅100~110cm、鍋状の断面形で、21号道路面からの深さは44cmほどある。

詳細図6は西側南部が第4区画畑、北部が第8区画畑で、その間に5号溝・10号道が入る。東側は2号屋敷にあたる。西側の畑は標高540.3~540.1m、2号屋敷は541.3~542.5mにある。21号道は道幅が2mほどと幅広で、路面標高は540.8~540.9m。53号溝は上端幅1mほど、底面標高は540.7~540.8mほどで、路面からの深さは10cmほどしかない。2号屋敷の西辺には石垣があって、これが53号溝の東壁をなす。また、西壁は素掘りであったものが、5号溝に落水する木樋の手前からは、再び石組みを伴う。

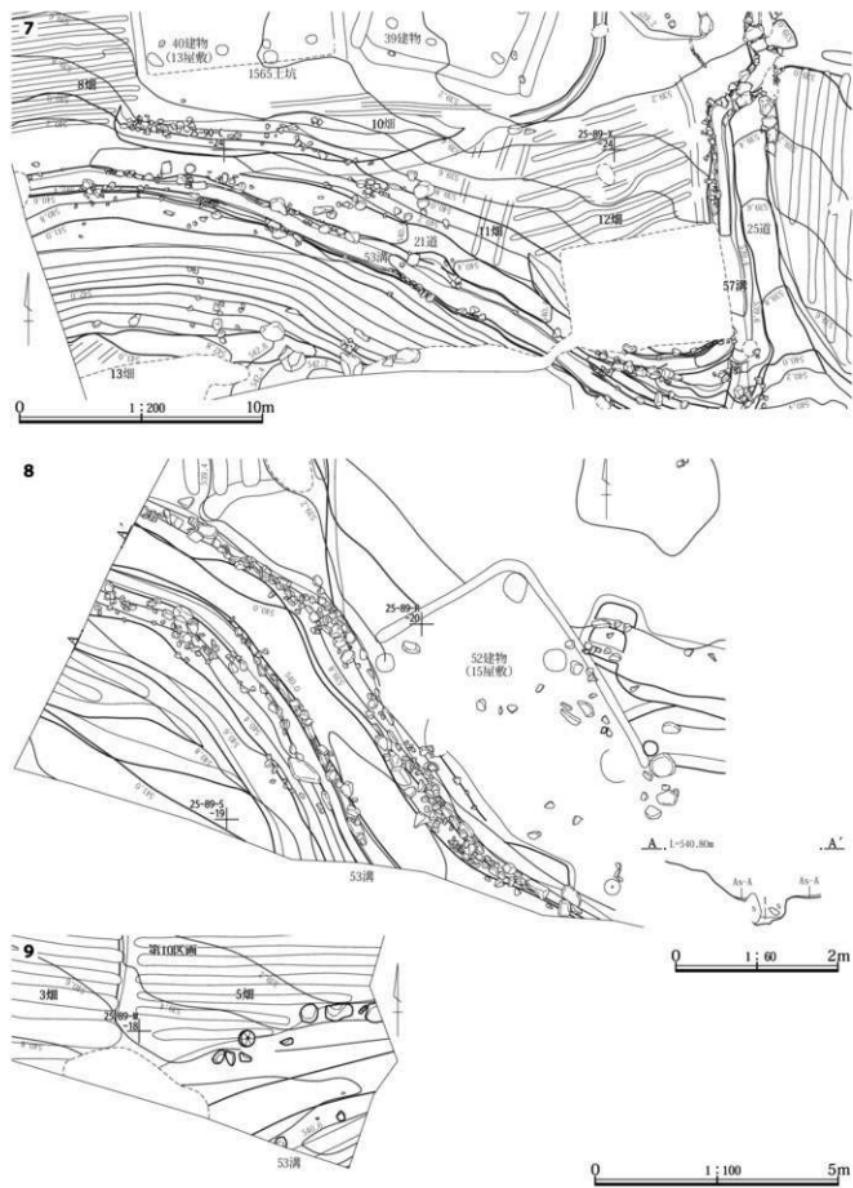
木樋は21号道を横断し、道の東に沿う53号溝から、道の西にとりつく5号溝へ通水する。上端幅42~50cm、深さ20~22cmの掘り方を設け、この中に長2.1m、径24~28cmほどの、スギと思われる針葉樹の芯持ち材を割り抜いた木樋を通して、木片や小礫、磁器片などを含む暗褐色土で埋める。木樋は5号溝側が高さ16cmで、端部はノコギリで縁を切り落としている。東端は高さ20cmほどで、内側を割り抜いて縁を残している。内外面は面取りする



第34図 道・水路・溝部分図1 詳細図5・6

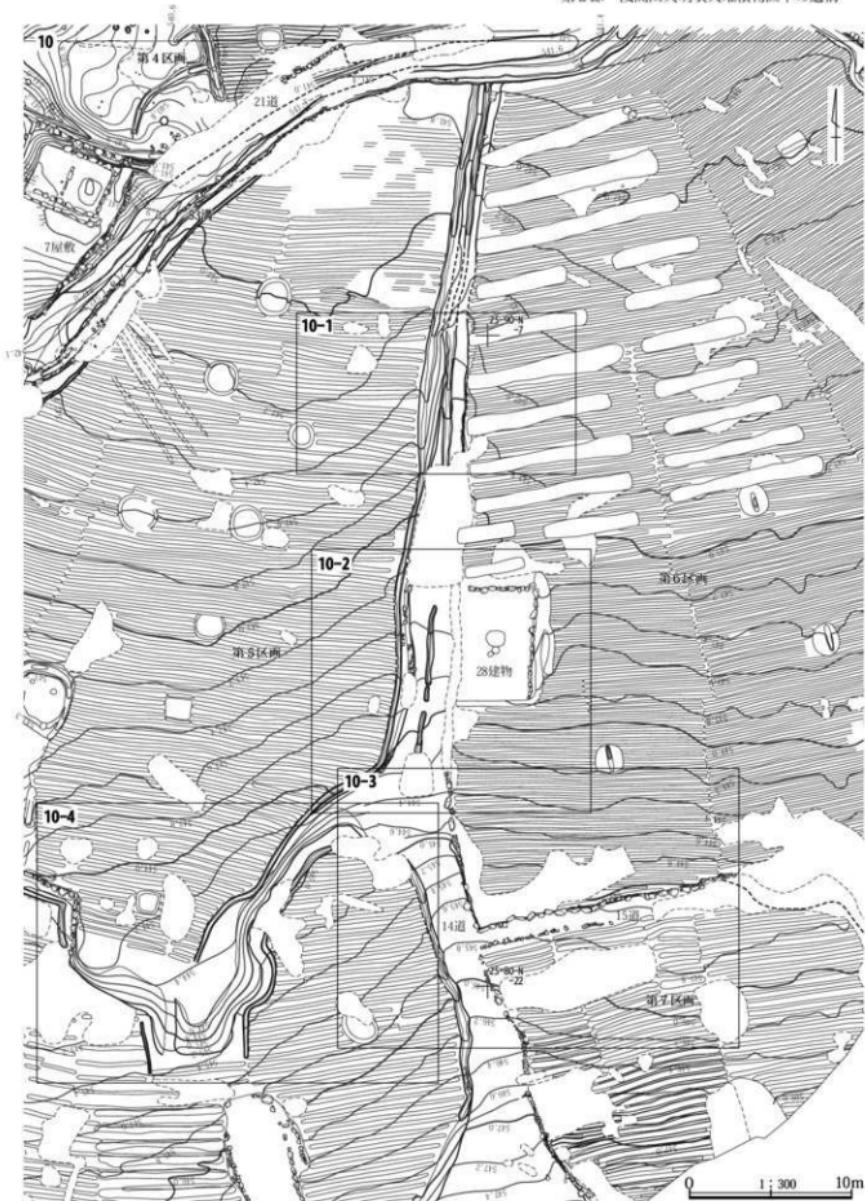


第35図 道・水路・溝部分図1 詳細図6-1

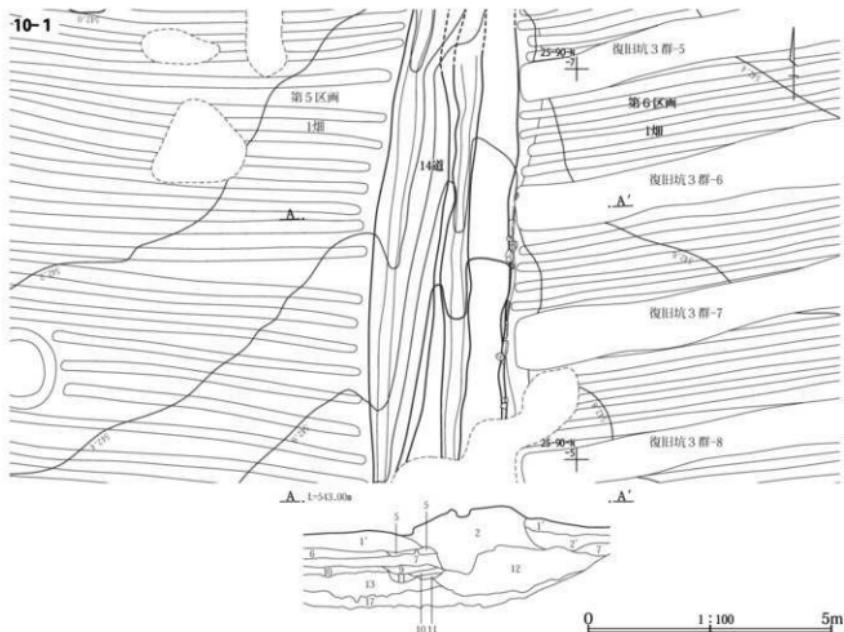


第36図 道・水路・溝部分図1 詳細図7・8・9

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第37図 道・水路・溝部分図1 詳細図10



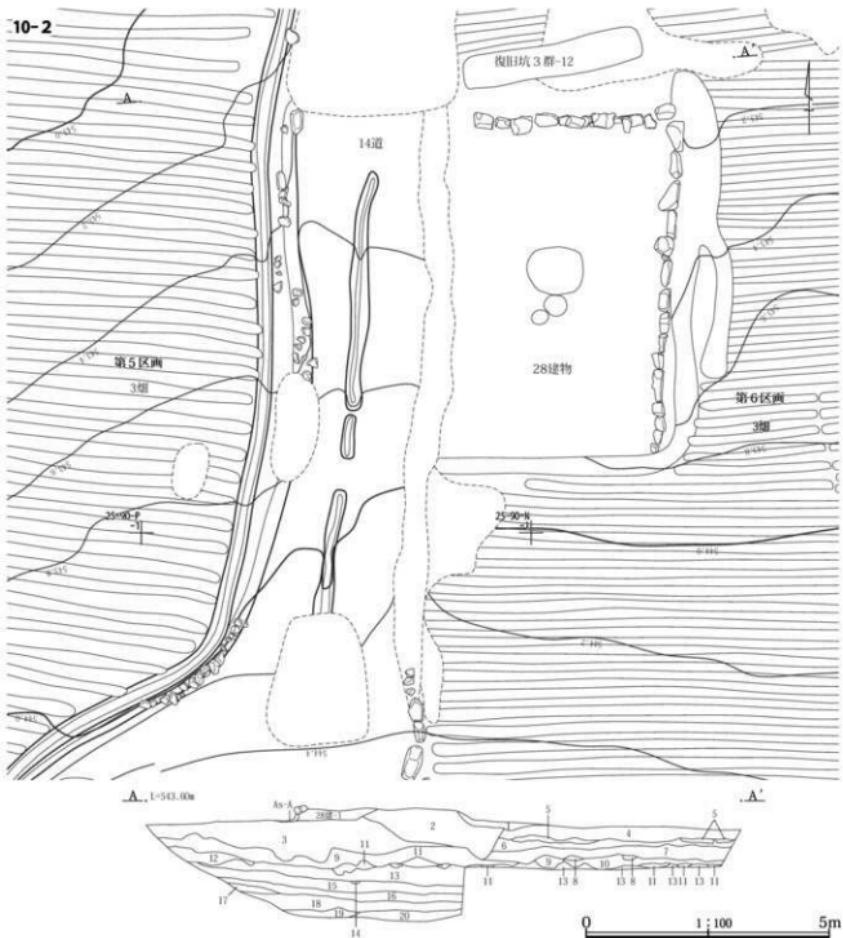
第38図 道・水路・溝部分図1 詳細図10-1

ように手斧で削る。外側面は手斧削りで、外底面と上面は丁寧に平らに削っている。内側は幅17~18cm、深さ9cmほどで、東端底面は標高540.74m、西端底面は標高540.65m。底面は手斧で削り放しにしており、特別な調整は加えられない。蓋材は取り上げられていないため、詳細がわからないが、写真記録で見ると、こちらも針葉樹の芯持ち材であり、樋とは別材で作られたものである。下面を平坦に仕上げ、端部外面は斜めに切る。確認時には蓋が路面に露出している状態で、西端部に角礫を置いて抑えている。西側は樋の端部と蓋の端部が上下に揃うが、東側は樋が長く蓋が短いため、樋上部が開くことになる。樋端部を押さえるかのように礫が置かれる。53号溝からの取水に関する施設は認められていない。また、樋の端部が閉じた状態にあるため、水が溝側壁の礫を越えて、樋の上部で蓋のかからない開口部から流入しなければ、通水しない構造である。発掘担当者の所見によると、樋内は天明泥流を起源とする軟質の黒色土で埋まり、

底部近くにはAs-Aが堆積するとされている。最上位は蓋材裏面の圧痕を残す粘土である。写真記録を見ると、下位は少量の白色粒を含むやや粗い砂層で、暗褐色粘土の薄層を挟んで、下位に比して細粒の、白色粒をほとんど含まない砂層が堆積するよう見える。下位砂層中の白色粒はAs-Aである可能性をなしとしないが、判断できない。下底面は流水による砂層で、中位の粘土層は流水が止まって滞水状態にあったことを示し、さらに上位の砂層を含めて、As-A降下時には樋としての機能が失われた状態であった可能性を感じる。

第34図部分図6と第36図部分図7の間で尾根の先端部を大きく回り込む。25-90-C-23グリッドでは板材や棒状の加工材、竹などがまとまって出土しているが、特定の構造を持つものではない。

第36図部分図7は尾根の東側で、13号屋敷の南を通りながら南東に進み、25号道、57号溝と交わる部分にあたる。



第39図 道・水路・溝部分図1 詳細図10-2

第36図部分図8は7号道との交点の東南で、15号屋敷の南西を南東方向に延びる。53号溝は両側に石組みを伴い、21号道は北東辺を15号屋敷の石垣に画される。

第36図部分図9は発掘区南端で、狭い範囲ながら、東西走する53号溝とその北側の平坦面を捉えたものである。道・溝が尾根底部を蛇行しながら南東方向に進む可能性を示している。

2 14号・15号道

14号道は25-90-M・N-10 グリッドで21号道・53号溝と接し、ここから緩やかに西に膨らむ弧を描きながら南に延びて、25-80-L-18グリッド近辺で発掘区外に至る。西の第5区画、東の第6・第7区画の境界線をなす。

15号道は25-80-N-22で14号道と接し、ここから東に向かって直線的に延びるが、25-80-J-23グリッド以東



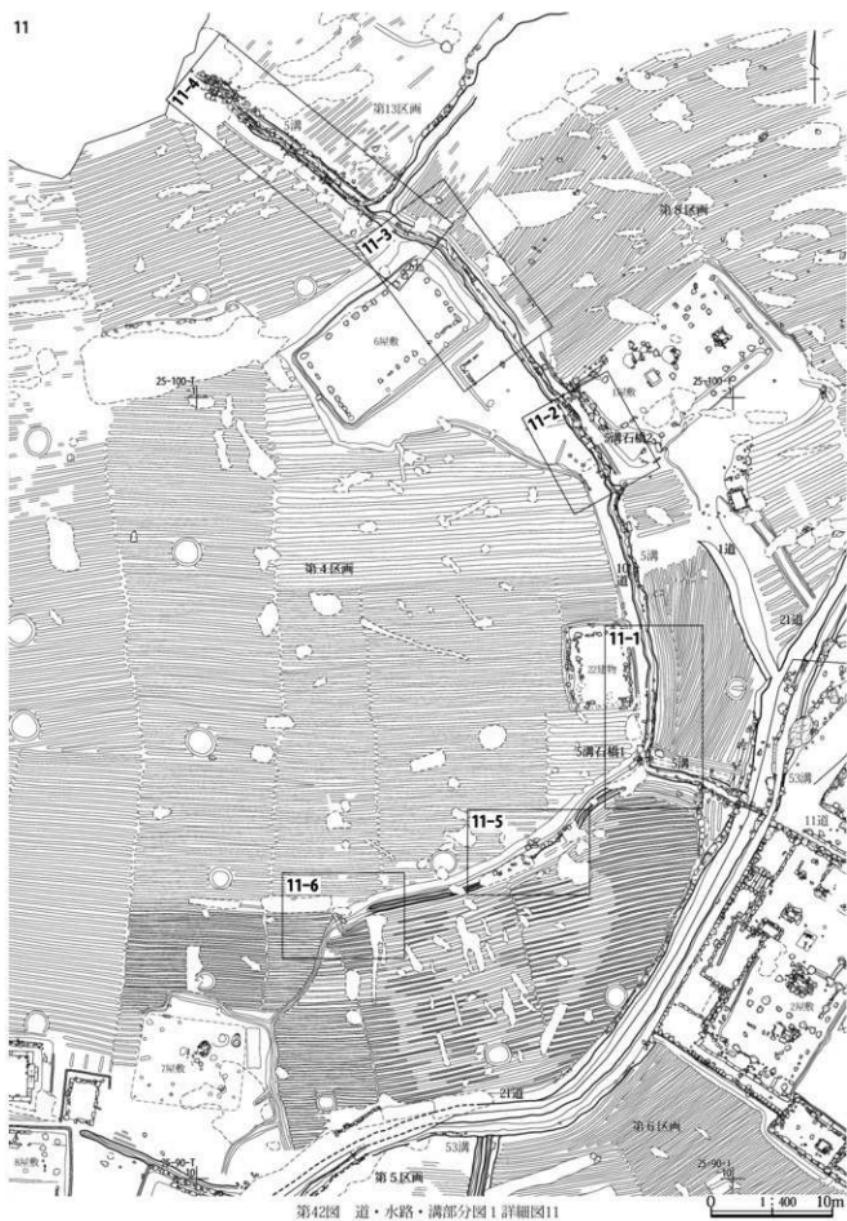
第40図 道・水路・溝部分図1 詳細図10-3

1:100 5m

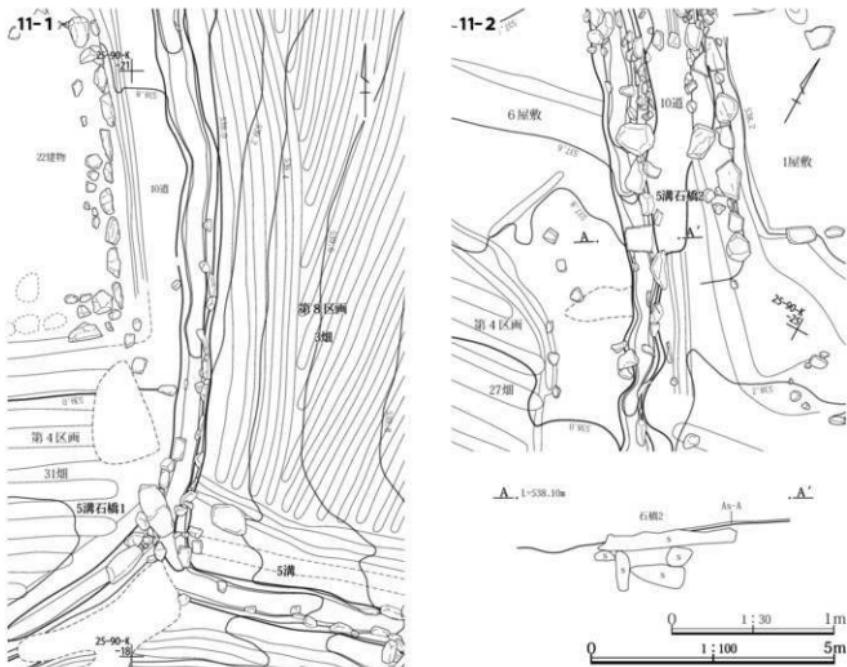
第41図 道・水路・溝部分図1 詳細図10-4



11



第42図 道・水路・溝部分図1 詳図11



第43図 道・水路・溝部分図1 詳細図11-1・2

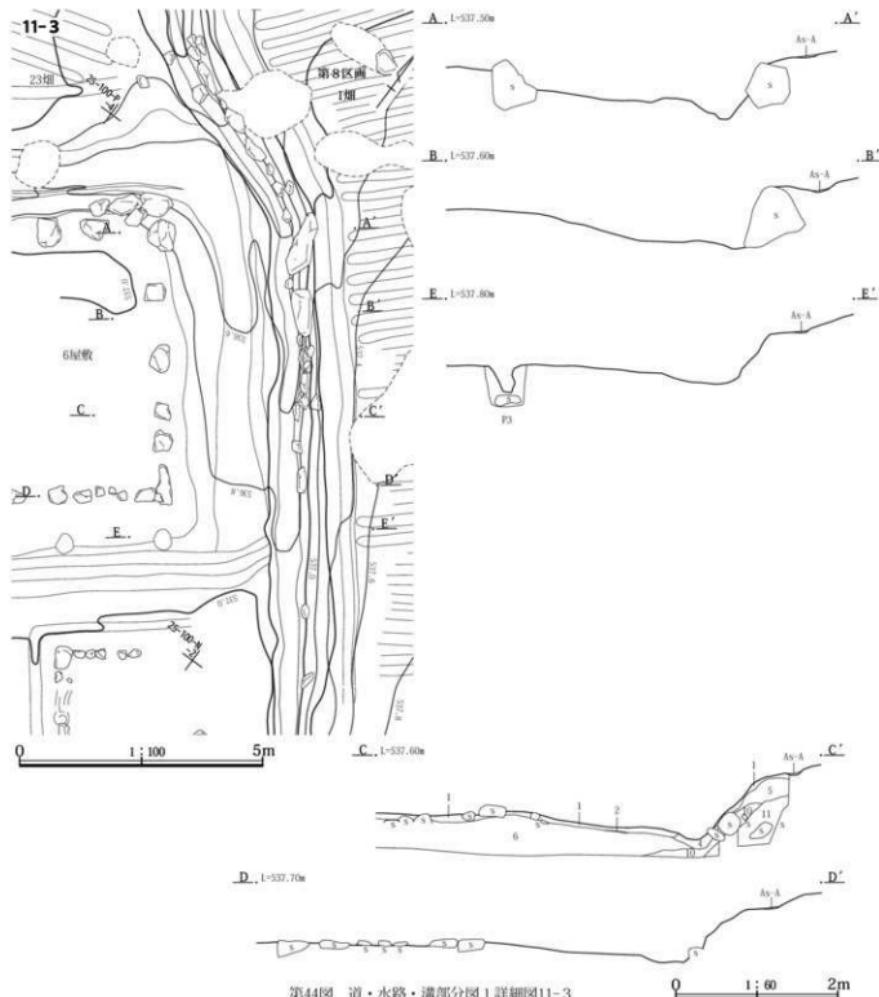
が壊乱されて把握できなくなる。北の第6区画と南の第7区画の境界をなす。

14号道と21号道・53号溝との接点は第34図部分図5に示した。14号道は両側に側溝状の浅い窪みを伴う。南から北へ下がる地形であるが、東側がやや高く、西が低いいため、路面もこの方向に傾斜する。路面の幅30~40cm。東側溝は上端幅30~40cm内外、西側溝の上端幅は40cm前後ある。道の西側では溝底まで6cm、畠面までは2cm下がり、東側では路面から溝底まで17cm。

第38図は第34図部分図5より南にあたる部分で、ここでも道の両側に溝状の窪みを持ち、窪みにはAs-A'が堆積する。道上面幅は1.1m前後あり、断面Aラインでの上面標高542.85m。西側溝は幅30~50cm、道上面からの深さ34~56cm、東側溝は上端幅30~56cm、道上面からの深さ13~22cmほど。東の第6区画は、道上面から16~22cm高い位置にあって、東側溝と畠の隙間溝西端部との

間には、75cmほどの平坦面が形成されていて、隙間溝端部を継るように小振りの礫が並ぶ。断面図からは、この平坦面も道としての機能を果たしたかに見える。第39図との間で東側溝部分が壊乱されていて、両者の連続を確認することができないのだが、部分図11の中央にあるAs-A'の堆積が東側溝に連続する可能性を感じる。

第39図は、28号建物と第5区画畠の間にあたる。西側溝は北から連続するが、先述の通り東側溝は壊乱に切られて連続が確認できない。この場所での東側溝は28号建物の西辺にあたる。建物に接する部分では建物をめぐる雨落溝と一体となり、建物以南に連続する。25-80-N-24グリッド以南は溝及びAs-A'の堆積が認められず、まばらな石列が10号石垣に連続するように認められる。西の畠面は道の上面より10~30cmほど低く、西側溝は畠の東端に沿って、道斜面の下端を継る。東側溝と西側溝の中間には、断続的ながら浅い溝があり、As-A'が堆積す

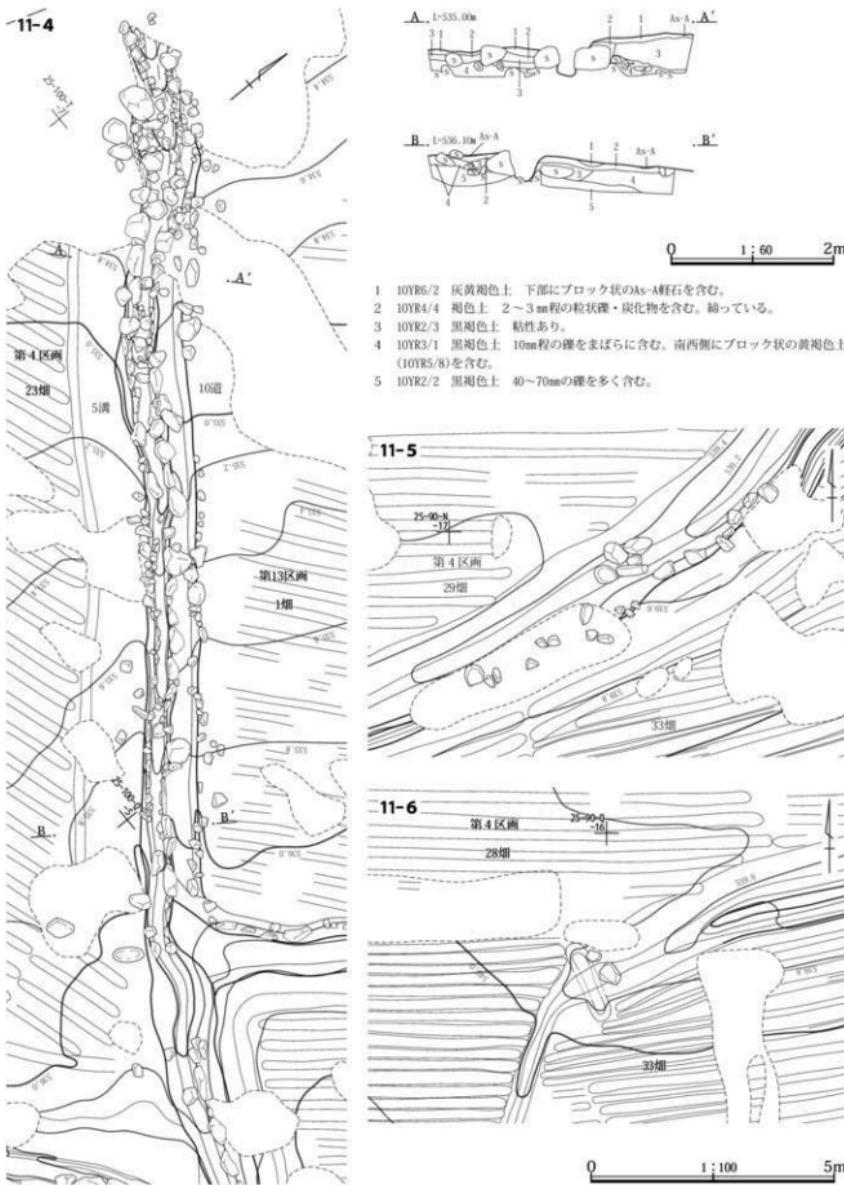


第44図 道・水路・溝部分図1 詳細図11-3

る。

25-90-2 ライン付近で見ると、西側溝は上端幅30cm、底面標高543.57mで、西の畑面からは1~4cmとごく浅いが、路面から見ると16cmほど下がることになる。14号道の肩にあたる部分には石列があったらしく、畑に落ちる斜面に小振りの角礫、亜角礫が散在する。25-80-

N-25グリッドでは、道の肩に同様の礫による石列が残る。道上面の標高は543.8~543.6mで、南から北に下る。詳細図10-1部分では路面が西に傾いたが、ここではほぼ平坦である。道の肩から中央の溝までの幅は80cmほどで、詳細図10-1で見る14号道の幅とほぼ等しい。また、中央の溝から東側のAs-A堆積西縁までの幅は1.15mほど



第45図 道・水路・溝部分図1 詳細図11-4・5・6

で、これを合わせた道幅は2.25mほどとなる。

西側溝は25-80-N-24・25グリッドで西南にカーブし、東側溝は同位置付近から、まばらな石列に変化する。14号道は東の石列及びこれに連続する10号石垣を東辺とし、第5区画15号烟を囲むようにめぐる窪みを西側溝として南に下り、15号道を東に派生する(詳細図10-3)のだが、25-80-20ライン以南では道としての構造が捉えられなくなる。西側溝も、第5区画15号烟を囲む窪みの北西部を対応する側溝として南西に向かう(詳細図10-4)。こちらも25-80-R-22グリッドで途切れ、道としては捉えられなくなるが、最終的には12号屋敷に向かうものと思われる。

詳細図10-3の25-80-23ライン付近では、西側溝は幅40cm、底面標高545.48mで、西側烟面からの深さ4cm、道幅2.5m、上面標高545.49m。中央やや西寄りにAs-Aが入る窪みが断続的に認められ、窪みの西端から道の西肩まで0.9m、東の10号石垣下端まで1.45mで、詳細図10-2とほぼ同様の構造となる。

10号石垣は6区3号烟の西南の角を囲んでいて、15号道はこれを北辺とする。基部には厚手の礫を据え、この上に扁平な礫を積んで、60~65cmほどの高さの石垣を築いている。15号道の南辺から第7区画1号烟の西辺にかけても、石列(または石垣)があって、14号道の東縁をなす。これらはやや小ぶりの角礫・亜角礫を積む。この石列は、緩やかな弧を描いて南東方向に延びる。一方、14号道西側の溝は25-80-N-19・20グリッド以南は南西にカーブする。道の東西辺がラッパ状に開いて、道としての構造は捉えられなくなる。

15号道は10号石垣と南の第7区画烟を囲む石列に挟まれた、幅65cmほどの道である。断面Aライン付近では、北の第6区画3号烟の標高545.03m、道路上面の標高545.64~545.71m、南側の第7区画1号烟の標高545.78m。北の第6区画3号烟面との比高は70cm近くあって、斜面を切り盛りして造成した道である。両側に石組みを作り、直線性が高いことなどを併せ、他の道とはやや異なる性格を思わせる。14号道との交点から直線的に、東に16.5mほど延びるが、これ以東は、攢乱に切られて確認できなくなる。

第41図は第40図の東側にある。14号道西側溝が西から南に大きく曲がる。第5区画15号烟を囲む溝との間で

道を構成するが、西側溝は25-80-R-22グリッドで途切れ、東の15号烟周囲の溝は南に延びるため、道としての構造は追えなくなる。図の西端には12号屋敷があって、この南辺をなす道が見えており、第5区画3号烟の南を取り込んで、14号道の末端がここに連続する可能性もある。

3 10号道・5号溝

5号溝は、25-90-H-17グリッドで21号道・53号溝と接する。第35図に示したように、21号道・53号溝との交点には木樋が設備されている。この交点から西に短く延び、25-90-J-18グリッドで北に折れて、東に膨らんだ緩やかな弧を描きながら、北西に流下し、第4区画と第8区画の境界をなす。途中、北への屈曲部(石橋1)と6号屋敷の南(石橋2)に石橋が架けられている。25-100-P-4グリッドから、ほぼ直線的に北西に延びて、第4区画と下段の第13区画の境界となる。25-100-S-T-7グリッドで発掘区界に至り、吾妻川に落水する。全長81mほどの水路である。木樋の受水部にあたる南端部底面の標高は539.96m、石橋1の前後では539.26~538.92m、石橋2の北では537.58~537.43m、上位段丘縁部で536.15m、段丘斜面下端で535.89m、北端部では533.55mで、南北の標高差は6.41mある。

5号溝に沿って、10号道がある。21号道・53号溝との交点では5号溝の北に沿い、溝の屈曲部で石橋1を渡って5号溝の西に沿って北に延び、また、南西に延びて第4区画28号・30号烟と32号・33号烟を画する道と分歧する。6号屋敷南では石橋2を渡って溝の東に沿う。段丘上縁で北に下る道と東に延びる道とに分かれれる。段丘下位面では上位から続いて溝の東に沿うが、西の第4区画烟との間に幅広の平坦面が認められる。

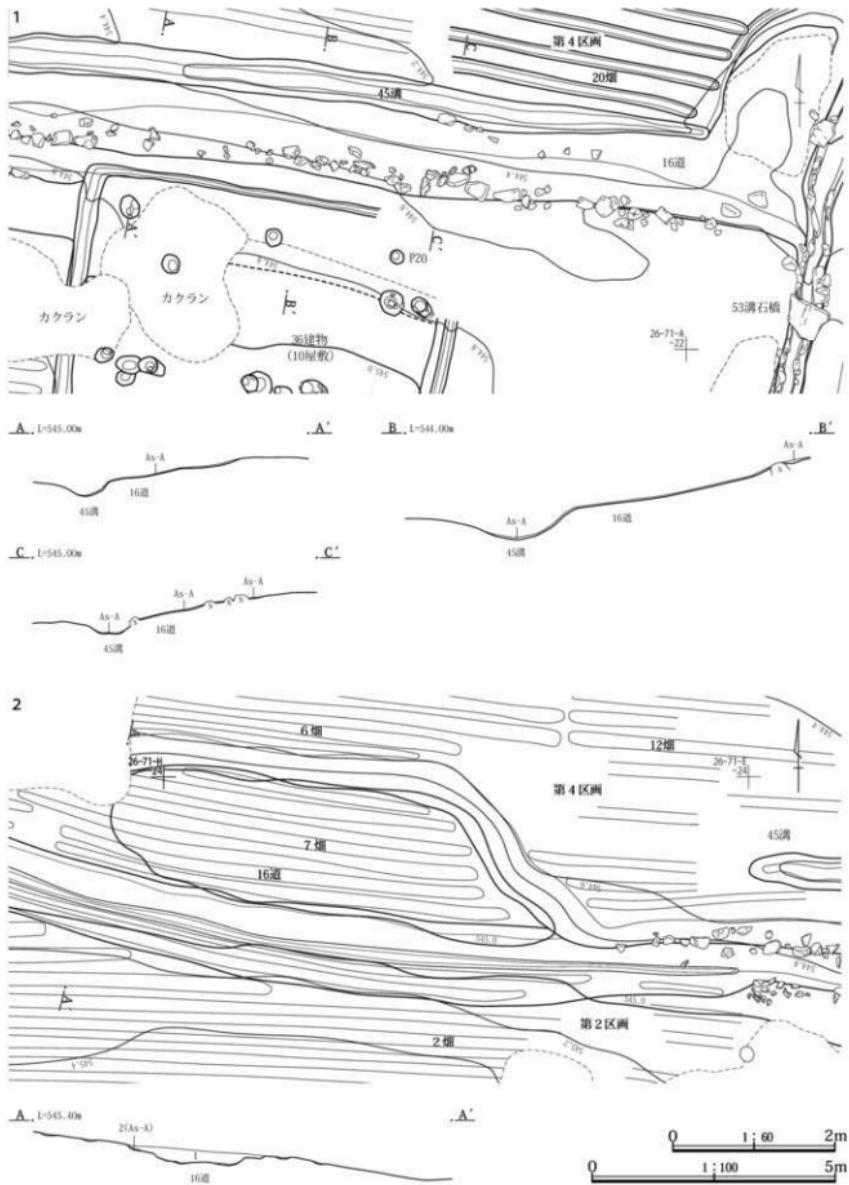
第43図詳細図1は東西走した5号溝及び道が、北に屈曲する部分である。53号溝との接続部では両側に石組みを作っていたが、石橋1に至るまでの間では比較的小振りの礫が散在するのみで、溝の両側を石組みで固める構造ではない。石橋1の東では、上端幅68cm、10号道上面からの深さ27cmほど。道は幅68~112cmほどで、中央が窪む。10号道の北は溝状の窪みを介して第8区画烟と接する。南は溝状の窪みを介して第4区画烟と接する。烟面からの深さは27~31cmほどとなる。

石橋1は25-90-J-18グリッドにあって、5号溝が東

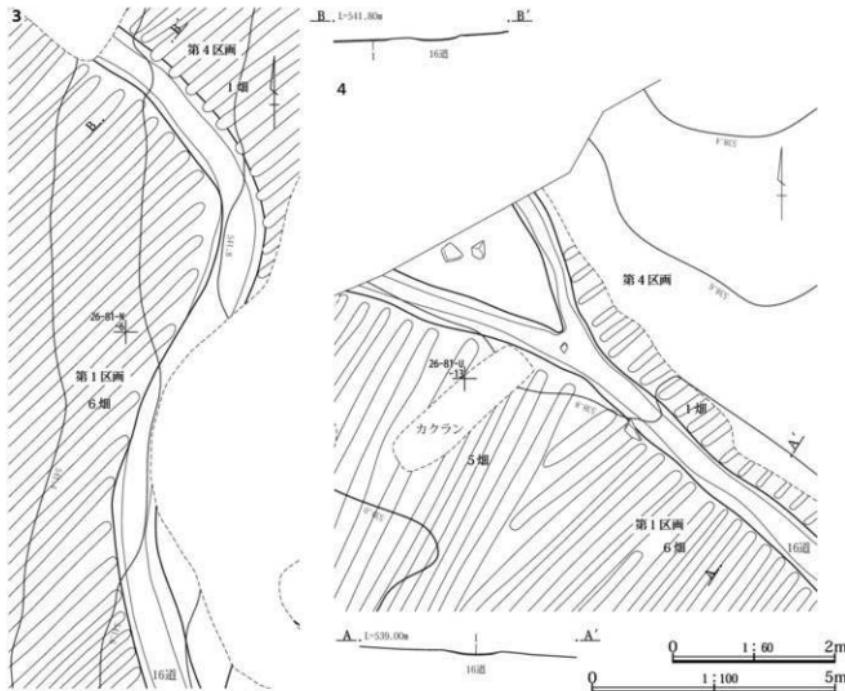
第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第46図 道・水路・溝部分図2



第47図 道・水路・溝部分図2詳細図1・2



第48図 道・水路・溝部分図2詳細図3・4

西方向からほぼ直角に向きを変えて北に曲がった地点にある。長さ120cm、幅48cmほどの長円形に近い平面形で、北西-南東方向に長軸を向け、南端が溝中に落ち込むような状態で認められているが、本来は南北走する溝に、東西に架かる石橋であつただろう。

石橋1の北では溝の両側に、やや小ぶりながら礫が並んでいる。西側は4石ほどで途切れるが、東側は屈曲点から北へ6mほど連続する。

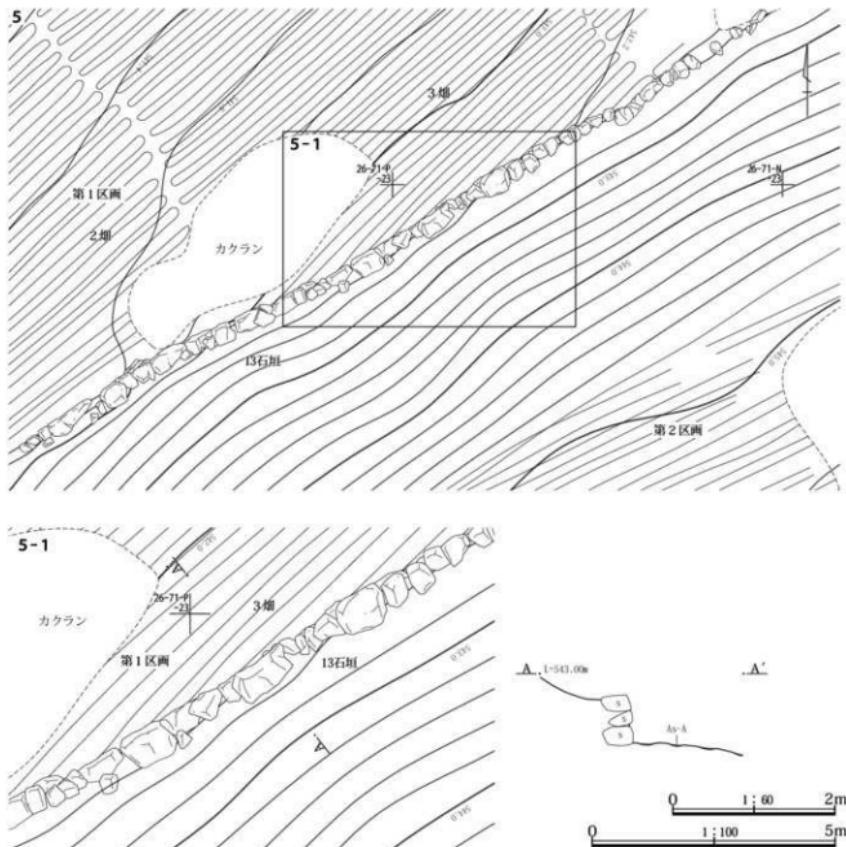
第43図詳細図2は石橋2周辺である。東の1号屋敷、西の6号屋敷の間にあたる。25-90-K・L-24・25グリッドにあり、一辺54cmほどの方形の平面形を呈す。5号溝にやや落ち込むように架けられている。5号溝の西に沿ってきた10号道が、この石橋を渡って、以北は溝の東に沿うようになる。端の南では、道幅が180cmほどに広がり、この中央近くにある3号石列の西を進むと6号屋

敷内に続き、東に進むと石橋を渡ることになる。路面の標高は537.89~537.72mである。

5号溝は石橋2の南では、小さく蛇行していく、上端幅は40~100cmほどと乱れる。石橋部分ではやや狭まって、幅60cmほど、底面の標高537.71~537.58mで、西の道上面からの深さ18cmほどである。標高の高い東側の縁には、長軸を溝に沿わせた石列が見られる。

第44図詳細図3は6号屋敷の東に沿う部分で、東は第8号畑である。5号溝は北西方向に流下しつつ、6号屋敷北端近くで西に曲がる。上端幅88~136cm、西の屋敷地からの深さは10~23cmある。東側畑面が屋敷敷地より60~80cm高く、畑と溝の間にある道からの深さは56~74cmとなる。溝の東側には礫が並び、所々にやや大型の礫が長軸を溝に沿うように置かれる。

第45図詳細図4は詳細図3の北に連続する部分で、上



第49図 道・水路・溝部分図2 詳細図5

位段丘から下位段丘への変換部にある。5号溝と東に沿う10号道は傾斜変換部で西に僅かに曲がり、東へ向かう道を分岐させる。下位段丘では、およそN~50°-E方向に直線的に延び、第4区画と第13区画の境界となる。上端幅50cm内外で、傾斜部以下は、溝の両側に石列が認められる。溝底部の標高で見ると、6号屋敷北端で536.15m、東へ向かう道の分岐部近くで535.82mある。ここから北東18mの発掘区界での底部標高は533.55mで、2.6mほどの比高がある。10号道は、道幅75cmほどで、東の畠面より5cmほど低い位置にある。東へ分岐する道

の北側を繰る石列から連続する石列が、東辺に沿う。

北端部は攪乱を受けて道、溝共に明確ではなくなり、石列の礫が散乱する状態になるが、このまま北進して、吾妻川に落水する構造と思われる。

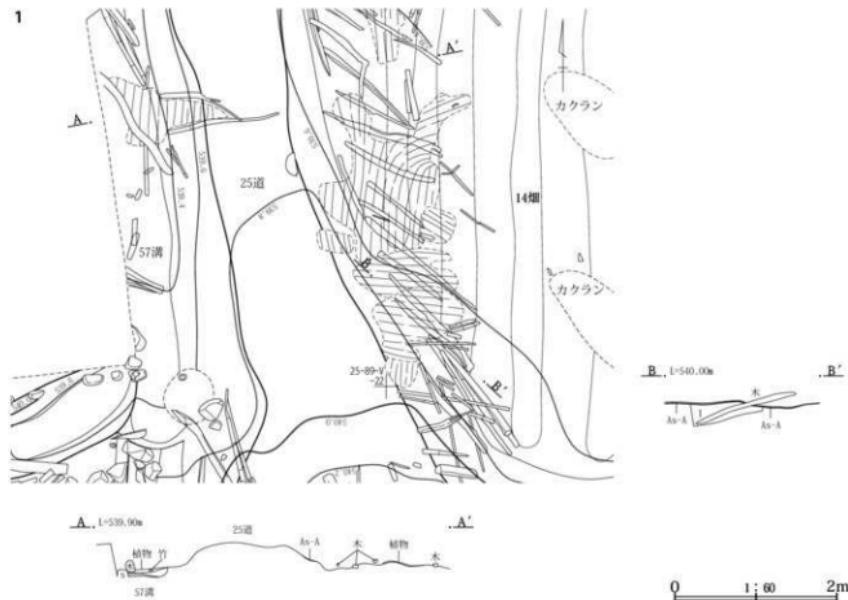
4 16号道・45号溝・13号石垣

16号道は、西の第1・第2区画と東の第4区画の境界となる。25-80-Y-21グリッドで21号道・53号溝に接し(第30図)、途中、26-71-E-23グリッドでは北西に小道を分岐しながら、西に膨らむ弧を描いて北西-北東に延びる。弧の頂点に近い26-81-S-24グリッドで、第1区画と第

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第50図 道・水路・溝部分図3



第51図 道・水路・溝部分図3詳細図1

2区画の境界をなす傾斜面を下る。26-81-M-6 グリッド以北は比較的直線性高く北西(N-47°-W)方向に延びる。北端はT-13グリッドでY字状に分岐し、発掘区界に至る。

45号溝は25-80-Y-23グリッドから26-71-D-23グリッドにかけて、16号道に沿い、第4区画畑東部の南辺を画して、東西に伸びる。両端が完結しており、水路としての機能はない。

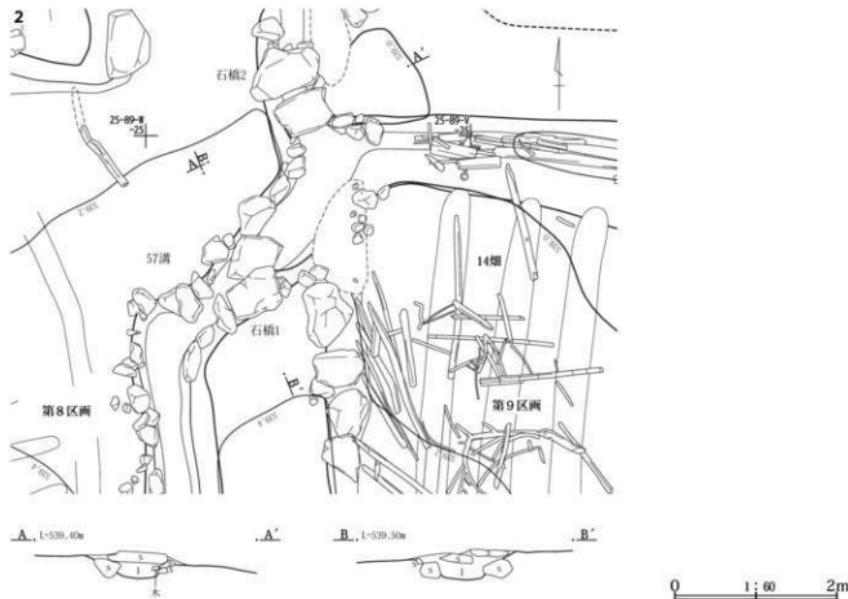
13号石垣は、26-71-N-23～Q-21グリッドにかけて、第1区画の南辺を画する傾斜面の下端にある。角礫、亜角礫を2～3段、高さ60cmほど積み重ねた石垣である。

第47図詳細図1は21号道・53号溝との交点から西に延びる部分で、北は45号溝を介して第4区画畑、南は36号屋敷にあたる。16号道の南縁には比較的小振りの礫が列状にあって、屋敷地との境界を示したものかと思われる。道幅としては40～100cmほどであるが、45号溝南縁までが平坦面をなしており、この幅は1.5mほどある。南の屋敷地内の標高は544.55～544.89m、北の畑面標高は

544.28～544.54mで、南が高い。路面の標高は、21号道・53号溝との交点で544.38m、45号溝西端近くで544.59mで、南の屋敷地からは25cmほど低く、北の畑より15cmほど高く、西に向かって僅かに上る。45号溝は長さ16.5m、最大幅70cmほどで、第4区画畑東部の南辺と16号道の北辺をなす。畑面からの深さ1～17cm、16号道路面からの深さ16～36cm。屋敷地内から16号道、45号溝底部にかけてはAs-Aの堆積が見られる。

第47図詳細図2は、南の第2区画畑と北の第4区画畑の境界にあたる。南から北へ下る地形であるが、断面で見ると、小さく張り出す尾根状部を20cmほど掘り下げて、幅110cmほどの道を作っている。石列等の施設は伴わない。路面の標高は図の東端で544.88m、西端でも544.89m前後で、道の中央は僅かに高まる。両側の低い部分にAs-Aの堆積が記録されている。

第48図詳細図3は北部の、16号道が蛇行しつつ南北走する部分で、東が第4区画畑、西が第1区画畑にあたる。東から西へ緩やかに下る地形で、東西の畑面の高低差は



第52図 道・水路・溝部分図3詳細図2

比較的少ない。道は上端幅75~90cm、深さ4~8cmで、浅い皿状の断面形を持ち、石列等は伴わない。

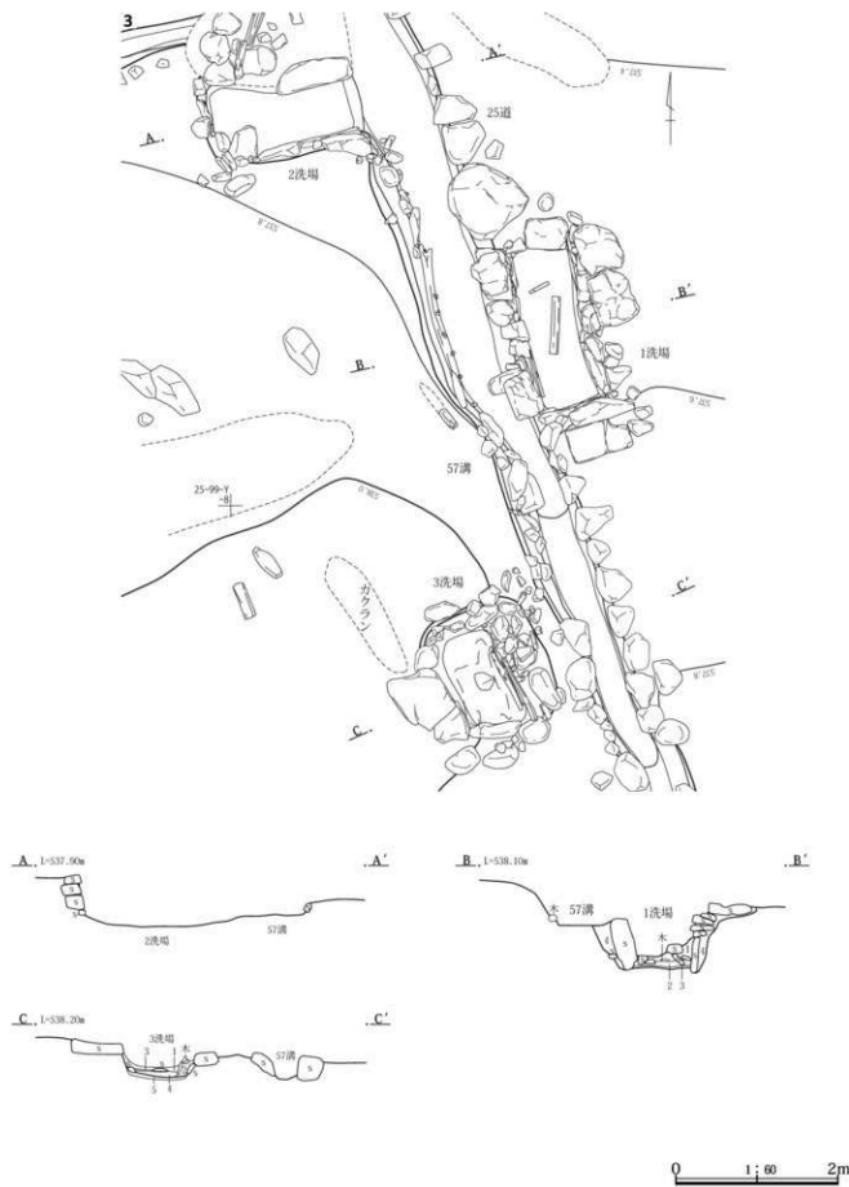
第48図詳細図4は、発掘区北端部で、16号道は26-81-T-13グリッドでY字状に分岐する。西の第1区画畑、東の第4区画畑との境界をなすが、東側は道路のごく狭い範囲にしか畑が残っていない。やや幅広で主線と思われる西側の道が、N-70°-W方向に、東側の道がN-22°-W方向に延びて、共に発掘区外に至る。

第49図詳細図5に13号石垣を示した。26-71-N-23-Q-21グリッドの、第1区画南辺を画する傾斜面の下端、標高542.6~542.8mにある。地形に沿ってわずかに蛇行しつつ、北西-南東方向、およそN-60°-Eに延びる。角礫、亜角礫を2~3段、高さ60cmほど積み重ねている。平積みに近い粗雑な積み方だが、表面は平坦面を揃えている。断面図には裏込めが記載されていないが、写真記録では背面に多くの礫がみられる。地山にも多くの角礫が含まれるため、人工による裏込めとの判別ができないが、何らかの造作が行われていたことも考えられる。

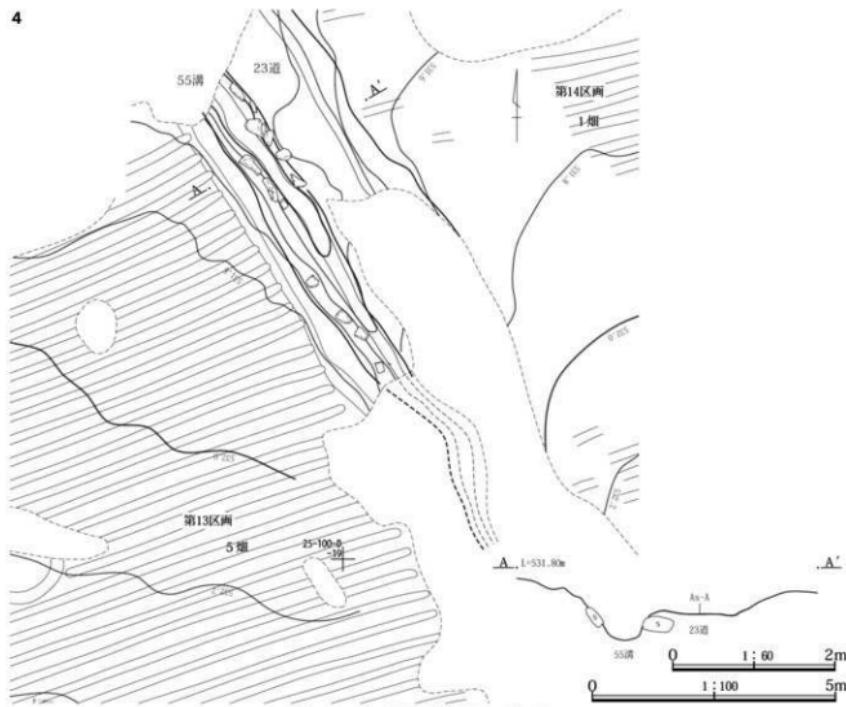
5 25号道・57号溝/23号道・55号溝

25号道は、7号道との交点を南端として、およそN-7°-Wで北上する。7号道との交点では西側に57号溝を作りうが、13mほど北で57号溝が東へ折れて25号道を横断し、25号道はこれを石橋で渡って北へ進むことになる。ここでは、4号屋敷の南辺にあたる27号道が57号溝の東にとりついで屋敷の西辺へ回り込み、中央に57号溝を挟んで両側に道が設けられることになる。この道は第8区画と第9区画の境界をなしていく、西の13号屋敷、11号、14号屋敷東の4号屋敷、3号屋敷との間を通り、上段と下段を分かつ急傾斜部に至る。この部分で現道と重複するため、以北の遺構が捉えられなくなるが、発掘区の北端近くで認められた23号道、55号溝に連続するものと思われる。

第51図は、25号道・57号溝が53号溝と接する部分の北にあたる。南部では西が第8区画畑、東が第9区画畑である。57号溝・27号道はほぼ南北に走り、57号溝の東に25号道が沿う。57号溝は上端幅50cmほど、鍋状の断面形



第53図 道・水路・溝部分図3 詳細図3



第54図 道・水路・溝部分図3 詳細図4

を呈する。底面標高は53号溝との交点近くで539.43m、断面Aライン付近では539.29m。西側烟面からの深さ20~24cm、25号道路面からの深さ32cm。西側には石列を伴う。25号道は7号道との交点が扇形に広がるが、以北は幅60~70cmである。路面標高は7号道との交点付近で540.4m、断面Aライン付近で539.7m。東側烟面から18~25cm高い。烟との境界には、詳細図2に連続する杭列がある。長さ160~180cmほどの削材を道脇の斜面に立て並べた杭が、泥流によってなぎ倒されたものと見られ、基部を北西に向けてN-50°~56°-W方向に倒れている。また、草本の茎が重なった状態で竹材とが組み合って、この杭の上に乗る部分もあるが、相互の関係は把握できない。なお、この草本は同定の結果、表皮を剥がれた状態の大麻莖(麻殻)であることがわかっている。同定結果は第5章(第5分冊)に収録した。

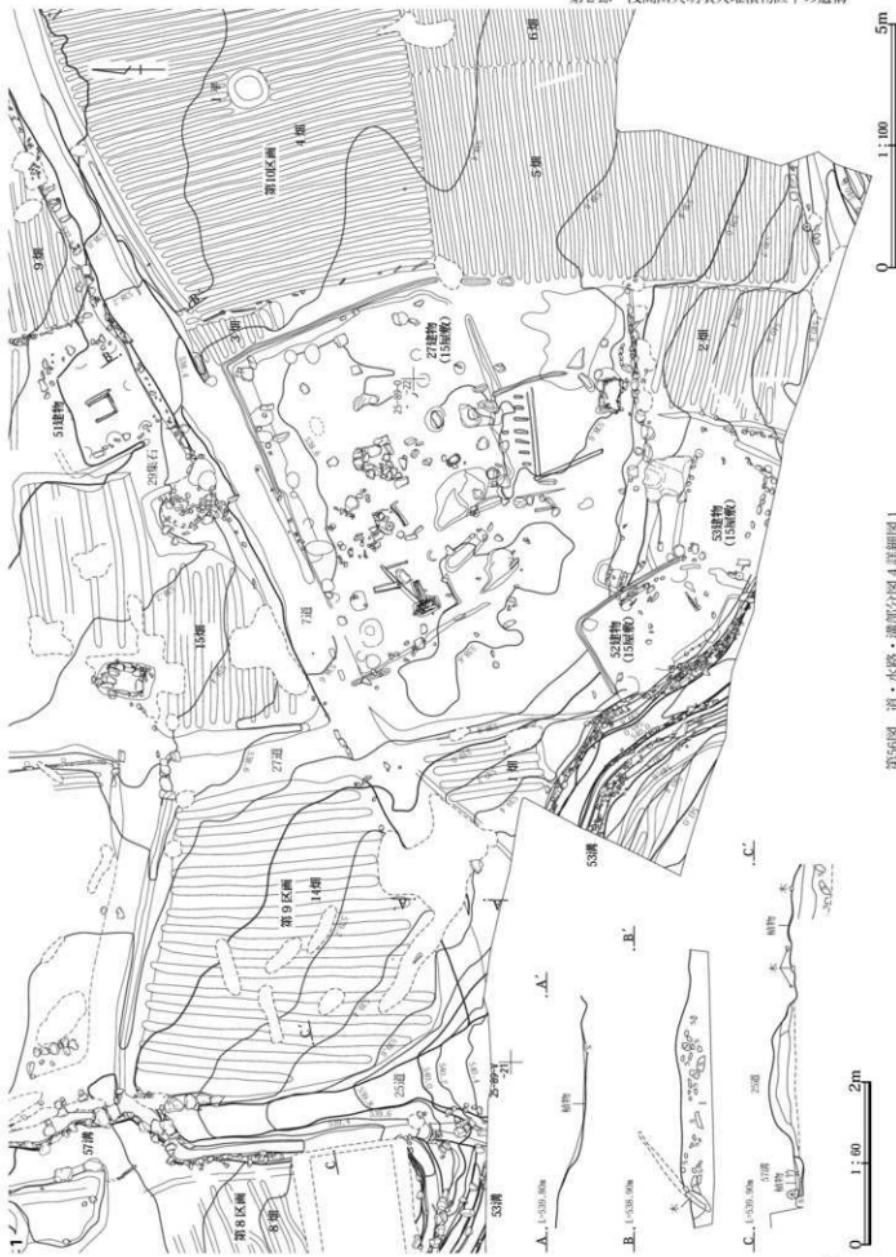
第52図は25-89-V-24・25グリッドで、57号溝が北東に折れてから北に進む、クランク状に曲がる部分である。25号道は石橋1を渡って直進し、57号溝の西に沿うことになるが、この道は13号屋敷、第8区画畠の東を通り、14号屋敷内から隣接する11号屋敷に達するが、11号屋敷北東隅で現道に切られて連続が捉えられなくなる。石橋1の北には、57号溝を東に渡る石橋2があって、57号溝の東に沿い、4号屋敷、第9区画畠、3号屋敷の西を通る道に続く。この道も3号屋敷の北で現道に切られて連続が捉えられなくなる。

石橋1は60×40cm及び60×60cmほどの、平坦な方形礫を2石用いて架している。石橋の前後は溝の両側に礫が並べられる。石橋1付近の57号溝は上端幅84~100cm、底面標高は539.03~538.94mで、西側13号屋敷敷地からの深さ20~27cm。東側25号道は幅130~140cm、石橋1の

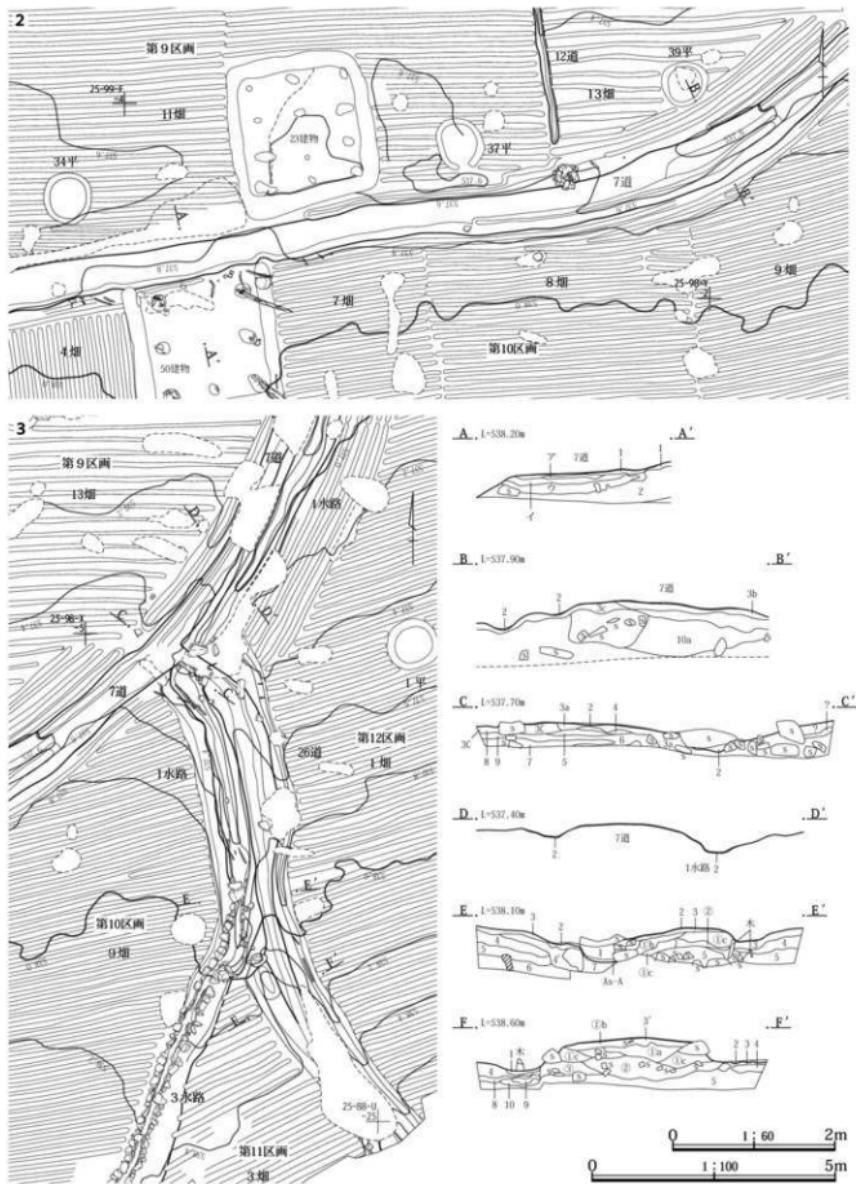


第55図 道・水路・溝等分図4

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第56図 道・水路・構部分図4 詳細図1



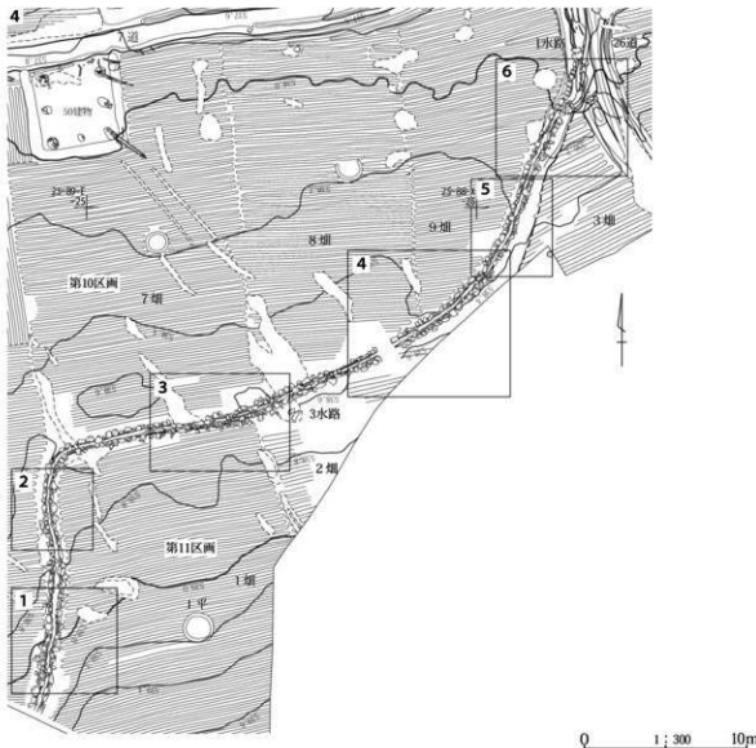
第57図 道・水路・溝部分図4 詳細図2・3

A-A'

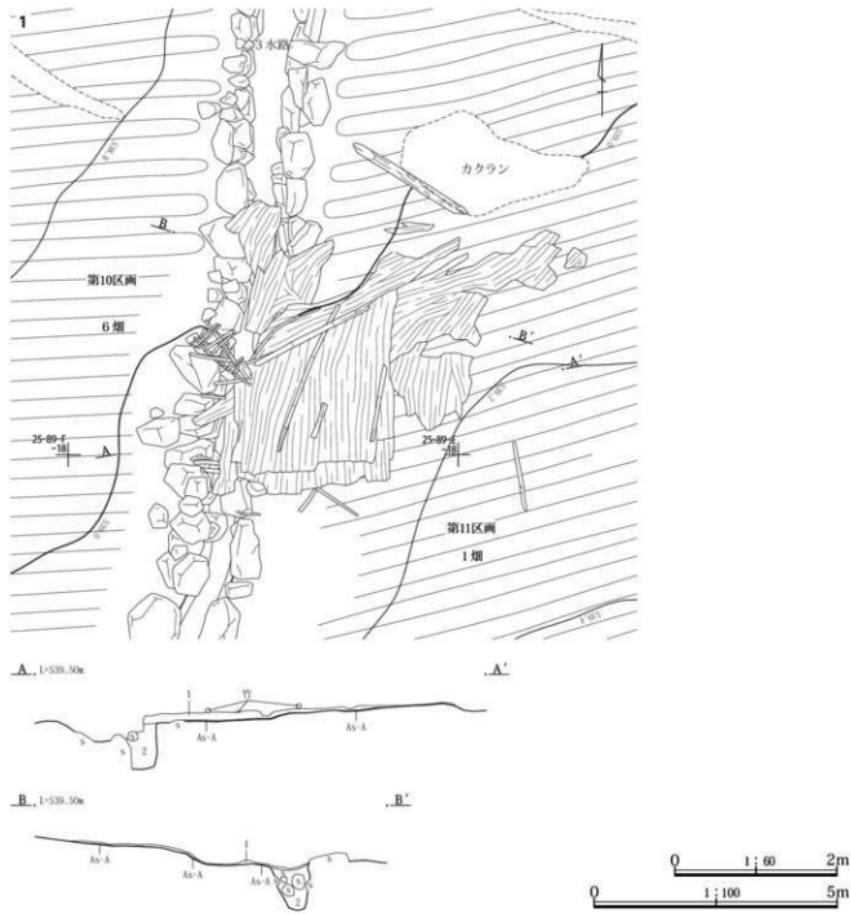
- 1 喷青灰色土(5P3/1) 青灰色粒含む。鉄分沈着見られる。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 青灰色土、小石をわずかに含む。しまりやや弱い。
- ア オリーブ黒(7.5Y6/2) 固く締まる。硬質シルト。
- イ オリーブ黒(7.5Y3/1) 灰オリーブシルト小ブロックを斑状に含む。しまりあり。
- ウ 灰オリーブシルトと細砂の部分的互層とブロックの混土。
- B-B' - C-C' - D-D'
- 1 天明泥流。
- 2 As-a。
- 3a 喷青灰色土(5P3/1) 上面に鉄分沈着見られる。上面非常に固くしまる。(踏み分道路面)
- 3b 3a層と同質。締まりやや弱い。中層に1cmの厚みの炭化物あり。
- 3c 3b層に炭化物含まない。
- 4 3b層ブロックと小礫混土。
- 5 黄色細砂とシルトの互層。
- 6 粗砂。
- 7 オリーブ灰砂。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2) 小石を含む。
- 9 黑褐色土(10YR3/2) 僅かに小石を含む。粘性あり。締まりあり。
- 10a にぶい黄色シルト(2.5Y6/3) 細砂を含む。固く締まる。
- 10b 9a層を主体とする。褐色土ブロックを含む。

E-E'

- 1 天明泥流。
- 2 As-a。
- 3' 喷青灰色土(5P3/1) 小石を含む。締まりあり。
- 3 喷青灰色土(5P3/1) 畑耕作上。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) 小石を含む。締まり弱い。
- 4' 灰黄褐色土(10YR4/2) 3層に小礫を含む。締まり弱い。水路整理混土。
- 5 黑褐色土(10YR3/2) 粘性あり。僅かに小石を含む。
- ①a 黄褐色土(2.5Y5/4) 細砂シルト。小石を含む。
- ①b ①aに大礫を含む。
- ②c 黄色細砂とシルトの混土。締まり弱くカフカ。
- ② 小砂礫層。黄色シルト混土。
- ③ ④ 黄褐色土(2.5Y4/2) 砂質土上。やや締まりあり。僅かに粘性あり。
- 6 にぶい黃褐色土(10YR4/3) 暗褐色上。にぶい黃褐色土ブロックを含む。粘性あり。締まりあり。ローム遷移層。
- 7 黄褐色砂礫層(7.5Y6/8) 水路一括埋設洪沢砂礫層。
- 8 オリーブ灰砂層(7.5Y6/3) 洪水砂。
- 9 7層の洪水砂を主体とし、灰褐色シルトを含む。
- 10 7層の洪水砂を主体とし、小石を含む。



第58図 道・水路・溝部分図4 詳細図4



第59図 道・水路・溝部分図4 詳細図4-1

南での路面標高は539.43～539.35mほどで、東の第9区画畑面から18～23cmほど高い。石橋1の北、石橋2の西では路面標高539.18m。北に進んで第8区画畑付近では路面標高539.12mで、道幅は160cmほどある。

石橋2は60×48cmほどの平坦な長方形礫と60×100cmほどの亜角礫を並べており、溝両側の列石の上にこれを架している。

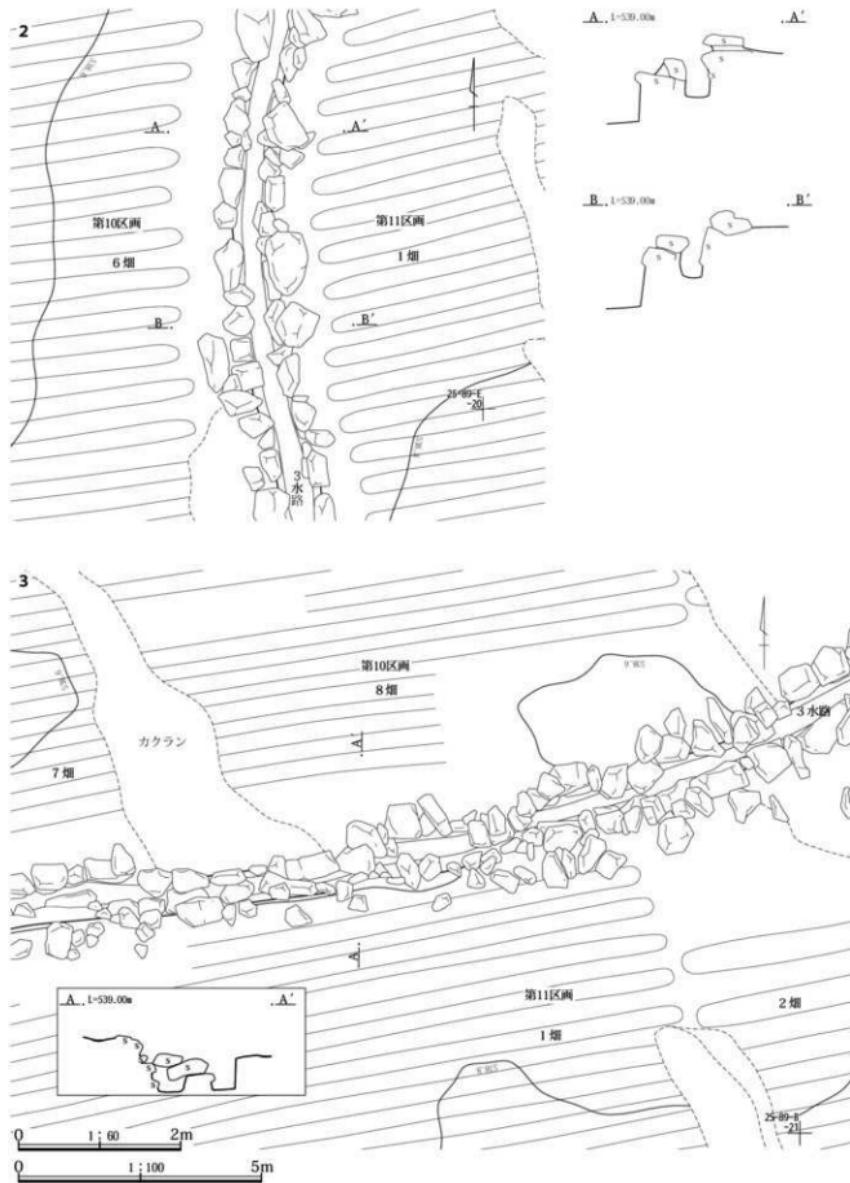
13号屋敷・第8区画畑と4号屋敷・第9区画畑間、及

び11号屋敷と3号屋敷の北部では中央に57号溝を挟んで東西両側に道が沿うことになる。

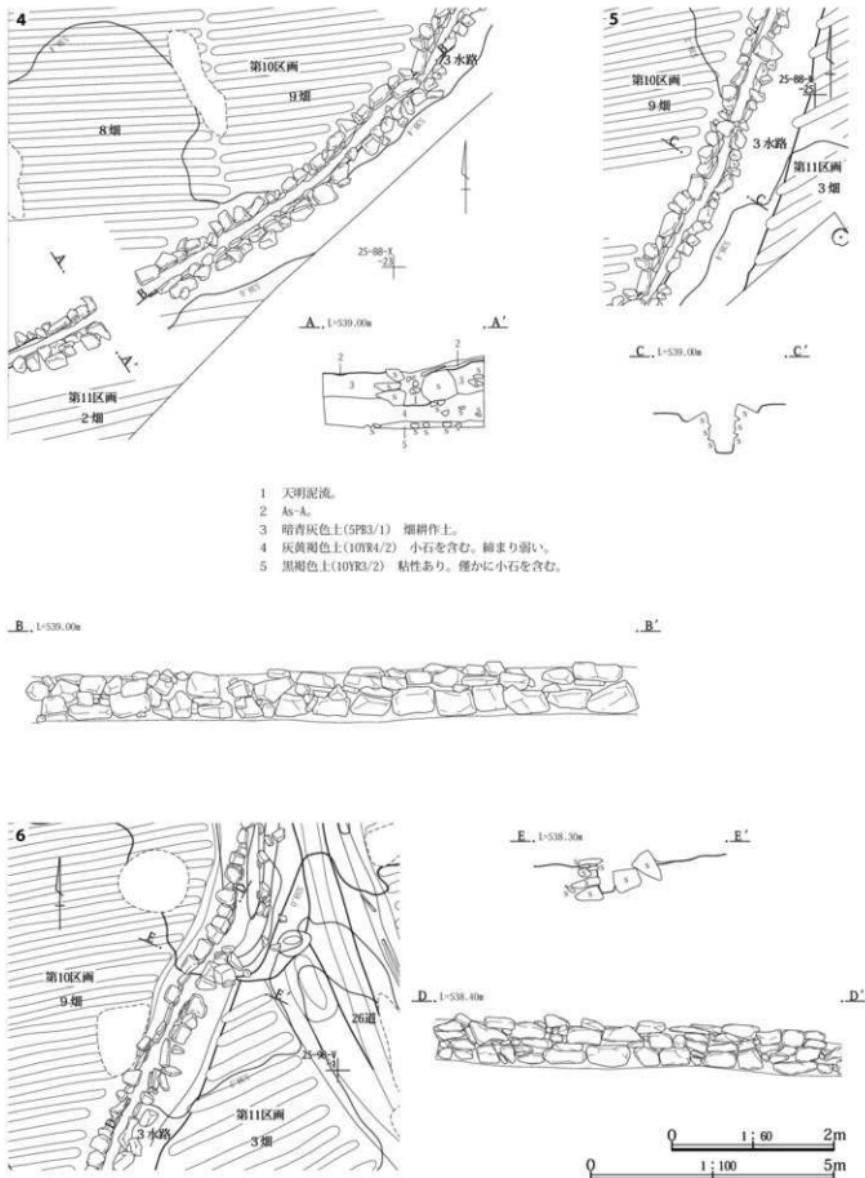
第53図は57号溝に接続する洗い場が溝の東西に設けられる部分である。東の1号洗い場は3号屋敷に付属するもので、西の2号・3号洗い場は11号・14号屋敷に付属するものであろう。ここでは、27号溝の両側に石列が伴う。

第54図には下位段丘面の発掘区界で確認された23号

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



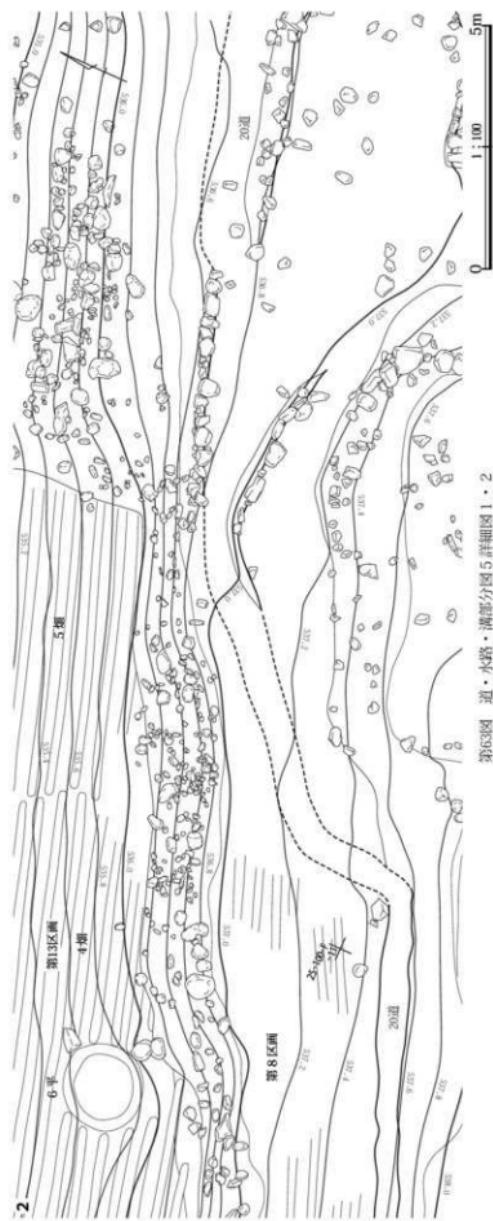
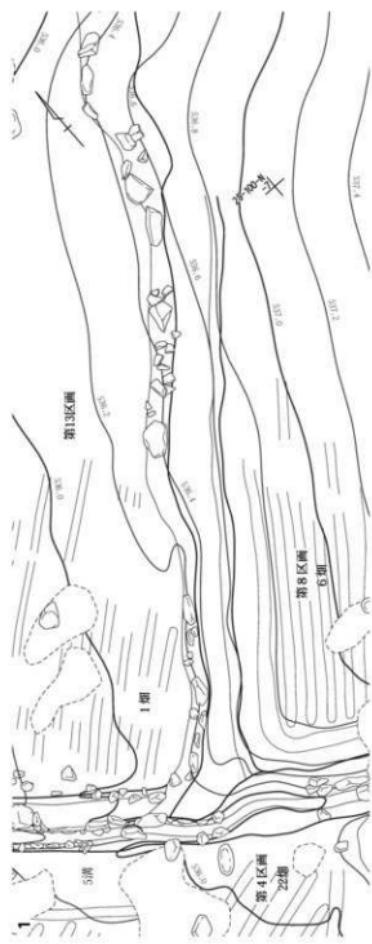
第60図 道・水路・溝部分図4 詳細図4-2・3



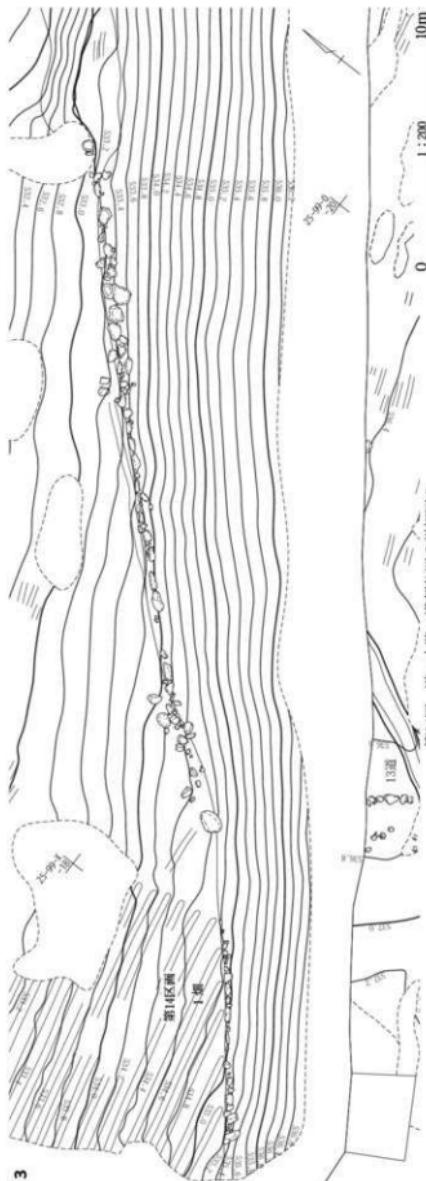
第61図 道・水路・溝部分図4 詳細図4-4・5・6



3462図 道・水路・溝部分図 5



第65図 道・水路・溝部分図5詳細図1・2



3

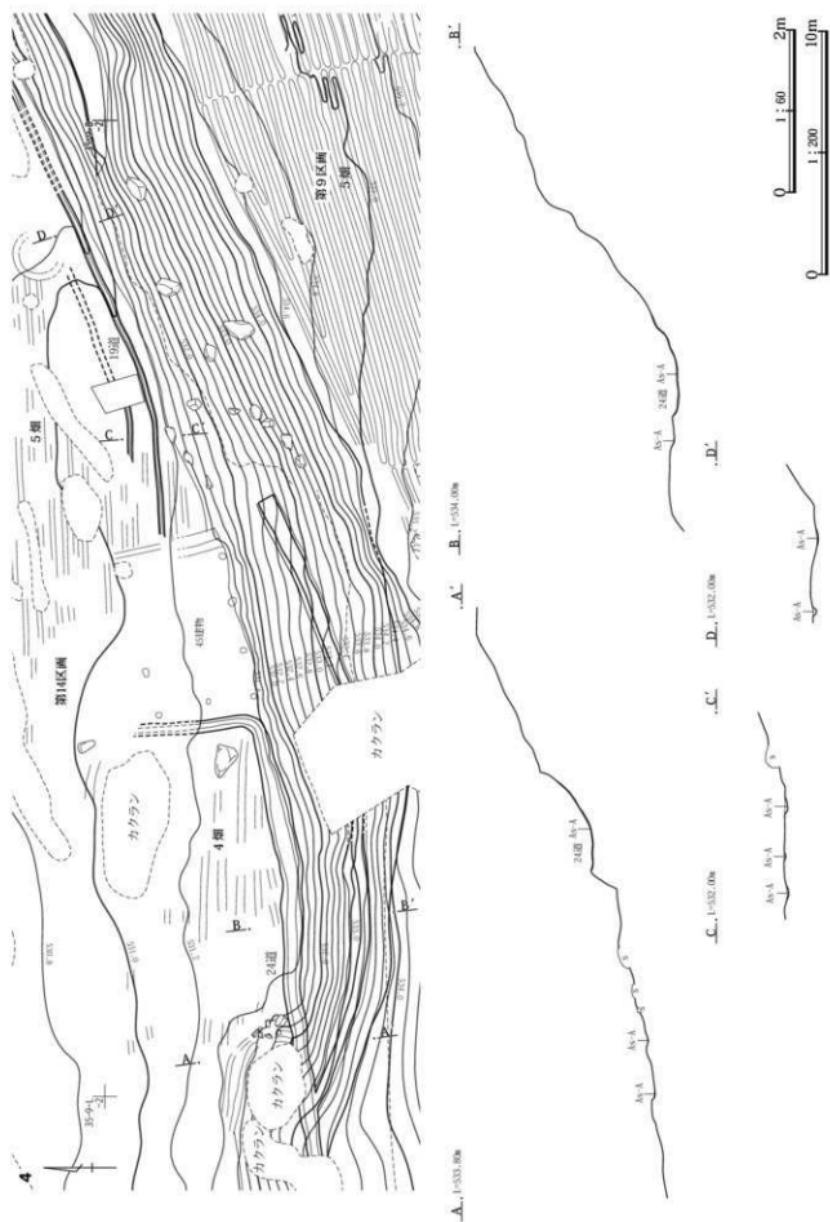
道・55号溝を示した。25号道・57号溝は、第53図の北で現道に切られて連続が捉えられなくなる。下段へ下る傾斜面以北は現道と重なるため距離が開くが、23号道・55号溝はちょうど25号道・57号の延長上にあたる。ここでは現道と23号道・55号溝のラインを併せて、第13区画と第14区画の境界としている。

道・溝共に南北両端が攪乱されていて、55号溝は長7.2m、23号道は長4.5mほどが確認されているのみである。55号溝は上端幅135～155cm、底面標高は南端近くで531.72m、北端で530.75m、断面Aラインでは第13区画畑からの深さ74cmで、断面形は椀状を呈する。両側にはまばらながら石列が見られる。23号道は幅110cmほどで、北端の標高531.08m、南端では531.20m、Aラインでは53号溝底面からは55cm高く、第13区画畑からは45cmほど下がる。第14区画畑からは28cmほど下がっていて、路面には厚いAs-Aの堆積が見られる。

6 7号道・1号水路・3号水路

7号道は遺跡のほぼ中央を東西に貫く幹線道路である。26-71-F-3～25-89-U-21グリッドにわたり、東西36.8m間を緩やかに蛇行しながら北東-南西方向に走る。確認された西端は、南北に張り出す尾根の北東裾部近くにある。交点近くが発掘区外となって、それぞれの関係が直接的には捉えられないが、北に向かう25号道を派生し、また、尾根の北を西側に回り込む21号道につながる。ここから4号屋敷と15号屋敷の間を通って北東に向かい、畑第9区画・1-1区画(前報告第1区画)と第10区画の境界をなす。途中、25-99-A-3グリッドで北の第9区画畑内の12号道を派生し、25-98-V-4グリッドでは南に向かう26号道を派生する。26号道の東縁に沿っていた1号水路は、そのまま7号道の南縁に沿って東進する。

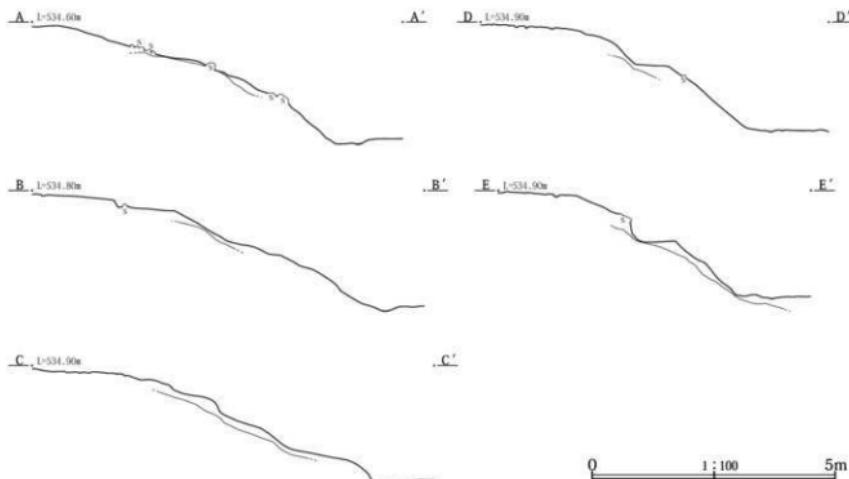
以東は前報告で記載した部分にあたるため、概略を述べる。南に向かう4号道との分岐点まで緩やかな弧を描き、弧の頂点近くでは、北に延びる細い3号道がとりつく。東部は寺院の北限を画する道となり、南東に直線的に延びる、寺院への参道的な機能を果たしたと思われる8号道が分岐する。東端は発掘区界に達し、以東に連続する。4号道との分岐点である3号建物を挟んだ東西で、道、水路とともに様相を異にする。3号建物以西では、7号道は踏みかためられた硬化面の連続であり、1号水路



第65図 道・水路・溝部分図5詳細図4



第66図 道・水路・溝部分図5詳細図5



第67図 道・水路・溝部分図 5 詳細図5 高低図

は素掘りの溝で、特別な施設を作わないが、以東では3号建物の基部石垣や寺院の南辺を画する石垣を含め、水路の側面や路肩に石組みを作う。確認できる東端の標高は529.2mである。

第56図は西端の25号道との交点近くである。Aライン付近は標高539.4～539.6mで、ここでは南からの傾斜面から一段下がった位置に幅1.2～1.5mほどの平坦面が形成されている。この上面には、植物遺体が密着する部分がある。擾乱を受けて分布範囲は不定形だが、道に沿うように長6.7m、幅5.5mほどの範囲に広がる。同定の結果、この植物遺体は大麻の茎であることがわかった。Cラインの25号道沿いで認められた大麻茎と同様、繊維素材としての表皮を欠くところから、麻殼が集積したものと考えられる。ゴザやネコのように編まれたものではない。2～10cmの厚みがあり、南の斜面側が厚く、北の畠側は薄い。この周辺での天明泥流は、尾根に遮られたためであろうか、地表面をさほど強く削削しておらず、流下方向を示すと思われる擾乱痕跡に北西～南東と東西方向に向く二者があることがわかる。この地点から東にあたる27号建物、北東にあたる51号建物では壁材や編み物に麻殼が用いられており、屋根材としても用いられているが、泥流の流下方向から見ると、これら建物から流れ

てきた麻殼とは考えにくい。麻引後の麻殼が近辺に置かれていたものかとも思われる。なお、同定結果は第5章(第5分冊)に収録した。

Bラインは51号建物の南にあたり、標高538.2～538.4m。路面上端幅1.68mで両側から15cmほど盛り上がり、中央が僅かに窪む。畠側下端は溝状に窪む。

詳細図2は23号建物と50号建物の間を通って東西走する部分である。南側には50号建物の左右に杭列があって、建物や畠と道が区切られる。断面Aライン中央部で標高537.8mほどある。路面の幅は135cmほどで、ほぼ平坦。25-99-F-2 グリッドには樹皮状の植物遺体が路面に貼り付くように出土している。

詳細図3は25-98-X-3 グリッド付近から、7号道が大きく北に曲がる部分にあたる。南から26号道がとりつくと共に、26号道の東に沿って流下した1号水路が、7号道に沿って東に向かう。断面Cラインで見ると、7号道の路面は幅1.4mほどで、畠面から僅かに盛り上がる。1号水路が26号溝を横断する部分には礫が多く認められ、石橋状の構造があった可能性を思わせる。断面Dライン周辺では、畠との境界が溝状に窪んで、路面はかまぼこ状に高まり、両側溝を有するかのような構造となる。西側畠際の窪み底部から路面上部までは35cmほどある。

1号水路は26号道と7号道の交点から南へ9mほどの間では、以東と同じく素掘りの溝であるが、26号道から離れて南西に分岐する地点から、両側に石組みを作う。3号水路は、26号道・1号水路の発掘より先行して発掘された。素掘りとして認識されていた1号水路とは異なる水路として、3号水路と遺構名称が付されたものであるが、その後の調査により、1号・3号水路が連続する同一の水路である事がわかった。このため、以下の記載は両者を併せて1号水路として行う。

第58図・59図は発掘区南端近くにある。1号水路の確認された西端は、中央部尾根北東裾部にある。第11区画畑と第10区画畑の境界をなす。東の第11区画畑の直近部標高は539.18m前後、西の第10区画畑面は539.13mに対し、1号水路西端での底面標高は538.66mで、およそ50cmほどの深さがある。比較的大振りの礫で水路側壁を形成する。底面には特別な施設はなく、断面形はコ字状ないしU字状に近い。As-A降下後に泥流に流されてきたのであろう、屋根を思わせる巣様の材、板状材、竹などが水路を覆うように集中する部分が認められている。

これから北に流下し、25-89-E-21グリッド周辺で強く東に折れる。断面Aライン付近では、畑面標高538.77～538.78mで、これから僅かに高い位置まで、やや大ぶりの亜角礫を2段積んで、幅20cmほどの水路を形成する。底面標高538.96m。底面には特別な施設はない。Bラインもこれに近い構造だが、幅は24cmほどあり、底面標高は538.24m。

第60図詳細図3は、水路がほぼ東西走して、南側の第11区画畑と北側の第10区画畑の境界をなす。断面Aライン付近では、南側畑面の標高538.7mほど、北側畑の538.5mほどで、水路底面の標高は158.11m。南側石組みはやや乱れるが、平坦な礫を3段積み、北側はやや小ぶりの礫5段で構成する。幅26cm、南側石組みの頂部からの深さは57cmほどある。この周辺から、泥流に流されたのであろう棒状材、板材や、陶製の天神像、石製の硯、筆の軸と見られる竹管、下駄などが出土している。

第61図詳細図4は、緩やかな弧を描いて東北方へ曲がる部分で、南側の第11区画畑と北側の第10区画畑の境界をなす。断面Aライン付近では、南側畑面の標高538.62mほど、北側畑の538.5mほど、水路底面の標高は538.11mで、北側壁石組みの頂部からの深さは46cmほ

どある。南側は大ぶりの亜角礫1石で側壁を構成し、北側壁は扁平気味の礫3石を積んでいる。Bラインで採取された南側壁の立面図によると、方形の亜角礫を、面を揃えて横積みしている。下部には比較的大型の礫を、上部には扁平な礫を積み、隙間に小振りの礫を詰める。

第61図詳細図5は、南西-北東方向に流下する部分で、南側の第11区画3号畑と北側の第10区画9号畑の境界をなす。断面Aライン付近では、西側畑面の標高538.28m、東側の26号道の路面標高538.38m、水路底部の標高は537.82m。上端幅38cm、下底面の幅18cm、西側の礫上端からの深さは60cmある。西側壁は4石、東側壁は3石を積んで構成している。

第61図詳細図6は、26号道との交点にある。西側の第10区画畑と東側の第11区画畑の境界をなしながら、26号道の西側にとりつき、第10区画畑の東辺を走ることになる。西側畑面の標高538m、東側畑面の標高538.13m、底面標高537.67m。幅20cmほど。西側石組みの頂部からの深さは42cmほどある。東側壁は大振りの角礫2石を積むが、上部の礫は崩れている。西側壁はやや大振りの礫を最下位におき、その上に扁平な礫を積んで、隙間に中小の礫を詰める。これから北では、特に東側壁は礫がまばらにしか残っておらず、西側壁も第61図断面Eライン付近で石組みが途切れ素掘りの溝となり、26号溝、7号道に沿って東へ流下する。

7 19号道・20号道・24号道及び下位段丘南縁の道・石列等

第62図に、発掘区北部の段丘上縁、下縁に沿って断続的に確認された道、石列等を示した。5号溝・10号道を西端として、これから東に向かって、第9区画畑の北縁に沿うように、段丘の上縁を継ぐ道が分岐する。この東にある11号屋敷の北にも、段丘上縁に沿う20号道があり、両者が連続すると、10号道と25号道が東西に結ばれることになる。25号道以東では、段丘上縁の道が捉えられなくなるが、発掘区の東部で段丘の下縁を継ぐ24号道、19号道が確認されている。また、段丘下縁を区切る石列も認められる。

第63図詳細図1は10号道東縁の石列が北東に曲がる部分である。大小の角礫・亜角礫が、およそN-35°-E方向に、14mほど並ぶが、特定の構造を持つものではない。この石列と、第8区画畑の北辺を限る溝状の窪地との間

が、幅60~110cmの平坦な面となっている。道としての機能を有したものと思われる。路面西端の標高は536.52m、石列の東端では536.57mで、南側烟面からは10cmほど低く、北側烟面からは15~40cm高くなっている、東に進むほど斜面を下る。

第63図詳細図1の東25mほどの位置から11号屋敷にかけて、20号道が認められている。同図詳細図2に示したが、比較的弱い痕跡で、幅50~70cmの路面が断続的に残されている。確認できる西端部での標高は537.72m。11号屋敷38号建物の北西隅で、北から東へクランク状に曲がり、この建物の東では南北両側に石列を作つて、南側石列は南に曲がって屋敷地内へ続く。北側石列も5mほど延びて確認できなくなるが、これと入れ替わるように、11号屋敷の東辺から北辺をめぐる石列が、20号道の南辺を示す。57号溝・25号道との交点以東は、攪乱されて連続が捉えられなくなるが、57号溝・25号道を挟んで11号屋敷の東にある3号屋敷内の13号溝に連続する可能性もある。また、これより東は、現道に沿つて攪乱されているが、これも泥流下にあった段丘上縁を綴る道を踏襲したものと考えられよう。

第64図詳細図3は25号道・57号溝と23号道・55号溝の間の段丘下縁から東に延びる石列である。第14区画畑の南縁にあたる西部の石列は、小振りの礫が9mほど乱れなく並ぶもので、35-9-Y-14グリッドにある西端が標高535.2m、35-9-W-16グリッドにある東端が標高534.8mにある。東部の石列は、西部の石列に比して大振りの礫が多く、やや乱れ気味であるが、29mほどの長さがある。西端は35-9-V-17グリッドにあって、標高534.6m、東端は35-9-R-16グリッドにあって、標高533.0mほどだが、以東は捉えられなくなる。また、石列東端からやや傾斜が変わり、標高533.0mの等高線に沿うように、中段的な平坦面が形成される。この平坦面を追うと、24号道に連続するかに見える。

第65図詳細図4は、段丘下縁を綴る24号道および19号道を示したものである。図中央近くの45号建物を挟んで、西に24号道、東に19号道がある。24号道は西端が25-99-L-24グリッドで確認され、N-80°-E方向で、ほぼ東西に18mほど延びるが、掘立柱建物の45号建物にあたつて、ほぼ直角に向きを変え、建物西辺に沿つて北進する。北部は捉えられていないが、45号建物東辺に沿つても溝

状の窪みがあつて、これに連続するものかもしれない。断面Aラインに見るように、斜面をえぐるように削つて路面を作つている。道幅は60~85cmほどで、西端部での標高533.33m、45号建物との接点では531.31m。路面と直上の傾斜面にはAs-Aが堆積する。25-99-K・L-24グリッドでは、24号道から南東方向に分岐し、24号道と並行するように東進する、狭い帯状のAs-Aの堆積面が記録されているが、断面図上には相当位置にAs-Aの堆積や傾斜の変換が見当たらない。

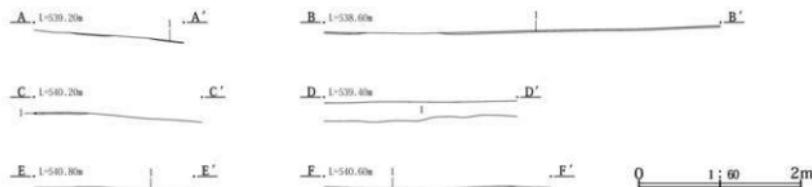
19号道は、35-9-F-1グリッドで南側溝の西端が確認され、北側溝も35-9-E-1グリッドで確認されて、2.5mほどの短い区間ながら、両側に溝を持つ道として調査されている。西は45号建物の東辺に突きあたる方向だが、発掘区界にあたつていて、建物と道の関係は捉えられていない。南側溝は上端幅20cm内外で、深さ2~6cm、皿状の断面形。北側溝も上端幅20cm前後だが、深さ2~3cmと浅い。北側溝はトレンチ以東では捉えられず、南側溝のみが第66図に連続して、北東に延びることになる。両側溝に挟まれた路面は幅70~90cm、標高531.17~531.13mで僅かに東に下る。ただし、断面Aに見られるように、両側溝の中央近くには北側の第14区画畑の歛間溝と同方向の窪みが記録されている。北側溝が浅く、東西への連続も認められない。

南側溝は、僅かに北にたわみながら段丘下縁を綴り、およそN-57°-E、北東方向に83mほど延びて発掘区外に至る。第66図にその東端部分を示した。北は第14区画畑、南は前報告の第1区画1号畠(1-1-1畠)にあたる。北の畠の歛間溝痕跡は、この溝とは重複しないが直近まで迫つており、溝の北側には道が形成される余地がない。幅は狭いものの、西にあたつた24号道と同じく、溝状の踏み分け道として考えられる。

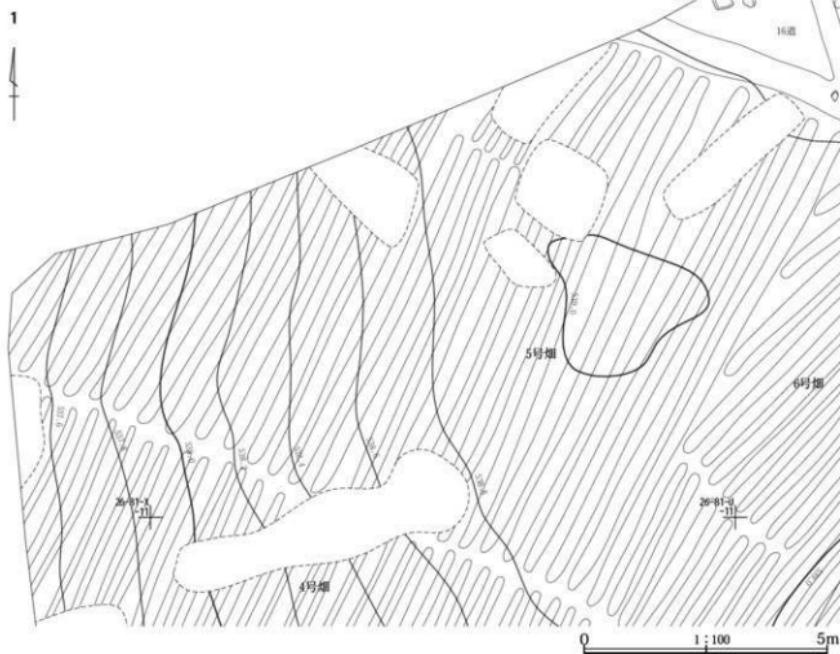
断面Aラインでは上端幅40cm、底面標高530.47mで、北側烟面からの深さ5cm、Bラインでは同じく幅35cm、標高530.41m、深さ5cm、Cラインでは幅50cm、標高530.02m、深さ13cm、Dラインはやや幅広で、幅65cm、標高529.83m、深さ14cm、Eラインは北壁がやや膨らんでいて、幅85cm、標高529.58m、深さ22cm。東に行くに従つて幅広で深く、また低くなっている。上面にはAs-Aが堆積する。



第68圖 第1區圖



第69図 第1区画断面図



第70図 天明泥流下第1区画部分図

第4項 第1区画

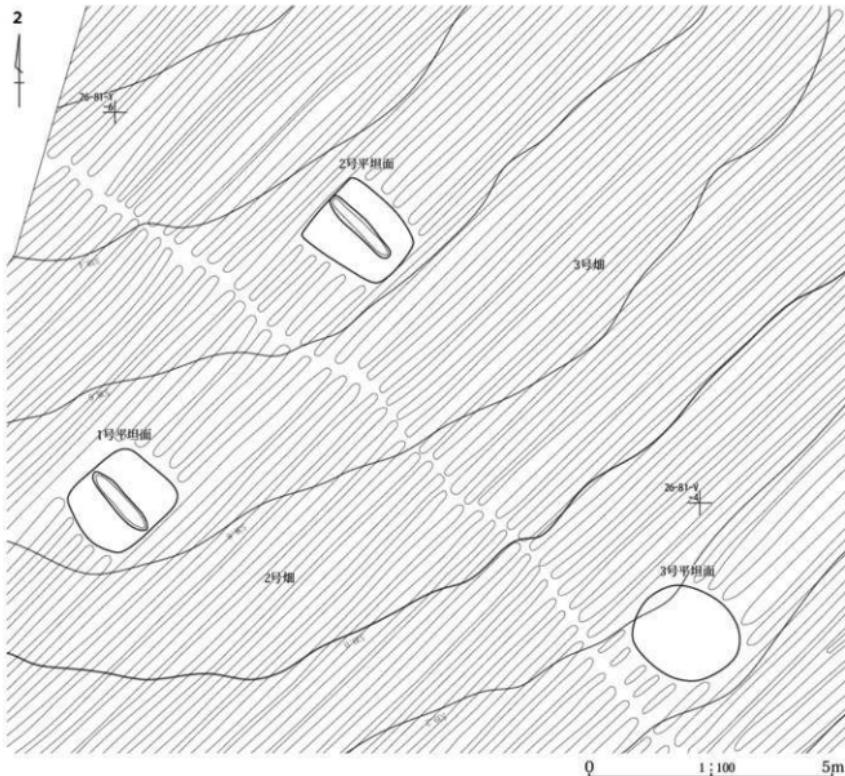
26-71・72/81・82-K～B-20～23グリッド 最高位は南東隅部の標高543.31m、最低位は北西隅の537.6m。北西向きの、小さく浅い谷地部にある。東辺は16号道を介して第4区画と接する。第4区画は第1区画より一段高い尾根部に当たり、隣接部でも10～30cmほどの比高がある。南辺は第2区画との間を13号石垣及び急傾斜面が画す。第4区画との比高は西部で3.4m、東部でも1.8mほどある。北辺から西辺にかけては発掘区界に切られる。南北71m、東西57mほどの範囲を占める。

第1区画は全面が畠地である。長軸方向をおよそ北東～南西方向に向けた歛/歛間溝が並列し、また歛間溝端部を突き合わせるように畠同士が直列する。北から西にかけてが発掘区外となるため、全体形状が把握できる畠はないが、歛/歛間溝の並び方や条間などを手がかりに、

1～5号畠を設定した。この区画の畠については、各歛間溝の下端線が表現されていない。

1 畠

1号畠 26-71/81-R～72/82-B-20～2グリッド 発掘区東端の歛/歛間溝群を1号畠とした。最高位標高541.5m、最低位標高539.8m。北部、西部が発掘区外となるため、全形がわかる歛/歛間溝はない。また、南端も発掘区外となっている。確認できる範囲では幅約40m、最大確認長は10mほどで、確認面積289.85m²。84条の歛間溝があり、歛間溝間の平均値は48.2cmほどとなる。各歛間溝はN-54°～E前後の方向を示し、中部から南部にかけては等高線とほぼ並行ないしや斜行し、北部では斜行する。最北端では2号畠北から11条目の歛間溝が1号畠との境界を越えて1号畠1条目の歛間溝の北を西に延びる。これが1号畠の北限にあたる可能性もある。これから南へ27条目までの間12mほどは、東の2号畠と、20



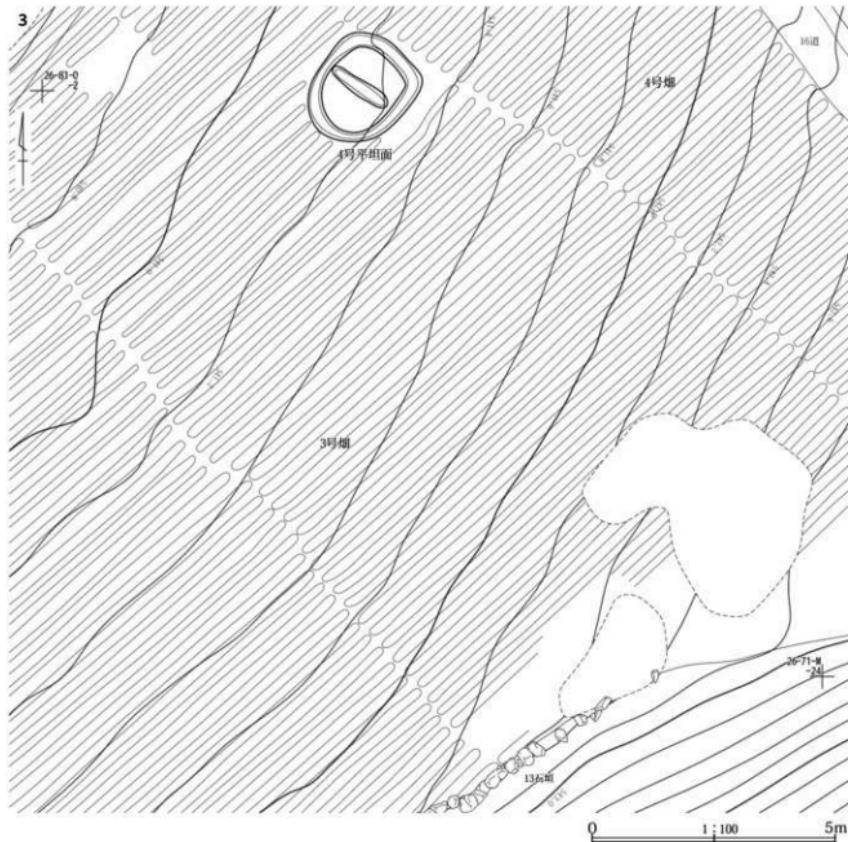
第71図 天明泥流下第1区画部分図2

~25cmの間隔を置いて両畠の歛間溝端が向かい合う。2号畠の方が条間が狭いため、各歛間溝が直列するわけではないが、比較的明瞭に両畠が分かれる。37条目までの4mほどの間では、2号畠との境界延長線は維持しつつも、東に長6mほどのやや短い歛間溝群が形成される。中に1.25~2mほどの短い歛間溝が介在し、それぞれの歛間溝の角度にも、ややばらつきがある。条間は2号畠より広く、1号畠側が東に張り出したものと見られる。以南はこの東端線の延長まで1号畠の歛間溝が延び、2号畠との間に20~25cmほどを置いて比較的明瞭に両畠が分かれる。この畠には平坦面はない。

2号畠 26-71/81-P ~72/82-A-20~5 グリッド 1号

畠の東にあたる。最高位標高541.8m、最低位標高538.2m。北辺は発掘区外となるが、北から11条目以南は歛間溝両端が把握できる。東辺は3号畠と接するが、西の1号畠との境界より細かな出入りが多く、小さな蛇行を繰り返す。1号畠より条間が広いため、各歛間溝は直列しないが、端部同士はごく近接するものがあるものの、切り合わない。南端は急傾斜部崖及び13号石垣に達する。

最大幅14.16m、長さ46mほどの範囲を占め、確認面積493.05m²。123条の歛間溝が切られる。うち45条目は短く、東部に偏する。残りの良い部分での平均的な条間は38cmほどと、1号畠より狭い。各歛間溝はN~42°~45°-E前後の方向を示し、中部から南部にかけては等

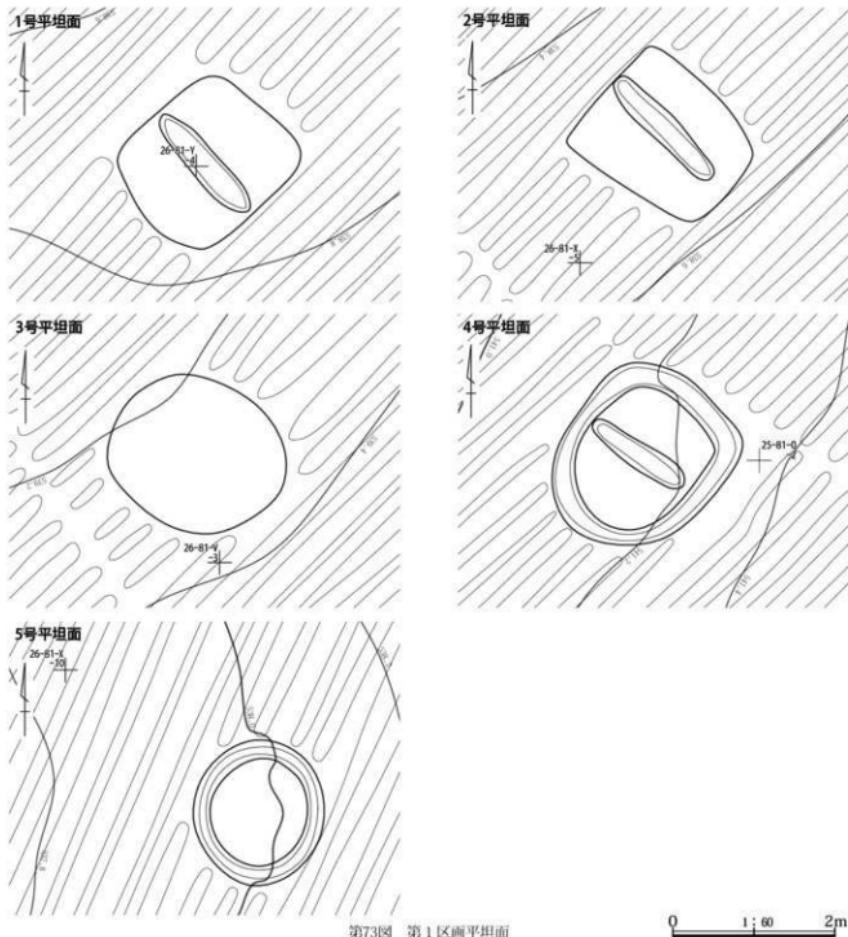


第72図 天明泥流下第1区画部分図3

高線とほぼ並行ないしやや斜行し、北部では斜行する。先述の通り北から11条目は13.2m以上あって、西の1号煙側へ延び、以北が西に張り出していた可能性を示す。12条目は1号煙、3号煙の歓間溝と向かい合う。ここから47条目までの13m間は、東西長14m強の長い歓間溝が並列する。以南では1号煙が東へ張り出し、47条目が14.16mあるのに対し48条目は8m、100条目、120条目は10mほどと短くなる。北東部に1号平坦面がある。

3号煙 26-71/81-P ~ Y-22~8 グリッド 2号煙の東、4号煙の西にある。最高位標高543.1m、最低位標

高533.7m。北辺は発掘区外となるが、北から15条目からは歓間溝両端が把握できる。西辺は2号煙、東辺は4号煙と接する。4号煙と近い条間だが、僅かずつずれていて、各歓間溝は必ずしも直列しない。端部同土は近接し、接するものすらあるものの、切り合わない。南端は急傾斜部掘及び13号石垣に達する。最大幅16.1m、幅58.5mの範囲を占め、確認面積796.66nf。160条の歓間溝が切られる。うち北から66条目は短く、東部に偏する。残りの良い部分での平均的な条間は37cmと2号煙よりやや狭い。各歓間溝はN-44~46°-E前後の方向を示し、



第73図 第1区画平坦面

0 1:60 2m

北部から中部にかけては等高線とほぼ並行ないしやや斜行し、南部では斜行する。北から15条目は長13.2mと短く、中位の65条目では14.4m、南部107条目では16.1mとなる。108条目以南は東西2群に分かれるが、両群の歓間溝は溝端が対応して直列する。西群は108条目で長8.9m、144条目で8.8mとほぼ同長の歓間溝が並列し、157条目まで、13号石垣との間を埋めるように徐々に短くなる。東群は108条目が7mほどの長さしかないが、

両端の把握できる最南部の153条目では10mある。このため、煙全体の平面形状は北を上底とする細長い台形を呈する。北西部に2号・3号平坦面、南西部に4号平坦面がある。また、平坦面としては捉えられていないが、4号平坦面の北西、東群110条目から113条目の東部に歓間溝が切れる部分がある。

4号煙 26-71/81-L～X-24～11グリッド 3号煙の東、5号・6号煙の西にある。最高位標高543.1m、最

低位標高537.5m。北辺は発掘区外となるが、北から13条目からは歛間溝両端が把握できる。西辺は3号烟、東辺は北端近くが5号烟、中・南部が6号烟と接し、南端部は16号道に画される。3号烟と近い条間だが、僅かずつずれていて、各歛間溝は必ずしも直列しない。端部同士は近接し、接するものすらあるものの、切り合わない。南端は急傾斜部裾の手前で確認できなくなる。

最大幅11.6m、長66m。確認面積559.92m²。178条の歛間溝が切られる。このうち北から72条目～86条目までは歛間溝の角度が変化しており、長41cm、72～85cmの短い条が、空隙を埋めるように東部に偏して掘られている。この南北で耕作単位が異なる可能性もある。残りの良い部分での平均的な条間は北部でおよそ36cm、南部で39cmほどとなり、2号烟・3号烟と近い。各歛間溝は71条目以北ではN-27°～33°-E前後、85条目以南ではN-40°～46°-Eの方向を示す。全体に等高線と斜行する。3号烟との境界線には大きな蛇行はないが、東の5号烟との境界線は北部で大きく蛇行する。北から13条目の長10.8m、30条目11.6m、37条目10.8m、50条目11.44m、68条目(9m)からは僅かずつ長さを減じて129条目(7.5m)に至るが、130条目(10.3m)以南は5号烟側に延びて、16号道までこの烟が達する。16号道のカーブに合わせて歛間溝長が短くなり、確認できる最南端177条目では3.7mほどしかない。北端近くの中央に5号平坦面がある。

5号烟 26-81-T～X-10～13グリッド 4号烟の東、16号道の西にある。最高位標高538.8m、最低位標高537.5m。北辺から東辺北半は発掘区外となる。擾乱もあって、確実に歛間溝両端が把握できるのは北から20条目のみである。南は6号烟と接する。

確認最大幅11m、長約13m。確認面積123.03m²。間に26条の歛間溝が切れ、残りの良い部分での平均的な条間は49cmと、この区画の中では最も広い。ただし、13～16条目にかけての東側には幅の狭い歛間溝が4条示されている。全形のわかるもので見ると、10～11mほどの長さで描う。各歛間溝はN-26°-E前後の方向を示し、等高線と斜行する。平坦面はない。

6号烟 26-81-M～U-4～12グリッド 4号烟の東、5号烟の南にある。最高位標高541.6m、最低位標高533.8m。西辺は4号烟、北辺は5号烟と接し、東から南にかけてを蛇行する16号道に画され、南端は4号烟が

東に張り出す形で画される。この区画では、烟全体が把握できる唯一例で、確認面積406.99m²。

5号烟の歛間溝がN-26°-E前後を示すのに対し、6号烟ではN-37°-Eと差があるため、境界部はこの差違を埋めるため、東側11条、西側8条の短い歛間溝が設けられている。描いの良い西部を基準に数えると、38.5m間に87条の歛間溝が切られており、平均的な条間は45cmとなる。12条目からは長さ10m前後、方位N-40°～45°-Eで比較的よく描っている。南部では16号道の蛇行に従って歛間溝が短くなり、最南端の87条目では3.2mとなる。平坦面はない。

2 平坦面

1号平坦面 26-81-X・Y-3・4グリッド 2号烟北東部にある。東辺から2号烟東辺まで3.5m、西辺から同烟西辺まで7.5m、南辺から同烟南辺まで40m。標高538.72～538.65m。長軸長200cm、短軸長175cm。平面形は長軸を北西-南東に置く隅丸長方形で、平坦面溝は無い。中央溝は長軸方向に長く、上端長161cm、最大幅38cm、深さ14cm。周囲の歛間溝は平坦面に至らずに完結しつつ、平坦面の東西で連続する。北東に並ぶ位置にある2号平坦面まで5.8m。

2号平坦面 26-81-W・X-5グリッド 3号烟北西部にある。東辺から3号烟東辺まで8.75m、西辺から同烟西辺まで1.8m、南辺から同烟南辺まで42m。標高538.54～538.45m。長軸長190cm、短軸長130～160cm。平面形は長軸を北西-南東に置き、南東辺を上底とする隅丸の台形で、平坦面溝は無い。中央溝は北西-南東方向に長く、上端長168cm、最大幅34cm、深さ16cm。周囲の歛間溝は平坦面に至らずに完結しつつ、平坦面の東西で連続する。北東に並ぶ位置にある1号平坦面まで5.8m、烟内の南にある3号平坦面まで8.3m、4号烟にあらむ北の5号平坦面まで14.5m。

3号平坦面 26-81-U・V-3グリッド 3号烟西辺の中央北よりにある。この平坦面の南で歛間溝の並びが小さくなる。東辺から3号烟東辺まで12m、西辺から同烟西辺まで1m、南辺から同烟南辺まで31m。標高539.19～539.34m。長軸長220cm、短軸長180cm。平面形は長軸を北西-南東に置く偏円形で、平坦面溝はなく、中央溝も認められていない。周囲の歛間溝は平坦面に至らずに完結する。平坦面の東ではやや幅広の歛間溝5条



第74図 第2・3区画

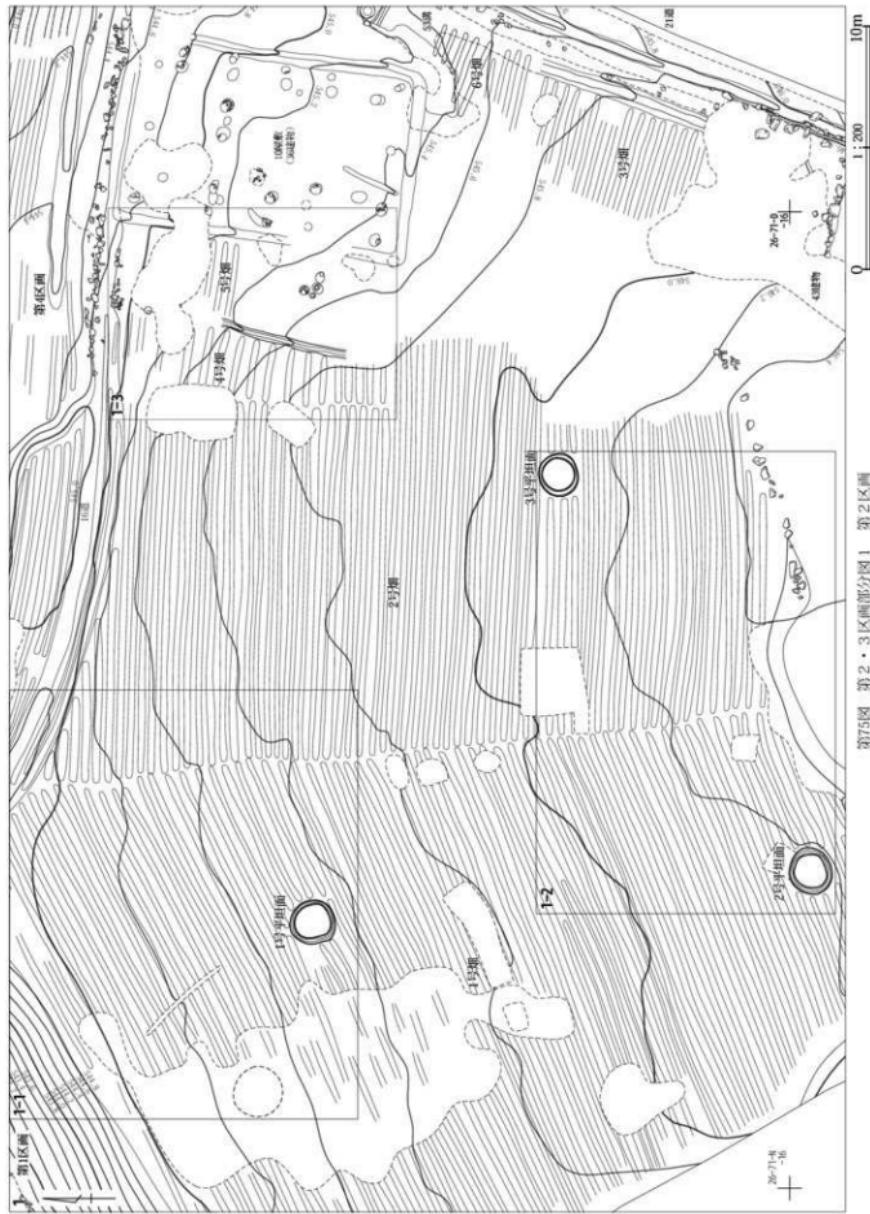
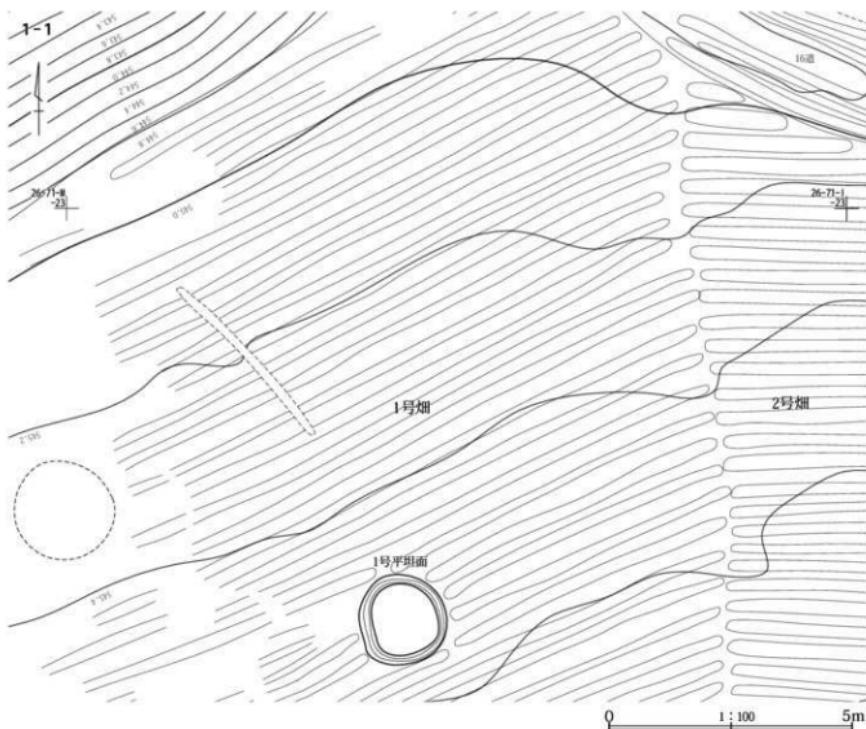


図75 図 第2・3区画部分図1 第2区画



第76図 第2・3区画部分図1 詳細図1

があるのに対し、西側では幅の狭い歛間溝6条が対応位置にある。北西の2号平坦面まで5.7m、南東の4号平坦面まで25m。

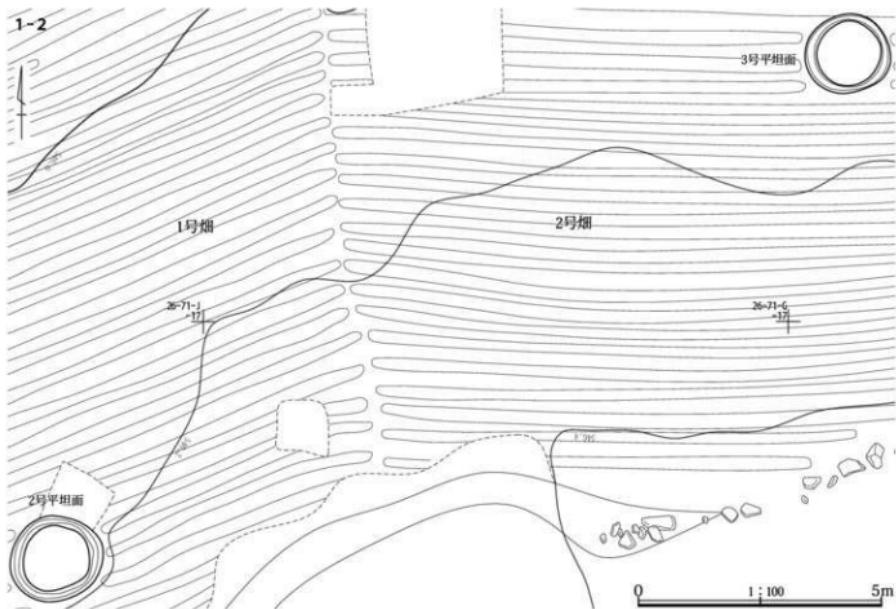
4号平坦面 26-81-O-1・2グリッド 4号烟東辺南部にある。歛間溝が東西両群に分かれる部分に当たり、東群の北寄りに位置する。烟東辺に接している。西辺から同烟西辺まで14.5m、歛間溝東群の西辺まで3m、南辺から同烟南辺まで16.5m。標高541.32～541.09m。長軸長230cm、短軸長190cm。平面形は長軸を北東～南西に置く偏円形で、上端幅30cm、深さ4～7cmほどの平坦面溝が全周する。中央溝は北西～南東方向に長く、上端長136cm、最大幅32cm、深さ1～15cm。周囲の歛間溝は平坦面に至らずに完結する。北西の3号平坦面まで25m。

5号平坦面 26-81-W-9グリッド 4号烟北部にあ

る。東辺から4号烟東辺まで5.2m、西辺から同烟西辺まで3.6m、南辺から同烟南辺まで57m。標高538.08～537.94m。長軸長180cm、短軸長160cm。平面形は僅かに南北に長い偏円形で、上端幅20cm、深さ3～5cmの平坦面溝が全周する。中央溝は認められていない。周囲の歛間溝は平坦面に至らずに完結しつつ、平坦面の東西で連続する。南にある2号平坦面まで14.5m。

第5項 第2区画

25-80-Y～26-71-P-14～24グリッド 最高位は南西部の標高546.4m、最低位は北西隅の537.6m。北西向きの緩傾斜部にある。全体としては東西幅65m、南北長77mほどの扇形の平面形を呈する。西辺は発掘区界に切られ、東辺は21号道・53号溝で第5区画と両される。北辺



第77図 第2・3区画部分図1詳細図2



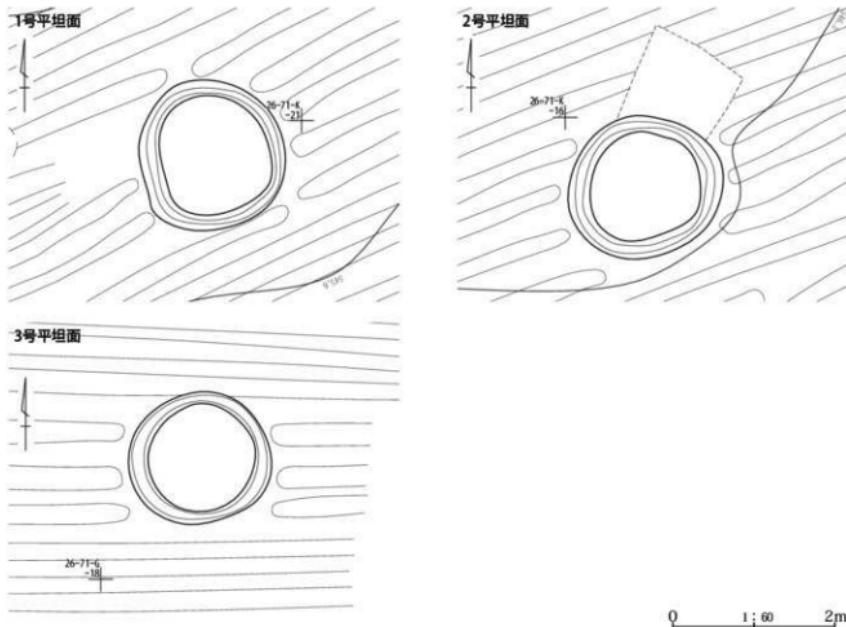
第78図 第2・3区画部分図1詳細図3

西部は第1区画煙南辺の13号石垣から比高1.8~3.4mほどの急傾斜面を介した上位にあたり、東部は16号道で第4区画と画される。標高546.4mライン付近には礫が散在的ながら列状に並び、これ以南では煙が確認できなくなる。石列が何らかの境界をなしていたものと思われる。東北部には10号屋敷36号建物がある。東辺南寄りには21号道・53号溝に面して43号建物がある。

第2区画の煙は標高546.4mライン付近の石列以北で確認された。各畝間溝が長く、条間が狭い煙と、畝間溝が短く、条間が広い煙の2者がある。畝・畝間溝の並び方や条間などを手がかりに、前者を1号~3号煙、後者を4号~6号煙として記載する。この区画の煙については、6号煙以外に畝間溝の下端表現をなされるものがない。また、断面、高低に関する記録がない。

1 煙

1号煙 26-71-I ~ P-14~24グリッド 第2区画の西端にある。最高位標高546.4m、最低位標高544.6m。西辺は発掘区外となって、畝間溝両端が把握できない。東



第79図 第2区画平坦面

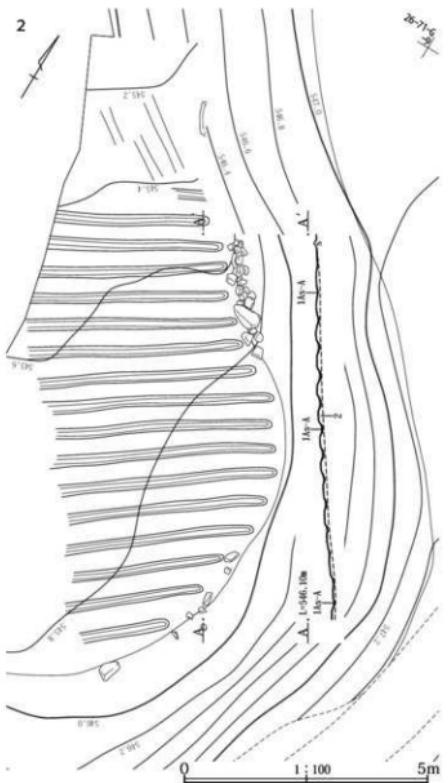
辺は2号畠と接するが、僅かずつずれていて、各畝間溝は必ずしも直列しない。端部同士は近接し、接するものすらあるものの、切り合わない。南端は僅かな段差と散在する疊の列、攪乱に達して確認できなくなる。

最大幅28m、確認長約35.4m。確認面積717.31m²。64条の畝間溝が切られる。北部は長く、南部が短い。北から8条目が28m、南端近くの62条目では11.5mほどの長である。方位はN-62°-67°-Eで、等高線とはおむね斜行するが、西端では西側に落ちる地形にとらわれずに畝間溝が延びて、等高線と直交方向を示す。残りの良い部分での平均的な条間は50cmほどとやや広めである。北東隅の16号道沿いには、2条のみではあるが、道に沿ってN-30°-W方向に延びる長3.5mと1.3mの畝間溝が図示される。

北東部に1号、南部に2号平坦面がある。また、北部中央近くの攪乱中、L・M-21グリッドに径2mほどの円形の痕跡が図示されており、平坦面の痕跡を思わせる。

2号畠 26-71-E ~ I-16~23グリッド 1号畠の東にある。最高位標高549.5m、最低位標高544.9m。西辺は1号畠、東辺北部は4号畠と接する。4号畠とは畝・畝間溝方向は近いが、2号畠の方が条間が広く、各畝間溝は直列しない。端部同士は近接するが切り合わない。東辺南部は東に広がるが、36号屋敷南部では確認できない。南端は1号畠同様に、僅かな段差と散在する疊の列、攪乱に達して確認できなくなる。

最大幅12m、長約30m、確認面積412.21m²。64条の畝間溝が切られる。およそN-90°-92°-Eを示し、等高線とやや斜行する。北西端は16号道の緩やかなカーブとの空隙を埋めるように短い畝間溝が切られる。平均的な条間は46.4cmほどである。北から31条目までは4号畠と接していて、畝間溝の長は14~15mほどと短い。以南は各畝間溝の東端が確認できなくなって全形が把握できないが、最も長く確認できる32条目で17mほどの長がある。南東部に3号平坦面がある。



第80図 第2・第3区画部分図2 第3区画

3号烟 26-71-B～D-16～19グリッド 煙の確認できない空白8mを挟んで、2号烟の東にある。東は53号溝と平行する溝状の窪地で画される。南は攪乱に切られる。北は6号烟と接する。北の10号屋敷と南の43号建物の間にあって、北部の歓間溝は36号建物に規制される。4号～6号烟と共に、10号屋敷に付随する烟であろう。6号烟とは歓間溝の角度が近いものの、条間が大きく異なること、歓間溝の図示表現が異なることから、別の烟とした。最高位標高545.9m、最低位標高545.6m。全形が把握できる歓間溝は無く、最も長い北から13条目でも4mほどしか確認できない。確認面積36.62m²。

約9.6m間に20条の歓間溝が認められているが、北か

ら4条目と5条目の間が70cmほど開く。1条目から4条目の条間が平均37.5cm、5条目から20条目までの間が43.5cmとやや差がある。各歓間溝はおよそN-105°～E前後の方向を示し、等高線とは斜行する。歓間溝の方位は4条目までと以南で差が無い。また6号烟とも等しい。2号烟とは異なっているため、両烟が直接には連続せず、間の空白域内に境界があったものと考えられる。

4号烟 26-71-E-20～22グリッド 2号烟の東、10号屋敷との間にある。最高位標高545.8m、最低位標高544.9m。西・南辺は2号烟北部と接し、北辺は16号道南側の溝にややくい込む。東辺北部は5号烟との間に上端幅30cm内外の溝状の窪地があって、これを境界とした。南部はこの溝を介して10号屋敷と接する。非常に狭い範囲で、最も広い北端部でも幅3m程度、南部で両端が確認できる13条目の歓間溝は長1.9mしかない。南北長11.4mで、確認面積29.73m²。20条の歓間溝があるが、条間にはややばらつきがある。北から1～3条目は平均条間が50cmと狭いが、5条目から13条目は65.5cm、14条目から18条目は54cmである。

5号烟 26-71-D・E-21グリッド 4号烟と10号屋敷36号建物との間にある。東は10号屋敷36号建物に接する。西は浅い溝を介して4号烟と直列する。南は特定の境界なく歓間溝が途絶えて、10号屋敷の敷地に連続するものであろう。北は攪乱されるが、16号道に画されるかと思われる。僅かに残った歓間溝群である。標高545.2～545.4mの1.2m間に確認長3mの歓間溝3条がある。条間は60cmほど広い。確認面積16.69m²。

6号烟 26-71-B-19グリッド 3号烟の北にある。北西に10号屋敷36号建物があるが、これに規制されて、北西辺の北から南へ歓間溝長が漸増し、全体的には台形状の平面形を示す。東は53号溝の手前で完結する。西は36号建物を取り巻く雨落ち状の窪み手前で完結する。南は3号烟と斜交しながら並列する。北は特定の境界なく歓間溝が認められなくなるが、以北にはAs-Aが堆積しており、これ以上の広がりはなかったものと思われる。

標高545.4～545.6m。南北2.2m間に歓間溝5条がある。確認面積17.27m²。最北の1条目が長1.4m、最南部の5条目の長が3.3m。条間は55cmほど。この烟の周囲にはAs-Aが堆積するが、歓間溝が明確に捉えられているにもかかわらず、歓間溝中にはAs-Aが堆積していない。

発掘担当者への聴取では軽石降下後に歓立てされた可能性が示唆された。

2 平坦面

1号平坦面 26-71-K-20・21グリッド 1号畑北部中央近くにある。標高545.47~545.54m。北東部は円弧状、南辺・西辺は直線的で、ゆがんだ円形の平面形を呈する。外径145~190cm、平坦面溝幅6cm。中央溝は確認されていない。周囲の歓間溝は平坦面に至らずに完結する。南の2号平坦面まで18.8m、南東の3号平坦面まで19.6m。

2号平坦面 26-71-J-15・16グリッド 1号畑南端近くのやや西寄りにある。標高546.12~546.21m。円形の平面形を呈する。外径140~198cm、平坦面溝幅13cm。中央溝は確認されていない。周囲の歓間溝は平坦面に至らずに完結する。3号平坦面まで17.6m。

3号平坦面 26-71-F-18グリッド 2号畑南部東寄りにある。標高546.05~546.14m。東西にやや長い偏円形の平面形を呈する。外径130~175cm、平坦面溝幅7.5cm。中央溝は確認されていない。周囲の歓間溝は平坦面に至らずに完結する。

第6項 第3区画

25-71-F~H-4~8グリッド 第1・2区画の西側崖下の西向き緩傾斜部にある。最高位は南東部の標高545.9m、最低位は北西隅の545.2m。北・東・南を急崖に囲まれ、西は発掘区界に切られる。緩傾斜部全体としては東西幅9.5m、南北長11.5mほどの半円形の平面形を呈する。遺構は北東部の畑のみである。

1 畑

26-71-F~H-5~8グリッドにある。北辺から西辺北部は発掘区界に切られ、南部は発掘区界に至らずに歓間溝端が捉えられなくなる。東辺から南辺は急傾斜崖部に達する。北部では、組み合ってはいないものの、角礫、亜角礫が列状に残されており、石垣で区切られたかに見える。標高545.2~545.4mの北端部では、北西・南東方向に長軸を持つ歓間溝痕跡が3条認められた。長いものでも1.5mほどしかなく、方向はN~54°~62°~Wで等高線と斜行し、条間は80~100cmある。

南部の畑は西部が失われていて、長いものでも5mほどの長しか確認できないものの、比較的残りがよい。確

認長約18m、確認面積36.78m²。17条の歓間溝があり、歓頂部から歓間溝底まで10cmほど、条間の平均値は110~120cmと広い。歓頂部は平坦で、歓間溝内にはAs-Aが堆積する。方位はN~54°~Eを示し、等高線と斜行ないし部分的には直行する。

第7項 第4区画

25-80-H-22~26-91-T-7グリッドにかけて広がる。最高位は南端部の標高545.0m、最低位は北東部の534.6m。発掘区西部中位の緩傾斜部を占める。北東は10号道・5号溝を介して第8・13区画と接し、南東辺は21号道・53号溝を介して第5・6区画と、南西辺は16号道を介して第1・2区画と接する。北西辺は発掘区界となるが、ほぼ吾妻川への崖線に沿うことになる。北東・南西に長い蕭状に近い平面形を呈し、長軸長132m、短軸長82mの範囲を占める。南東部に7号~9号屋敷、東部に22号建物、北東部に6号屋敷、北西辺中部には33号建物がある。北西辺沿いの急傾斜部を除いて、ほぼ畑が占める。西部の畑は第1面の復旧坑第1・2群に乱されて境界が把握しがたいが、歓/歓間溝の並び方や条間などを手がかりに、1~34号の畑を設定した。

なお、この区画の畑に関する図では、歓間溝の上端・下端をそれぞれ表現したものと、上端、下端の区分がなく、歓、あるいは歓間溝を一重の線で表現したものが混在する。写真記録などを参照すると、後者はさらに、歓間溝が浅いために下端を表現することができないものを示す場合と、歓間溝に堆積したAs-A軽石を除去しない状態でAs-Aの堆積範囲を歓間溝の上端として記録したものの両者がある。図のみではそれぞれを区分できないため、採取された図面記録をそのまま記載するにとどめざるを得なかった。また、原図にはAs-Aの堆積範囲として図示された部分があるが、写真記録や断面記録と範囲が一致せず、あるいは発掘区が異なるため、隣接部でありながら堆積表現の有無が分かれるなどの齟齬が生じている。このため、As-A堆積の図示を行わなかった部分がある。

1 畑

1号畑 26-81-J~P-7~12グリッド 最高位標高542m、最低位標高540.23m。第4区画の西北端にある。東は4号畑と接する。北部は復旧坑第1列の東、第2列の西端近くに4号畑との境界があり、南部では第1列の



第81図 第4区画



A-A'

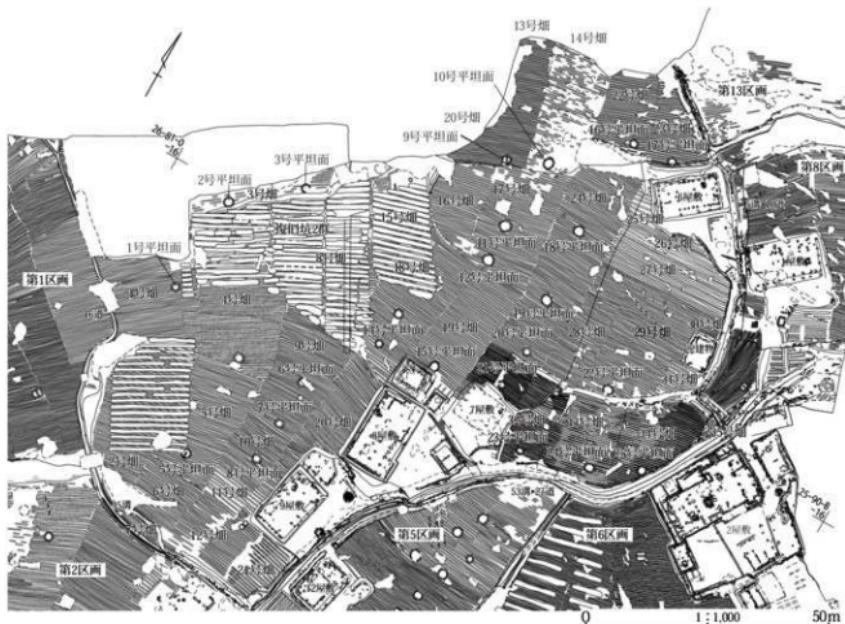


A'



第82図 第4区画高低図

1:200 10m



第83図 第4区画烟・平坦面位置図

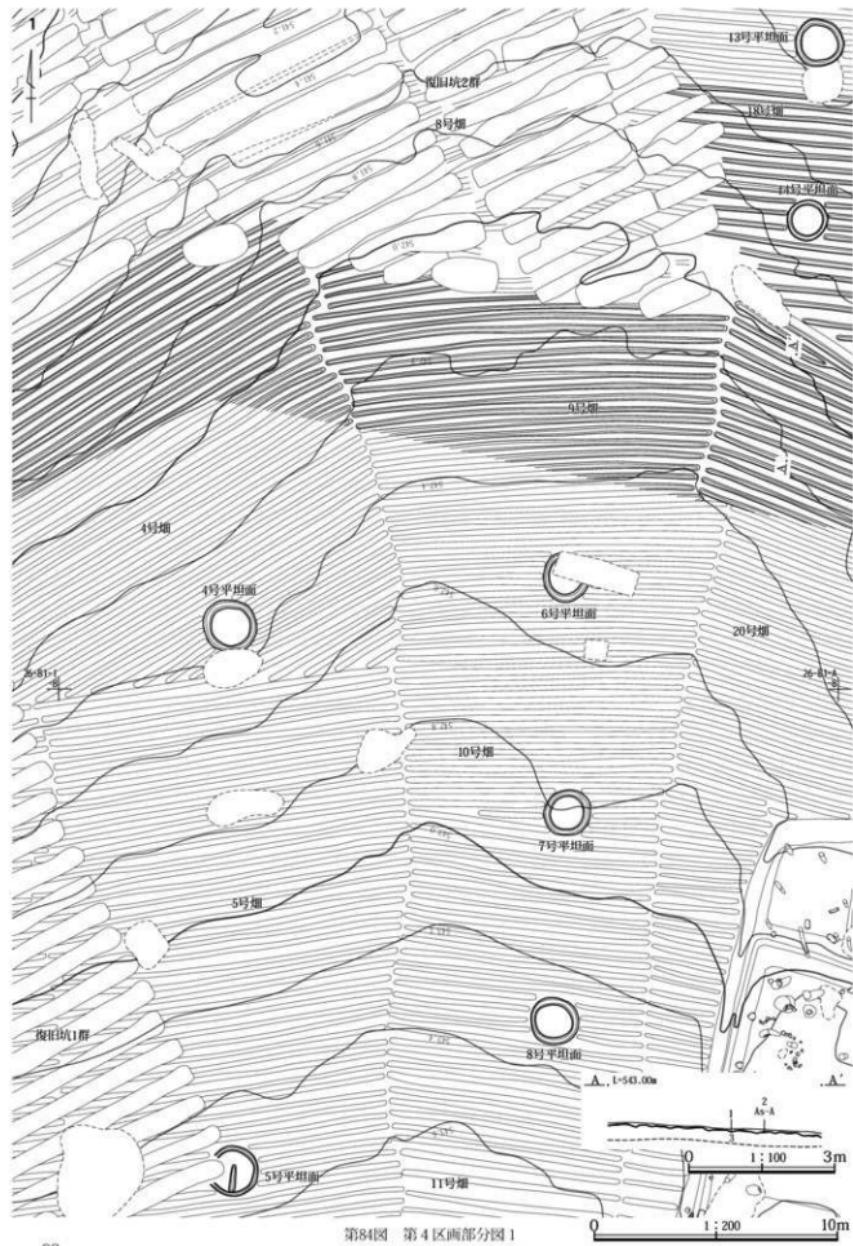
西端の延長線にあたる位置に4号烟との境界がある。両烟の歎間溝は、若干の距離を置いていて、切り合わない。西は16号道に画される。南は復旧坑1群の北端近くで、歎方向を異にする2号烟と接するものと思われるが、復旧坑及び擾乱に切られて、詳細は把握できない。復旧坑第2群第1列の西端延長線にあたる位置に、4号烟との境界が張り出す。両烟の歎間溝は、若干の距離を置いていて、切り合わない。北は段丘端の傾斜面に当たって、特定の境界なく、認められなくなる。

東西幅14.0~17.3m、南北長16.1mの範囲を占め、確認面積302.31m²。N-50°-Eの方向で、34条の歎間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歎間溝の長さは17.3m、残りの良い部分での平均的な条間は52cm。南部東寄りに1号平坦面がある。

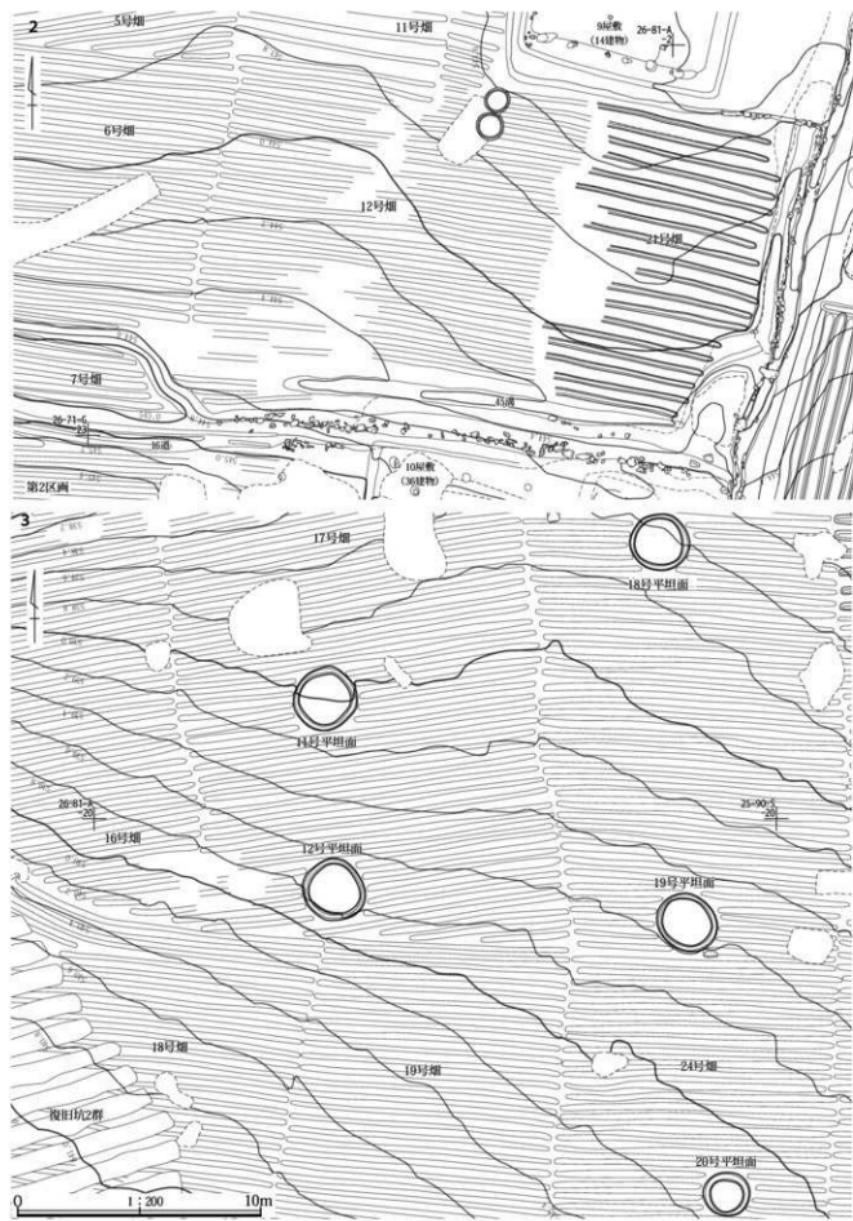
2号烟 26-71/81-H~M-23~7 グリッド 最高位標高544.9m、最低位標高542.2m。第4区画南西端、1号烟の南にある。多くを復旧坑1群に切られる。東は北部が

5号烟、南部は6号烟と接する。西から南にかけては緩やかにカーブする16号道に画される。北は1号烟に斜交気味に並列する。東西幅14m、南北長36mほどの範囲を占め、確認面積418.87m²。N-80°-Eの方向で、64条以上の歎間溝が並列する。等高線とは平行ないしやや斜交する方向にあたる。残りの良い部分での平均的な条間は48cm。

3号烟 26-81-G~M-14~19 グリッド 最高位標高539.8m、最低位標高538.4m。第4区画北西部、発掘区の北端近くに小さな段差があり、この下に幅30m、奥行5m足らずの狭い平坦部がある。ここに、歎間溝痕跡と円形の平坦面が残されていた。天明泥流到達以前にはさらに北側に烟が広がっていたものと思われる。東西及び北は発掘区界に画される。南は小段差を介して西部は4号烟、東部は8号烟と接する。東西幅31m、南北長4mほどの範囲を占め、確認面積110.28m²。N-56°-Eの方向で、8条の歎間溝が並列する。等高線とは並行に近い



第84図 第4区画部分図1



第85図 第4区画部分図2・3

方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは4m、残りの良い部分での平均的な条間は57cm。東西に2号・3号平坦面がある。

4号煙 26-81-E～N-7～16グリッド 最高位標高542.7m、最低位標高540.2m。第4区画西部にある。1号煙の東、3号煙の南にある。東は北部は8号煙、南部は9号煙と斜交しつつ直列する。8号煙との間は、復旧坑2群に擾乱されて詳細が把握できない。9号煙との間は、歓間溝方向が異なることもあってか、双方の歓間溝端部が入り組み、境界線は細かくうねる。西辺北部は発掘区界にあたって把握できない。南部は1号煙と直列する。南端近くでは17条ほど1号煙側に張り出す。南は5号煙と斜交しつつ並列する。北は小段差を介して3号煙と接する。東西幅17.8m、南北長36mほどの範囲を占め、確認面積586.48m²。N-59°～63°-Eの方向で、60条以上の歓間溝が並列する。等高線とは並行に近い方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは17.8m、残りの良い部分での平均的な条間は52cm。5号・9号煙とは歓方向が異なるため、南東隅の4号平坦面より南東側では、歓間溝がこの差を埋めるように短くなる。南辺中央近くに4号平坦面がある。

5号煙 26-81-E～I-1～8グリッド 最高位標高543.8m、最低位標高542.4m。第4区画西部にある。2号煙の東にある。南西部は復旧坑1群に擾乱される。東辺北部は9号煙、中部は10号煙、南部は11号煙とそれぞれ直列する。西は2号煙と直列し、南は6号煙と接する。北は4号煙と斜交しつつ並列する。東西幅14.3m、南北長25.2mほどの範囲を占め、確認面積334.98m²。N-81°～83°-Eの方向で、5条の歓間溝が並列する。等高線とはやや斜行する。最も長く確認できる歓間溝の長さは14.3m、残りの良い部分での平均的な条間は50cm。6号煙とは歓方向が異なるため、5号平坦面以南は煙の南東隅を埋めるように歓間溝が短くなる。北部のほうが歓間溝間隔がやや密で、南部ではやや聞く。南部中央近くに5号平坦面がある。

6号煙 26-71/81-F～I-23～2グリッド 最高位標高544.6m、最低位標高543.7m。第4区画西南部にある。2号煙の東、5号煙の南にある。東辺北部は11号煙、南部は12号煙と直列する。西辺は南部が擾乱されるが、2号煙と直列する。南は小段差を介して、やや高い位置

にある7号煙と接する。北は5号煙と斜交しつつ並列する。東西幅13.3m、南北長10.95mほどの範囲を占め、確認面積103.88m²。N-84°-Wの方向で、22条の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは13.3m、残りの良い部分での平均的な条間は52cm。

7号煙 26-71-F～I-23・24グリッド 最高位標高545.15m、最低位標高544.8m。第4区画南端にある。2号・6号煙の南で、16号道との間にある狭小な煙である。東から北にかけて小段差があり、6号煙、12号煙と並ぶ。西は擾乱により把握できない。南は16号道に接する。東西幅18.8m、南北長2.4mほどの範囲を占め、確認面積31.37m²。中央に歓間溝端が入り組むように見られて、東西2群に分かれる。東群6条、西群は2条分が認められた。東群はN-84°-W、西群はN-62°-Wの方向で、等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝は、東群では9.6m、西群では8m、残りの良い部分での平均的な条間は48cm。

8号煙 26-81-B～I-12～20グリッド 最高位標高542.1m、最低位標高540.0m。第4区画中部西寄りにある。4号煙の東にある。復旧坑2群第3列～5列部分に当たり、全体が大きく擾乱されているため、全容が把握できない。復旧坑間で認められた歓間溝の間隔及び方向がほぼ揃う部分を、一括して8号煙としたものである。東は北端は33号建物の直前で歓間溝が完結する。この南では15号・16号煙と斜交しつつ直列する。16号煙との境界は復旧坑2群第5列南部に相当する位置に歓間溝終端が表現されているところから、これに従った。西は4号煙と接するが、復旧坑群に乱されて、境界は不明瞭である。復旧坑第2群第2列下の4号煙の歓間溝と、同第3列下の歓間溝が方向を異にするところから、両復旧坑列の境界を煙境界に定めた。南は9号煙と斜交しながら並列するが、境界は不明瞭である。復旧坑第3・4列南部に残された歓間溝痕跡は乱れており、東の16号煙を含めて、入り組んでいたかに見える。ここでは9号煙の北西隅及び北東端の比較的明瞭な歓間溝痕跡を北辺とし、以北を8号煙とした。西部では小段差を介して3号煙東部と接する。東部は擾乱を受けて不明瞭だが、崖端近くまで達していたかと思われる。東西幅32.8m、南北長34mほどの範囲を占め、確認面積555.32m²。N-58°-62°-



第86図 第4区画部分図4

Eの方向で、50条以上の畝間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交するものと思われる。残りの良い部分での平均的な条間は53cmほどある。平坦面は確認できない。

9号煙 26-81-B～F-6～12グリッド 最高位標高543.0m、最低位標高542.4m。第4区画中部西寄りにある。4号・5号煙の東にあたる。東は19号煙と斜交しつ

つ直列する。西辺北部は4号煙と斜交しつつ直列し、南部は5号煙とほぼ直列する。南は10号煙と、北は8号煙と斜交しつつ並列する。東西幅16.6～11.6m、南北長23mほどの範囲を占め、確認面積302.71m²。N-84°～89°-Eの方向で、51条の畝間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる畝間溝の長さは

16.6m、残りの良い部分での平均的な条間は46cm。北東部は19号烟が西に張り出す。中央近くに6号、南端中央に7号平坦面がある。

10号烟 26-81-C～E-3～6グリッド 最高位標高543.6m、最低位標高543.0m。第4区画西南部にある。5号烟の東にあたる。東辺北部は19号烟、南部は11号烟、西は5号烟と直列する。南は11号烟と並列する。北は9号烟とやや斜行しつつ並列する。東西幅9.1～9.9m、南北長13.2mほどの範囲を占め、確認面積138.69m²。N-82°-Wの方向で、28条の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは9.9m、残りの良い部分での平均的な条間は49cm。中央東寄りに8号平坦面がある。

11号烟 26-81-B～E-1～5グリッド 最高位標高543.8m、最低位標高543.2m。第4区画南西部にある。10号烟南部で、特に条間の広い部分と、9号屋敷東のやはり条間の広い部分を一括して11号烟とした。10号烟南東部を囲み、東部は9号屋敷に沿うL字状の平面形を呈する。10号烟東辺の延長部に歓間溝の境界があり、東西2群に分かれ。東は9号屋敷14号建物の西辺に沿う。西は北部は10号烟と直列し、南部は5号烟と斜交気味に直列する。南は12号烟と並列する。北は西部は10号烟、東部は19号烟と並列する。東西幅2.6～11.4m、南北長は東群で21.3m・西群で6mほどの範囲を占め、確認面積98.95m²。東群N-77°-W、西群N-84°-Wの方向で、東群43条、西群6条の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝は東群4.0m、西群8.6m、残りの良い部分での平均的な条間は東群51cm、西群86cm。21号烟と共に、9号屋敷に付随する烟と見られる。

12号烟 26-71/81-A～E-23～2グリッド 最高位標高544.6m、最低位標高543.6m。第4区画南端にある。6号烟の東にあたる。全体に微弱な歓間溝痕跡で、北西部は溝端部が把握されているが、他は明瞭ではない。東は20号烟と直列するものと思われる。条間が異なることから別の烟としたが、両烟ともに歓間溝端部が把握できない。西は6号烟と直列する。南は45号溝、16号道に画される。北は11号烟と並列する。東西幅13.9m、南北長13.6mほどの範囲を占め、確認面積187.72m²。N-81°-Wの方向で、27条の歓間溝が並列する。等高線とは斜

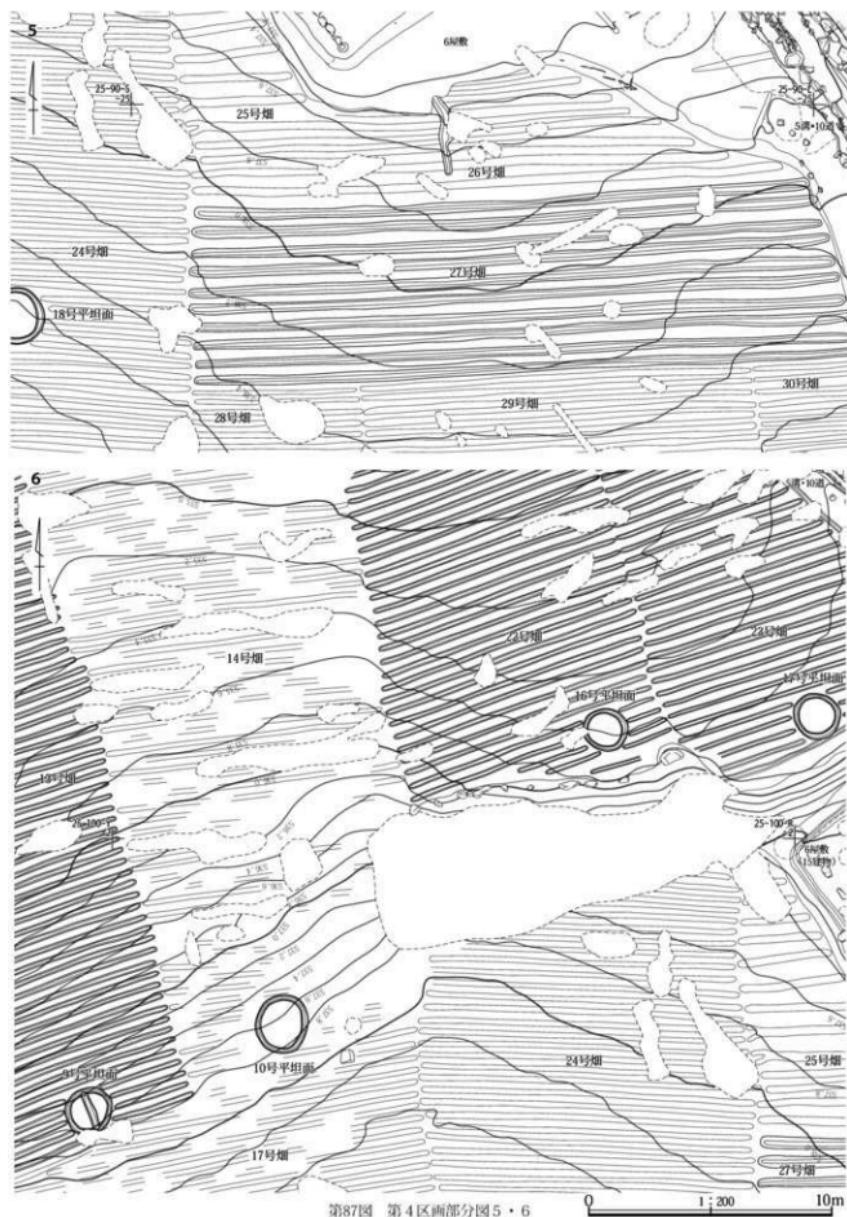
交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは13.9m、残りの良い部分での平均的な条間は52cm。

13号烟 25-90/100・26-81/91-X～C-22～5グリッド 最高位標高537.8m、最低位標高534.7m。第4区画北西端にあたる。14号烟の西、15号烟の北にある。東は14号烟と直列する。西は発掘区界に至る。南は15号烟、16号烟と斜交気味に並列する。北は発掘区界に至る。東西幅16m以上、南北長26.4mほどの範囲を占め、確認面積254.67m²。N-68°-Eの方向で、57条の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは14m、残りの良い部分での平均的な条間は47cm。南端東寄りの16号烟との境界に接するように、9号平坦面がある。

14号烟 25-90/100-V～Y-24～5グリッド 最高位標高537.9m、最低位標高534.9m。第4区画北端、13号烟の東にあたる。東は21号烟、西は13号烟と直列し、南は16号烟と並列する。北は発掘区界に至る。東西幅12m、南北長26.2mほどの範囲を占め、確認面積301.79m²。東西の13号烟、21号烟の歓間溝が明確に捉えられているのに対して、この烟は歓間溝の痕跡のみが断続的に残されている。泥流等による削剝、攪乱ではなく、農作業の段階が異なるものと思われる。歓/歓間溝は等高線とは平行気味に斜交するものと思われる。南端中央、16号烟との境界に接するように10号平坦面がある。

15号烟 26-81-A～E-17～21グリッド 最高位標高540.7m、最低位標高539.8m。第4区画中部北寄りにあたる。8号烟の東にあたる。33号建物が北東隅にあって、これを囲むようなL字状の平面形を呈す。ほぼ全面が復旧坑2群第5列に搅乱され、復旧坑の間に僅かに歓間溝痕跡が残されているのみなので、全体の把握は困難である。33号建物の西辺に沿った短い歓間溝痕跡(北群)と、同建物南辺以南の長い歓間溝痕跡(南群)の2者に分かれ、北群のほうが残りが良い。東は8号烟と直列するものと思われるが、両烟共に復旧坑下にあって、詳細が把握できない。北端では33号建物西辺と並行する。平面図上の溝表現が両烟を分けるものとした。西は16号烟と斜交しつつ直列する。南は18号烟と斜交しつつ並列するものと思われる。北は特定の境界施設なく歓間溝が捉えられなくなるが、33号建物北辺縫以北がやや急な傾斜面となつてお、これに沿うような区画があったものと思わ

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第87図 第4区画部分圖5・6

れる。東西幅は北群3.1m、南群11.4m、南北長14.1mなどの範囲を占め、確認面積109.66m²。北群N-43°-E、南群N-50°~55°-Eの方向で、北群7条、南群11条の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。残りの良い部分での平均的な条間は北群57cm、南群56cm。

16号畑 25-90/26-81-X～B-19～23グリッド 最高位標高540.3m、最低位標高538m。第4区画中部北寄りにある。13号畑の南にあたる。東辺、北辺は直線的であるが、地形変化に応じて、南西辺が15号畑東辺、18号畑北辺を弧状に継ぎ、扇形の平面形を呈する。東は17号畑と直列する。北西隅は33号建物との間に浅い溝がある。これに並ぶ。北は13号畑と並列する。東西幅10.5m、南北長17.8mなどの範囲を占め、確認面積162.55m²。N-80°-Eの方向で、36条の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは10.5m、残りの良い部分での平均的な条間は51cm。

17号畑 25-90-U～Y-18～25グリッド 最高位標高540.2m、最低位標高537.8m。第4区画中部東寄りにある。16号畑の東にあたる。東は24号畑と直列する。西は16号畑と直列する。南は東部は19号畑、西部は16号畑と斜交気味に並列する。南東部は隅に向けて徐々に歓間溝長を減ずる。北は東部は14号畑、西部は13号畑と斜交気味に並列する。北東部も、隅に向けて徐々に歓間溝長を減ずる。東西幅14.7m、南北長24.9mなどの範囲を占め、確認面積335.88m²。N-80°-Eの方向で、51条の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは14.7m、残りの良い部分での平均的な条間は50cm。中央部南西寄りに11号平坦面、南辺中央の、18号畑と19号畑の境界近くに12号平坦面がある。

18号畑 25・26-90・81-W～B-11～19グリッド 最高位標高541.9m、最低位標高540.1m。第4区画中部にある。8号畑の東、15号畑の南東にあたる。東は19号畑と直列する。南端部は8号屋敷に接する。西辺北部は15号畑と斜交する。南部は8号畑と斜交しつつ直列する。南は20号畑と斜交する。北は16号・17号畑と斜交気味に並列する。北端の3～4条は16号畑の南辺から西辺に廻るような弧状を呈する。東西幅14.1m、南北長31mなどの

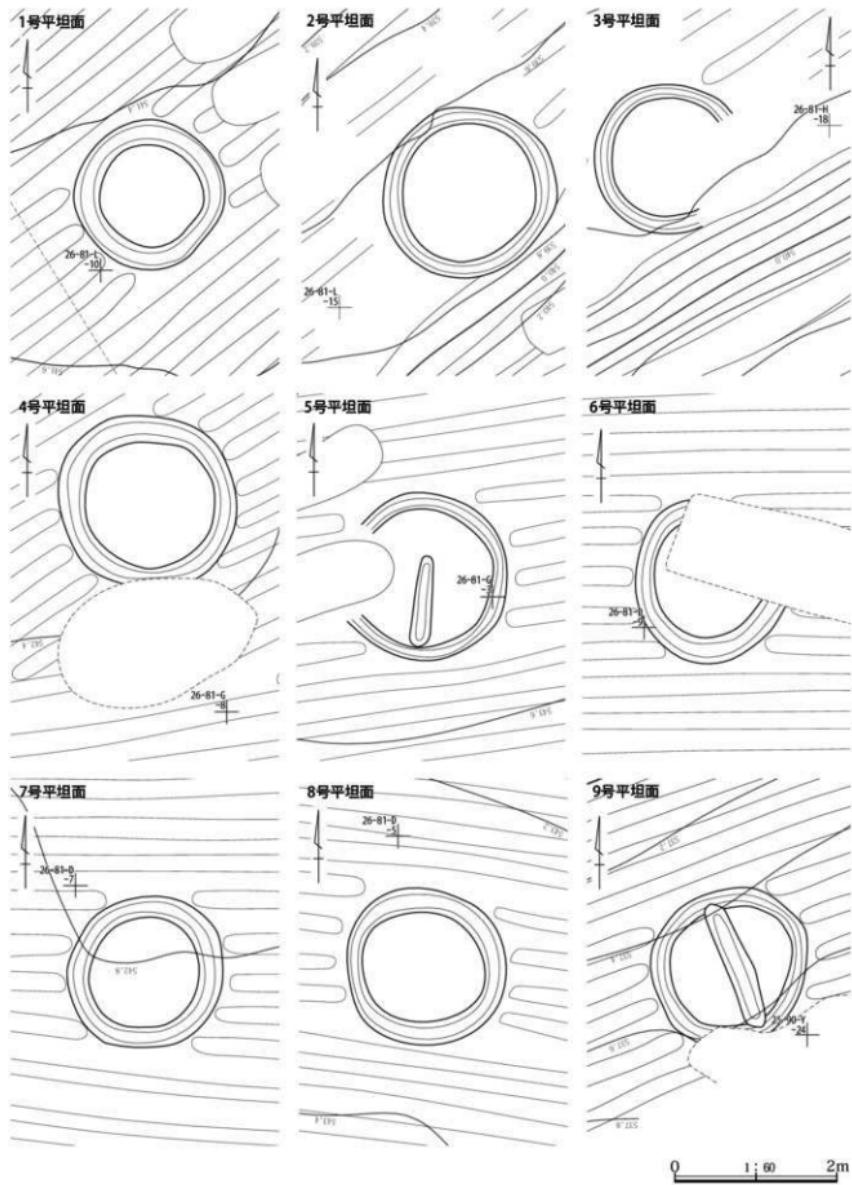
範囲を占め、確認面積393.83m²。N-84°-Wの方向で、62条の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは14.1m、残りの良い部分での平均的な条間は51cm。北西部は復旧坑2群第5列の南部にかかり、擾乱される。南部は20号屋敷北辺の歓間溝との角度差を埋めるように、徐々に長さを減じる。また、条間もやや広くなる。中央南寄りに13号、南端部中央に14号平坦面がある。

19号畑 25-90-U～X-12～18グリッド 最高位標高541.5m、最低位標高539.8m。第4区画中部にある。18号畑の東にあたる。東は24号畑と直列する。西は18号畑と直列する。南は8号屋敷北辺に達する。北は17号畑と斜交気味に並列する。東西幅12.1m、南北長23.2mなどの範囲を占め、確認面積262.78m²。N-81°-Wの方向で、47条の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは12.1m、残りの良い部分での平均的な条間は50cm。南端中央近くで、31号建物北辺に接するように15号平坦面がある。

20号畑 25・26-90・81-Y～B-5～11グリッド 最高位標高542.9m、最低位標高541.9m。第4区画西部にある。9号畑の東にあたる。東は30号建物の北辺に沿う。西は9号畑、10号畑と直列する。南は11号畑と並列する。北は18号畑と接する。東西幅8m、南北長18.3mなどの範囲を占め、確認面積185.42m²。N-73°-Wの方向で、39条の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは8m、残りの良い部分での平均的な条間は48cm。

21号畑 25-80/90・26-71/81-X～B-23～1 グリッド 最高位標高544.28m、最低位標高543.5m。第4区画南端の東隣にあたる。東は53号溝、27号道に画される。南東隅が16号道との交差部に当たり、道のゆがみに対応して歓間溝の長さが変化している。西は12号畑と直列するものと思われる。条間が異なることから別の畑としたが、両畑ともに歓間溝端部が把握できない。南は45号溝に画される。北は9号屋敷南辺に画される。東西幅8.1m、南北長12.4mなどの範囲を占め、確認面積99.51m²。N-76°-Wの方向で、18条の歓間溝が並列する。南部は等高線と平行気味、北部は斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは8.1m、残りの良い部分での平均的な条間は73cm。東部では歓間溝の上下端が明瞭

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第88図 第4区画平坦面 1

に捉えられている。11号烟と共に、歛間溝が明瞭で条間が広い。9号屋敷に付属する烟と思われる。

22号烟 25-100-S～V-2～6 グリッド 最高位標高536.1m、最低位標高534.5m。第4区画北端にある。14号烟の東にあたる。東は23号烟と直列する。西は14号烟と直列する。南はまばらな石列で以南と画される。南の23号烟との間は広く擾乱されているが、東の22号烟と6号屋敷の標高差が緩く仮定すると、石列の背後に小段差が形成されていたものと思われる。北は発掘区界に至る。東西幅10.3m、南北長16mほどの範囲を占め、確認面積167m²。歛間溝が良好に捉えられる。N-71°-Eの方向で、32条の歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは10.3m、残りの良い部分での平均的な条間は52cm。南東隅近くに16号平坦面がある。

23号烟 25-100-P～T-2～6 グリッド 最高位標高535.8m、最低位標高534.5m。第4区画北東端にある。6号屋敷との間の小段と5号溝及び道に規制されて、三角形に近い平面形を呈する。東は細い側溝状の溝を介して、5号溝西側に沿う道と接する。西は21号烟と直列する。南は6号屋敷北の小段下端を綴る小溝で画される。北は発掘区界に至る。歛間溝が良好に捉えられる。東西幅10.6m、南北長17.2mほどの範囲を占め、確認面積145.84m²。N-69°-Eの方向で、34条の歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは10.6m、残りの良い部分での平均的な条間は52cm。南辺や西寄りに17号平坦面がある。

24号烟 25-90・100-R～U-12～1 グリッド 最高位標高541.2m、最低位標高537.5m。第4区画東部西寄りにある。東は25号～28号烟と、西は17号・19号烟と直列する。南は7号屋敷の北辺に至る。西南端は短い歛溝が、屋敷地と9号・10号烟の間を埋めるように切られる。この部分は条間がやや広いかに見える。北は擾乱に切られ、把握できない。北東隅は6号屋敷の北西隅に接する位置にある。6号屋敷北側には小段差があるが、東の17号烟、14号烟間ではこれが認められていない。24号烟北辺のなかでこの段差が解消されるような地形が想定される。東西幅12.9m、南北長52.6mほどの範囲を占め、東西幅は比較的狭いが、南北方向の長は1枚の烟としては最も長い。N-90°の方向で、110条の歛間溝が並列する。

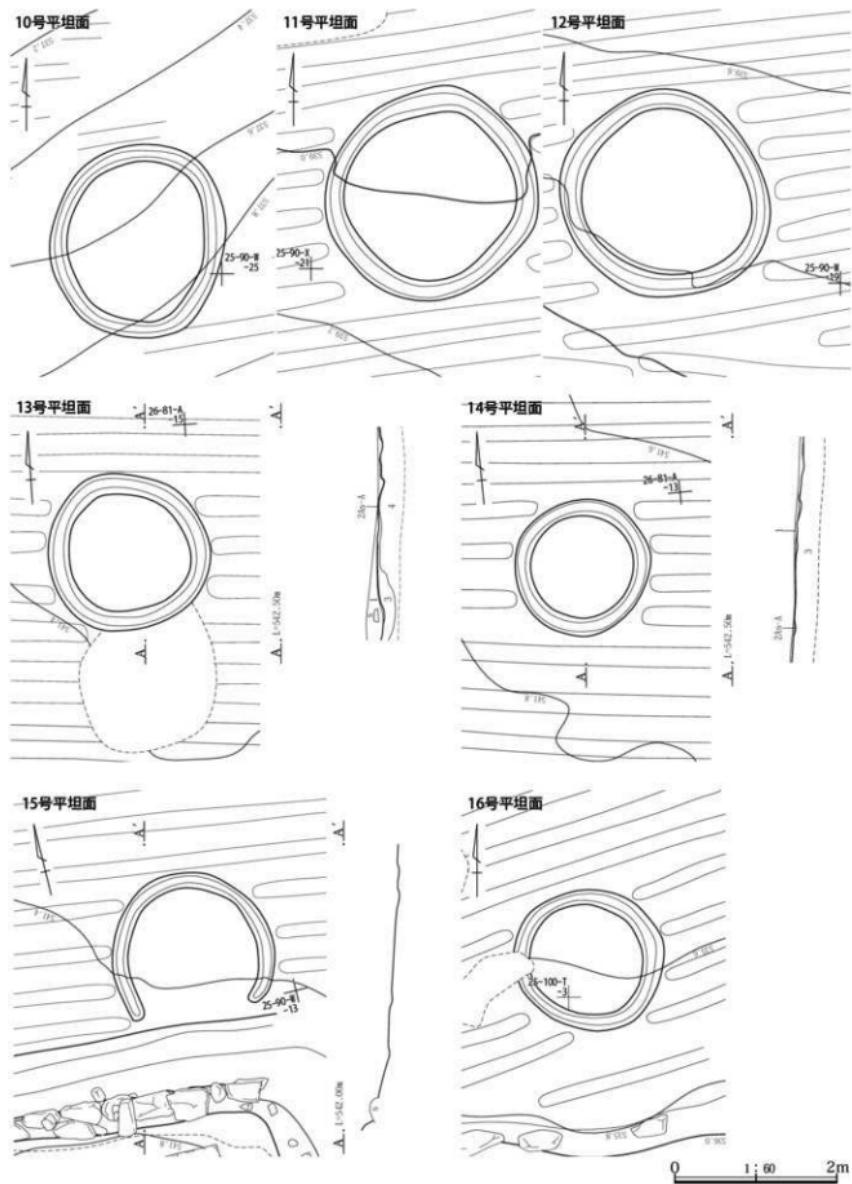
等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは12.9m、残りの良い部分での平均的な条間は48cm。確認面積639.24m²。北部中央に18号、中部中央に19号、南部中央に20号、南端や東寄りに21号平坦面がある。

25号烟 25-90・100-Q・R-24～1 グリッド 最高位標高537.8m、最低位標高537.2m。第4区画東端近くにある。東は6号屋敷の南西辺に至る。西は24号烟と直列する。南は26号烟と並列する。北は擾乱されるが、小段差上部に達するものと思われる。東西幅5.4m、南北長6.7mほどの範囲を占め、確認面積24.5m²。24号烟と6号屋敷に挟まれた三角形の平面形を呈する。N-83°-Eの方向で、8条の歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは5.4m、残りの良い部分での平均的な条間は96cm。26号烟より条間が広いが、共に6号屋敷に付属する烟であろう。

26号烟 25-90-L～R-24・25グリッド 最高位標高538.0m、最低位標高537.2m。第4区画東端中部にある。東から北にかけて6号屋敷に接し、これに付属する烟と思われる。東西に長い、ゆがんだ台形状の平面形を示す。西は24号烟と直列する。南は27号烟と並列する。27号烟より歛間溝の痕跡が弱い。北西部は25号烟と並列する。東西幅20.1m、南北長4.6mほどの範囲を占め、確認面積86.71m²。N-87°～89°-Eの方向で、8条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは20.06m。25号・27号と共に条間が広めで、残りの良い部分での平均的な条間は66cm。

27号烟 25-90-K～R-22～24グリッド 最高位標高538.5m、最低位標高537.7m。第4区画東端中部にある。東は5号溝、10号道に接する。西は24号烟と直列する。南は28～30号烟と並列する。北は26号烟と並列する。25号・26号と共に、6号屋敷に付属する烟と思われる。東西幅25.7m、南北長6.4mほどの範囲を占め、確認面積86.9m²。N-87°～89°-Eの方向で、9条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは25.7m、残りの良い部分での平均的な条間は80cm。26号烟より歛間溝痕跡が明瞭で、条間も広い。

28号烟 25-90-P～R-13～22グリッド 最高位標高



第89図 第4区画平坦面2

540.4m、最低位標高538.3m。第4区画東部西寄りにある。南端部は残りが良く、歛間溝が明確に捉えられる。東は25号烟と直列する。西は24号烟と直列する。南は10号道から7号屋敷に至る小道に接する。西部は道のカーブに従うように南に延びる。北は27号烟と並列する。東西幅9m、南北長35mほどの範囲を占め、確認面積231.53m²。N-87°-89°-Eの方向で、73条の歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは9m、残りの良い部分での平均的な条間は49cm。

29号烟 25-90-L～P-15～22グリッド 最高位標高539.7m、最低位標高538.2m。第4区画東部東寄りにある。東は30号・31号烟と直列する。また、22号建物西邊に接する。西は28号烟と直列する。南は10号道から7号屋敷に至る小道に接する。北は27号烟と並列する。東西幅は北部で16.3m、南部13.4m、南北長25.13mほどの範囲を占め、確認面積353.33m²。N-87°-89°-Eの方向で、53条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは16.3m、残りの良い部分での平均的な条間は48cm。南端西寄りに22号平坦面がある。

30号烟 25-90-K・L-21・22グリッド 最高位標高538.6m、最低位標高538.4m。第4区画東端南寄りにある。東は10号道に接する。西は29号烟と直列する。南は22号建物北辺と接する。北は27号烟と並列する。東西幅4.88m、南北長4.2mほどの範囲を占め、確認面積20.85m²。N-86°-Eの方向で、9条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは4.88m、残りの良い部分での平均的な条間は53cm。ごく小さな烟で、31号烟と共に22号建物の付属烟と見られるが、条間は比較的狭く、29号烟の一部とも見られる。

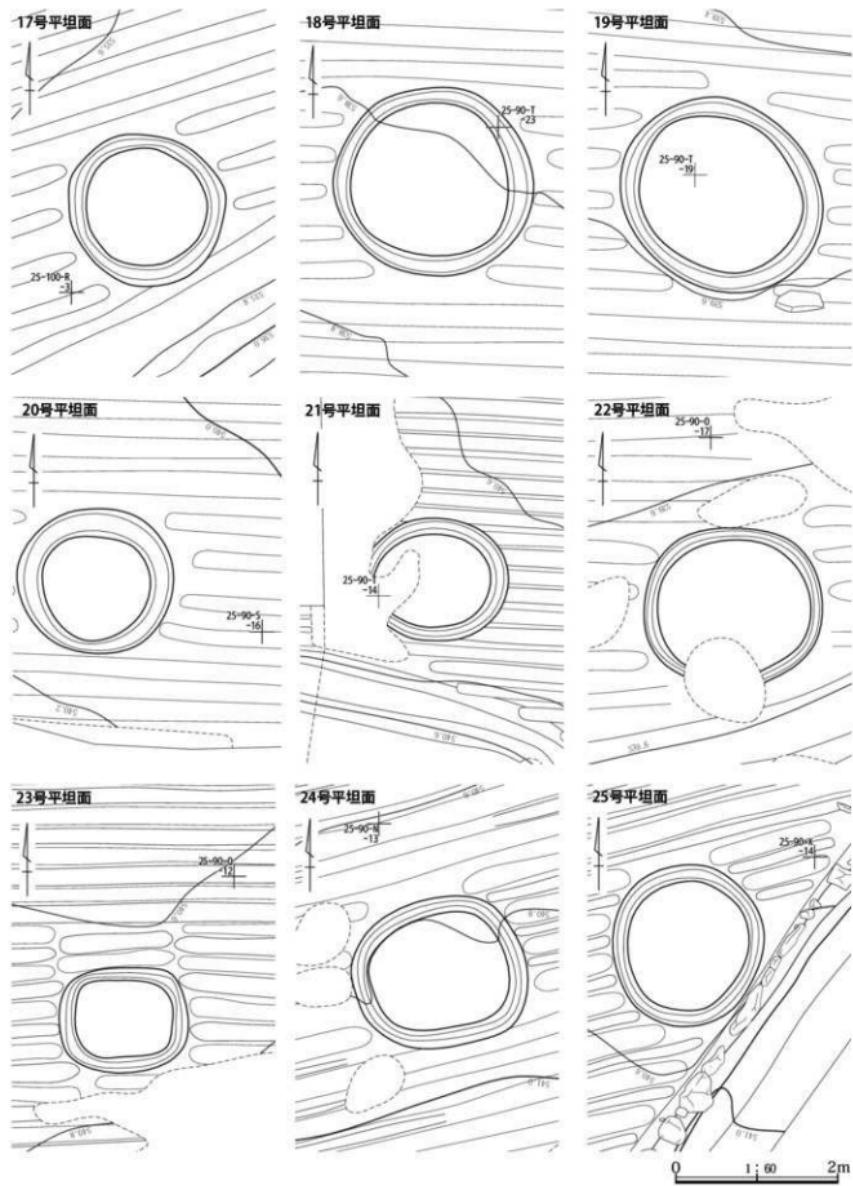
31号烟 25-90-K・L-17～19グリッド 最高位標高539.2m、最低位標高538.9m。第4区画東端南寄りにある。東から南にかけて、10号道及びこれから派生する7号屋敷につながる小道に接する。西は29号烟と直列する。北は22号建物南辺に接する。東西幅6.95m、南北長7.4mほどの範囲を占め、確認面積43.4m²。N-89°-Eの方向で、10条の歛間溝が並列する。等高線とはほぼ平行する。最も長く確認できる歛間溝の長さは6.95m、残りの

良い部分での平均的な条間は82cm。歛間溝が良好に捉えられ、条間が広い。22号建物の付属烟と見られる。

32号烟 25-90-P～R-10～14グリッド 最高位標高540.8m、最低位標高540.0m。第4区画東部南端西寄りにある。歛・歛間溝が比較的明瞭にとらえられている。東は33号烟と直列する。西は7号屋敷東辺の小道に接する。南は21号道下の石列に画され、北は7号屋敷につながる小道に接する。東西幅8.1m、南北長16.8mほどの範囲を占め、確認面積89.24m²。N-87°-89°-Eの方向で、23条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。北端は小道との間を埋めるように、33号烟の歛間溝が西に張り出す。最も長く確認できる歛間溝の長さは8.1m、残りの良い部分での平均的な条間は北部59cm、南部51cm。南端近くの中央に23号平坦面がある。

33号烟 25-90-L～Q-11～15グリッド 最高位標高541.2m、最低位標高539.6m。第4区画東部南端中央にある。東は34号烟と直列する。西は32号烟と直列する。南は21号道に達する。南西隅に61号復旧坑がある。南部の24号平坦面南端部に接する歛から南側では、歛・歛間溝が34号烟と連続し、両煙の境界がなくなる。北は7号屋敷につながる小道に接する。北端から9条は西に延びて、32号烟北辺をなす。東西幅14.4m、南北長17.6mほどの範囲を占め、確認面積232m²。N-76°-Eの方向で、35条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは14.4m、残りの良い部分での平均的な条間は52cm。南端近くの東寄りに24号平坦面がある。

34号烟 25-90-I～M-11～18グリッド 最高位標高539.9m、最低位標高539.6m。第4区画東南端にある。東は北部は5号溝・10号道に接する。4条の歛間溝が道に沿いながら煙を囲むように方向を変えて切られる。南部は石列を介して35号烟と接する。西は33号烟と直列する。南は15号石垣を介して21号道に接する。北は7号屋敷につながる小道に接する。北端の歛間溝は道のカーブに沿って屈曲する。西部には石列をなしていたかと思われる礫が点在する。東西幅15m、南北長25.2mほどの範囲を占め、確認面積226.29m²。N-83°-Eの方向で、44条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは15m、残りの良い部分での平均的な条間は55cm。南端西部に25



第90図 第4区画平坦面3

号平坦面がある。

35号烟 25-90-I-16・17グリッド 最高位標高540.3m、最低位標高540m。第4区画東端に三角形状に突き出した小さな烟である。南東の21号道、北東の10号道、西の34号烟との間をいずれも石列で囲む。東西幅4.8m、南北長2.8mほどの範囲を占め、確認面積12.41m²。N~O°の方向で、3条の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは3.8m、残りの良い部分での平均的な条間は60cm。

2 平坦面

25基の平坦面がある。復旧坑群に攪乱された部分は判然としないが、小規模な烟を除いては各烟に作られ、また、24号烟に特徴的に見られるように、南北に長い烟区画に従って、南北方向に列状をなす傾向が見える。また、13・14号、22・23号、32~34号烟のように南北長の短い烟にあっては、南端中央に平坦面が作られている。14号烟にある10号平坦面は烟の歓間溝が痕跡的に残されるのみであるにもかかわらず、平坦面は明瞭に残されていて、烟面が保存環境によって乱されたものではないことが示されると同時に、平坦面形成後に畠立てなどの耕作が行われるという農作業の過程が示唆されるものと見て良いだろう。屋敷周りの小規模な烟や、特に条間の広い烟には平坦面は見られない。

1号平坦面 26-81-K・L-10グリッド 1号烟北東部にある。南部が復旧坑1群に大きく切られるため、1号烟で確認された平坦面はこれのみである。北東の2号平坦面まで18.5m、南東の4号平坦面まで17.5m。標高541.42~541.51m。円形の平面形を呈する。外径174~181cm、平坦面溝幅30.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

2号平坦面 26-81-K-15グリッド 3号烟西部で、南側斜面に接するようある。東の3号平坦面まで14.1m。標高539.59~539.72m。円形の平面形を呈する。外径204~218cm、平坦面溝幅26.5cm。中央溝は確認されていない。中央溝の長110cm、幅25cm、深さ3cm。歓間溝は平坦面溝直前で完結する。

3号平坦面 26-81-H-17・18グリッド 3号烟東部で、南側斜面に接するようある。標高539.04~539.25m。南東部が確認できないが、円形を呈したものであろう。

外径183cm、平坦面溝幅17.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

4号平坦面 26-81-F・G-8グリッド 4号烟南端中央近くにある。北の2号平坦面までは、復旧坑2群を挟んで30m以上離れる。ほぼ真南にあたる5号平坦面まで22.25m、東の6号平坦面までは13.95mある。標高542.28~542.38m。円形の平面形を呈する。外径210~220cm、平坦面溝幅32.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。西部では、平坦面の形状に合わせるかのように、短い歓間溝を加える。

5号平坦面 26-81-F・G-2・3グリッド 5号烟南部中央近くにある。南辺の45号溝まで15mほど。北東の8号平坦面まで14mある。標高543.50~543.56m。円形の平面形を呈する。外径205cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は平坦面南端から直径の2/3ほどまで南北に延びる。歓間溝とはほぼ直交する方向にある。歓間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

6号平坦面 26-81-C-8・9グリッド 9号烟中央近くにある。ほぼ真南にある7号平坦面まで9.5m。標高542.44~542.51m。南北に僅かに長い偏円形の平面形を呈する。外径190~200cm、平坦面溝幅30cm。中央溝は確認されていない。中央溝の長165cm、幅30.5cm、深さ9cm。歓間溝は平坦面溝直前で完結する。

7号平坦面 26-81-C・D-6グリッド 9号烟南部やや東寄りにある。南の8号平坦面まで8.5m。標高542.78~542.87m。円形の平面形を呈する。外径187~191cm、平坦面溝幅28.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。西部では、平坦面の形状に合わせるかのように、短い歓間溝を加える。

8号平坦面 26-81-C・D-4グリッド 10号烟中央やや東寄りにある。烟の南辺まで27.5mほど。南西の5号平坦面との間は14mほどある。標高543.23~543.28m。円形の平面形を呈する。外径190~195cm、平坦面溝幅22.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝直前で切り合わずに完結する。

9号平坦面 26-81-Y-23・24グリッド 13号烟南端東寄りにある。東の10号平坦面まで6.5m、南東の11号平

坦面までは12mほどある。標高537.49～537.55m。南西の一部を擾乱されるが、ほぼ円形の平面形を呈する。外径183～200cm、平坦面溝幅21.5cm。中央溝は北西-南東方向に延びる。歛間溝とは直行する方向である。歛間溝は平坦面溝直前で切り合わずに完結する。

10号平坦面 25-90-V・W-24・25グリッド 14号烟南端中央にある。南西の11号平坦面まで13mほど。標高537.48～537.87m。南北に長い長円形の平面形を呈する。外径213～235cm、平坦面溝幅22cm。中央溝は確認されていない。微弱な歛間溝のみの畑であるが、平坦面溝は明瞭に残されており、歛間溝を切るように見える。

11号平坦面 25-90-W-20・21グリッド 17号烟中央部南西寄りにある。南の12号平坦面までは5.3mと近い。北東の18号平坦面までは12.6m。標高538.93～539.09m。ゆがんだ円形ないし胴張りの強い丸方形状の平面形を呈する。外径247～265cm、平坦面溝幅27cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

12号平坦面 25-90-W-18・19グリッド 17号烟南端中央からやや西寄りにある。東の19号平坦面まで11.5m、南西の13号平坦面まで19mある。標高539.66～539.82m。ゆがんだ円形の平面形を呈する。外径235～257cm、平坦面溝幅26.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

13号平坦面 26-81-A-14/25-90-Y-14グリッド 18号烟の中央南よりにある。南の14号平坦面まで5.6m。標高541.29～541.33m。円形の平面形を呈する。外径191cm、平坦面溝幅22.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で完結する。

14号平坦面 26-81-A-12グリッド 18号烟の南部西寄りにある。東の15号平坦面まで10.5m。標高541.67～541.74m。円形の平面形を呈する。外径165cm、平坦面溝幅19.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で完結する。

15号平坦面 25-90-W-13グリッド 19号烟南端の、8号屋敷との境界にある。この畑では唯一の平坦面で、東の21号平坦面までは12.5m、北の12号平坦面までは24mほど離れる。標高541.33～541.41m。南端の開くC字状の平面形を呈する。外径198cm、平坦面溝幅20.5cm。中

央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

16号平坦面 25-100-S・T-2・3グリッド 22号烟南端近くの東寄りにある。西の10号平坦面まで16m、東の17号平坦面まで6.5mある。標高535.5～535.7m。円形の平面形を呈する。外径170～178cm、平坦面溝幅21.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で完結する。

17号平坦面 25-100-Q-3グリッド 23号烟南端やや西寄りにある。南の段差下端を縫る小溝に僅かにくい込む。標高535.71～535.74m。円形の平面形を呈する。外径187～196cm、平坦面溝幅24cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、切り合わずに完結する。

18号平坦面 25-90-W・X-20・21グリッド 24号烟北部中央にある。南の19号平坦面まで13m。標高538.57～538.7m。円形の平面形を呈する。外径226～248cm、平坦面溝幅28.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

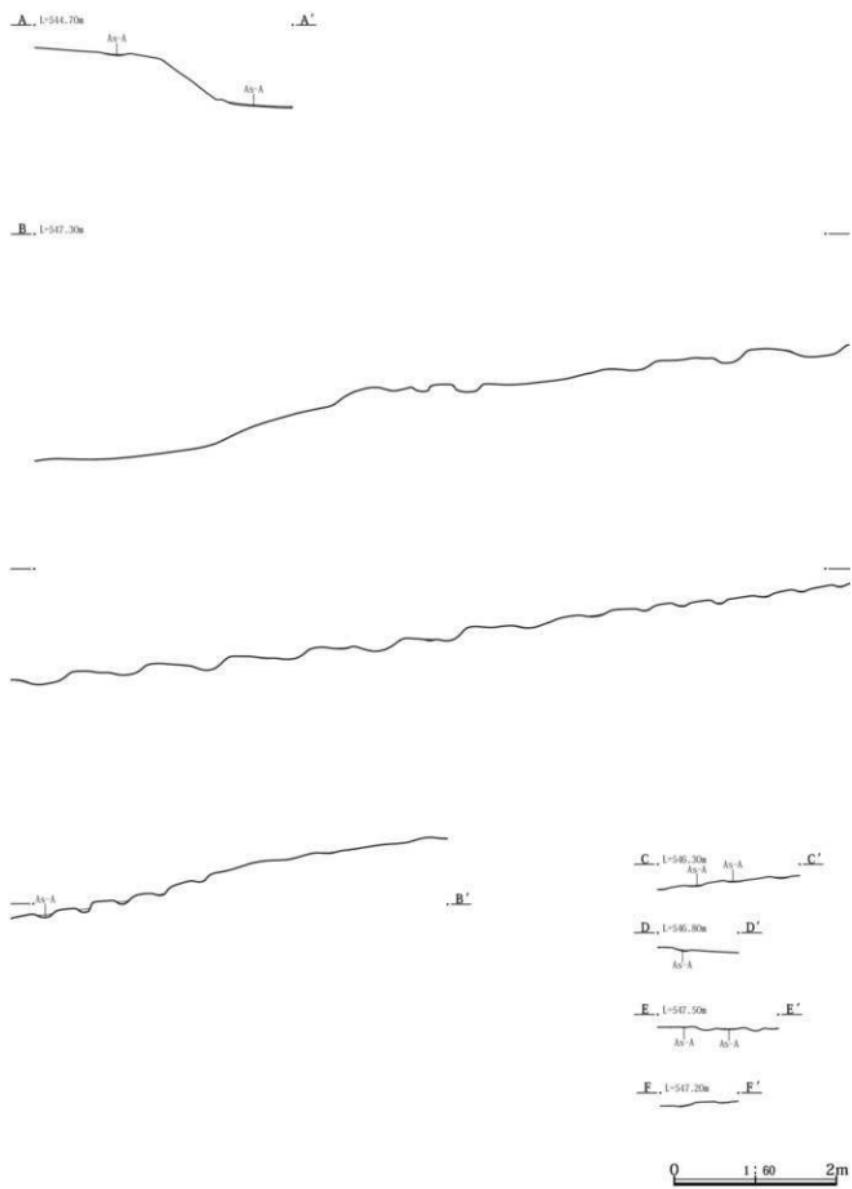
19号平坦面 25-90-S・T-22・23グリッド 24号烟中央近くにある。南の20号平坦面まで10m。標高539.48～539.59m。北西-南東に長い長円形の平面形を呈する。外径208～257cm、平坦面溝幅17.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

20号平坦面 25-90-S-15・16グリッド 24号烟南部の東寄りにある。南の21号平坦面まで8.5m、東の22号平坦面までは28号烟を挟んで18mある。標高540.02～540.14m。円形の平面形を呈する。外径131～191cmで、同一畑内の18・19号平坦面より一回り小さい。平坦面溝幅8.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

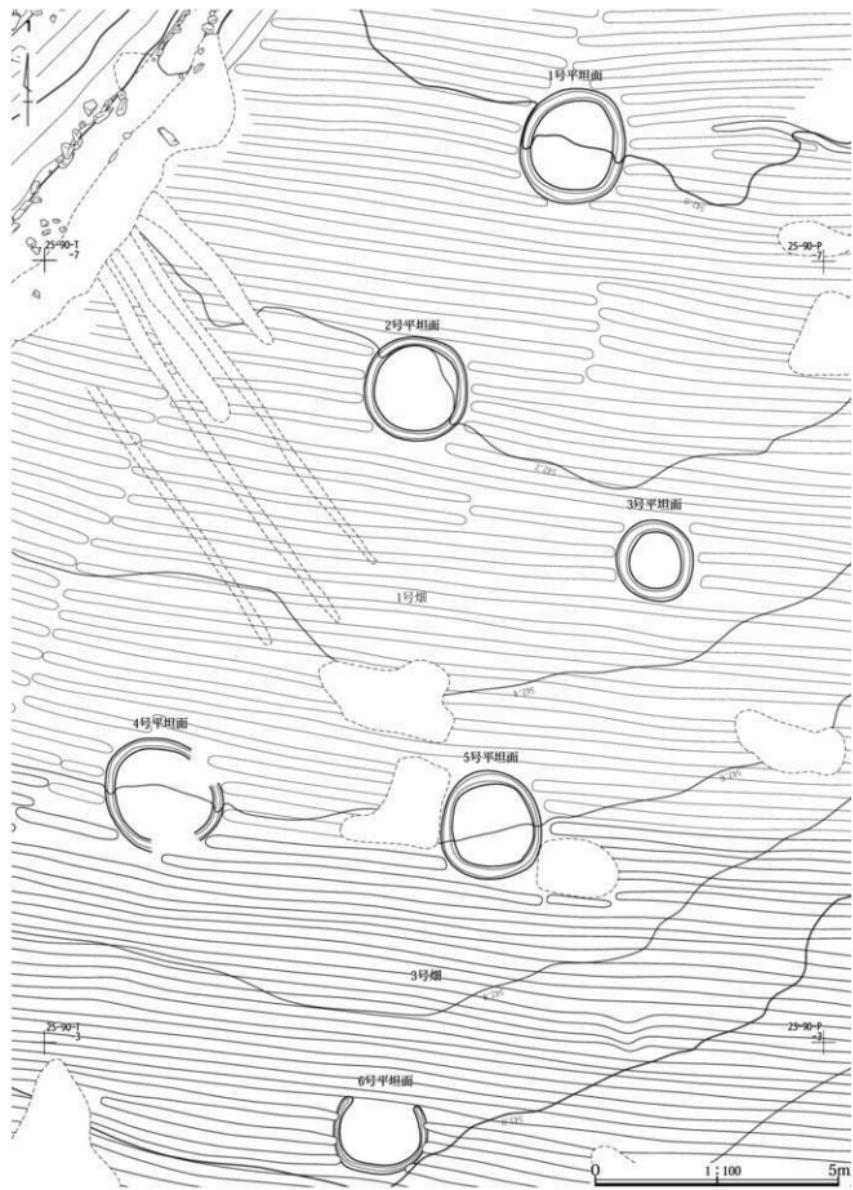
21号平坦面 25-90-S-13・14グリッド 24号烟南端やや東寄りにある。7号屋敷の北辺に近い。南東の23号平坦面までは14mある。標高540.63～540.69m。西部が擾乱されるが、やや東西に長い円形の平面形を呈するものと思われる。外径150～180cmで、20号平坦面と同じく小ぶりである。平坦面溝幅17.5cm。中央溝は確認されていない。歛/歛間溝が良好に残る部分であるが、平坦面溝がこれを切る。発掘時遺構名称6区1号平坦面。



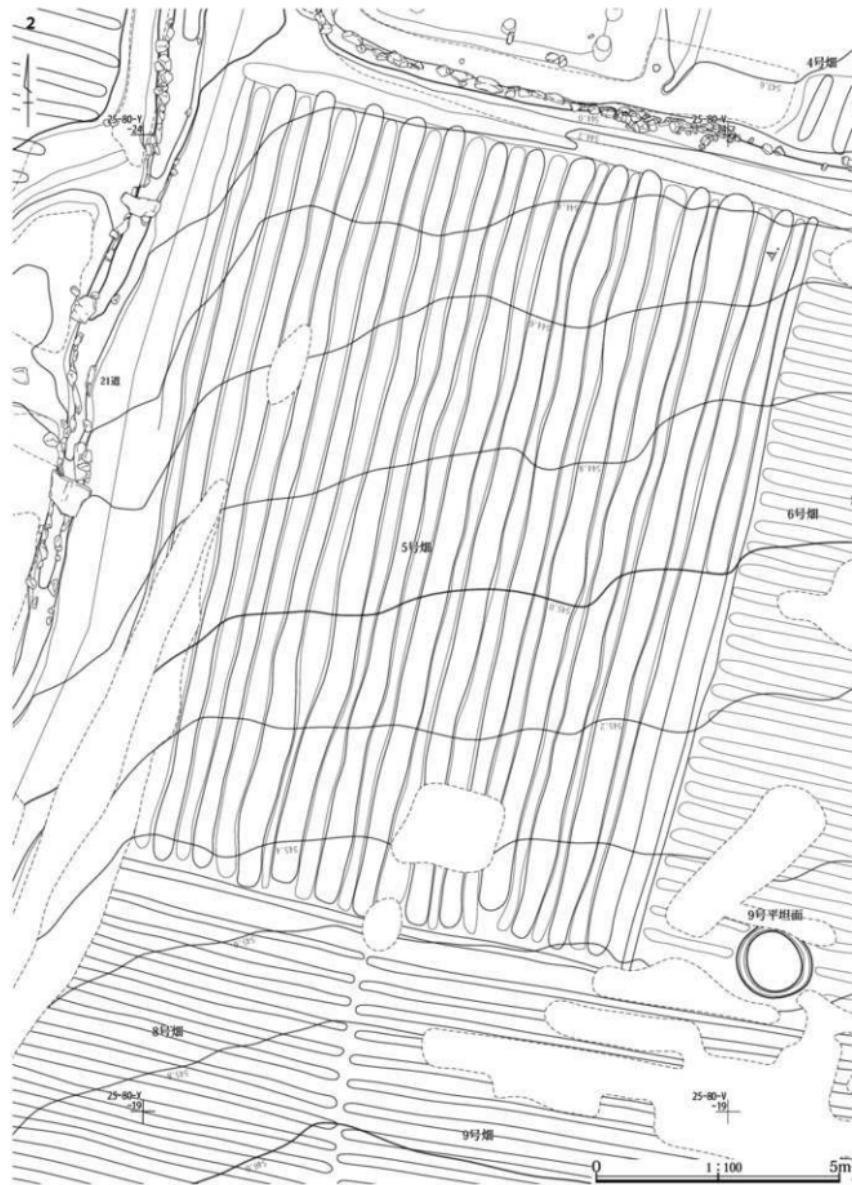
第91図 第5区画



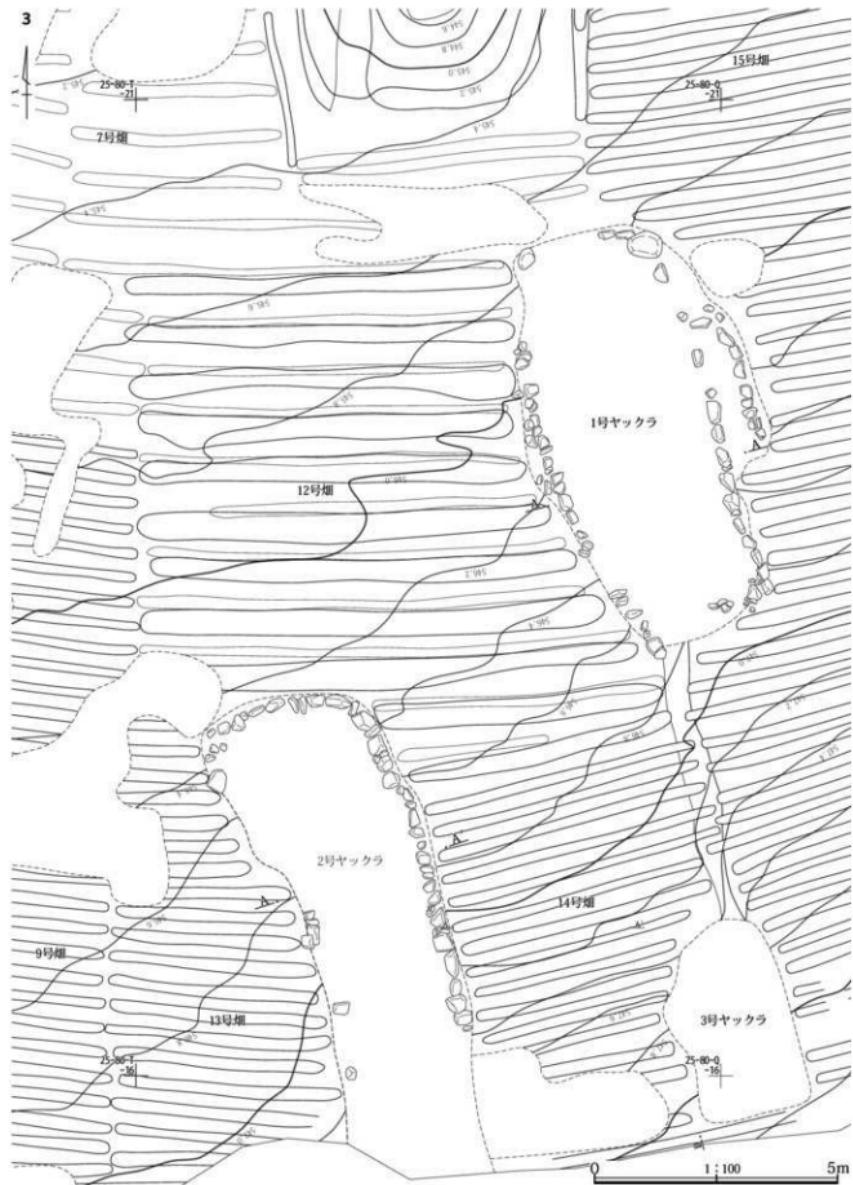
第92図 第5区画高低図



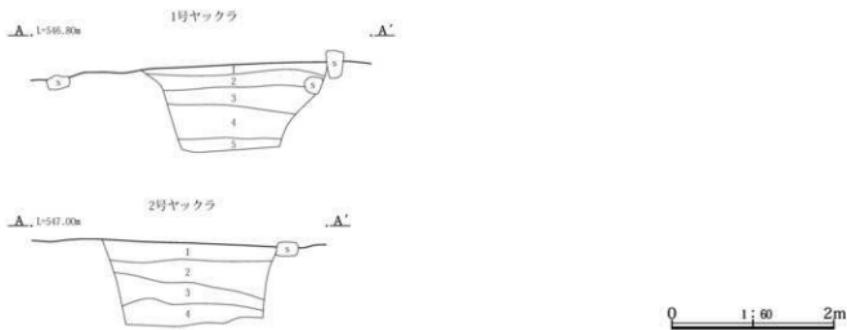
第93図 第5区画部分図1



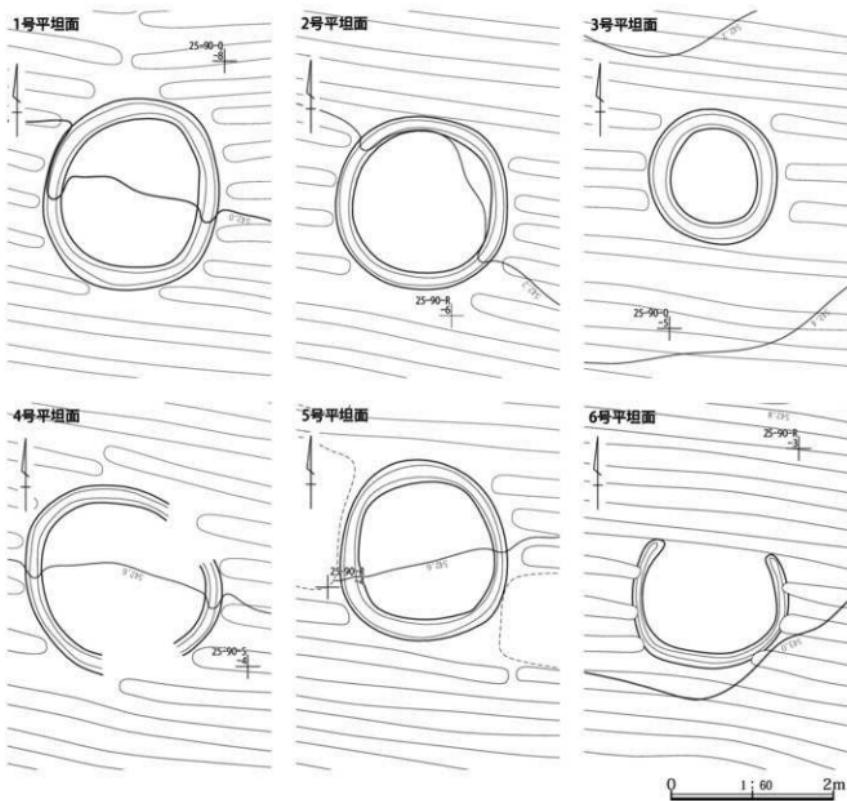
第94図 第5区画部分図2



第95図 第5区画部分図



第96図 第5区画ヤックラ断面



第97図 第5区画平坦面

22号平坦面 25-90-N・O-16グリッド 29号畠南辺西寄りにある。南東の24号平坦面まで16.5m。標高539.62～539.71m。部分的に擾乱を受けるが、円形の平面形を呈する。外径190～220cm、平坦面溝幅17.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。発掘時遺構名称6区2号平坦面。

23号平坦面 25-90-Q-11グリッド 32号畠南部中央にある。東の24号平坦面まで14.5m。標高540.61～540.72m。隅丸方形の平面形を呈する。外径130～160cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。発掘時遺構名称6区3号平坦面。

24号平坦面 25-90-M・N-12グリッド 33号畠南辺近くの西寄りにある。東の25号平坦面まで10.5m。標高540.75～540.9m。隅丸方形の平面形を呈する。外径185～210cm、平坦面溝幅21cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。発掘時遺構名称6区4号平坦面。

25号平坦面 25-90-K-13グリッド 34号畠の南東辺に接するようにある。標高540.49～540.59m。円形が基本と思われるが、15号石垣に規制されて南東部がややゆがむ。外径183～196cm、平坦面溝幅19.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

第8項 第5区画

25-80・90/26-71・81-N～D-8～11グリッドにかけて広がる。最高位標高548.4m、最低位標高540.66m。発掘区西端部の北西向きの緩傾斜部を占める。南西～北東に延びる21号道・53号溝と南北に走る14号道に挟まれ、南辺を発掘区界に限られて、三角形ないし狭い扇形の平面形を呈する。南北110m、東西65mほどの範囲を占める。北西部に21号道・53号溝に面した12号屋敷があり、14号道から分岐して蛇行する道が屋敷の南東辺に続く。南西部には1号～3号ヤックラがある。

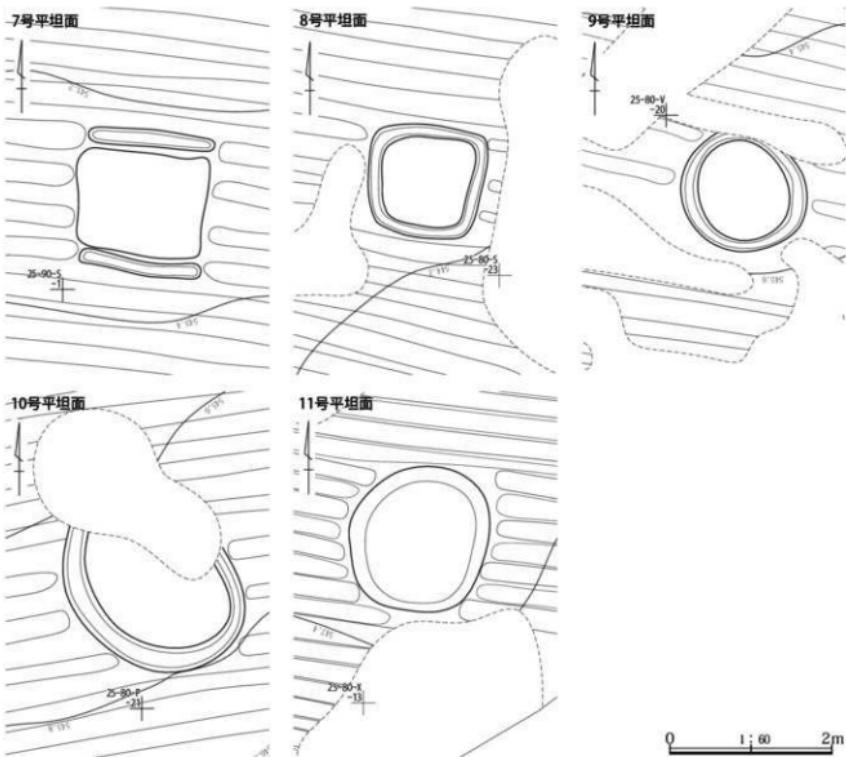
1号畠 25-80/26-71-N～U-4～10グリッド 最高位標高543m、最低位標高541.8m。第5区画北端にある。北部の1号平坦面北端以北、1号～2号平坦面間の東部、2号～3号平坦面間の中段及び2号から4号平坦面の西

部にかけて、歛間溝端が一端完結して、端部を接するように直列する部分や、やや食い違う部分が見られる。畠内がさらに複数の耕作単位に分けられる可能性がある。21号道・53号溝が緩やかな弧を描いて西辺を画し、14号道が直線的に東辺を画していて、斜辺が膨らみを持つ三角形状の平面形を呈する。南は2号・3号畠と並列する。東西幅25.1m、南北長27.6mほどの範囲を占め、確認面積488.1m²。N-84°～86°-W、南西部はN-73°-Wの方向で50条以上の歛・歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは19.4m、平均的な条間は58cm。平坦面が多く作られている、やや特異な畠である。北部に1号、中部に2号・3号、南端の3号畠との境界に4号・5号平坦面がある。

2号畠 25-90-T～W-1～4グリッド 最高位標高543.2m、最低位標高542.6m。1号畠の南にあたる。小さいが、整った四角形の平面形で、歛間溝の残りも良い。東は3号畠と直列する。西は21号道・53号溝に接する。南は12号屋敷に接する。北は1号畠と並列する。東西幅8.6m、南北長10.2mほどの範囲を占め、確認面積90.68m²。N-76°-Wの方向で22条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは8.6m、平均的な条間は49cm。北部は条間が僅かに広い。

3号畠 25-80・90-O～U-22～4グリッド 最高位標高544.3m、最低位標高542.5m。2号畠の東、1号畠の南にある。東は14号道に接する。西辺北部は2号畠と直列し、南部は12号屋敷と、南端では4号畠と接する。南は15号道から西に分岐して12号屋敷の西につながる道に接する。西部は石垣で画される。北は1号畠と並列する。東西幅22.6m、南北長28.5mほどの範囲を占め、確認面積459.81m²。N-83°-Wの方向で、52条の歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは22.6m、平均的な条間は56cm。3基の平坦面がある。北部の6号平坦面は円形、中部の7号、南端近くの8号平坦面は方形の平面形を呈し、平坦面溝の様相もそれぞれ異なる。

4号畠 25-80-U-23・24グリッド 最高位標高543.8m、最低位標高543.6m。12号屋敷の南東隅に付属するような小さな畠である。ごく短いが、歛・歛間溝が明瞭にとらえられている。東は3号畠に接する。3号畠の歛方向



第98図 第5区画平垣面2

とは直交する。西は北から西にかけて、12号屋敷に接する。南は12号屋敷につながる道の北辺石列に画される。東西幅1.6m、南北長2.3mほどの範囲を占め、確認面積5.47m²。N-16°-Eの方向で4条の歓間溝が並列する。傾斜に従った南北方向の縦歓である。最も長く確認できる歓間溝の長さは1.6m、平均的な条間は77cm。

5号烟 25-80-U～Y-19～24グリッド 最高位標高545.6m、最低位標高544.1m。12号屋敷の南にあたる。東は6号烟と接する。6号烟の歓方向とは直交する。西は21号道・53号溝に接する。南は9号・10号烟と接する。両煙共に歓方向は東西に延び、この煙の歓とは直交に近い方向を示す。北は12号屋敷につながる道の南辺石列に画される。東西幅15.8m、南北長11.5mほどの範囲を占

め、確認面積193.14m²。N-13°-Eの方向で、13条の歓間溝が並列する。等高線とは直交気味に斜交する方向である。歓・歓間溝が明瞭にとらえられている。傾斜に従った南北方向の縦歓で、条間は広い。最も長く確認できる歓間溝の長さは15.8m、平均的な条間は96cm。14号烟とともに、12号屋敷に付属する煙であろう。

6号烟 25-80-T～V-19～23グリッド 最高位標高545.6m、最低位標高544.6m。5号烟の東にある。北部から東部北半が大きく攪乱され、歓・歓間溝の残りは良くない。東は南端は12号屋敷につながる道の南辺石列が北に折れる部分にあたり、以南は7号烟と接する。7号烟とは歓方向は近いものの、条間が異なる。西は5号烟と接する。5号烟の歓方向とは直交する。南は9号烟

と並列する。北は12号屋敷につながる道の南辺石列に画される。東西幅3.8m、南北長15.6mほどの範囲を占め、確認面積69.43m²。N-77°-Wの方向で28条の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは3.8m、平均的な条間は53cm。南端に9号平坦面がある。

7号烟 25-80-Q～U-19～22グリッド 最高位標高545.7m、最低位標高545m。6号烟の東にある。12号屋敷につながる道が蛇行する部分にあたり、また南の12号烟が9号烟北端線より北に張り出すため、変則的な形状を呈す。歓・歓間溝は東部のほうが長く、西部は短く途切れる。歓間溝痕跡は弱く、条間にはぼらつきがあるものの、かなり広い。東辺北部は南端は12号屋敷につながる道が蛇行する部分に当たって、これの西辺を区切るような南北方向の浅い溝に画される。中部は15号烟に達する。南部では12号烟とやや入り組むように直列する。西は6号烟の東にある。南は西半は9号烟、東半は12号烟と並列する。北は12号屋敷につながる道が蛇行する部分にあたる。東西幅12.9m、南北長8.3mほどの範囲を占め、確認面積82.43m²。N-85°-Wの方向で9条の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは10.6m、平均的な条間は104cm。

8号烟 25-26-80・71-W～C-12～20グリッド 最高位標高547.4m、最低位標高545.4m。5号烟の南にある。東は北部は9号烟。南部は10号烟と直列する。西は21号道・53号溝に接する。南にある残りの悪い16号烟とは歓方向がやや異なるため、二つの烟と見たが、連続する烟である可能性もある。北は5号烟と接する。5号烟の歓方向とは直交する。東西幅12.5m、南北長29.9mほどの範囲を占め、確認面積313.83m²。N-79～80°-Wの方向で61条の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは12.2m、平均的な条間は50cm。歓・歓間溝が比較的明瞭にとらえられている。

9号烟 25-80-T～X-15～19グリッド 最高位標高547m、最低位標高545.6m。8号烟の東にある。南の10号・11号烟の歓・歓間溝境界は9号烟の中位まで達していて、連続性を感じさせるが、歓間溝表現が10・11号烟とは異なり、歓上端が明確ではないこと、両烟との境界で歓間

溝が不規則に途切れる事から、別の烟とした。東辺北部は12号烟、南部は13号烟と直列する。13号烟との間は歓間溝端部がほぼ対応する。西は8号烟と直列する。南辺東部は11号烟、西部は10号烟と並列する。北辺西部は5号烟と接する。5号烟の歓方向とは直交する。東部は6号・7号烟と接する。東西幅16.6m、南北長15.8mほどの範囲を占め、確認面積268.41m²。N-79～80°-Wの方向で33条の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは16.6m、平均的な条間は49cm。

10号烟 25-80-V～Y-12～15グリッド 最高位標高547.6m、最低位標高546.9m。東は11号烟と直列する。西は8号烟と直列する。南は発掘区界及び攪乱に切られしており、南にある17号烟との関係が把握できない。北は9号烟と並列する。東西幅11.6m、南北長12.3mほどの範囲を占め、確認面積124.23m²。N-84°-Wの方向で25条の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは11.6m、平均的な条間は51cm。南部中央に10号平坦面がある。

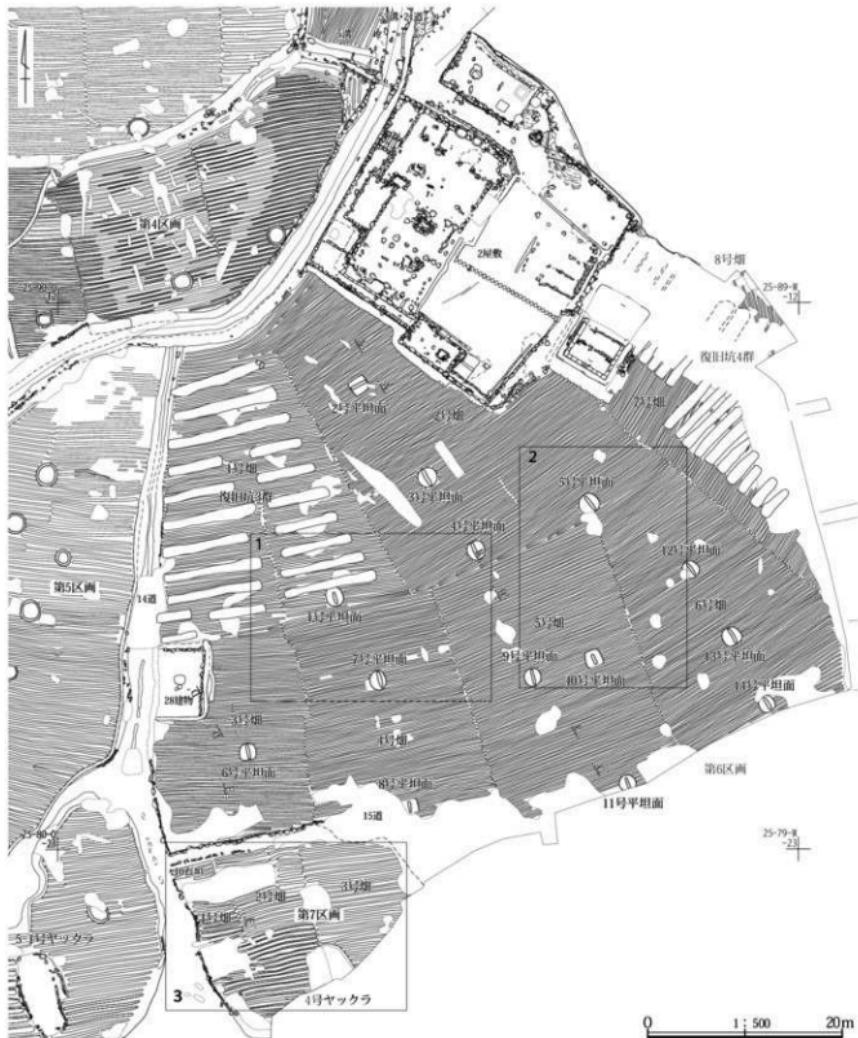
11号烟 25-80-S～V-14・15グリッド 最高位標高547.3m、最低位標高546.8m。10号烟の東にある。南東辺は発掘区界に達していて、北西隅のみを三角形状に確認したものである。西は10号烟と直列する。北は9号・13号烟と並列する。東西幅9.2m、南北長6.2mほどの範囲を占め、確認面積30.68m²。N-88°-Wの方向で13条の歓間溝が並列する。等高線とはやや斜行する。最も長く確認できる歓間溝の長さは9.2m、平均的な条間は52cm。

12号烟 25-80-Q～T-17～20グリッド 最高位標高546.7m、最低位標高545.5m。9号烟の東にあり、7号烟の東南部にかかる。条間が広い烟であるが、同じく幅広の5号烟に比して、各条が乱れて不揃いな印象を受ける。東は1号ヤックラの手間で歓間溝端が完結する。南端は15号烟と接する。西は北部は7号烟南部、南部は9号烟と並列する。南は西部は1号ヤックラに達し、東部は14号烟と並列する。北は7号烟東部と並列する。東西幅9.5m、南北長10.3mほどの範囲を占め、確認面積88.55m²。N-88°-Eの方向で11条の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは9.5m、平均的な条間は103cm。

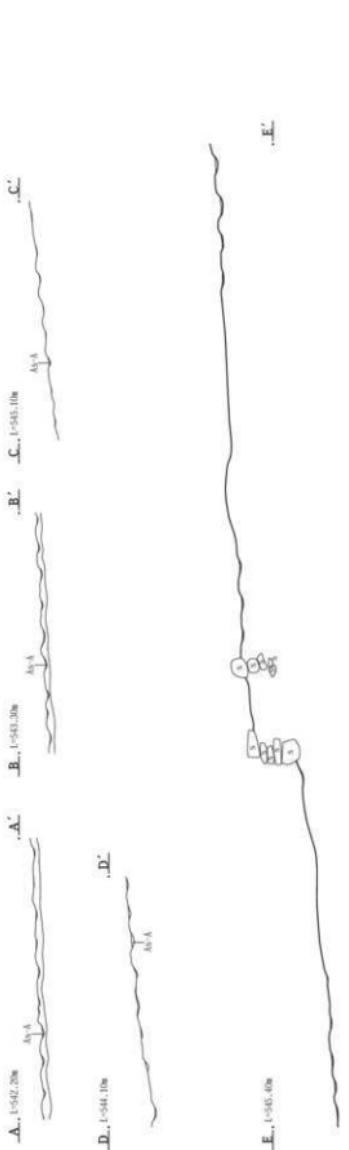
第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構

13号畠 25-80-R～T-15～17グリッド 最高位標高547m、最低位標高546.3m。9号畠の東、2号ヤッカラとの間にある。東辺は東へ僅かに膨らみながら、2号ヤッカラの手前で歎間溝端が完結する。西は9号畠と歎間溝端部がほぼ対応して直列する。南は発掘区界に達する。

北は擾乱に切られるが、西に傾く2号ヤッカラの西辺と、9号畠と12号畠の交点に挟まれて、歎/歎間溝長が徐々に短くなる。9号畠と連続性が高いように思われる。東西幅4.6m、南北長9.2mほどの範囲を占め、確認面積34.03m²。N-87°-Wの方向で19条の歎間溝が並列する。



第99図 第6・7区画



2m
1:60

等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは4.6m、平均的な条間は51cm。

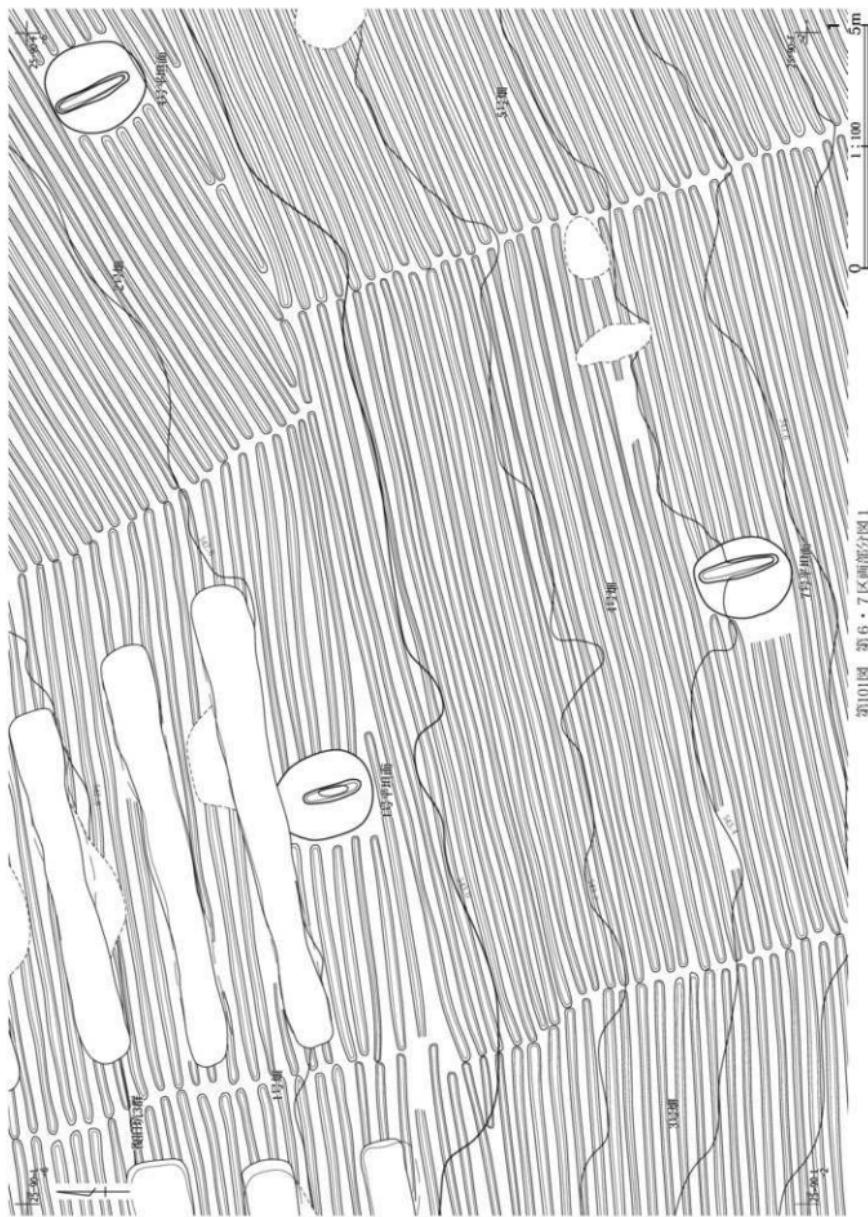
14号畑 25-80-Q・R-15~17グリッド 最高位標高548.2m、最低位標高546.6m。2号ヤックラの東にある。東は15号畑と直列するが、歓間溝端は入り組むように食い違う部分がある。南部は3号ヤックラの手前で歓間溝端が完結する。西は2号ヤックラの手前で歓間溝端が完結する。南は発掘区界に達する。北は12号畑と斜交気味に並列する。東西幅5.6m、南北長7.9mほどの範囲を占め、確認面積38.63m²。N-74°-Eの方向で16条の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは5.6m、平均的な条間は53cm。

15号畑 25-80-N~Q-15~24グリッド 最高位標高548.3m、最低位標高544.8m。第5区画東南部にあたる。東は14号道に接する。北部は、14号道から分岐して12号屋敷につながる道に画される。道の南東辺を縫る小溝の手前で歓間溝端が完結する。中部は1号ヤックラ手前で歓間溝端が完結し、南部は12号・14号畑と直列する。14号畑の歓間溝端とは入り組むように食い違う部分がある。南は発掘区界に達する。東西幅12.9m、南北長32mほどの範囲を占め、確認面積318.43m²。北部ではN-82°-E、南部ではN-70°-E前後の方向で61条の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは12.9m、平均的な条間は53cm。中央北寄りに10号平坦面がある。

16号畑 26-71-A~C-9~13グリッド 最高位標高547.9m、最低位標高547m。第5区画南西端にある。擾乱部が多く、歓間溝が痕跡的に認められるのみであるが、南部では歓溝端が直列する部分も見られ、発掘区外にも広がりを持つ畑であったものと思われる。東は特定の境界施設なく歓間溝痕跡が捉えられなくなる。東には17号畑があるが、歓間溝の方位が異なる。西は21号道に達するものと思われる。南は特定の境界施設なく歓間溝痕跡が捉えられなくなる。北は8号畑と並列するが、擾乱に切られて両畑の境界は把握できない。東西幅6m、南北長14.4mほどの範囲を占め、確認面積106.39m²。N-88°-EないしN-86°-Wの方向で、28条以上の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは3m、条間は53cm。

第100図 第6・7区断面図

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第101図 第6・7区割部分図

17号烟 25-80-W~Y-10~12グリッド 最高位標高548.3m、最低位標高548m。第5区画南端近くにある。南部では敵溝端が直列する部分も見られ、発掘区外にも広がりを持つ煙であったものと思われる。東西と南部は発掘区界にあたる。北は10号煙の南にあたるが、攪乱に切られていて境界は把握できない。10号煙とは敵方位が異なる。東西幅7m、南北長3.7mほどの範囲を占め、確認面積18.7m²。N-64°-Eの方向で10条以上の敵間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる敵間溝の長さは3.5m、平均的な条間は46cm。

2 平坦面

11基の平坦面がある。このうち8基が1~3号煙にあって、高い密度を示す。西部の1-2-4号平坦面が列をなし、2号平坦面の南東にある3号平坦面から南に5~8号平坦面がやはり列状に並ぶ。南部の9~11号平坦面は散在的で、それぞれ孤立的であり、特定の傾向は観取できない。9号平坦面のある6号煙は狭く、こうした煙内に平坦面が作られる例は少ない。

1号平坦面 25-90-Q-7グリッド 1号煙北部中央にある。南西の2号平坦面まで3.6m。標高541.98~542.05m。南北にわずかに長い偏円形の平面形を呈する。外径210~235cm、平坦面溝幅27.5cm。中央溝は確認されない。敵間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

2号平坦面 25-90-Q・R-6グリッド 1号煙中央西寄りにある。南東の3号平坦面まで4.2m、南の4号平坦面まで7.6m。標高524.19~542.26m。円形の平面形を呈する。外径210~215cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。敵間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

3号平坦面 25-90-P・Q-5グリッド 1号煙中央東寄りにある。南の5号平坦面まで4.6m。標高542.23~542.34m。円形の平面形を呈する。外径155~165cm、平坦面溝幅25cm。中央溝敵間溝は平坦面溝直前で完結する。敵間溝が平坦面溝を僅かに切る。発掘時遺構名称7区1号平坦面。

4号平坦面 25-90-S-3・4グリッド 1号煙南端西寄り、3号煙にまたがるようにある。東の5号平坦面まで4.8m。標高542.52~542.67m。北東及び南西の一部が乱されるが、東西にやや長い、ゆがんだ円形の平面形

を呈する。外径225~255cm、平坦面溝幅22.5cm。中央溝は確認されていない。敵間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

5号平坦面 25-90-Q-3・4グリッド 1号煙南端東寄り、3号煙にまたがるようにある。南の6号平坦面まで4.8m。標高542.51~542.67m。円形の平面形を呈する。外径205~225cm、平坦面溝幅27.5cm。中央溝は確認されない。敵間溝は平坦面溝直前で完結する。発掘時遺構名称7区2号平坦面。

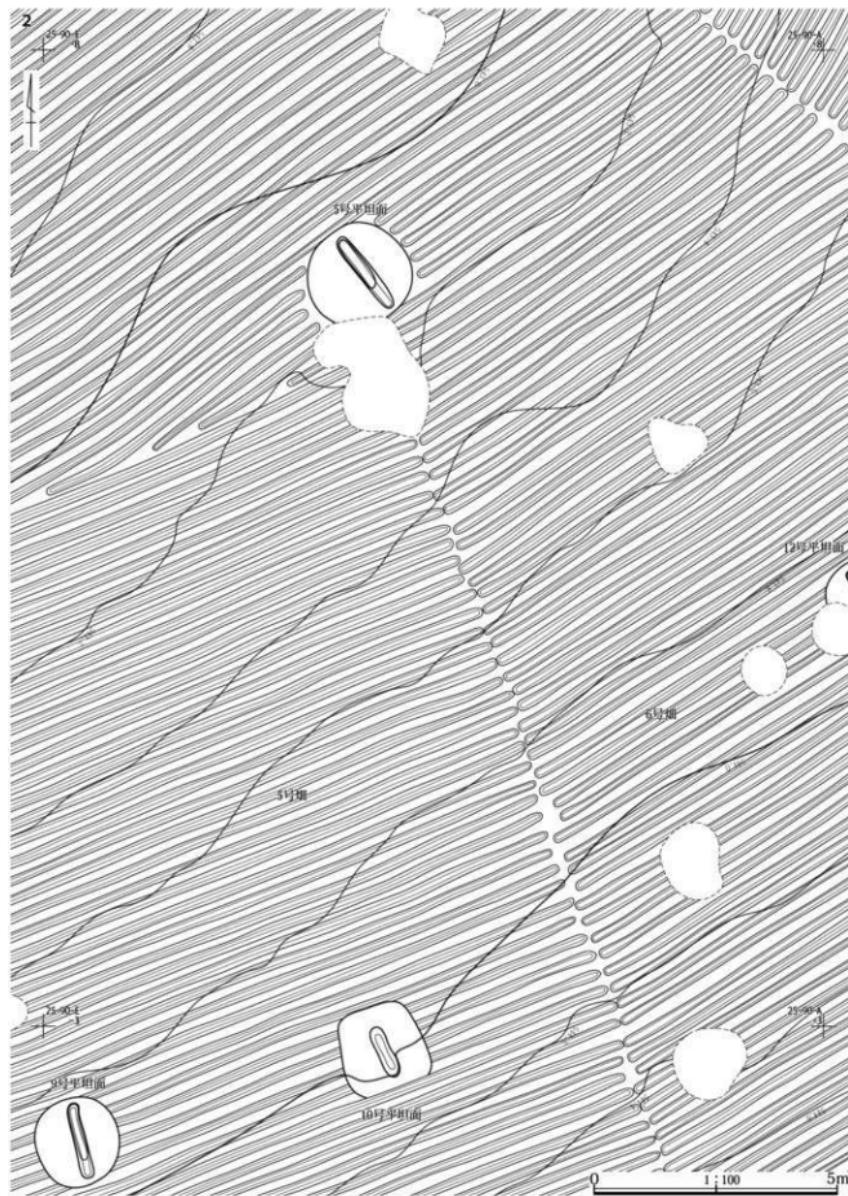
6号平坦面 25-90-R-2グリッド 3号煙中央北寄りにある。南の7号平坦面まで4m。標高542.94~543.00m。東西に長い扁円形ないし胴の張った隅丸長方形。北辺は敵間溝が途切れる。外径145~191.5cm、平坦面溝幅15.25cm。中央溝は確認されていない。敵間溝は平坦面溝を切る。発掘時遺構名称7区3号平坦面。

7号平坦面 25-90-R-1グリッド 3号煙中央にある。南の8号平坦面まで10.9m標高543.25~543.37m。方形の平面形を呈する。南北には平坦面とほぼ同じ長さで完結する溝があり、平坦面溝と同様の性格を有するかと思われる。外径125~180cm。中央溝は確認されていない。敵間溝は平坦面溝直前で完結する。発掘時遺構名称7区4号平坦面。

8号平坦面 25-80-S-23グリッド 3号煙南端中央にある。3号平坦面から続く平坦面列の南端にあたる。南西の9号平坦面まで15.9m、南東の10号平坦面までは13.2mある。標高544.08~544.15m。隅丸方形の平面形を呈する。外径140~145cm、平坦面溝幅17.5cm。中央溝は確認されていない。敵間溝は平坦面溝直前で完結する。発掘時遺構名称7区5号平坦面。

9号平坦面 25-80-U-19グリッド 6号煙南端にある。南の10号平坦面まで24.7m。東の11号平坦面までも22.4mある。標高545.48~545.57m。円形の平面形を呈する。外径155~155cm、平坦面溝幅15cm。中央溝は確認されていない。敵間溝は平坦面溝直前で完結する。発掘時遺構名称7区20号平坦面。

10号平坦面 25-80-W・X-13グリッド 10号煙南部中央にある。北東の11号平坦面までは42.5mほどもある。標高547.26~547.38m。南北にやや長いゆがんだ円形ないし隅丸方形に近い平面形を呈する。外径170~180cm、平坦面溝幅15cm。中央溝は確認されていない。敵間溝は



第102図 第6・7区画部分図2

平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。発掘時遺構名称7区21号平坦面。

11号平坦面 25-80-O・P-21グリッド 15号畠中央北寄りにある。標高545.68~545.8m。北西~南東に長い長円形の平面形を呈する。外径200~250cm、平坦面溝幅30cm。中央溝は確認されていない。畠間溝は平坦面溝直前で完結する。発掘時遺構名称7区22号平坦面。

3 ヤックラ

畠地内あるいは畠地の片隅の斜面に寄せかけるように、人為的に礫が集められ、積み上げられた場所が見られる。現在でも遺跡周辺から、耕作中に出た礫などをまとめ置く部分を「ヤックラ」と呼んでいるが、これに相当するものであろう。周辺の天明泥流下遺跡でも通有な遺構である。周囲に比較的大ぶりの礫を巡らした中に中小の礫が集積されている例が多く、開墾時に発生した礫を処理する場所であり、その後の耕作時に出た礫なども順次積み上げられていった場所と考えられている。本遺跡では、広大な遺跡面積を有するにもかかわらず、平坦部分が多いためか、第5区画に3基、第7区画に1基の、計4基が確認されているにすぎない。ヤックラが少いことは、処理すべき礫が必ずしも多くなかったことを示すものと考えられる。この地点は、南側斜面上位が、周間に比して崩落頻度の高い場所に当たったために、ヤックラが作られることになったのであろう。

1号ヤックラ 25-80-P~R-18~20グリッド 標高545.7~546.9m。西5.5mに2号ヤックラ、南5.5mに3号ヤックラがある。東西4.7m、南北8.7mの、南北に長軸を持つ長円形の平面形で、周囲を礫が取り囲む。長軸方位はN-20°~W。土層断面図では振り方を持つか見えるが、写真記録を参照すると、図示された断面土層は地山の斜面崩落土に相当し、上位にあるべき集積された礫は、基部に相当する礫以外は除去されているように思われる。発掘時遺構名称7区1号ヤックラ。

2号ヤックラ 25-80-R・S-15~17グリッド 標高549.2~547.9m。東3.8mに3号ヤックラがある。東西3.5m、南辺が発掘区界にあたるが、南北確認長10.25m。平面形は細長い長円形に近い。長軸方位は1号ヤックラと同じくN-20°~W。1号ヤックラと同様に、図示された断面土層は地山の斜面崩落土に相当し、上位にあるべき集積された礫は、基部に相当する礫以外は除去されて

いるように思われる。発掘時遺構名称7区2号ヤックラ。
3号ヤックラ 25-80-P・Q-15~16グリッド 標高547.4~548.2m。東西2.5m、南北4m。平面形は北部が丸い舌状を呈する。長軸方位はN-20°~W。発掘時遺構名称なし。断面記録を欠く。

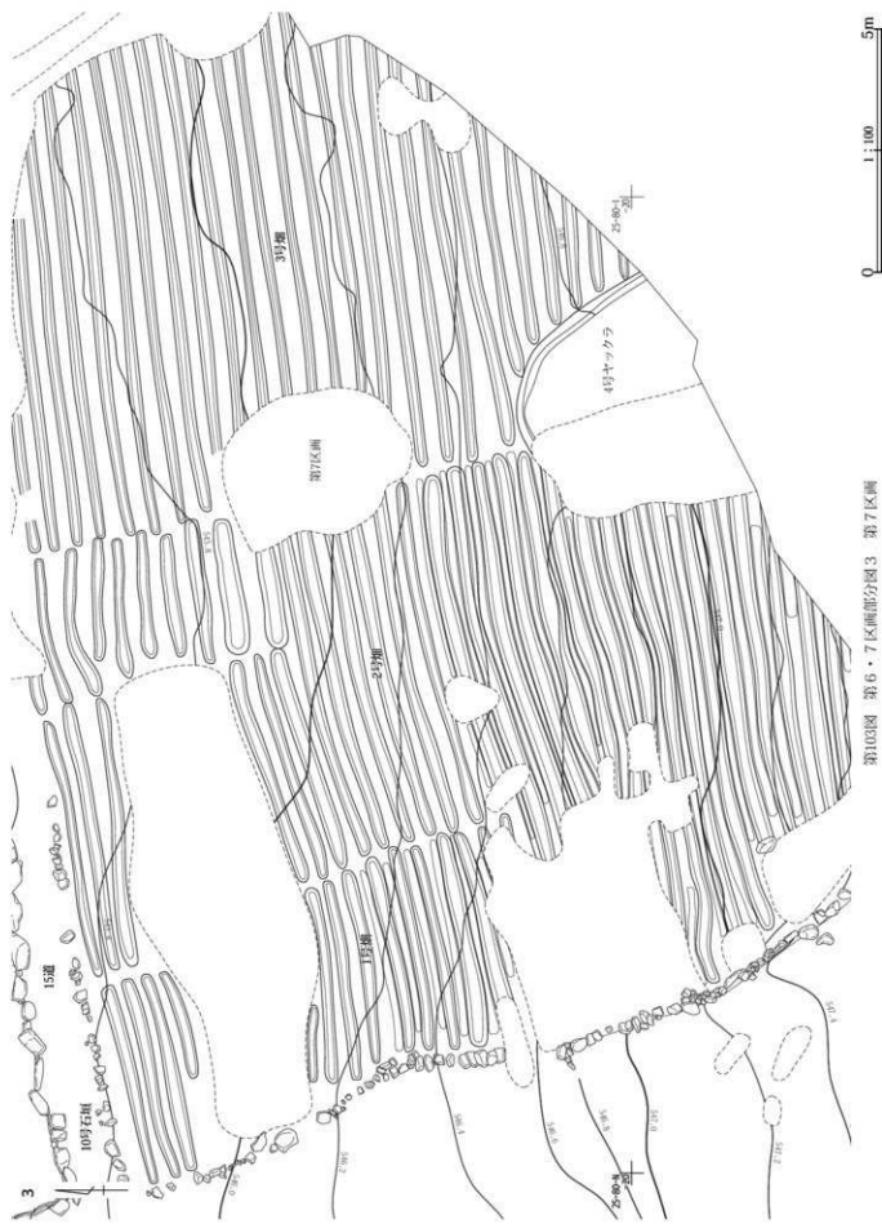
第9項 第6区画

25-79・80/89・90-U~N-23~12グリッドに広がる。最高位は南西部の標高546.00m、最低位は北端部近くの541.22m。東は発掘区南東部の北に張り出す尾根にあたり、尾根の崩れは緩い谷地形をなす。畠はこの地形に沿って、畠方向を緩やかに変化させている。西は14号道に限られ、北は21号道・53号溝に限られる。北西隅で両道がT字形に交差する。南は西部では第7区画に接し、東部は発掘区に切られる。現況地形を見ると、畠はさらに南に延びていたものと考えられる。南北60m、東西68mほどの範囲を占める。この区画の畠は他区画に比して条間が狭く、また、平坦面は平坦面溝を欠き、中央溝を持つなどの特徴が見られる。区画北西部には復旧坑第3群、南東部に同第4群が掘られている。北東隅には2号屋敷があり、西辺中央やや南寄りに28号建物がある。

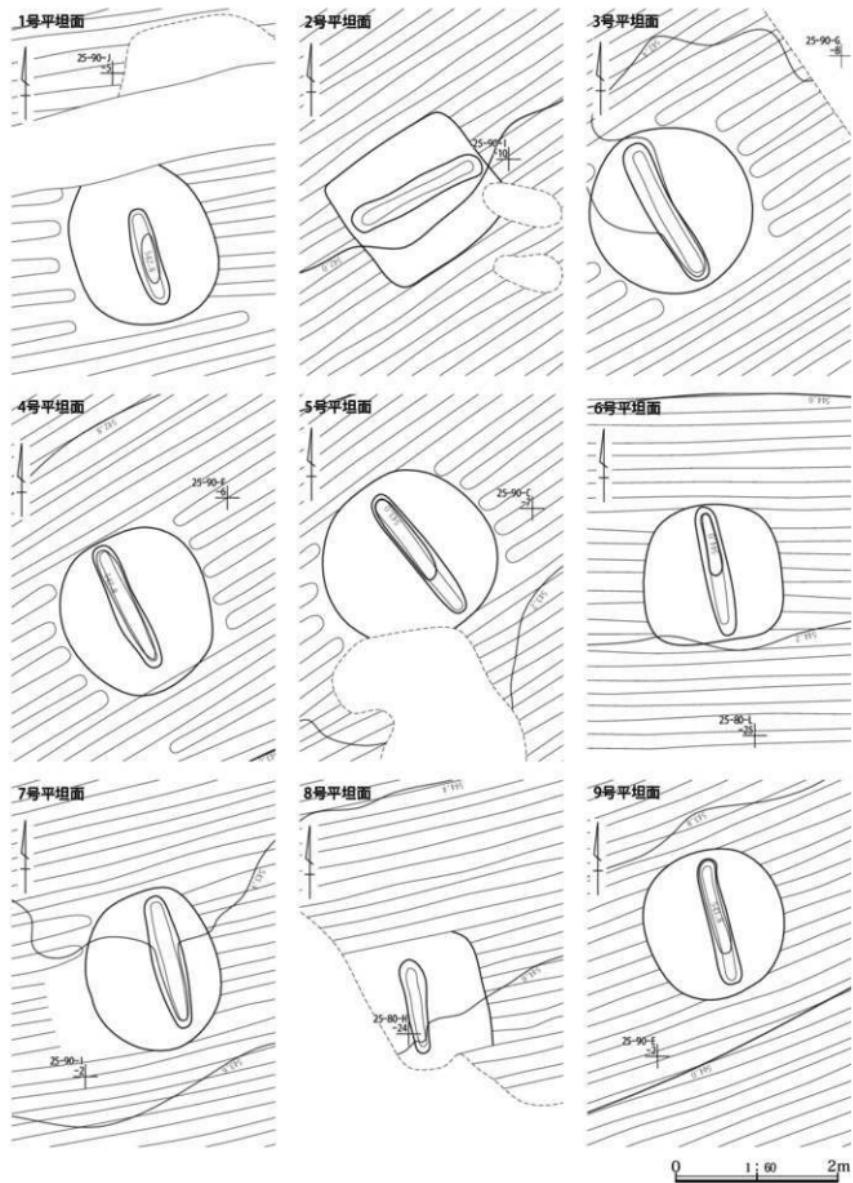
1 畠

1号畠 25-90-I~N-3~10グリッド 最高位標高543.1m、最低位標高541.6m。第6区画北西隅を占める。南北に長い台形の平面形を呈する。復旧坑第3群の範囲と重なる。南半は東西に短い畠間溝が切られて、端部が直列する。畠間溝の境界は、復旧坑南部の東西群の中間にあたり、また3号畠と4号畠の境界線の延長線上にあたる。東は2号畠と斜交しながら直列する。西は14号道に接する。南西隅は28号建物北辺に接する。西部は3号畠、東部は4号畠と並列する。北辺は2号畠北部の畠間溝が53号溝に沿った弧を描きながら、1号畠北端に被さるように西に延びる。東西幅26m以上、南北長27.7mほどの範囲を占め、確認面積491.29m²。N-78~82°-Eの方向で67条の畠間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる畠間溝の長さは20m、平均的な条間は42cm。南辺東寄りの畠間溝の中央近くに1号平坦面がある。

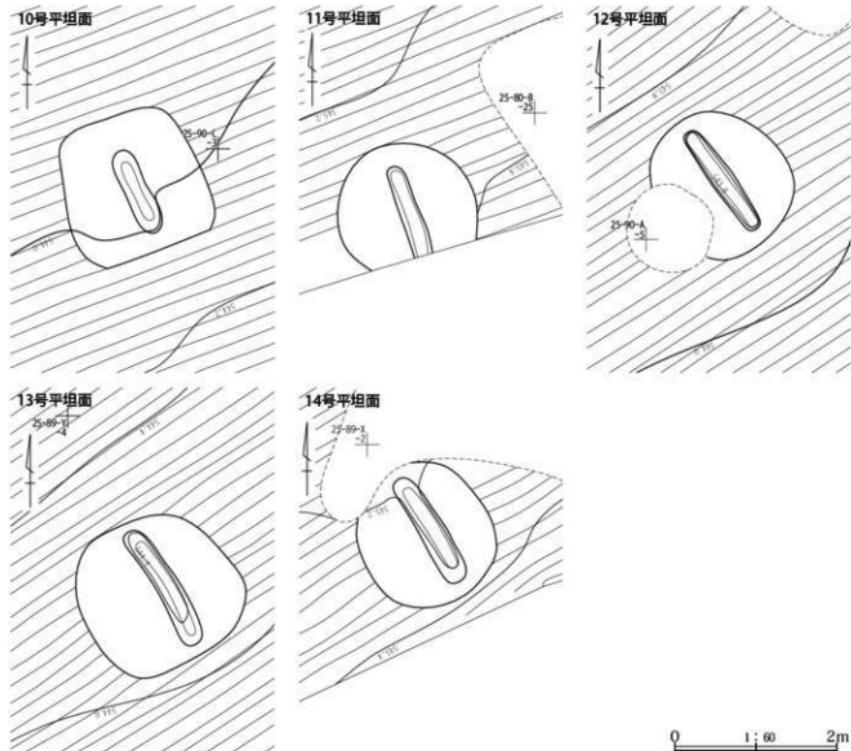
2号畠 25-90-A~M-4~12グリッド 最高位標高543.4m、最低位標高541.6m。1号畠の東にある。北端



第103図 第6・7区域部分図3 第7区域



第104図 第6区画平坦面1

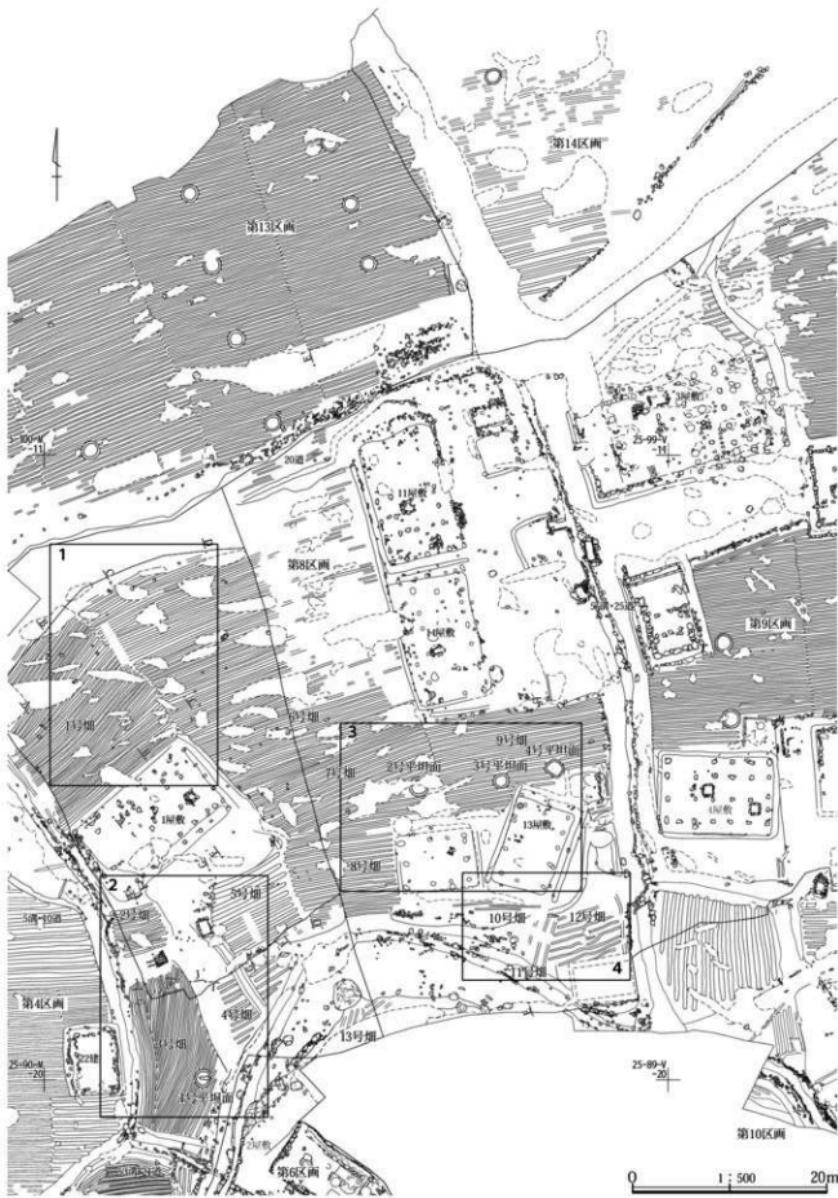


第105図 第6区画平坦面2

では西に張り出し、東辺は2号屋敷の西辺を継ぐように屈曲する。南部では部分的に歓間溝が東西に分かれ、端部が直列する。東辺北部は2号屋敷西辺に接する。南端は7号畠と斜交しながら直列する。北端は1号畠と斜交しながら直列する。北部は1号畠の北辺を覆うように西に延びる。南辺西端は4号畠。中部は5号畠、東部は6号畠とそれぞれ斜交しつつ並列する。北は53号溝に接する。53号溝に沿う歓間溝は溝のカーブに沿って湾曲しつつ西に延びる。東西幅は北端で17.5m、中部では9.5~15.5m、南部では28mある。南北長36.7mほどの範囲を占め、確認面積645.61m²。N-57°~58°-Eの方向で102条の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは28m、

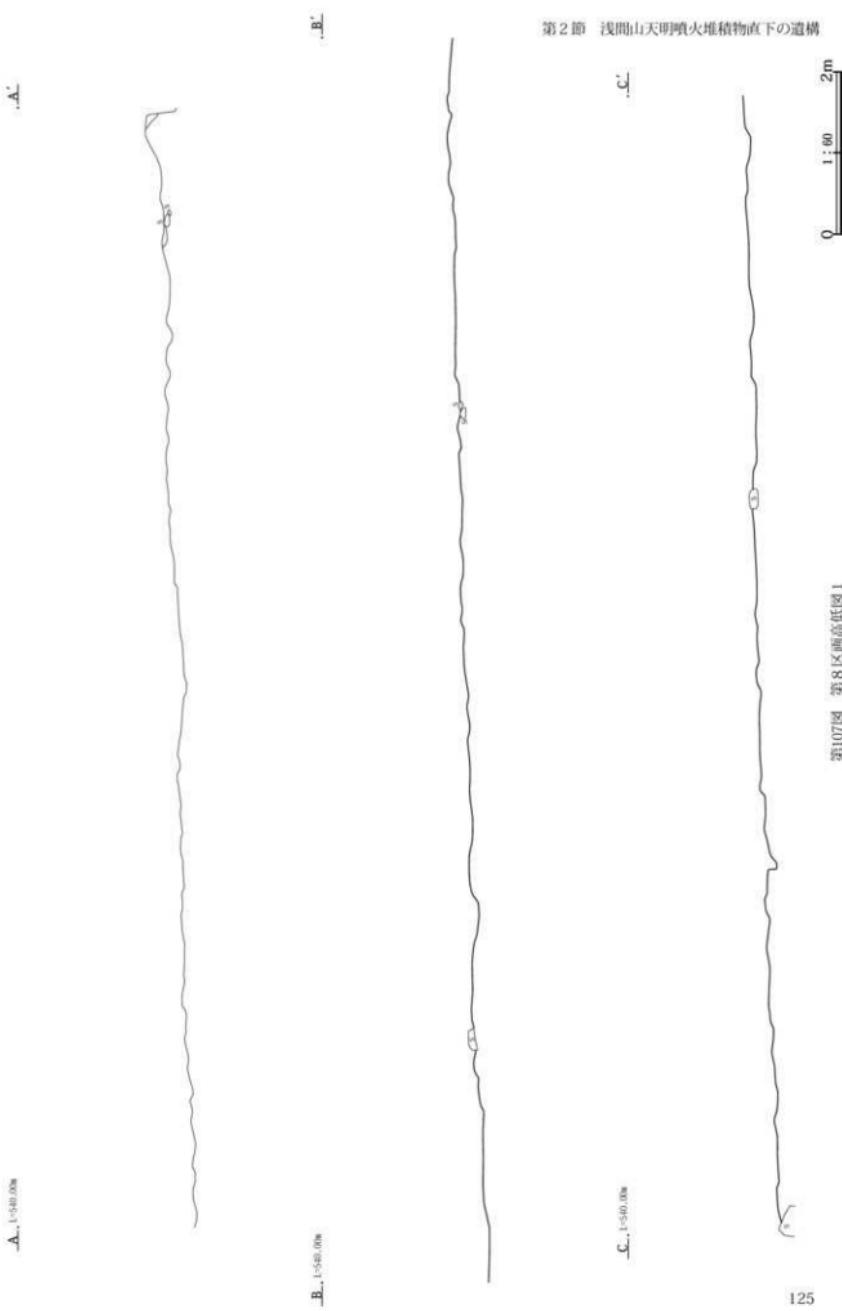
平均的な条間は36cm。西部に2~4号平坦面が南北に並び、南部東寄りに5号平坦面がある。5号平坦面は5号畠と6号畠の境界線上にあたる。

3号畠 25-80・90-J~N-23~3グリッド 最高位標高545m、最低位標高543m。第6区画の東南隅を占める。東は4号畠と直列する。西は北部は28号建物の東辺に接する。南部から南辺にかけて、14号道東辺から15号道北辺の10号石垣に接する。北は1号畠東部と並列する。東西幅15.2m、南北長20.4mほどの範囲を占め、確認面積267.06m²。N-89°-Eの方向で58条の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは15.2m、平均的な条間は36cm。中央や東寄りに6号平坦面がある。

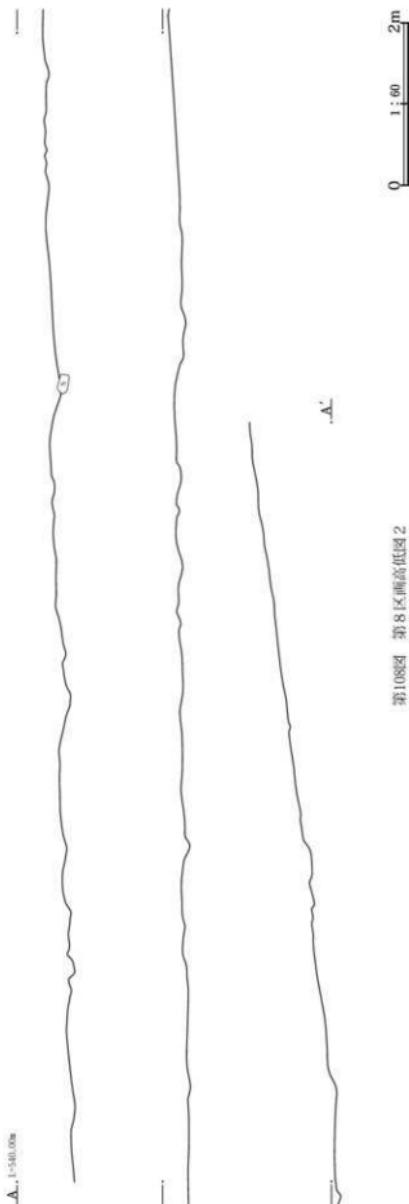


第106図 第8区画

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第107図 第8区画高低図1

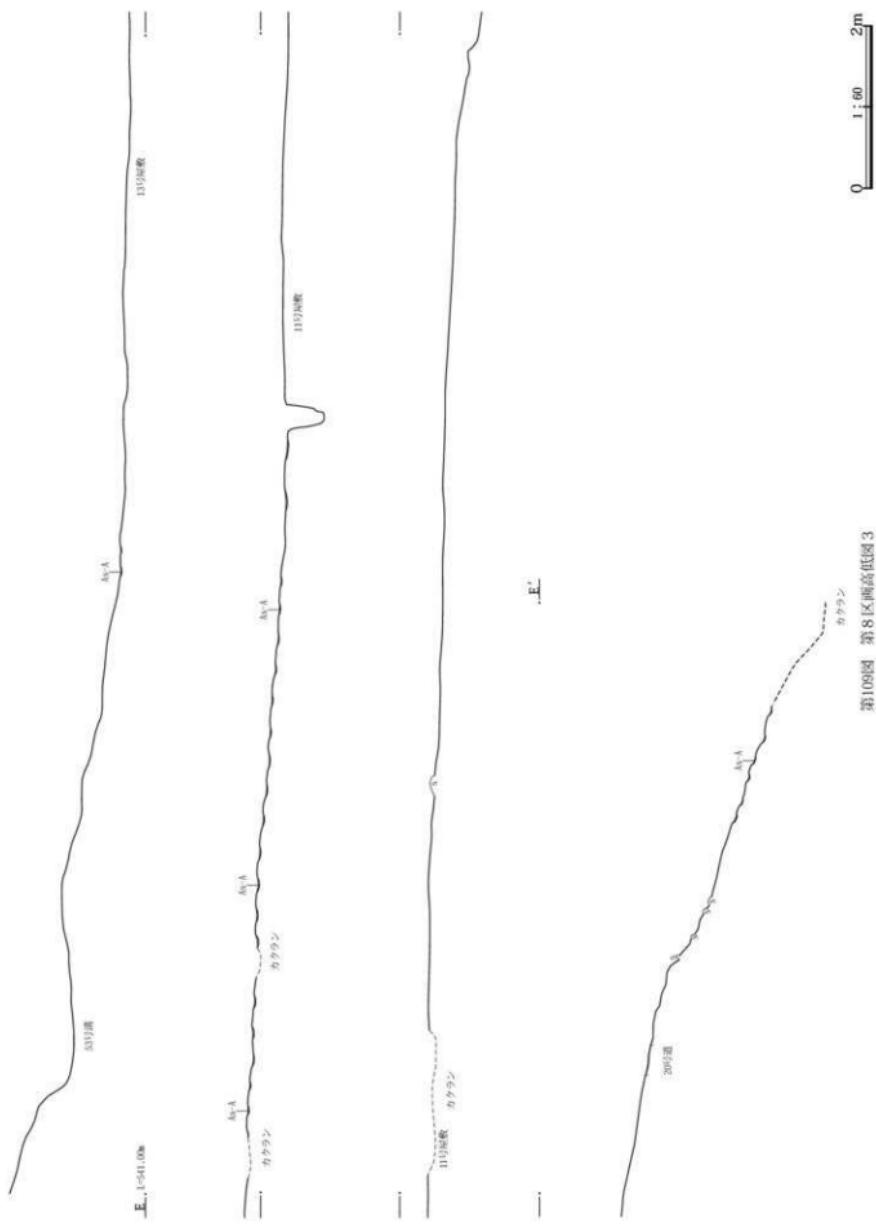


4号煙 25-80・90-E～K-23～4 グリッド 最高位標高544.8m、最低位標高542.9m。3号煙の東にある。東は5号煙とやや斜行しつつ直列する。西は3号煙と直列する。南は擾乱に切られるが、15号道の延長に画されるものと思われる。北は1号煙東部と斜交しつつ並列する。東端は2号煙に接する。東西幅19m、南北長21.7mほどの範囲を占め、確認面積371.17m²。N-78～79°-Eの方向で63条の歛間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは18.7m、平均的な条間は35cm。中央北寄りに7号平坦面、南部中央に8号平坦面がある。

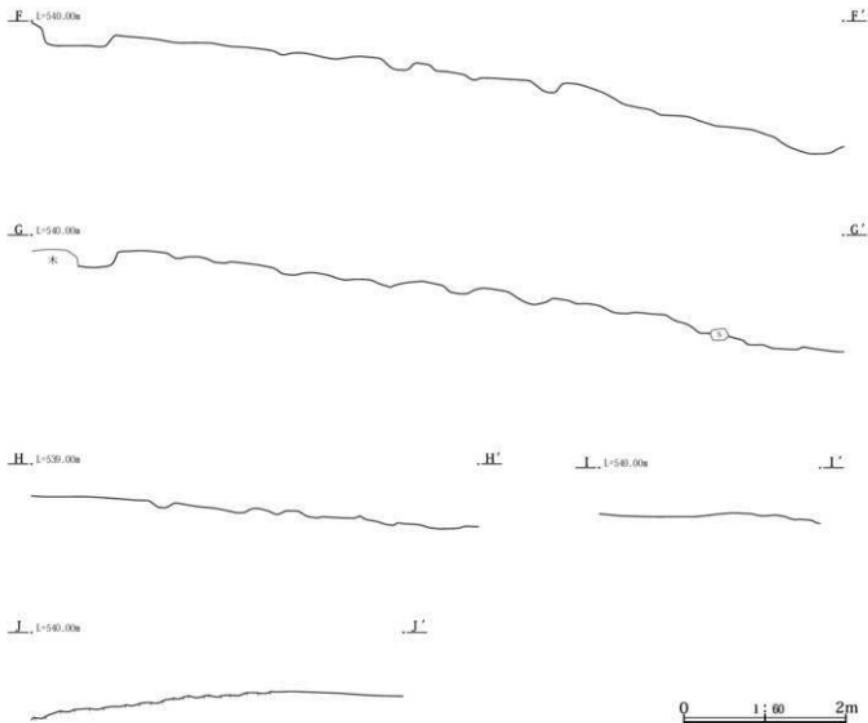
5号煙 25-80・90-A～G-23～6 グリッド 最高位標高545.3m、最低位標高543m。4号煙の東にある。東は6号煙とやや斜行しつつ直列する。西は4号煙と直列する。南は擾乱及び発掘区界に切られるが、15号道の延長に画されるものと思われる。北は2号煙と斜交しつつ並列する。東西幅18.6m、南北長25.5mほどの範囲を占め、確認面積483.32m²。N-68～69°-Eの方向で73条の歛間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは18.6m、平均的な条間は35cm。中央南寄りの東西に9号・10号平坦面が、南端中央近くと思われる位置に11号平坦面がある。

6号煙 25-79・80・89・90-U～C-25～7 グリッド 最高位標高546m、最低位標高543.2m。5号煙の東にある。東は7号煙と斜行しつつ直列する。西は5号煙と直列する。南は発掘区界に切られる。北は2号煙と斜交しつつ並列する。東西幅は北部で10m前後、南部では20m近くある。南北長は28.6mあって、確認面積424.55m²。N-55～58°-Eの方向で80条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは19.4m、平均的な条間は36cm。中央部に南北に並んで12～14号平坦面がある。

7号煙 25-89・90-V～B-4～11グリッド 最高位標高545m、最低位標高542.9m。6号煙の東にある。復旧坑第4群が東部を切る。東は発掘区界に切られる。西は北部は2号煙、南部は6号煙とやや斜行しつつ直列する。南は発掘区界に切られる。北は2号屋敷南辺に接する。東西幅8m、南北長28.4mほどの範囲を占め、確認面積294.97m²。N-31°-Eの方向で79条の歛間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。平均的な条



第109図 第8区画高低図3



第110図 第8区画高低図 4

間は36cm。

8号烟 25-89-W～Y-10～12グリッド 最高位標高544.6m、最低位標高544.2m。第6区画東端にあたる。周囲が擾乱されており、歛間溝が痕跡的に残されている。東・南・北は発掘区界に切られ、西辺は擾乱されている。東西確認幅3m、南北長4.6mの範囲を占め、確認面積30.97m²。N-15°-Wの方向で12条の歛間溝が並列する。等高線は尾根の方向に沿うように延び、歛間溝はほぼ並行する方向を示す。最も長く確認できる歛間溝の長さは2.9m、平均的な条間は40cm前後。

2 平坦面

14基の平坦面がある。単位畳当たりの平坦面が多く、1号・3号烟に1基、2号烟4基、4号烟2基、5号・6号烟に3基が認められている。1号烟は復旧坑に乱さ

れた部分が多いため、他にも平坦面があった可能性もある。7号・8号烟は確認範囲が狭く、有無が判断できない。2号烟の2～4号平坦面、6号烟の12～14号平坦面のように南北に列をなすものが見られる。一方、5号烟では9・10号平坦面が東西に並ぶ。平面形は円形のものが多いが、方形のものも見られる。すべての平坦面に平坦面溝がなく、中央溝が認められている。

1号平坦面 25-90-I・J-4グリッド 1号烟南端東部にある。4号烟との境界に近い。4号・5号平坦面と共に、烟境界南端を継ぐように並ぶ。東の4号平坦面まで13.4m、南の7号平坦面まで7.5m。標高542.91～542.83m。復旧坑に北端部を切られるが、やや南北に長い偏円形の平面形を呈す。平坦面溝は確認されていない。外径175～200m。中央溝は長さ125cm、幅35cm、深

さ10cmで、長軸に沿って南北に延びる。歛間溝とは直交する方向にあたる。東側では平坦面が歛間溝を切る。西側では歛間溝が平坦面直前で完結する。

2号平坦面 25-90-1-9・10グリッド 2号畑北部中央にある。3号・4号平坦面とは南北方向に直線的に並ぶ。3号平坦面まで9.5m。標高542.04～541.97m。東西にやや長い隅丸方形の平面形を呈す。平坦面溝は確認されていない。外径170～185m。中央溝は長さ175cm、幅30cm、深さ12cm。長軸に沿い、また歛間溝方向と揃うように東西に延びる。平坦面が歛間溝を切る。

3号平坦面 25-90-G-7グリッド 2号畑中央西寄りにある。2号・4号平坦面と南北方向に直線的に並ぶ。南の4号平坦面まで6.5m。標高542.44～542.4m。円形の平面形を呈す。平坦面溝は確認されていない。外径205～210m。中央溝は長さ190cm、幅35cm、深さ15cm。北西～南東方向に延びる。歛間溝とは直交する方向にあたる。歛間溝は平坦面直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

4号平坦面 25-90-F-5グリッド 2号畑南端西寄りにある。5号畑との境界に近い。2号・3号平坦面と南北方向に直線的に並ぶ。1号・5号平坦面と共に、畑境界南端を継ぐように並ぶ。東の5号平坦面まで10.5m、南の9号平坦面までは12mある。標高542.91～542.82m。円形の平面形を呈す。平坦面溝は確認されていない。外径185～190m。中央溝は長さ170cm、幅35cm、深さ14cm。北西～南東方向に延びる。歛間溝とは直交する方向にあたる。歛間溝は平坦面直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

5号平坦面 25-90-C-6・7グリッド 2号畑南端東寄りにある。5号・6号畑との境界に近い。2号屋敷西辺に沿って畑が東に張り出し、幅が最も広くなる位置にあたり、これに応じてか、4号平坦面の東に並ぶような位置に作られ、1号平坦面と共に、畑境界南端を継ぐ。南西の10号平坦面まで14m、南東の12号平坦面までは10mほどある。標高543.18～543.04m。円形の平面形を呈す。平坦面溝は確認されていない。外径210～215m。中央溝は長さ175cm、幅30cm、深さ26cm。北西～南東方向に延びる。歛間溝とは直交する方向にあたる。歛間溝は平坦面直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

6号平坦面 25-80-K・L-25グリッド 3号畑中央東寄りにある。この畑では唯一の平坦面である。北東の7号平坦面まで13.5m。標高544.18～544.00m。北辺がやや丸みの強い、隅丸方形の平面形を呈す。平坦面溝は確認されていない。外径170～175m。中央溝は長さ160cm、幅35cm、深さ11cm。長軸に沿って北西～南東方向に延びる。歛間溝とは直交する方向にあたる。平坦面が歛間溝を切る。

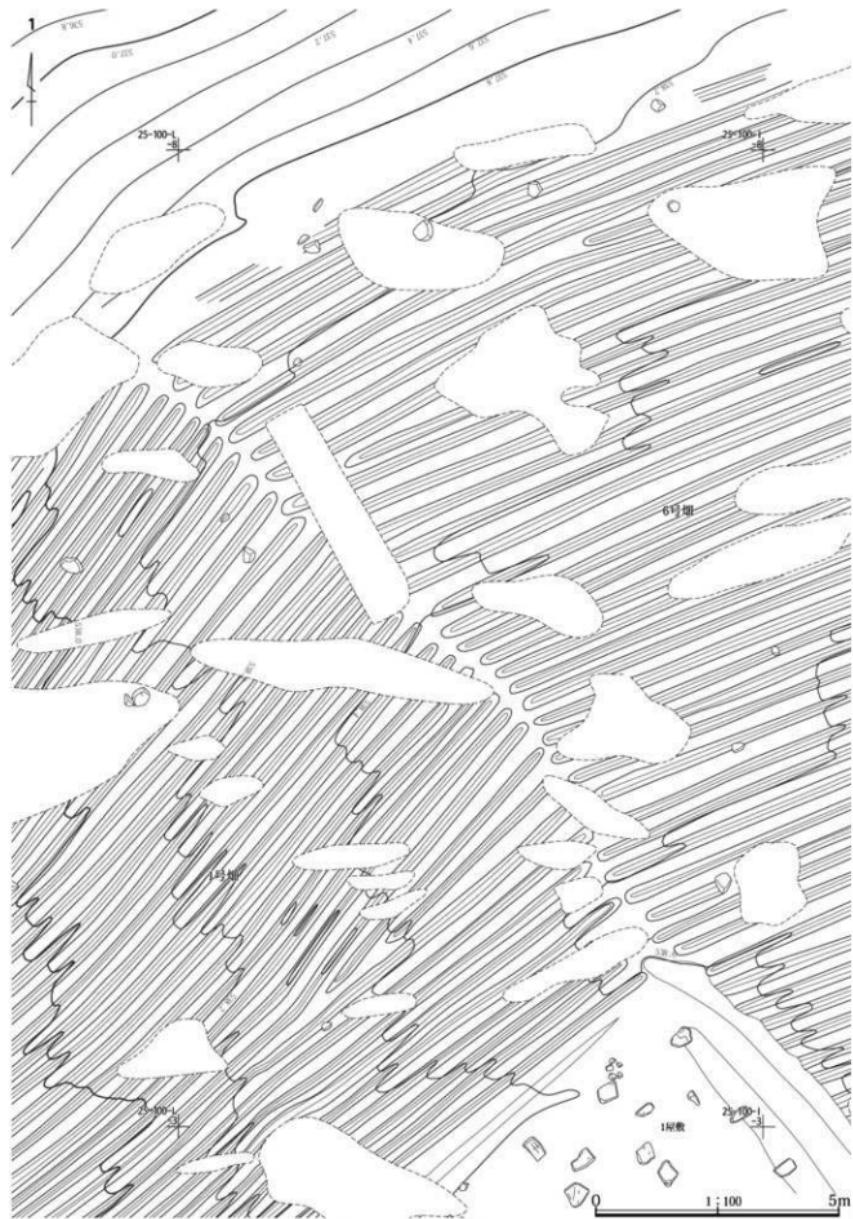
7号平坦面 25-90-H-2グリッド 4号畑北部中央にある。北の1号平坦面まで7.5m、南の8号平坦面まで11.5m、東の9号平坦面までは14mある。標高543.52～543.36m。南北に長い長円形の平面形を呈す。平坦面溝は確認されていない。外径165～195m。中央溝は長さ170cm、幅40cm、深さ15cm。平坦面の中軸よりやや東に偏して、長軸に沿って北西～南東方向に延びる。歛間溝とは直行する方向にあたる。東側では平坦面が歛間溝を切るが、西側では歛間溝が平坦面直前で完結する。

8号平坦面 25-80-G・H-23・24グリッド 4号畑南端中央にあたるものと思われる。東の11号平坦面までは20mほどある。標高544.63～544.52m。隅丸方形の平面形を呈す。平坦面溝は認められない。北辺確認長160cm、東辺確認長147cm。中央溝は長さ120cm、幅30cm、深さ6cm。北西～南東方向に延びる。歛間溝とは直交する方向にあたる。西側は攪乱されて把握できない。東側は平坦面が歛間溝を切る。

9号平坦面 25-90-D・E-2グリッド 5号畑中央西部にある。同じ畑内の10号平坦面が西4.5mに並ぶ。標高543.94～543.8m。円形の平面形を呈す。平坦面溝は確認されていない。外径170～185m。中央溝は長さ160cm、幅25cm、深さ12cm。北西～南東方向に延びる。歛間溝とは直交する方向にあたる。平坦面が歛間溝を切る。

10号平坦面 25-90-C-2・3グリッド 5号畑中央東部にある。9号平坦面と東西に並ぶ。南の11号平坦面までは11.5m。標高544.09～543.93m。北辺がやや短い隅丸方形の平面形を呈す。平坦面溝は確認されていない。外径175～180m。中央溝は長さ110cm、幅35cm、深さ16cm。長軸に沿って北西～南東方向に延びる。歛間溝とは直交する方向にあたる。平坦面が歛間溝を切る。

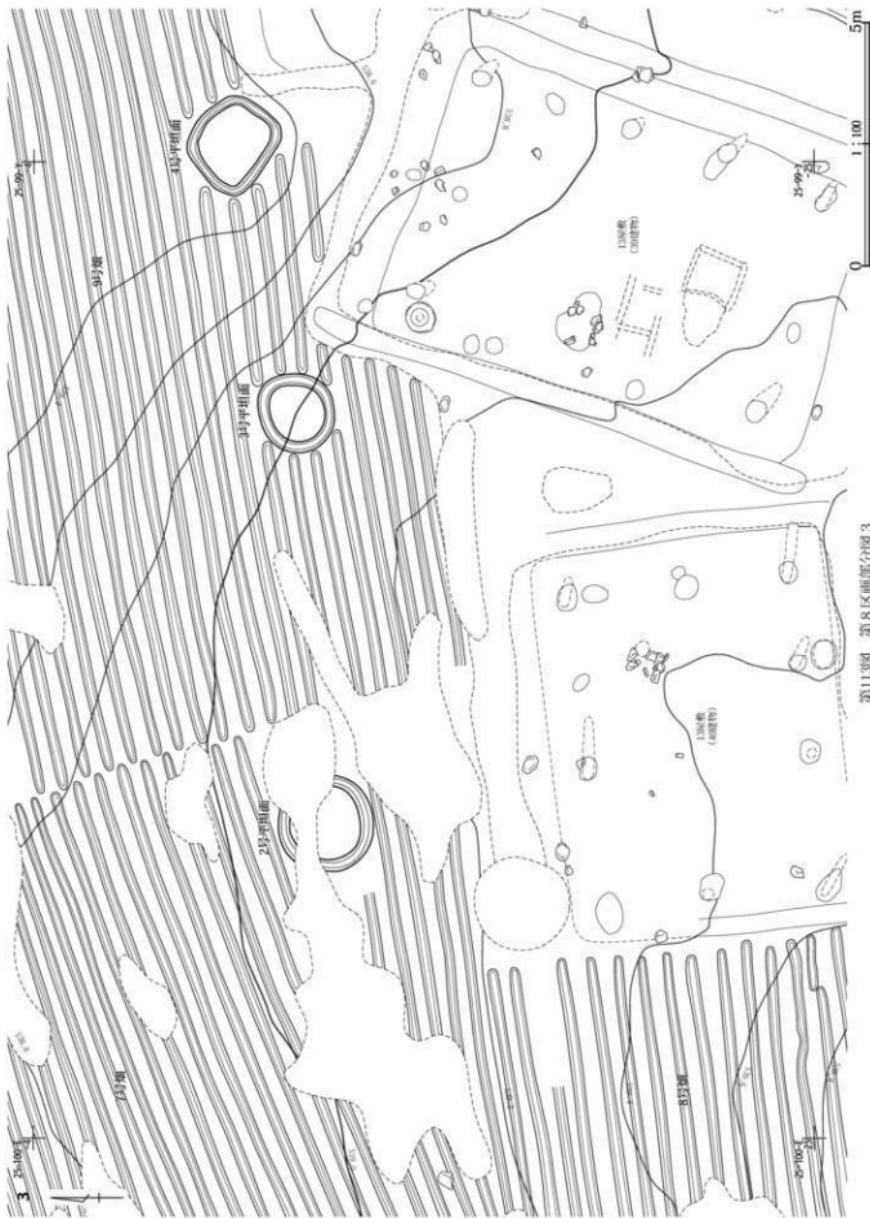
11号平坦面 25-80-B-24グリッド 5号畑南端近くの中央やや東寄りにある。10号平坦面と南北に並ぶ。標高



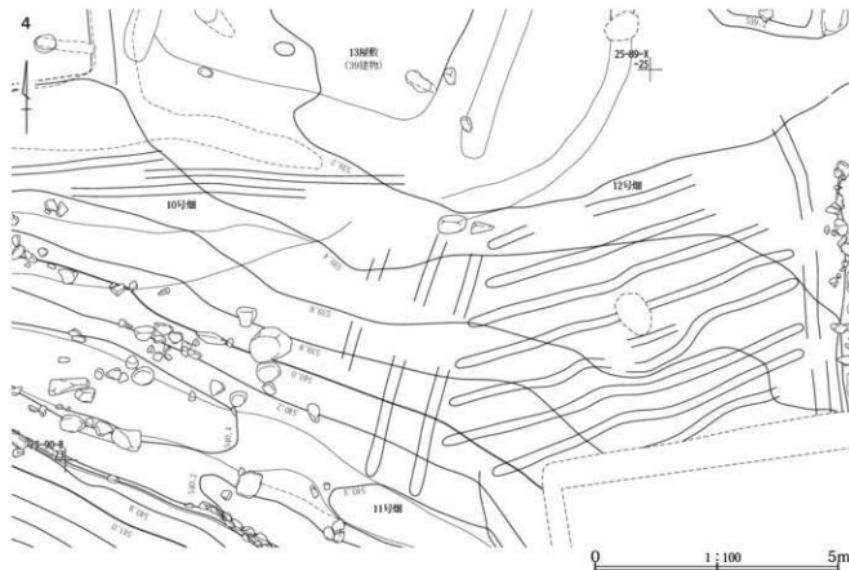
第111図 第8区画部分図1



第112図 第8区画部分図2



第113図 第8区画部分図3



第114図 第8区画部分図4

545.43~545.29m。南端が調査区界に切られるが、円形の平面形を呈する。平坦面溝は確認されていない。外径170~175m。中央溝は長さ~130cm、幅25cm、深さ14cm。北西~南東方向に延びる。歛間溝とは直交する方向にある。平坦面が歛間溝を切る。

12号平坦面 25-89-Y-4・5 グリッド 6号烟北部中央にある。13号・14号平坦面と南北に並ぶ。13号平坦面まで6m、北西の5号平坦面までは10mほどある。標高543.91~543.81m。円形の平面形を呈する。平坦面溝は確認されていない。外径165~180m。中央溝は長さ145cm、幅30cm、深さ14cm。北西~南東方向に延びる。歛間溝とは直交する方向にある。平坦面が歛間溝を切る。

13号平坦面 25-89-X-3 グリッド 6号烟中央にある。12号・14号平坦面と南北に並ぶ。南の14号平坦面まで6m。標高554.44~544.41m。ゆがんだ円形ないし脚張りの強い闊丸形の平面形を呈する。平坦面溝は確認されていない。外径185~190m。中央溝は長さ160cm、幅30cm、深さ14cm。北西~南東方向に延びる。歛間溝とは直交する方向にある。平坦面が歛間溝を切る。

14号平坦面 25-89-W-X-1 グリッド 6号烟南端近くの中央にある。12号・13号平坦面と南北に並ぶ。また、8号・11号平坦面と共に、区画南端を縫るような位置にある。標高545.42~545.2m。南北にやや長い偏円形の平面形を呈する。平坦面溝は確認されていない。外径165~180m。中央溝は長さ145cm、幅35cm、深さ15cm。長軸に沿って北西~南東方向に延びる。歛間溝とは直交する方向にある。平坦面が歛間溝を切る。

第10項 第7区画

25-80-H~M-18~23グリッドにかけて広がる。最高位は南端部の標高547.7m、最低位は北端部近くの545.6m。東辺は14号道、北辺は15号道に画される。東から北辺東部にかけて擾乱され、南辺は発掘区界に達する。この区画には平坦面はない。南辺中央には4号ヤックラがある。

1 煙

1号煙 25-80-J~N-18~23グリッド 最高位標高547.2m、最低位標高545.8m。第7区画西部にある。東

北側部に2号烟があり、南部は3号烟と直列する。西は14号道東辺の石垣に接する。南は発掘区界に切られる。北は15号道南辺に接する。東西幅12m、南北長17.1mの範囲を占め、確認面積60.12m²。N-77°~78°-Eの方向で35条以上の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは11.4m、平均的な条間は50cm前後。北部は東西に分かれるように短い歓間溝が直列するが、南部ではこれが連続して一条の長い歓間溝となる。方向や条間は等しいものの、南部は北部よりやや強く蛇行する。

2号烟 25-80-J・K-21~23グリッド 最高位標高545.9m、最低位標高545.7m。1号烟の北東隅部にあたる小さな烟である。東は1号烟と、西は3号烟と直列する。南は1号烟と並列する。北は15号道南辺に接する。東西幅2.8m、南北長5.1mなどの範囲を占め、確認面積128.09m²。N-83°-Eの方向で9条の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは2.8m、平均的な条間は64cmで、1号・3号烟より広い。

3号烟 25-80-H~J-19~23グリッド 最高位標高546.7m、最低位標高545.6m。第7区画の東部にある。東は攪乱に切られる。西は北部は2号烟、南部は1号烟と直列する。南辺西部は4号ヤックラと接する。東部は発掘区界に切られる。北は攪乱に切られるが、15号道の延長線に接するかと思われる。東西幅10m以上、南北長21.7mなどの範囲を占め、確認面積104.35m²。N-82°-Eの方向で26条の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは9.5m、平均的な条間は51cm。

2 ヤックラ

4号ヤックラ 25-80-I・J-19~20グリッド 標高546.5~548.2m。西半が攪乱され、南辺が発掘区界にあたるため、全形は把握できない。東西確認長2.5m、南北確認長4m。長円形ないし南北に長い舌状の平面形を呈するものかと思われる。長軸方位はN-25°-W。発掘時名称なし。断面記録を欠く。

第11項 第8区画

25-89・90/99・100-W~O-18~23グリッドにかけて広がる。南北に延びる尾根筋の延長上にあたる。最高位

は南端部の標高540.4m、最低位は北端部近くの536.7m。東辺は11号・13号・14号・26号屋敷や、25号道、57号溝に接する。北辺は第13区画との間の斜面上縁に達し、南は21号道・53号溝に接する。北辺から東辺南部にかけて攪乱されるが、南半は比較的残りが良い。2~5号、10~12号は屋敷地に接した狭い煙で、条間が広く、それぞれ1号屋敷、13・16号屋敷に付属した煙であろう。3号・7号・9号煙に平坦面がある。

1 煙

1号煙 25-100-1~O-1~8グリッド 最高位標高538.5m、最低位標高536.7m。第8区画北西隅にある。北西部は、泥流の削痕により広く乱される。東は6号煙と直列する。西は5号溝、10号道に接する。南は1号屋敷に接する。北は5号道から東に分歧し、第13区画との境界をなす小道に接する。東西幅15.7m、南北長19.7mなどの範囲を占め、確認面積347.43m²。49条の歓間溝が並列する。南東から北西にかけて、歓方向が北寄りに変化し、この間を埋めるように東側に短い歓間溝が付加される部分がある。歓方向は、北西部N-38°-E、中部N-45°-E、南東部N-50°-E前後を示す。南から張り出す尾根の西側斜面に当たり、北への傾斜が卓越する北端部を除いて、緩傾斜ながら等高線と歓方向は直交する。北部の歓間溝は、僅かに南に膨らむように湾曲し、北部は直線的に延びる。平均的な条間は41~45cm。

2号煙 25-90-I~K-23・24グリッド 最高位標高538.6m、最低位標高538.3m。第8区画の南西部、1号屋敷の南西部に付属する、屋敷内の煙である。東は1号屋敷から延びる小溝に画される。西は5号溝、10号道に接する。南は1号屋敷1号木枠のある空間に画される。北は1号建物の南西隅に接する。東西幅5.1m、南北長4.5mなどの範囲を占め、確認面積24.39m²。N-86°-Eの方向で11条の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。また、1号屋敷南にある3号煙の歓とは直交する。平均的な条間は45cm。

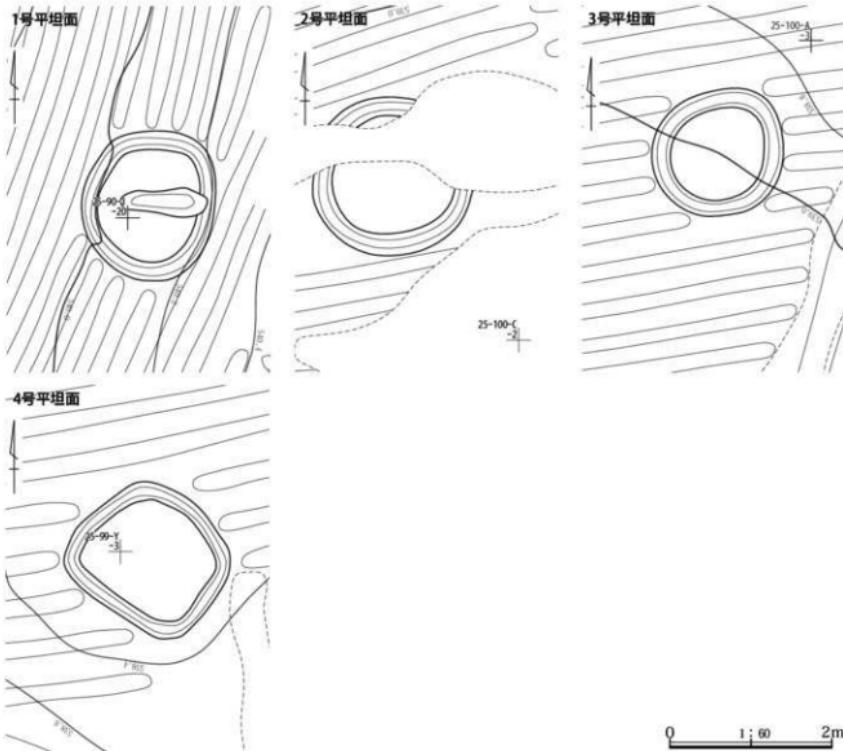
3号煙 25-90-H~I-18~22グリッド 最高位標高540.4m、最低位標高538.7m。第8区画南西隅にあたる。道及び屋敷地に囲まれた煙である。道と屋敷に囲まれた、ゆがんだ五角形の煙地に、隙間なく歓/歓間溝を充填する。東は21号道及びこれから派生して1号屋敷につながる1号道に接する。西から南にかけては5号溝、10号道

に接する。北は1号屋敷に接する。東西幅16.5m、南北長8.5mほどの範囲を占め、確認面積125.24m²。歛方向は西辺沿いはN-6°-W、東部西寄りでN-13°-E前後、東南部ではN-25°-Eへと徐々に角度を変える。北部は短い歛間溝が方向を変えて切られる。また、西辺に沿う4条分の歛間溝は、以東と方向を変えて切られる。西辺沿いは、幅2m間に4条、東部は5.5m間に25条が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは15m、平均的な条間は西辺沿いで67cm前後と広く、東部は37~40cmである。東辺南よりの、1号道と53号溝、21号道の交点近くに1号平坦面がある。

4号畑 25-90-G・H-20~22グリッド 最高位標高540.6m、最低位標高539.6m。1号道を挟んで3号畑の

東、1号屋敷の南東にあたる。2号・5号畑と共に1号屋敷に付属する畑と思われる。東は2号井戸と21号道を繋ぐ小道に画される。西は1号道、南は21号道に接する。北は特定の境界なく歛間溝が確認できなくなる。東西幅3.4m、南北長6mほどの範囲を占め、確認面積15.41m²。N-57°-Eの方向で10条の歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。平均的な条間は67cm。

5号畑 25-90-F・H-22~25グリッド 最高位標高540.6m、最低位標高538.8m。第8区画南辺にある。2号・4号畑と共に1号屋敷に付属する畑と思われる。東は6号畑南部と直列する。西は2号井戸と21号道を繋ぐ小道に画される。南は21号道に接する。北は1号屋敷に接する。東西幅7.8m、南北長12.5mほどの範囲を占め、確認面積87.95m²。N-64°-Eの方向で17条の歛間溝が

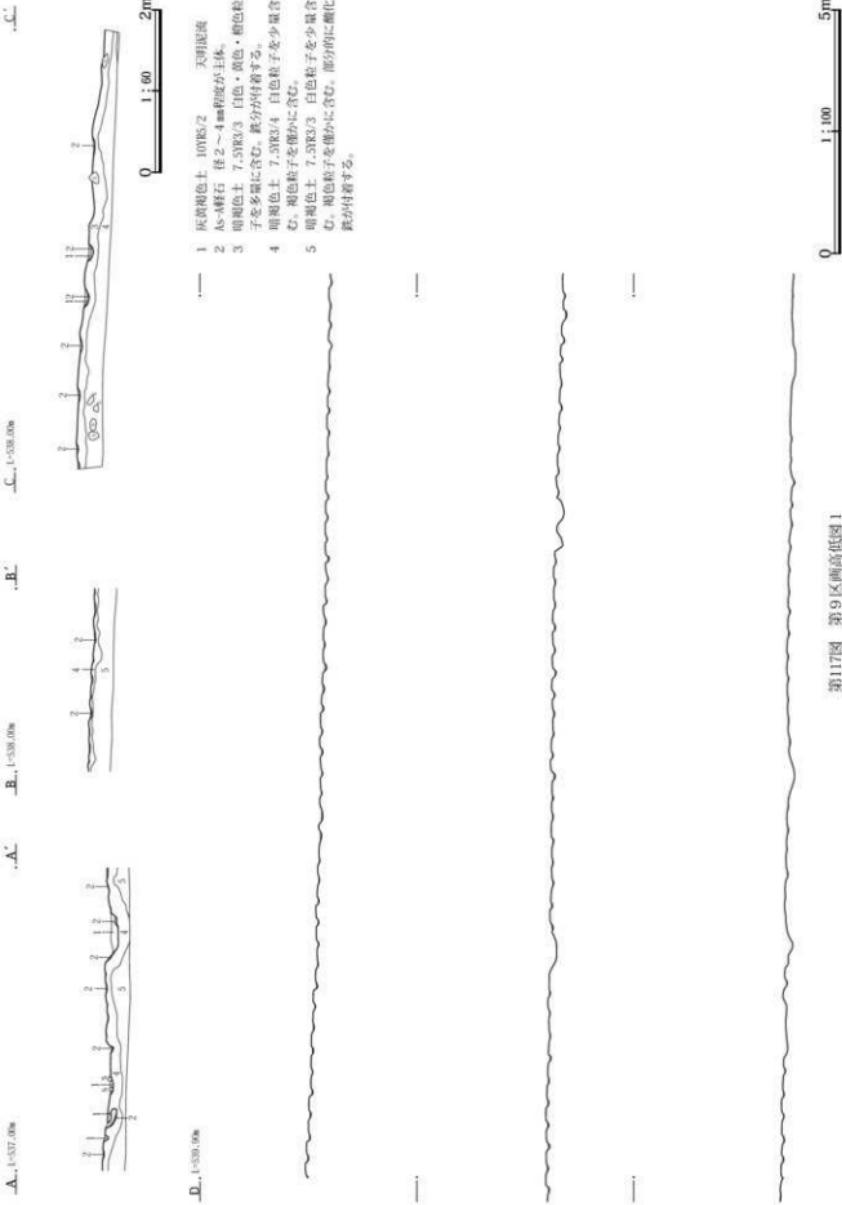


第115図 第8区画平坦面



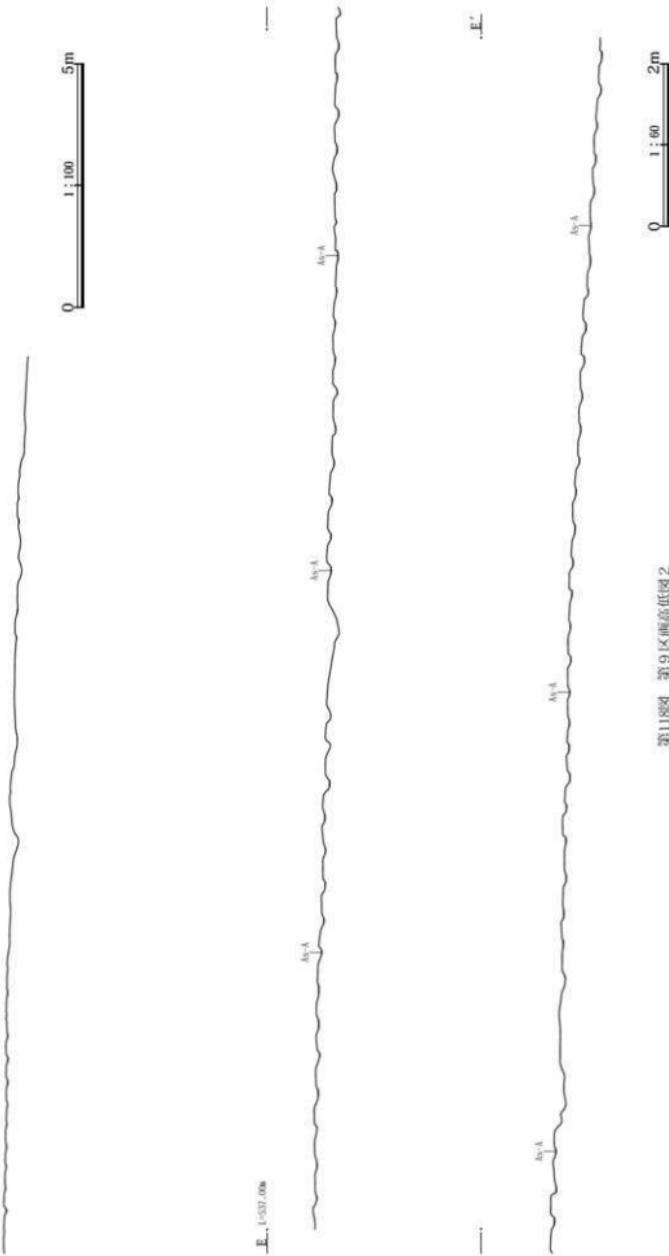
第116図 第9区画





第117図 第9区画高低図 1

D'



第118图 第9区高程图2

並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間は78.12cm。

6号烟 25-100-B～L-2～10グリッド 最高位標高538.8m、最低位標高536.8m。第8区画の中部を占める。北辺から東辺にかけて、広く泥流により削剥される。南部では歛方向が切り替わる。7号烟北辺との交点から南西に向けて歛間溝の境界があり、16号屋敷北端線と1号屋敷の南東隅を結ぶラインにも境界がある。東は11号・14号屋敷に接する。西は北部は1号烟と直列し、南部は1号屋敷と接する。南は7号烟と斜交しつつ並列する。北は5号道から東へ分岐する道の延長線上に境界があるものと思われるが、傾斜が強くなっている間に溝が捉えられなくなる。東部では20号道が屈曲しながら東西走するが、道の北側にも歛間溝痕跡がある。東西幅31.8m、南北長32mほどの範囲を占め、確認面積784.84m²。N-70°-Eの方向で50条以上の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは19.5m、平均的な条間は52cm。南東隅に2号平坦面がある。

7号烟 25-100-B～G-1～4グリッド 最高位標高539.2m、最低位標高538.8m。6号烟の南にある。東は9号烟と直列する。西は1号屋敷と接する。南は西部は8号烟と斜交しつつ並列し、東部は16号屋敷と接する。北は6号烟と並列する。東西幅18.4m、南北長7.4mほどの範囲を占め、確認面積148.46m²。N-66°-Eの方向で16条の歛間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。平均的な条間は50cm。

8号烟 25-90/100-C～F-23～1グリッド 最高位標高540.2m、最低位標高539.1m。7号烟の南にある。東は16号屋敷と接する。西は5号烟と直列する。南は21号道に接する。北は7号烟と並列する。東西幅11.3m、南北長9.3mほどの範囲を占め、確認面積107.97m²。N-80°-Eの方向で21条の歛間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。平均的な条間は50cm。

9号烟 25-99・100-W～C-1～4グリッド 最高位標高539.3m、最低位標高538.1m。第8区画の東端、14号屋敷と13号・16号屋敷に挟まれる。東は25号道に接する。西は7号烟と直列する。南辺東部は13号屋敷、西部は16号屋敷に接し、北は14号屋敷に接する。屋敷地の形状に合わせて、歛間溝の長さを変えている。東西幅17.6

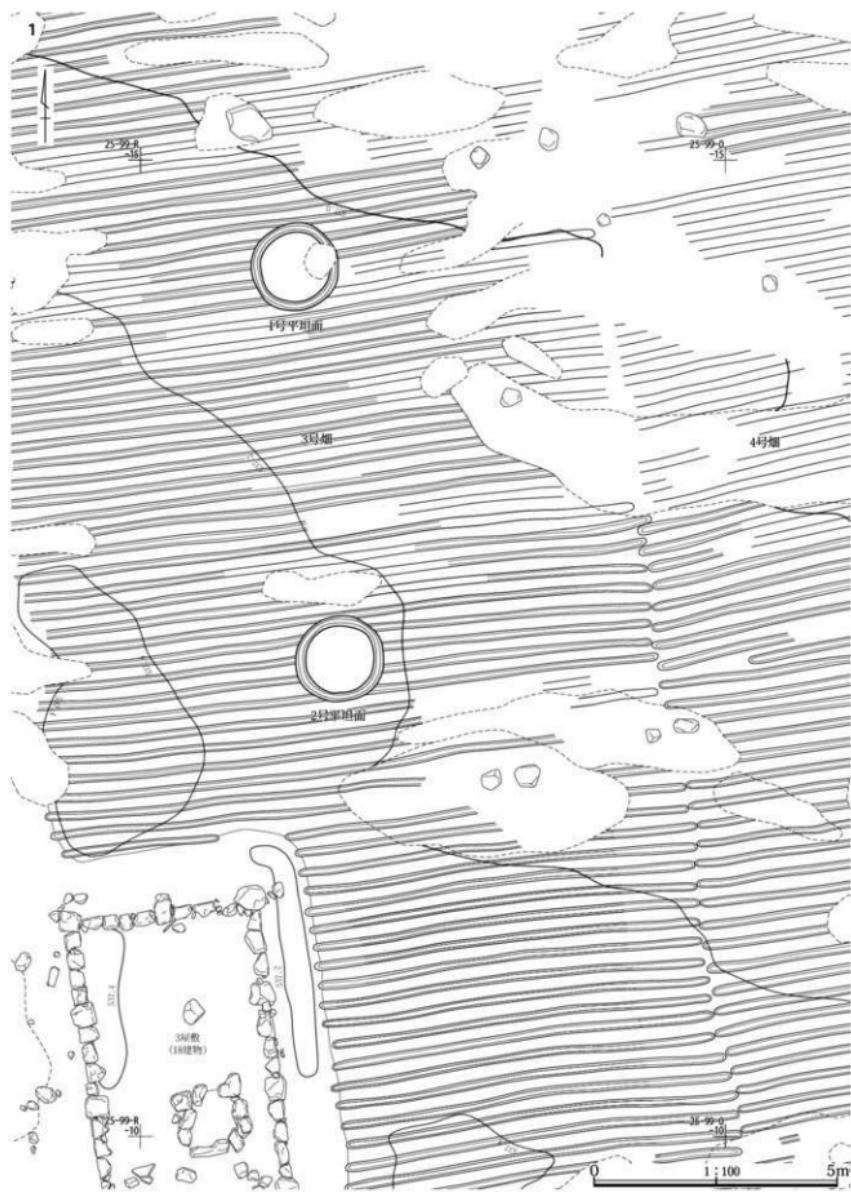
m、南北長9.8mほどの範囲を占め、確認面積152.48m²。N-78°-Eの方向で21条の歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向にある。平均的な条間は49cm。南辺に沿って、3号・4号平坦面が東西に並ぶ。

10号烟 25-89・90-24グリッド 最高位標高539.6m、最低位標高539.2m。第8区画の南東部、13号・16号屋敷の南にある。13号・16号屋敷に付属する煙であろう。屋敷地の周囲を東から南に回り込もうとする小溝の延長より北側にあり、屋敷内北端にあたることがわかる。ごく狭小な範囲に、3条の歛間溝が認められたものである。東西共に特定の境界施設なく歛間溝の連続が捉えられなくなる。東西幅9m、南北長1mほどの範囲を占め、確認面積14.39m²。N-90°の方向で3条の歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは5.3m、平均的な条間は50cm。

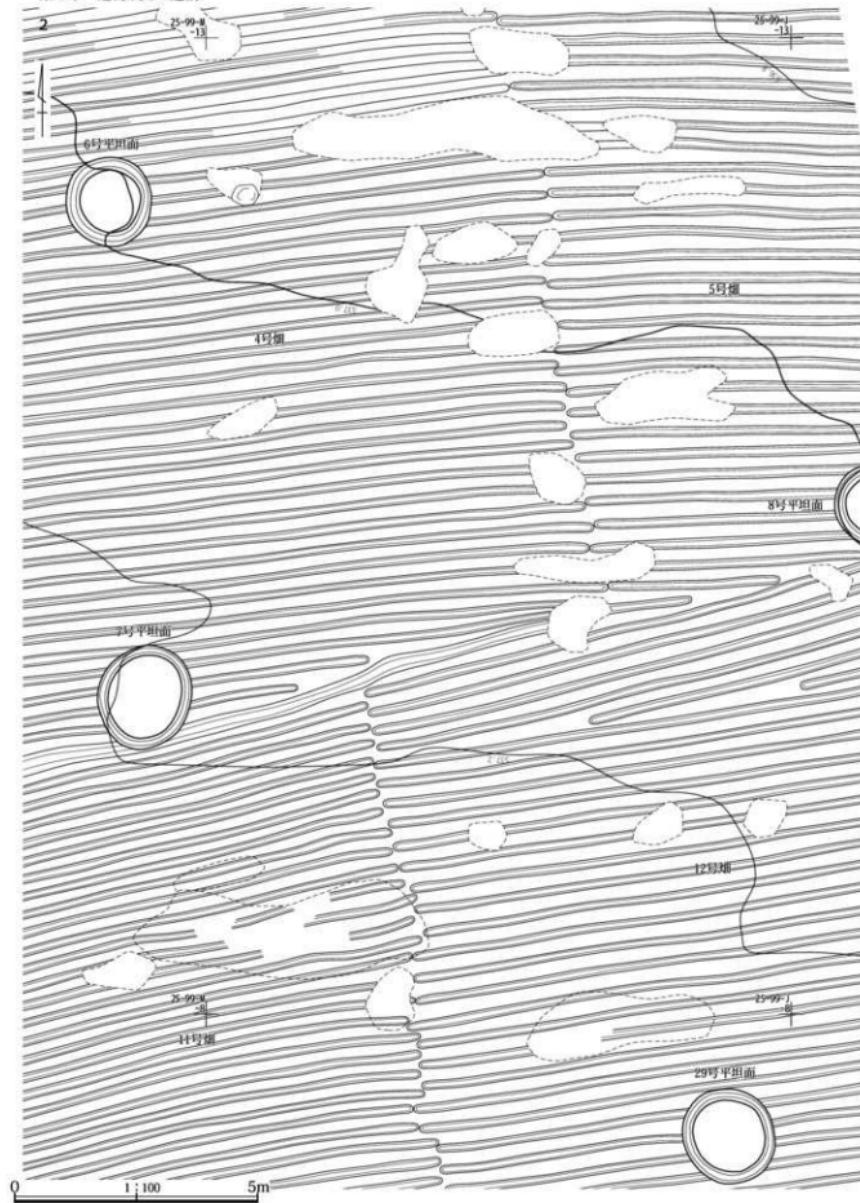
11号烟 25-89-X・Y-22～24グリッド 最高位標高540.3m、最低位標高539.3m。第8区画の南東部、13号屋敷の南にある。屋敷地外北部の僅かに高い場所に、南北方向に延びる3条の歛間溝が認められた。12号烟と共に、13号屋敷に付属する煙であろう。東は屋敷地周囲の溝の外側にあたり、尾根に歛間溝端部が接する。東は12号烟と直交する。東西幅5.2m、南北長2.2mほどの範囲を占め、確認面積14.18m²。N-17°-Eの方向で3条の歛間溝が並列する。等高線とはほぼ直交する。平均的な条間は110cmと、ごく広い。

12号烟 25-89-W～Y-22～24グリッド 最高位標高540.1m、最低位標高539.3m。第8区画の南東隅にあたる。東は小溝を介して25号道、57号溝に接する。西は11号烟と直交する。南は攪乱に切られるが、地形的な制約から、さほど広がらないものと思われる。北は25号道から13号屋敷に入る通路に接する。東西幅7.6m、南北長5mほどの範囲を占め、確認面積39.28m²。N-70°-Eの方向で8条の歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。平均的な条間は71.42cm。

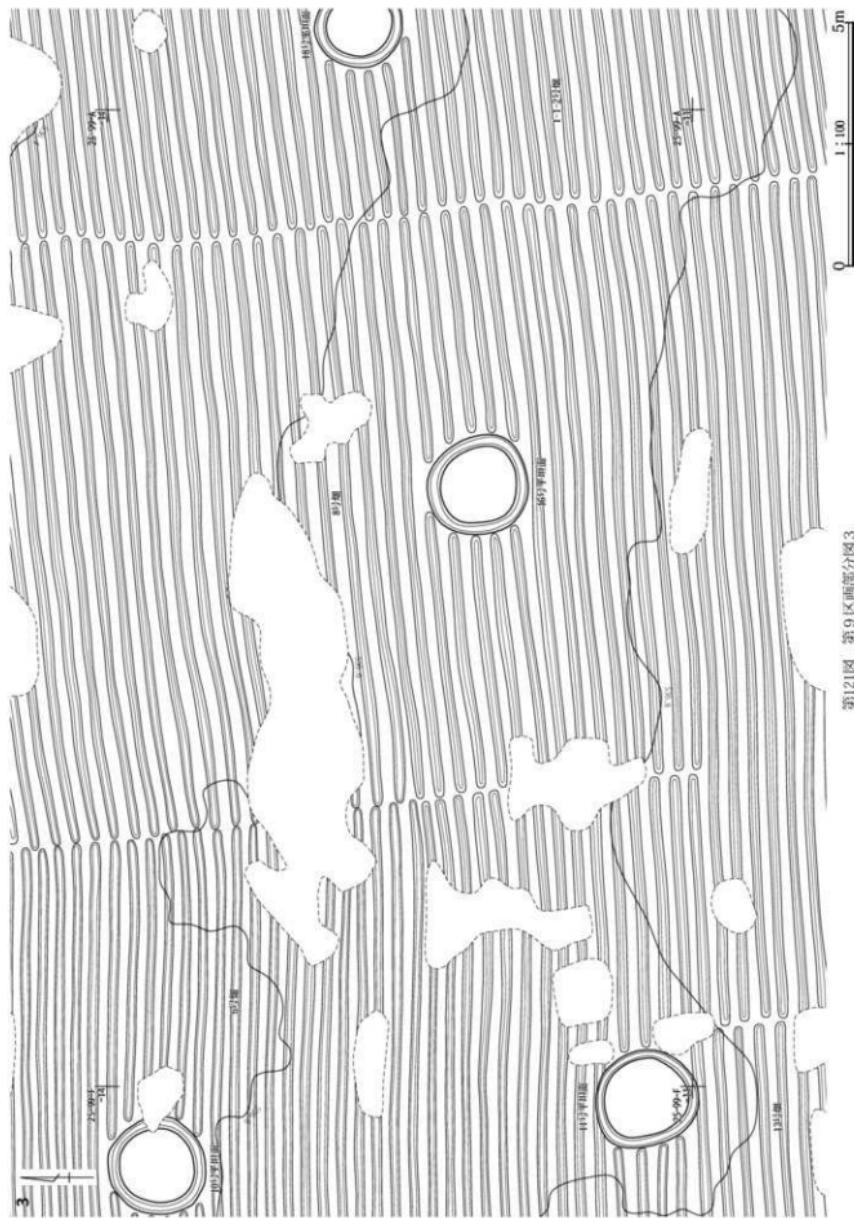
13号烟 25-90-D・E-21・22グリッド 標高543.1m。第8区画中央南端の尾根の中腹にかかる位置にあたる。東西幅7m、奥行き2mほどの三角形状の小平坦面があって、ここに歛間溝状の遺構が確認されたものである。西3条は最大確認長1.5m、N-16°-E方向をしめす。条間は50cmほど。東3条はN-55°-E方向で、条間は50



第119図 第9区画部分図1



第120図 第9区画部分図2



第121図 第9区画部分図3

~60cm。中央の1条はN-10°-Wを示していて、歛間溝ではなく境界溝に相当するかもしれない。確認面積は10m²に満たないが、尾根上部にも畠が拓かれていたことが示される。

2 平坦面

3号・7号・9号畑に計4基の平坦面がある。いずれも他区画の平坦面を有する畑に比すると狭い畑であり、中でも9号畑は近接して2基を有する。一方、1号・6号畑は相応の面積を有するにもかかわらず、平坦面が認められていない。また、屋敷地に付属する畑にも平坦面はない。1号平坦面のみ中央溝がある。4号平坦面は方形の平面形である。

1号平坦面 25-90-H・I-19・20グリッド 3号畑東辺南よりの、1号道と53号溝、21号道の交点近くにある。標高539.95~540.24m。南北にやや長い偏円形の平面形を呈する。外径161~183cm。平坦面溝幅は22cm。中央溝は東西に延びる。東辺の平坦面溝を切るが、西側の平坦面溝からはやや離れる。歛間とは直行する方向になる。中央溝は、長108cm、幅24~36cm、深さ8cm。東部の平坦面溝を切って東西に延び、西の平坦面溝より手前で完結する。等高線とは直交する方向にある。歛間溝は平坦面溝直前で完結する。

2号平坦面 25-100-C-2グリッド 7号畑東南隅近くにある。東の3号平坦面まで8m。標高539.05~539.11m。北部に擾乱が入るが、ややゆがんだ円形の平面形を呈する。外径196~200cm。平坦面溝幅は26cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面の南北にあって、平坦面溝直前で完結する。東西の歛間溝は確認されていない。

3号平坦面 25-100-A-2グリッド 9号畑南部西寄りにある。東の4号平坦面まで4m。標高538.91~539.08m。ほぼ円形の平面形を呈する。外径157~161cm。平坦面溝幅は24cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合間に完結する。

4号平坦面 25-99-Y・Z-2・3グリッド 9号畑南部東寄りにある。標高538.25~538.32m。北西-南東に長い、ゆがんだ隅丸長方形に近い平面形を呈する。歛間溝の方向と平坦面溝の各辺は斜交し、歛間溝は平坦面溝直前で完結する。外径165~185cm。平坦面溝幅は

18.5cm。中央溝は確認されていない。

第12項 第9区画

遺跡中央部にあたる。25-88・89/98・99/35-8・9-V~X-21~1グリッドにかけて広がる。最高位は南端部の標高539.8m、最低位は北端部近くの534.6m。東辺は前回報告の第1区画1号・2号畑と連続する。このため、前回報告1号畑(1-1-1号畑)は今回報告する第9区画7号畑の一部として再記載し、前回報告した第1区画2号畑に今回発掘した第9区画の一部を加えて、1-1-2号畑として再記載する。東辺の25号道に接して3号~5号屋敷が並んでいて、これが集落中枢部の東端にあたる。以東は広く畑地となる。南辺は7号道に接し、23号建物が中部にある。北辺は第14区画との境界となる傾斜部上縁に至る。東西方向に延びる歛/歛間溝が南北に並列した南北に長い形状の畑が多く、この中に南北に列をなすかのように平坦面が作られる。計38基の平坦面が確認されている。

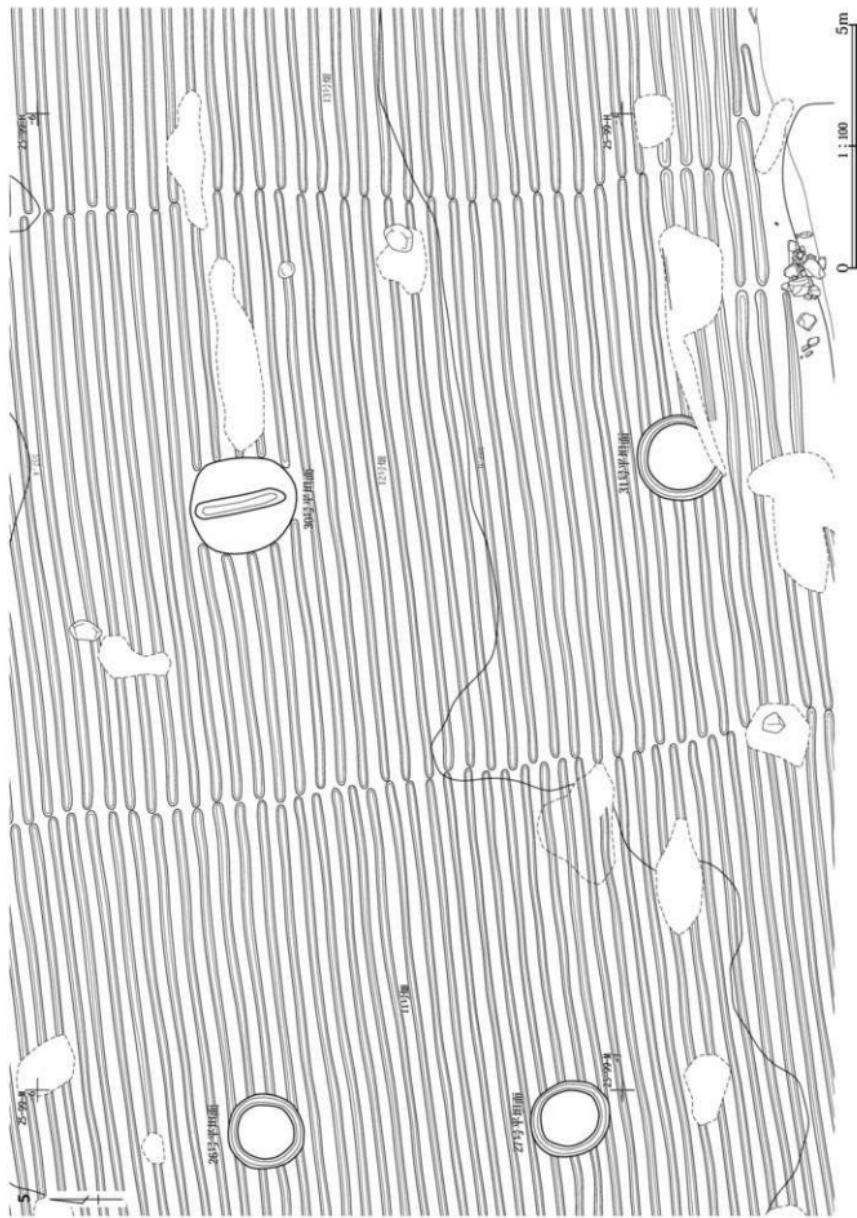
1 畑

1号畑 25-99-S~X-12~15グリッド 最高位標高537.3m、最低位標高536.8m。第9区画の北西隅にあたる。3号屋敷内にある。東は13号道から南に分岐して3号屋敷の東辺を縱る道に接する。西は泥流による削削や擾乱により把握できない。13号道と25号道の交点が16号屋敷の北西隅にあたるため、この範囲内で完結するものであろう。南は3号屋敷16号建物に接する。北は13号道に接する。東西幅19m、南北長7.4mほどの範囲を占め、確認面積86.77m²。N-75°-Eの方向で12条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは5mほど。平均的な条間は67cmとやや広い。

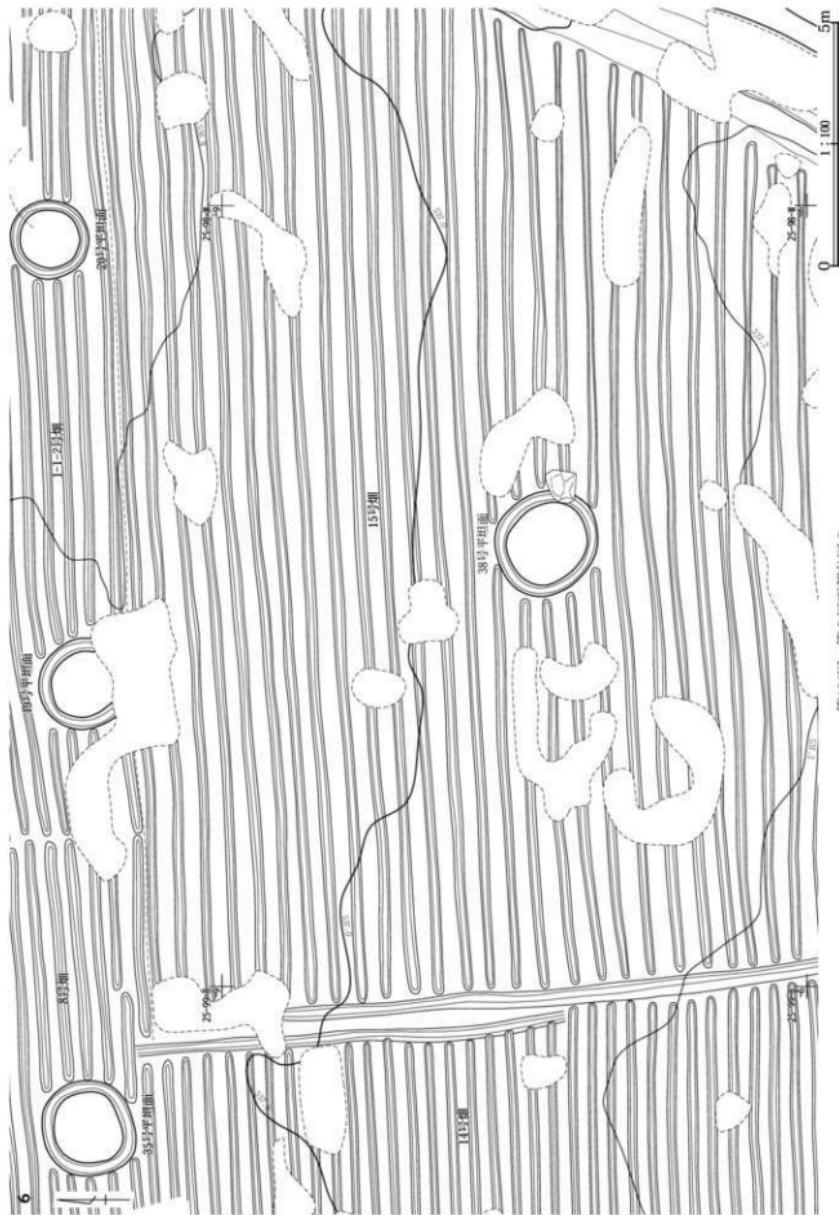
2号畑 25-99-L~T-15~22グリッド 最高位標高536.8m、最低位標高536.0m。第9区画北西部にある。泥流による削削を受けて、残りが非常に悪い。東西方向の歛間溝痕跡が断続的に残る。南辺西端では3号畑とこの畑の歛間溝が斜交することが認められ、3号・4号畑と斜交しつつ並列するものと想定した。東は4号畑、5号畑の境界の延長線上で、5号畑と直列するものと思われる。西は13号道から南に分岐して3号屋敷の東辺を縱る道に接する。北辺西端で13号道に接する。以東は発掘



第9回廊部分図
第12章 第9回廊部分図 4



第123図 第9区画部分図5



第124図 第9区画部分図6

区界となるが、傾斜面上端部に達するものと思われる。東西幅37.5m、南北長11mほどの範囲を占め、確認面積348.44m²。残りがわるいため、条数や方向は確定しがたい。最も長く確認できる敵間溝で長7.2m、条間は40cm前後と思われる。

3号煙 25-99-N～T- 9～17グリッド 最高位標高537.4m、最低位標高536.8m。第9区画北西部にある。3号屋敷の東にあたる。東は4号煙と直列する。西は3号屋敷に接し、敷地の形状に従つて敵の長さを変えていく。南西隅は18号建物が張り出し、敵間溝が短くなる。南は10号煙・11号煙と並列する。北は3号煙と斜交しつつ並列する。東西幅17.7m、南北長32mほどの範囲を占め、確認面積401.73m²。N-82°-Eの方向で76条の敵間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる敵間溝の長さは14.2m、平均的な条間は42cm。北部中央に1号、中部中央に2号、南辺中央に3号平坦面がある。

4号煙 25-99-K～O-9～18グリッド 最高位標高537.3m、最低位標高536.6m。第9区画北西部、3号煙の東にあたる。東は5号煙と直列する。西は3号煙と直列する。南辺西部は11号煙、東部は12号煙と並列する。北は2号煙に接する。東西幅15.5m、南北長35mほどの範囲を占め、確認面積559.69m²。N-79～83°-Eの方向で80条以上の敵間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。平均的な条間は40～45cm。煙中央に4～7号平坦面が直線的に並ぶ。7号平坦面は南辺中央にあたる。

5号煙 25-99-G～L- 9～22グリッド 最高位標高537.1m、最低位標高536m。第9区画中部、4号煙の東にある。東は6号煙と直列する。西は4号煙と直列する。南辺西部は12号煙、東部は13号煙と並列する。北は発掘区界に切られるが、傾斜面上端部に達するものと思われる。東西幅13.2m、南北長51mほどの範囲を占め、確認面積640m²。N-90°の方向で11条の敵間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる敵間溝の長さは13.2m、平均的な条間は45cm。南辺中央に8号平坦面がある。

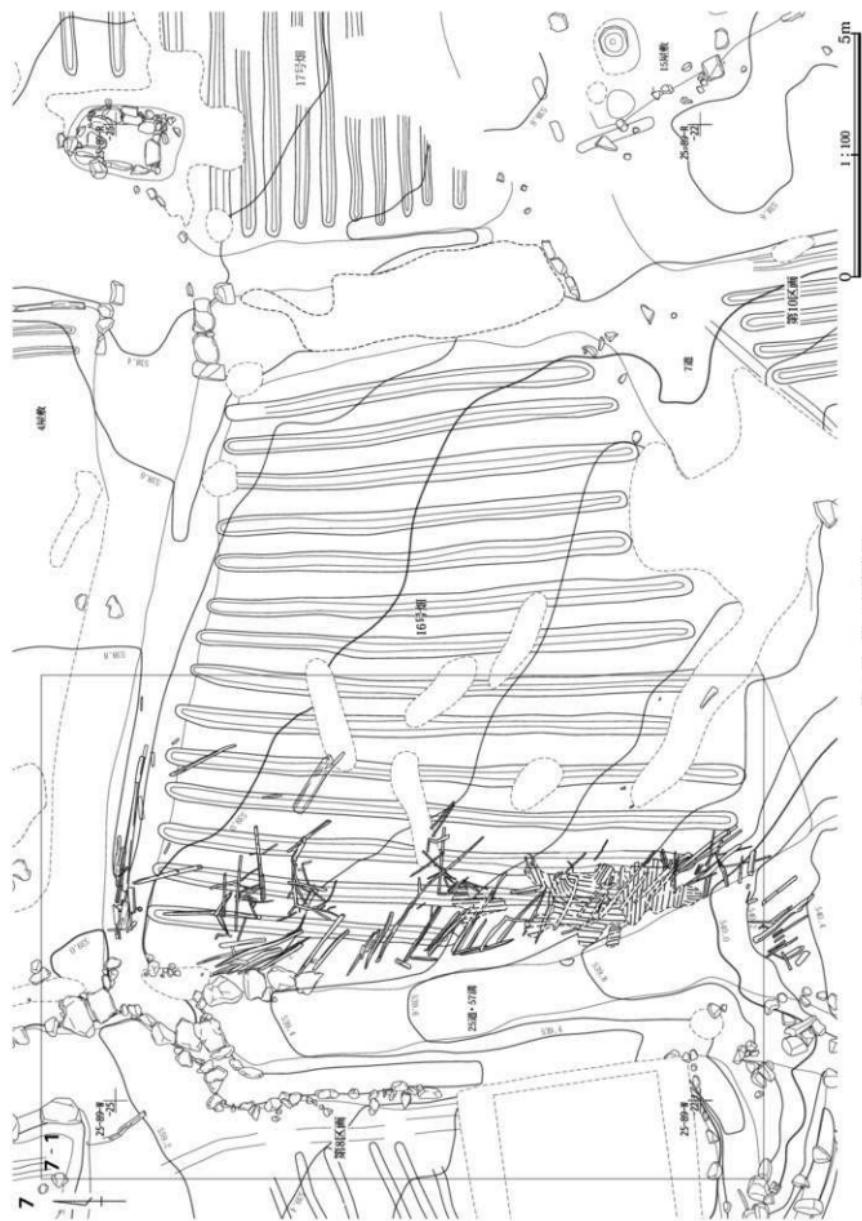
6号煙 25-99-D～I-10～24グリッド 最高位標高536.9m、最低位標高535m。第9区画中部、5号煙の東にある。東は北部は7号煙、南部は8号煙と直列する。南東隅部では8号煙が西に張り出す。西は5号煙と直列

する。南辺西部は13号煙、東部は東に張り出す8号煙と並列する。北は発掘区界に切られるが、傾斜面上端部に達するものと思われる。東西幅14.2m、南北長52.6mほどの範囲を占め、確認面積724.77m²。N-87～89°-Eの方向で130条の敵間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間は41cm。南部中央に9号～11号平坦面が南北に並ぶ。11号平坦面は南辺中央にあたる。

7号煙 25-99-A～E-20～25グリッド 最高位標高536.1m、最低位標高534.6m。第9区画北東隅部にある。北辺の一部は前報告の第1区画1号煙(1-1-1煙)にあたる。東は前報告第1区画2号煙(1-1-2煙)と直列する。西は6号煙と直列する。南は西半は8号煙、1-1-2煙西部と並列する。北は傾斜面上端部に達する。北端の8条は地形に合わせて角度、長さを変えている。東西幅16.4m、南北長19.2mほどの範囲を占め、確認面積308.56m²。N-77°-Eの方向で45条の敵間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間は43cm。中央に12号、南端中央に13号平坦面がある。

8号煙 25-99-A～E-7～20グリッド 最高位標高537m、最低位標高535.9m。第9区画東部中央にある。東は1-1-2煙と直列する。西は北部は6号煙、南端部は東に張り出して、13号煙と直列する。南は14号煙と並列し、東端部では15号煙と並列する。北は7号煙と並列する。東西幅北部10.2m、南部16.8m、南北長45mほどの範囲を占め、確認面積558.49m²。N-82～85°-Eの方向で106条の敵間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。平均的な条間は42cm。中央に14～17号平坦面が南北に並ぶ。17号平坦面は南端部東寄りに位置する。

9号煙 25-99-R～V-3～8グリッド 最高位標高538.5m、最低位標高537.4m。第9区画西辺中部にある。3号屋敷と4号・5号屋敷に挟まれ、敷地の形状に従つて敵の長さを変えている。東は10号煙と直列する。西辺北部は3号屋敷に接する。北は3号屋敷に接する。東西幅北部10.5m、中部16.2m、南部9.2m、南北長22mほどの範囲を占め、確認面積240.12m²。北端部はN-70°-E、他はN-85°-Eで50条の敵間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。平均的な条間は41cm。中央西部の



第125図 第9区画部分図 7

3号屋敷南東隅近くに21号、南部東寄りの4号屋敷に接する部分に22号平坦面がある。

10号畠 25-99-O～R-4～9 グリッド 最高位標高537.7m、最低位標高537.3m。第9区画西部、8号畠の東にある。東は11号畠と、西は9号畠と直列する。南は5号屋敷に接する。北辺西部は3号屋敷に接し、東部は3号畠と並列する。東西幅13.6m、南北長18.7mほどの範囲を占め、確認面積244.05m²。N-84°-Eの方向で47条の歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。最も長く確認できる歛間溝の長さは13m、平均的な条間は40cm。中央西寄りに23号平坦面、南辺中央に24号平坦面がある。

11号畠 25-89・99-K～O-25～9 グリッド 最高位標高538.1m、最低位標高537.1m。第9区画南部西寄りにある。10号畠、4号屋敷の東にある。東辺北部は10号畠と直列し、南部は5号屋敷に接する。西辺北部は10号畠と直列し、南部は20号屋敷に接する。南は7号道に接する。北辺西端は3号畠、東部は4号畠と並列する。東西幅14.2m、南北長34.6mほどの範囲を占め、確認面積481.85m²。N-83°-Eの方向で89条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間は39cm。畠中央に南北に並ぶように、25号～28号平坦面がある。28号平坦面は南辺に接するようである。

12号畠 25-99-H～L-1～9 グリッド 最高位標高537.7m、最低位標高537.2m。第9区画南部中央にある。11号畠の東にある。東は13号畠と、西は11号畠と直列する。南は7号道に接する。北辺西部は4号畠、東部は5号畠と直列する。北端の5条は両畠との角度差を埋めるように、以南の歛間溝とは方向、長さを変える。東西幅12.7m、南北長は31.5mほどあって、確認面積402.57m²。北端はN-74°-E、以南はN-81～84°-E方向で74条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。北辺の斜交する歛は、長さ17.5mある。平均的な条間は43cm。畠中央に南北に並ぶように、29号～31号平坦面がある。31号平坦面は南辺近くにある。

13号畠 25-99-D～H-2～10グリッド 最高位標高537.8m、最低位標高536.9m。第9区画南部中央にある。12号畠の東にある。東は北部は8号畠、14号畠と直列する。南辺近くでは23号建物の東辺に接し、建物周囲の溝上端を歛間溝が切る部分も見られる。西は12号畠

と直列する。南は7号道に接する。北は西部は5号畠、東部は6号畠と直列する。北辺の5条は両畠の境界の延長上にあって、両畠に沿った角度で切られ、以南の4条がこれとの角度差を埋めるように長さを変えている。東西幅14.8m、南北長33.6mほどの範囲を占め、確認面積456.88m²。N-86°～87°-Eの方向で76条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間は44cm。畠中央に南北に並ぶように、32号～34号平坦面がある。34号平坦面は南辺近くにあり、12号畠とほぼ相同的な配置である。

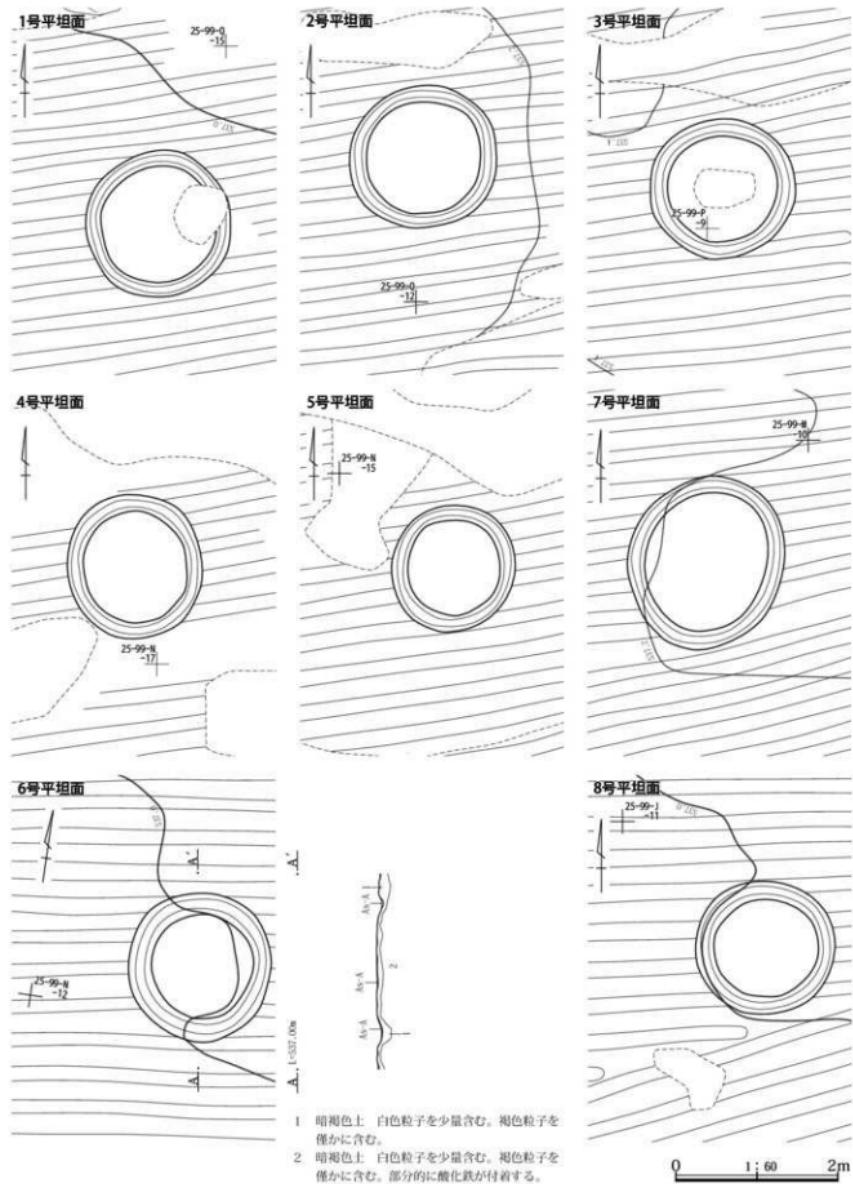
14号畠 25-99-A～E-2～8 グリッド 最高位標高537.6m、最低位標高537m。第9区画南東部にあたる。13号畠の東にある。南西隅に23号建物がある。東は15号畠との間を小溝で画される。西は13号畠と直列する。23号建物周囲の溝上端を歛間溝が切る部分も見られる。南は7号道に接する。北は8号畠と並列する。東西幅北部17.5m、南部7.2m、南北長24.1mの範囲を占め、確認面積285.93m²。N-87°～89°-Eの方向で58条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間は42cm。畠中央に35号平坦面、南辺中央に36号平坦面がある。

15号畠 25-98・99-U～B-3～9 グリッド 最高位標高537.6m、最低位標高536.7m。第9区画の南東隅にあたる。北東隅は前報告第1区画3号畠(1-1-3畠)が張り出す。東から南にかけて、弧状に7号道が廻り、これに接しているため畠全体が扇状の平面形を呈する。西は小溝を介して14号畠と直列する。北辺西端部は8号畠と並列し、以東は1-1-2畠と並列する。北東端には1-1-3畠が南に張り出す。東西幅22.2m、南北長21.5mほどの範囲を占め、確認面積388.63m²。N-87°-Eの方向で40条の歛間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。平均的な条間は55cm。中央南寄りに37号平坦面、南端近くに38号平坦面がある。

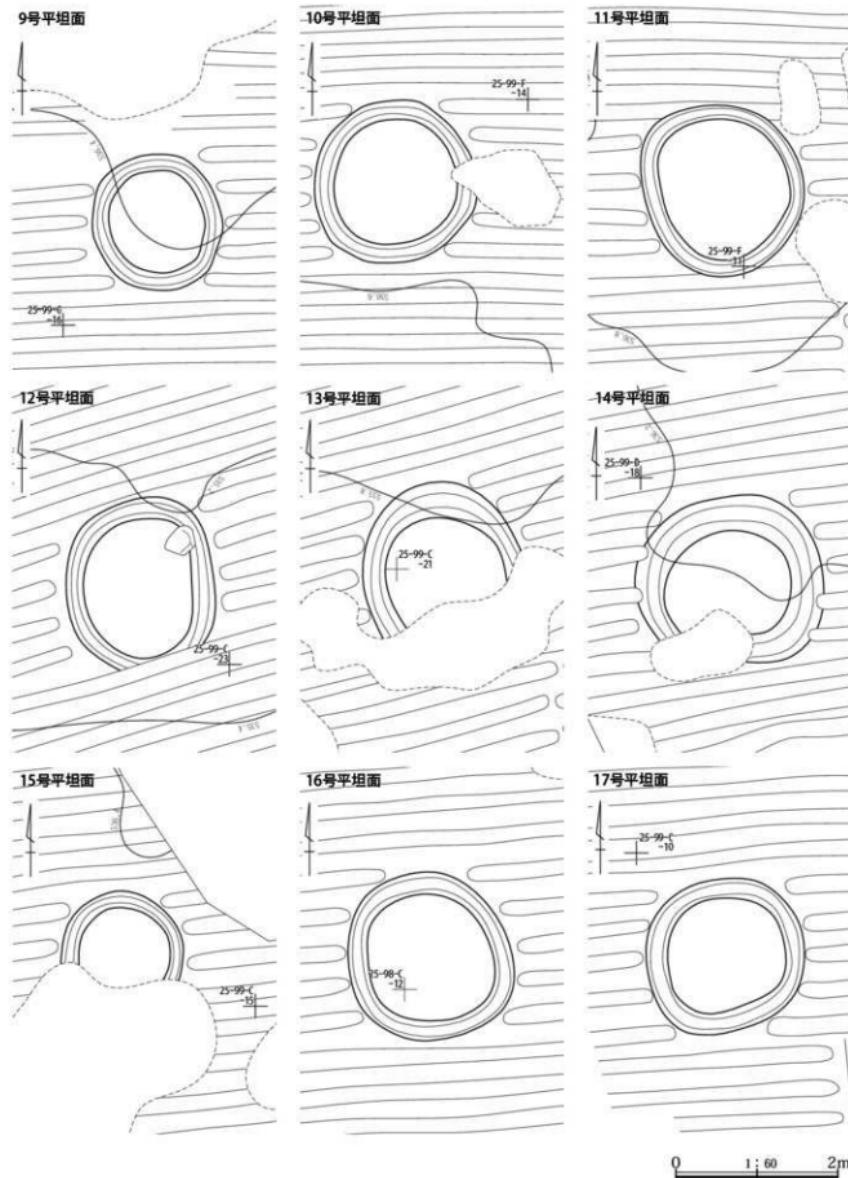
16号畠 25-89-S～V-21～25グリッド 最高位標高540m、最低位標高538.8m。第9区画の南西隅にあたる。東は27号道に接する。西は25号道に接する。北は27号道南辺の溝に画される。南は7号道に接する。東西幅11.8m、南北長11.2mほどの範囲を占め、確認面積127.92m²。N-5°-Eの方向で14条の歛間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。平均的な条間は86cmと広い。



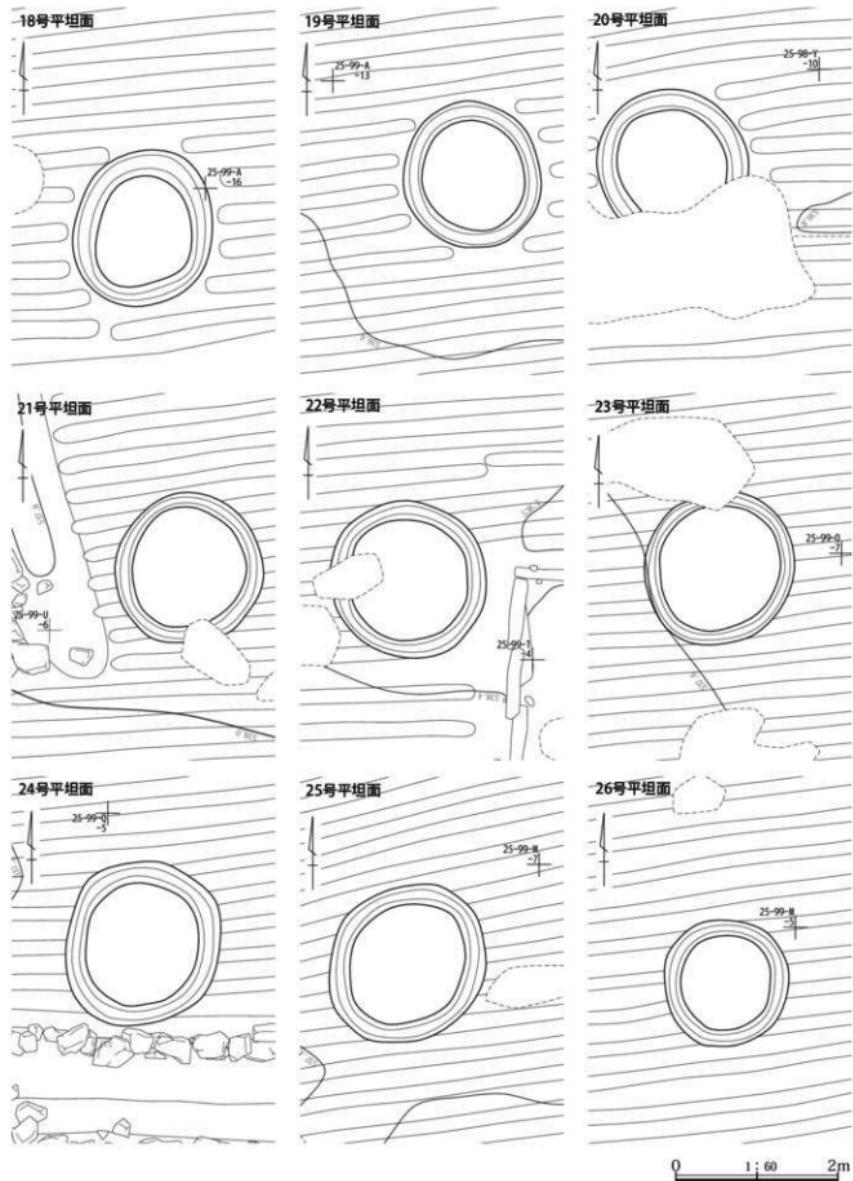
第126図 第9区画部分図7 詳細図1



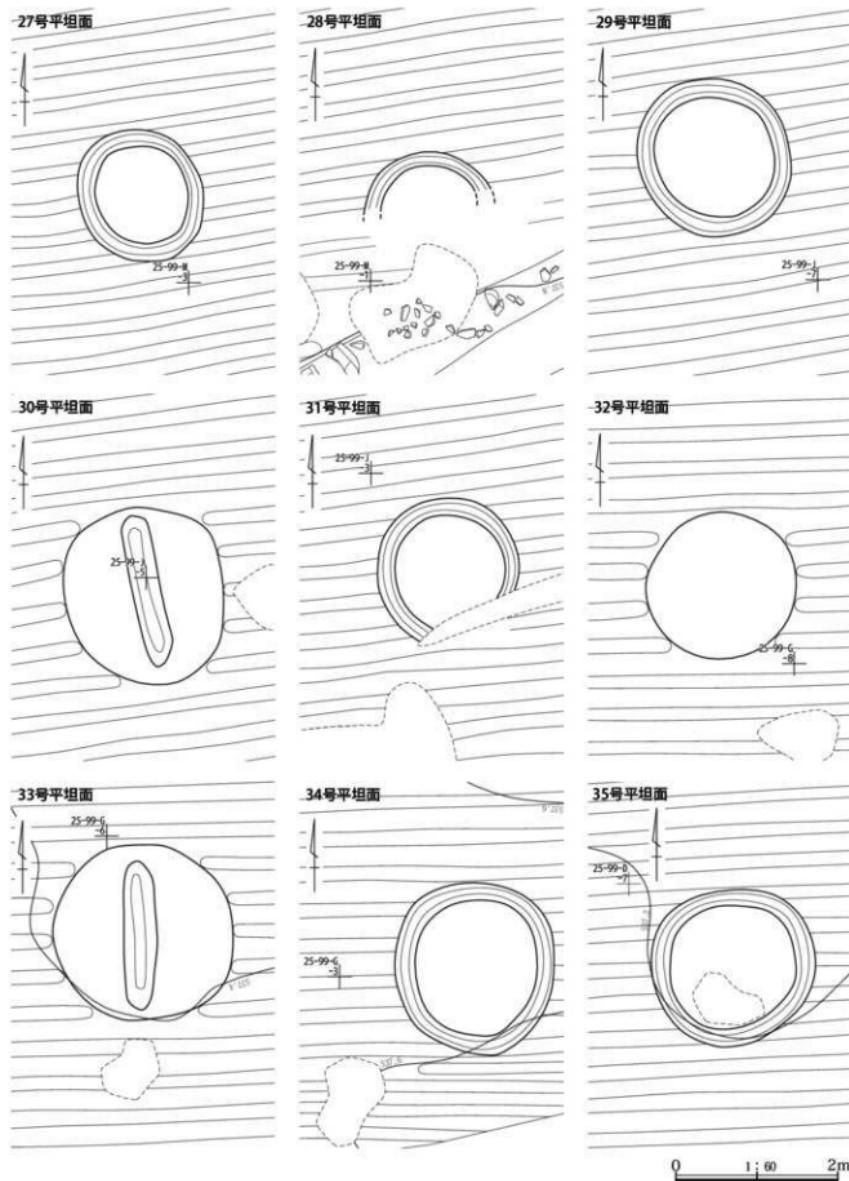
第127図 第9区画平坦面1



第128図 第9区画平坦面2



第129図 第9区画平坦面3



第130図 第9区画平坦面 4

西辺の25号道との境界に、連続する杭列がある。長さ160~180cmほどの削材を道脇の斜面に並べたもので、立っていたことがわかる杭だけで29本ある。杭間は80~100cmあって、南部ではこの杭列の上に、重なった草本の茎と竹材が組み合った状態で乗る部分もある。この草本は表皮を剥がれた状態の大麻茎(麻梗)であることがわかっている。杭と竹、麻茎が組み合っていた可能性もあるが、結束部などは把握されていない。泥流によってなぎ倒されたものと見られ、基部を北西に向けてN-50~56°-W方向に倒れている。道際に杭が打たれる、あるいは生け垣状の根跡が認められる例は他にもあるが、この杭列は高さ、密度ともに異例である。北辺西部にも杭があって、西辺から続くものとも思われるが、確認されたのは2本だけであり、間隔も2mと広い。一边のみに、当時の人の身長を上回る高さの壠状の構造物があって、他の三方は開放されていることになる。土地区画の表示や目隠しの機能は想定しがたい。特定方向の風や日射を防ぐ施設だろうか。

17号烟 25-89-P ~ R-22~25グリッド 最高位標高538.6m、最低位標高538m、第9区画の南西部にある。17号烟と共に5号屋敷に付属する烟と思われる。南北二群に分かれ、北は条間が広い。東は小段差と小溝を介して、51号建物に接する。西は27号道、南は7号道に接する。北は小段差により、5号屋敷と画される。東西幅4.7m、南部6.5m、南北長4.7mほどの範囲を占め、確認面積68.46m²。N-84~86°-Eの方向で5条の歛間溝が並列する。等高線とは直交気味に斜交する方向である。平均的な条間は北部117cm、南部57cm。

18号烟 25-99-N・O-1グリッド 最高位標高537.7m、最低位標高537.8m。5号屋敷内にあり、17号烟と共に5号屋敷に付属する烟と思われる。東は5号屋敷東辺の石垣を介して11号烟と接する。西は特定の施設なく歛間溝の連続が捉えられなくなる。南は51号建物に接するものと思われる。北は21号建物に近い。東西幅4m、南北長2.4mほどの範囲を占め、確認面積14.29m²。N-90°の方向で4条の歛間溝が並列する。平均的な条間は80cm。

1-1-2号烟 東半部について、前報告で第1区画2号烟とした。その後の調査で西半部を確認したため、両者を併せて再記載する。25-98・99-U~B-9~21グリッド

最高位標高536.8m、最低位標高534.8m。第9区画の東端北部にある。東は1-1-3烟と直列する。西辺北部では7号烟、南部では8号烟と直列する。南は15号烟と並列する。北は傾斜面上端部に達する。東西幅北部9.6m、中部東9.8m、中部西6m、南部17.3m、南北長68mの範囲を占め、確認面積967.33m²。北部ではN-72°-E、中部ではN-79°-E前後、南部ではN-84°-E前後の方向で178条の歛間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間は38cm。7号烟との境界を南に延長するように、歛間溝の境界が10号平坦面と前報告4号平坦面の間まで続く。東部には前報告で記載した1号~6号平坦面(1-1~1-6号平坦面)が南北に並ぶ。烟北半部の中央にある。1-4号平坦面の東に18号平坦面があり、これを北端として1-5号、1-6号平坦面と対応するように、19号・20号平坦面が南北に並ぶ。

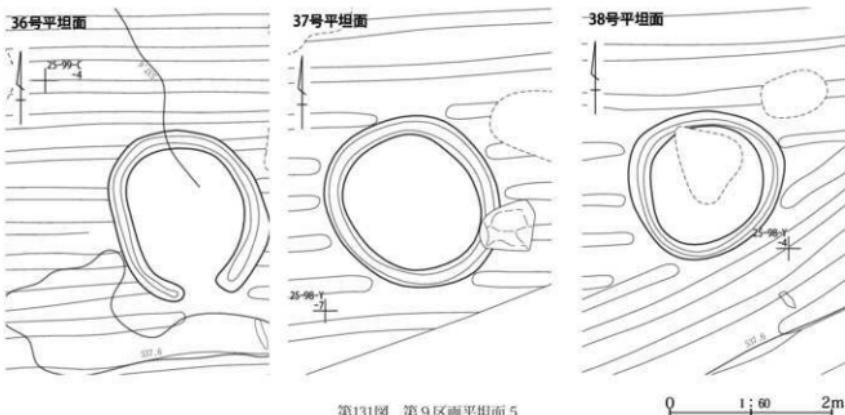
2 平坦面

37基の平坦面が確認されている。平面形状はすべて円形で、中央溝は無い。烟および烟のグループごとに規則性を持って配置されているかに見える。北部では烟境界からやや離れた位置に平坦面が作られ、南端ではこれに接するか、ごく近い位置に平坦面が位置する。北西部の3~6号烟では、南北方向に長い烟の中央に、平坦面が南北に並びつつ、隣接する烟の平坦面と東西に並ぶ。5号烟には平坦面が少ないが、南端部中央のものは他の烟と揃う。南部の11~14号烟でも同様の状況が見られる。

1号平坦面 25-99-P・Q-14グリッド 3号烟北部中央にある。南の2号平坦面まで6.1m、東の5号平坦面まで17.8m。標高537.03~537.11m。円形の平面形を呈する。外径178~180cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5区1号平坦面。

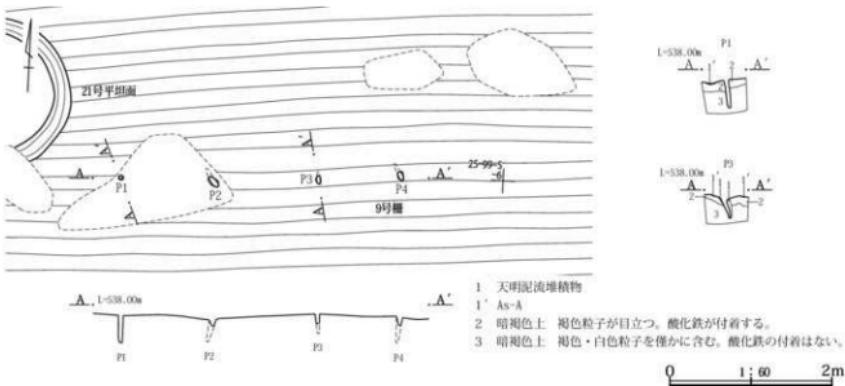
2号平坦面 25-99-P・Q-12グリッド 3号烟中央南寄りにある。南の3号平坦面まで12.3m、南東の6号平坦面まで12.2m。標高537.2~537.29m。円形の平面形を呈する。外径170~180cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5区2号平坦面。

3号平坦面 25-99-O・P-8・9グリッド 3号烟南端中央にある。3号屋敷18号建物が東に張り出して烟



第131図 第9区画平坦面5

0 1:60 2m



第132図 9号柵

0 1:60 2m

幅が狭くなる部分で、1-2号平坦面の延長よりやや東にずれた位置にある。東の7号平坦面まで9m。標高537.32~537.39m。円形の平面形を呈する。外径170~178cm、平坦面溝幅21.5cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歎間溝を切る。発掘時遺構名称5区3号平坦面。

4号平坦面 25-99-M・N-17グリッド 4号烟北部中央にある。南の5号平坦面まで8.5m。東の5号・6号烟、西の3号烟と共に、対応位置には平坦面がない。標高536.68~536.73m。円形の平面形を呈する。外径165~178cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。

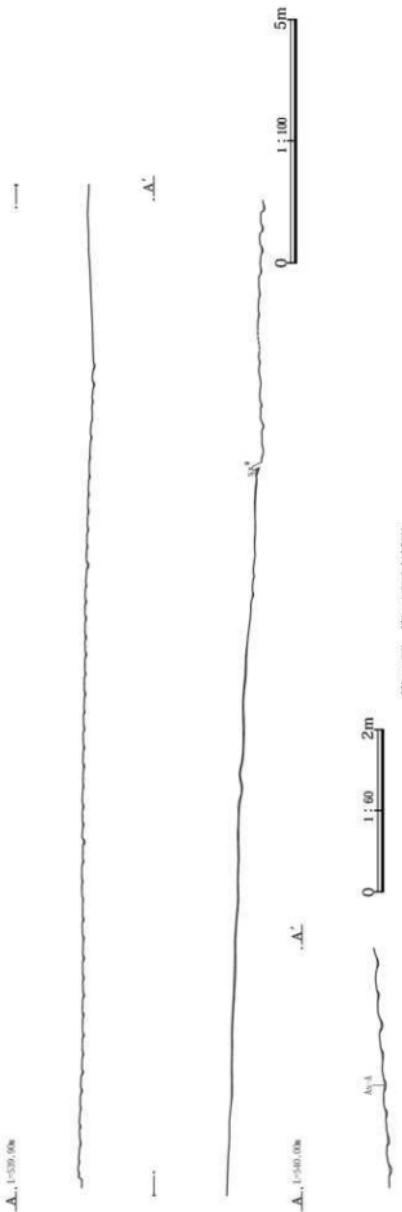
平坦面溝が歎間溝を切る。発掘時遺構名称5区4号平坦面。

5号平坦面 25-99-M-14グリッド 4号烟中央にある。南の6号平坦面まで8.6m。3号烟にある1号平坦面とは東西に並ぶ位置にある。東の5号烟には対応位置に平坦面が認められていない。6号烟にある9号平坦面まで26.5m。標高536.88~536.93m。円形の平面形を呈する。外径150~155cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歎間溝を切る。発掘時遺構名称5区5号平坦面。

6号平坦面 25-99-M-11・12グリッド 4号烟南部中



第133図 第10・11区画



央にある。南の7号平坦面まで8m。東の5号畑には対応位置に平坦面が認められていない。6号畑にある10号平坦面まで27m。標高536.99～537.03m。円形の平面形を呈する。外径175～180cm、平坦面溝幅27.5cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が畠間溝を切る。発掘時遺構名称5区6号平坦面。

7号平坦面 25-99-M-9グリッド 4号畑南端中央にある。東の5号畑にある8号平坦面まで13.5m。標高537.17～537.21m。円形の平面形を呈する。外径190～210cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が畠間溝を切る。発掘時遺構名称5区7号平坦面。

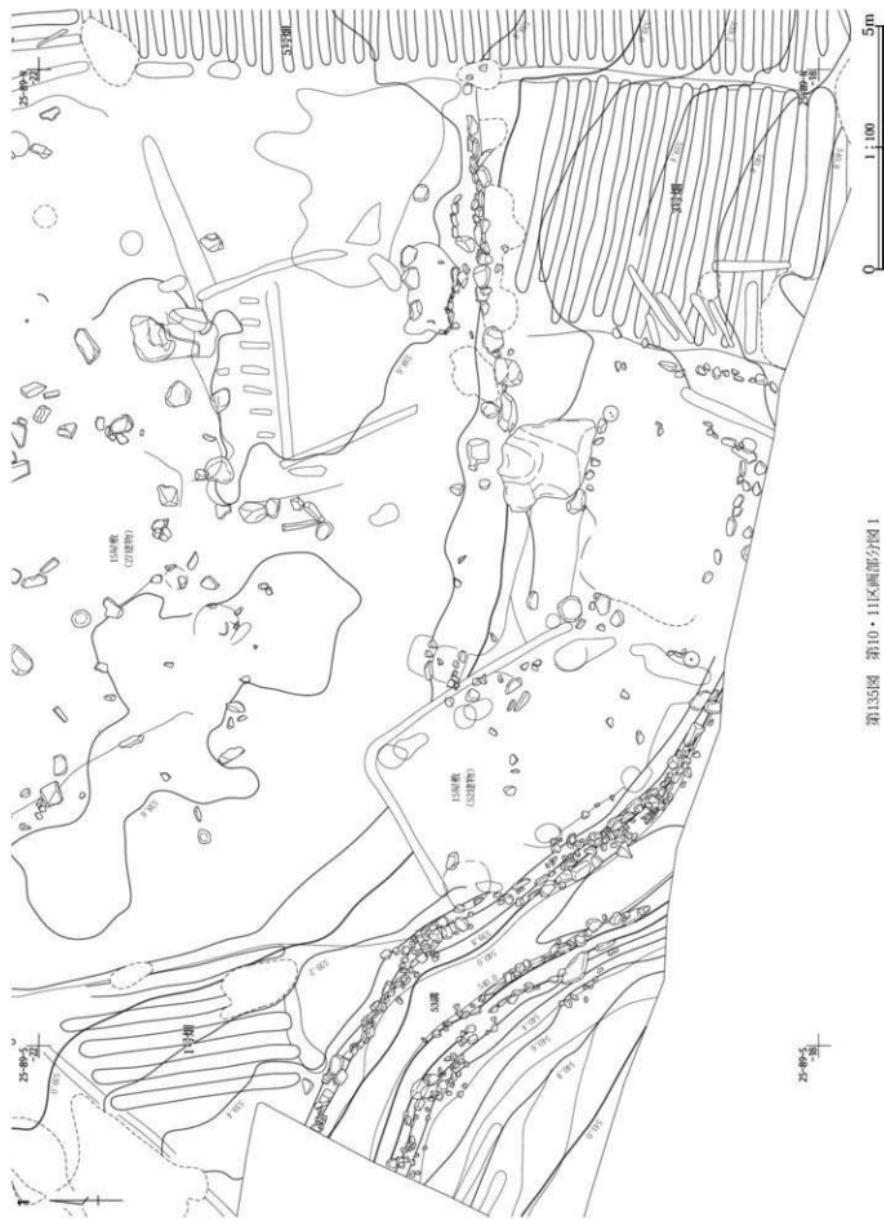
8号平坦面 25-99-I-10グリッド 5号畑南端中央にある。この畑で確認された唯一の平坦面である。東の11号平坦面まで12.4m、標高536.95～537.02m。円形の平面形を呈する。外径160～170cm、平坦面溝幅21cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が畠間溝を切る。発掘時遺構名称5区8号平坦面。

9号平坦面 25-99-E-16グリッド 6号畑中央南寄りにある。南の10号平坦面まで8.5m。8号畑にある14号平坦面は北東11.5mにある。標高536.37～536.43m。僅かに南北に長い偏円形の平面形を呈する。外径165～174cm、平坦面溝幅21.5cm。中央溝は確認されていない。畠間溝は平坦面溝直前で完結する。

10号平坦面 25-99-F-13グリッド 6号畑南部中央にある。南の11号平坦面まで8m。8号畑にある15号平坦面は北東11.5mにある。標高536.53～536.58m。円形の平面形を呈する。外径200～204cm、平坦面溝幅23.5cm。中央溝は確認されていない。畠間溝は平坦面溝直前で完結する。

11号平坦面 25-99-E・F-10・11グリッド 6号畑南端中央にある。西の3号-7号-8号平坦面とほぼ同一線上にあり、東11mにある16号平坦面もこの延長線上にあたる。標高536.73～536.76m。やや南北に長い偏円形の平面形を呈する。外径191～217cm、平坦面溝幅19.5cm。中央溝は確認されていない。畠間溝は平坦面溝直前で完結する。

12号平坦面 25-99-C-23グリッド 7号畑中央にある。南の13号平坦面まで6.9m、北東12.5mに1-1号平坦面、南東11.5mに1-2号平坦面がある。西側の畑では

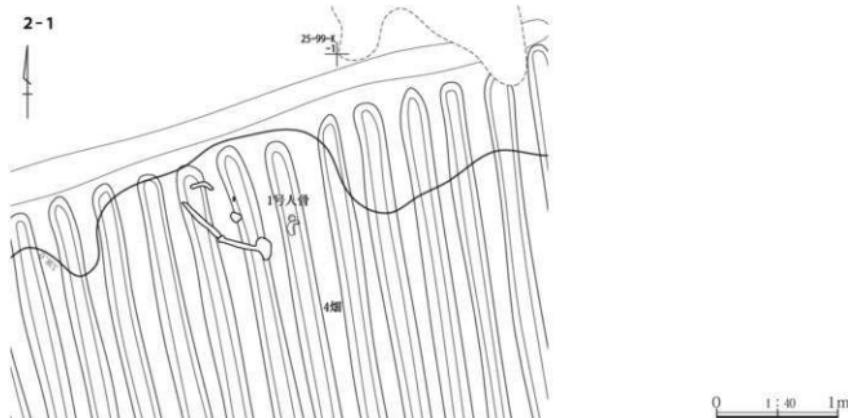


第135図 第10・11街区部分図 1

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第10・11区画部分図2
第136図



第137図 第10・11区画部分図2 詳細図1

相当位置の平坦面が確認されていない。標高535.21～535.3m。南北に長い長円形の平面形を呈する。外径187～222cm、平坦面溝幅24cm。中央溝は確認されていない。東西の歛間溝は平坦面溝直前で、切り合わずに完結するが、南部の歛間溝は平坦面溝を切る。

13号平坦面 25-99-B・C-20・21グリッド 7号烟南端中央にある。南西の14号平坦面まで11.5m、北東の1-2号平坦面まで11.8m。標高535.78～535.82m。南半が攢乱されるが、円形あるいは南北にやや長い偏円形の平面形を呈するものと思われる。外径204cm、平坦面溝幅26cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で完結する。

14号平坦面 25-99-C-17グリッド 8号烟北部中央にある。南の15号平坦面まで8.2m、北東の1-3号平坦面まで16.2m。標高536.18～536.24m。南北にややつぶれた偏円形の平面形を呈する。外径213～235cm、平坦面溝幅39cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝直前で完結する歛間溝、平坦面溝を切る歛間溝の両者が記録されている。

15号平坦面 25-99-C-15グリッド 8号烟中央にある。南の16号平坦面まで10.5m、北東の18号平坦面まで7.6m。標高536.4～536.44m。南半が攢乱されるが、円形の平面形を呈するものと思われる。外径152cm、平坦面溝幅19.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦

面溝直前で完結する。

16号平坦面 25-99-B・C-11・12グリッド 8号烟南部中央にある。南の17号平坦面まで7.7m、北東の19号平坦面まで8m。標高536.64～536.69m。ややゆがむが、ほぼ円形の平面形を呈する。外径196～218cm、平坦面溝幅24cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で完結する。

17号平坦面 25-99-B-9 グリッド 8号烟南端中央東寄りにある。煙が西に張り出す部分にあたる。東の20号平坦面まで7.2m、南西の35号平坦面まで10.4m。標高536.87～536.91m。円形の平面形を呈する。外径196～196cm、平坦面溝幅26cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

18号平坦面 25-98/99-Y/A-15・16グリッド 1-1-2号烟の歛間溝で東西に画された部分の西側南端中央にあたる。1-4号平坦面と東西に並ぶ。1-4号平坦面まで6m、南の19号平坦面まで10.9m。標高536.22～536.31m。東西につぶれた偏円形の平面形を呈する。外径174～196cm、平坦面溝幅28.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で完結する。

19号平坦面 25-98-Y-12グリッド 1-1-2号烟の南西部にある。18号平坦面の南にあたり。1-5号平坦面と東西に並ぶ。南の20号平坦面まで10m、1-5号平坦面

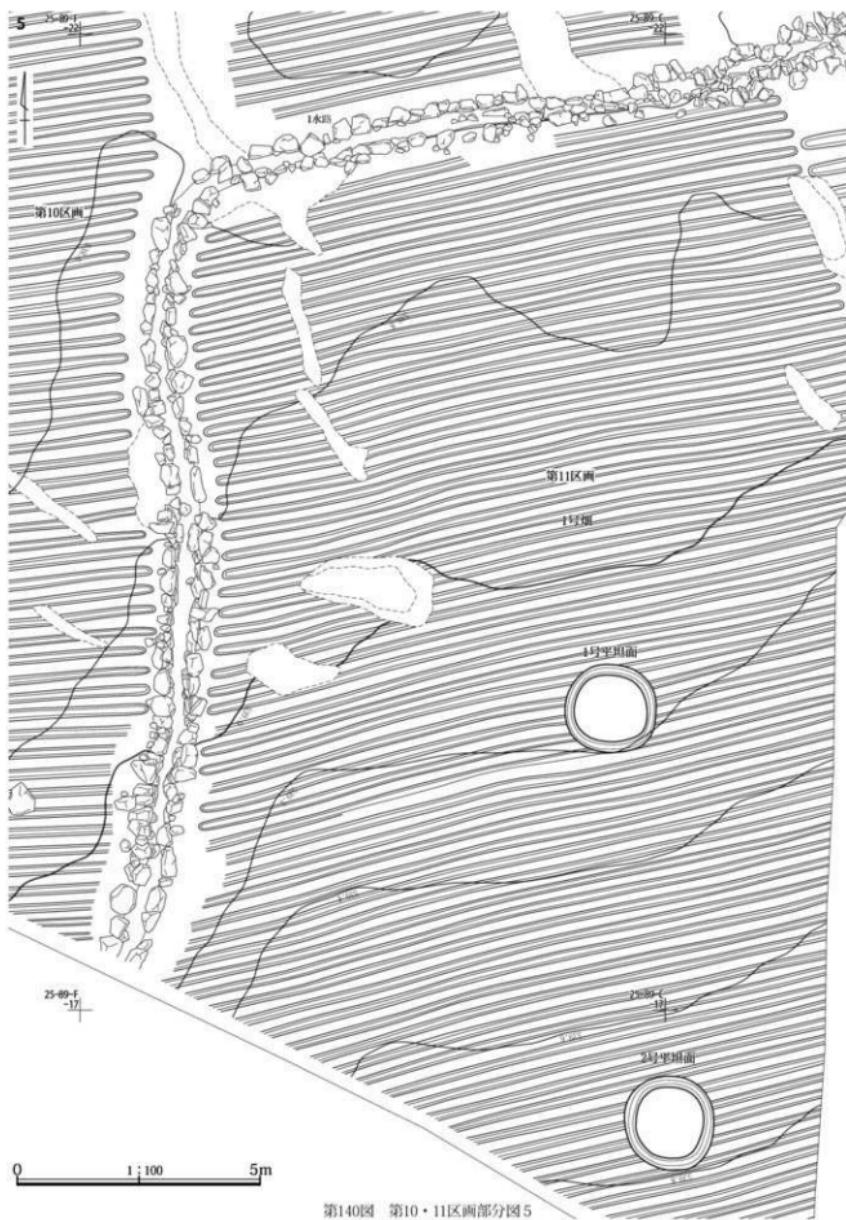


第138図 第10・11区画部分図3

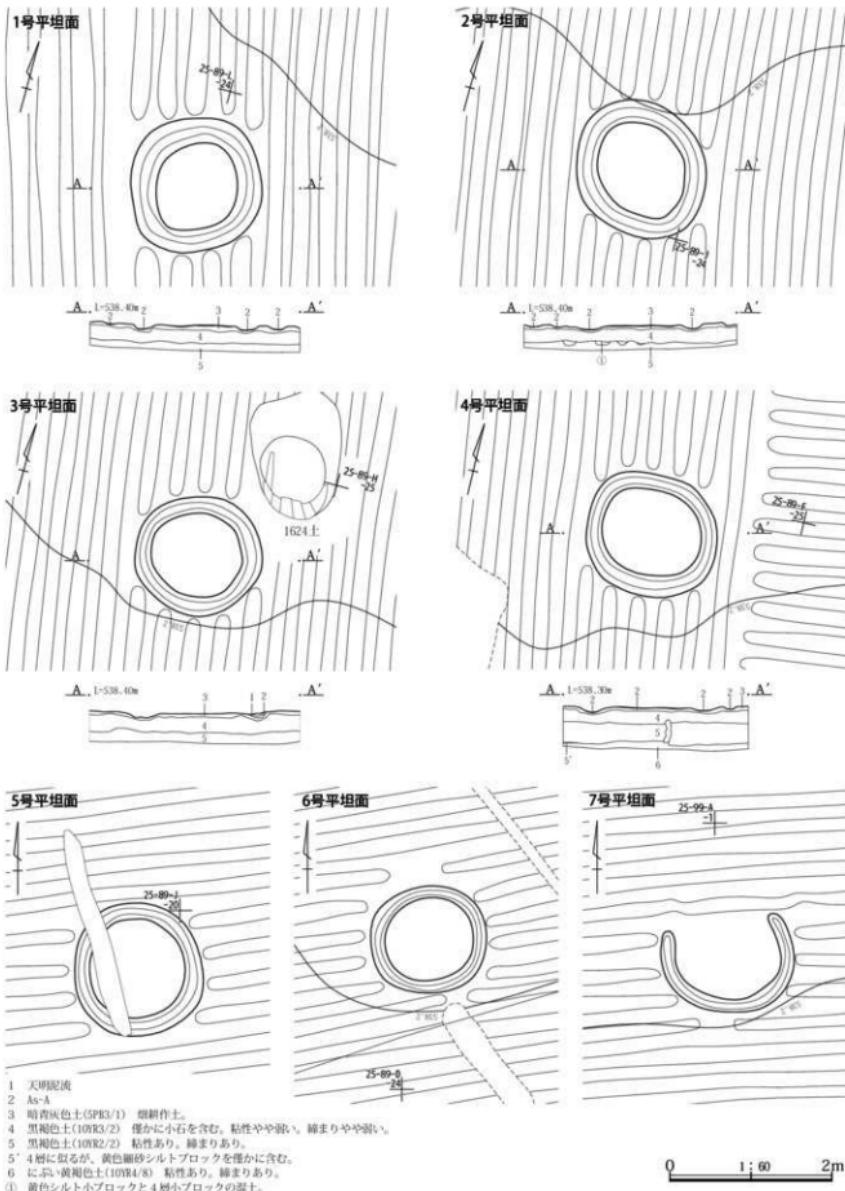


第139図 第10・11区画部分図4

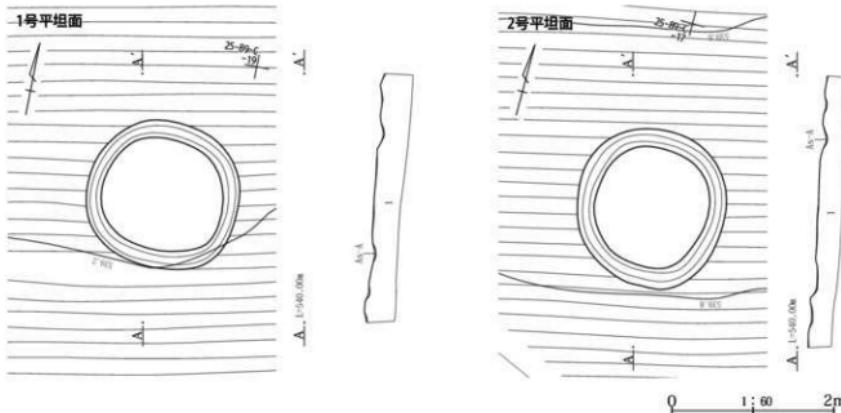
第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



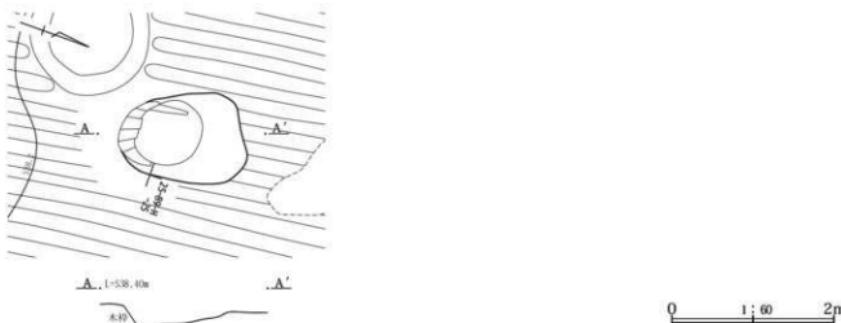
第140図 第10・11区画部分図5



第141図 第10区画平坦面



第142図 第11区画平坦面



第143図 1624号土坑

まで6.4m。標高536.5~536.56m。円形の平面形を呈する。外径174~191cm、平坦面溝幅23.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝直前で完結する。

20号平坦面 25-98-Y-9 グリッド 1-1-2号烟南端西部にある。1-6号平坦面と東西に並ぶ。1-6号平坦面まで7.5m。標高536.8~536.83m。南半が攢乱されるが、円形の平面形を呈するものと思われる。外径191cm、平坦面溝幅28cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

21号平坦面 25-99-T-5・6 グリッド 9号烟中部西端にある。3号屋敷17号建物の南東隅に近い。南の22

号平坦面まで6m、東の23号平坦面まで11.3m。標高537.92~537.97m。円形の平面形を呈する。外径180~184cm、平坦面溝幅17cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歓間溝を切る。発掘時遺構名称5区9号平坦面。

22号平坦面 25-99-T-4 グリッド 9号烟南部東寄りにある。4号屋敷の824号土坑を囲む区画の北西角に近い。東の24号平坦面まで12.3m。標高538.28~538.37m。円形の平面形を呈する。外径190~190cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歓間溝を切る。発掘時遺構名称5区10号平坦面。

23号平坦面 25-99-Q-6・7 グリッド 10号烟中央西

寄りにある。南の24号平坦面まで7.7m、西南の25号平坦面までは14.2mある。標高537.5~537.62m。円形の平面形を呈する。外径185~190cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5区11号平坦面。

24号平坦面 25-99-P・Q-4 グリッド 10号烟南端中央にある。東の26号平坦面まで13.1m。標高537.71~537.77m。円形の平面形を呈する。外径189~200cm、平坦面溝幅25cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5区12号平坦面。

25号平坦面 25-99-M-6 グリッド 11号烟北部中央にある。南の26号平坦面まで5.8m、東の29号平坦面まで10.8m。標高537.32~537.38m。円形の平面形を呈する。外径190~195cm、平坦面溝幅22.5cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5区13号平坦面。

26号平坦面 25-99-M-4・5 グリッド 11号烟中央にある。南の27号平坦面まで4.8m、東の30号平坦面まで11.1m。標高537.46~537.52m。円形の平面形を呈する。外径150~155cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5区14号平坦面。

27号平坦面 25-99-L・M-5 グリッド 11号烟南部中央にある。南の28号平坦面まで6.8m、南東の31号平坦面まで12.2m。標高537.51~537.55m。円形の平面形を呈する。外径150~160cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。中央溝の長190cm、幅35cm、深さ15cm。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5区15号平坦面。

28号平坦面 25-99-L・M-1 グリッド 11号烟南端中央にある。北東の31号平坦面まで11.9m。標高537.64~537.68m。南部を調査区界に切られるが、円形の平面形を呈するものと思われる。外径161cm、平坦面溝幅22cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5区16号平坦面。

29号平坦面 25-99-J-7 グリッド 12号烟北部中央にある。南の30号平坦面まで7.6m、東の32号平坦面まで11m。標高537.21~537.25m。円形の平面形を呈する。外径186~195cm、平坦面溝幅23.5cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5

区17号平坦面。

30号平坦面 25-99-I・J-4・5 グリッド 12号烟中央南寄りにある。南の31号平坦面まで6.8m、東の33号平坦面まで10.7m。標高537.43~537.48m。円形の平面形を呈する。平坦面溝は確認されていない。外径195~220cm、中央溝は南北に延びる。中央溝の長180cm、幅40cm、深さ13cm。歛間溝は平坦面に接するが、切り合わずに完結する。発掘時遺構名称5区18号平坦面。

31号平坦面 25-99-I-2 グリッド 12号烟南端近くの中央にある。東の34号平坦面まで10.9m。標高537.71~537.75m。円形の平面形を呈する。外径175~190cm、平坦面溝幅25cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5区19号平坦面。

32号平坦面 25-99-G-8 グリッド 13号烟北部中央にある。25号・29号平坦面が西に、33号・34号平坦面が南に並ぶが、北と東には対応する平坦面がない。南の35号平坦面まで8.1m。標高537.1~537.15m。円形の平面形を呈する。平坦面溝は確認されていない。外径175~185cm、中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面に接するが、切り合わずに完結する。発掘時遺構名称5区20号平坦面。

33号平坦面 25-99-F・G-5 グリッド 13号烟中央南寄りにある。南の34号平坦面まで8.7m、北東の35号平坦面まで11.5m。標高537.3~537.41m。円形の平面形を呈する。平坦面溝は確認されていない。外径215~220cm、中央溝は南北に延びる。歛間溝は平坦面に接するが、切り合わずに完結する。発掘時遺構名称5区21号平坦面。

34号平坦面 25-99-F-2・3 グリッド 13号烟南端近くの中央にある。東の36号平坦面までは間に23号建物を挟んで14.2m。標高537.59~537.67m。円形の平面形を呈する。外径195~210cm、平坦面溝幅22.5cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5区22号平坦面。

35号平坦面 25-99-C-6 グリッド 14号烟中央にある。南東の36号烟まで11.1m、北東の17号平坦面まで10.4m、東の37号平坦面まで13.9m。標高537.17~537.24m。円形の平面形を呈する。外径195~202cm、平坦面溝幅23.5cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歛間溝を切る。発掘時遺構名称5区23号平坦面。

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構

36号平坦面 25-99-B-3 グリッド 14号烟南端中央にある。23号建物のために烟の幅が狭まる部分にあたる。東の38号平坦面まで7.6m。標高537.55~537.63m。円形の平面形を呈する。南部で平坦面溝が途切れる。外径191~204cm、平坦面溝幅15cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歓間溝を切る。発掘時遺構名称5区24号平坦面。

37号平坦面 25-98-X-7 グリッド 15号畠の中央にある。南西の38号平坦面まで10.8m、北西の20号平坦面まで8.1m、北東の1-6号平坦面まで10.3m。標高534.06～537.08m。北西-南東にやや長い偏円形の平面形を呈する。外径200～226cm、平坦面溝幅24cm。中央溝は確認されていない。畝間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

38号平坦面 25-98-Y-4・5グリッド 15号畠南端近くにある。標高537.45~537.51m。ゆがんだ円形の平面

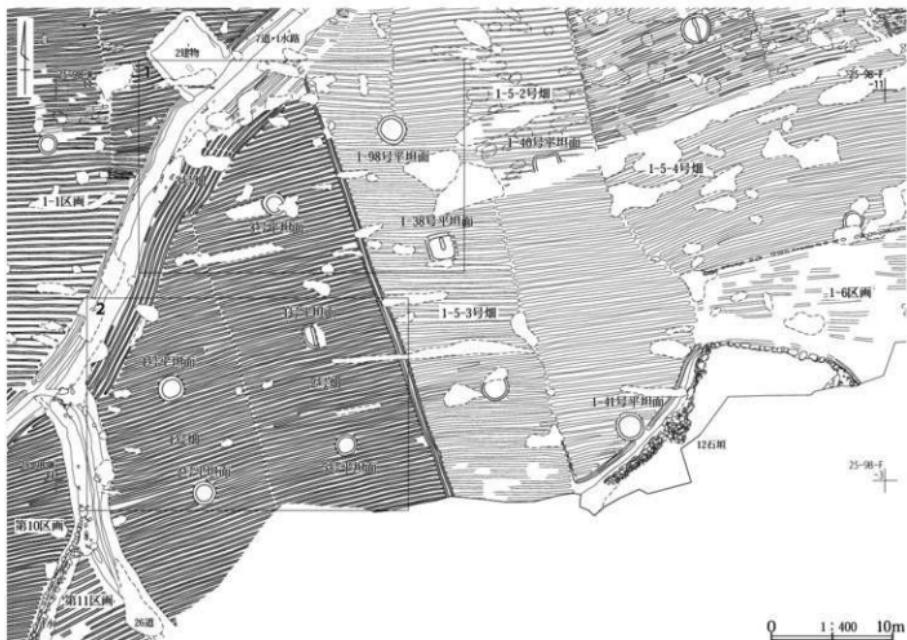
形を呈する。外径195～200cm、平坦面溝幅24cm。中央溝は確認されていない。発掘時遺構名称5区14号平坦面。歓間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

3 9号相

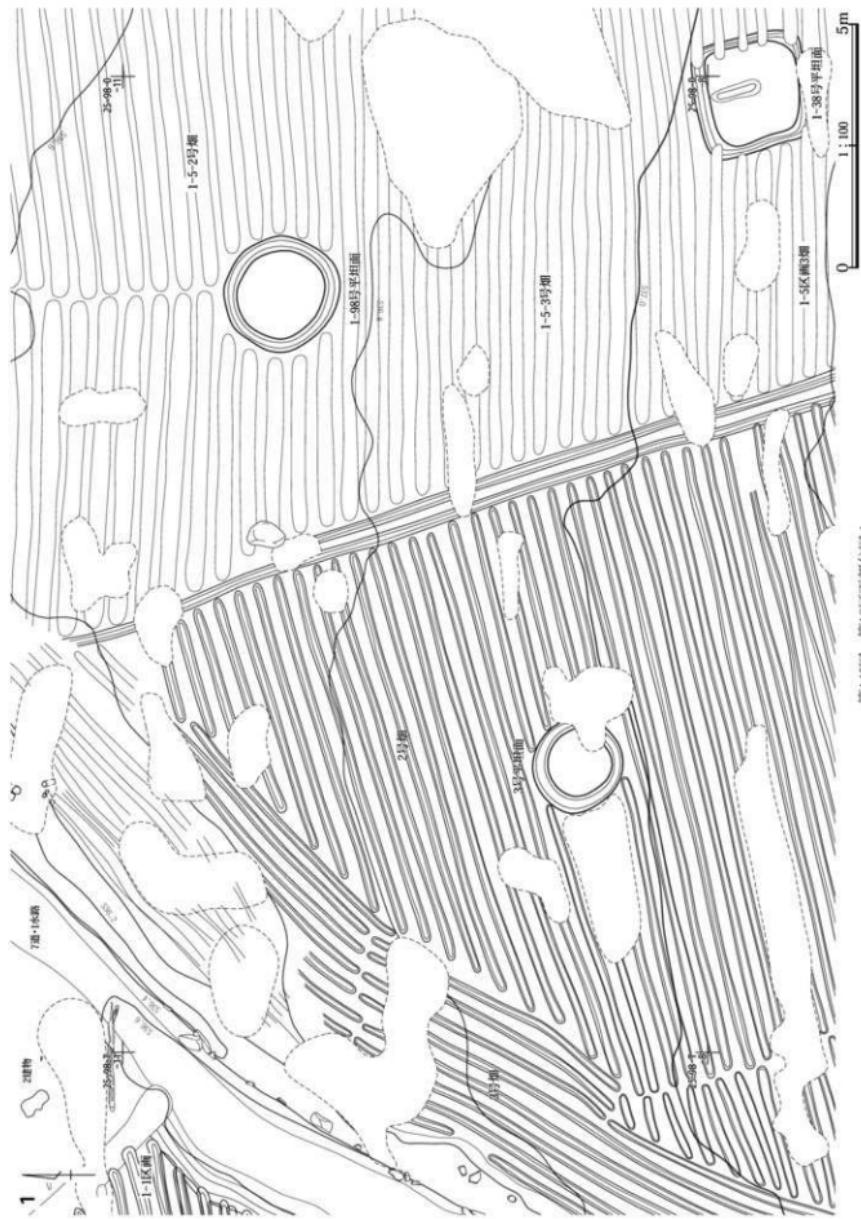
25-99-S・T-5・6グリッド 3号屋敷17号建物の東、9号烟内の11号平坦面の東の畝間構内に、P 1~4の4本の杭が並ぶ。いずれも径6cmほどで、先端が削られた丸木が打ち込まれていた痕跡が残る。打ち込み深さはP 1 : 34cm、P 2 : 24cm、P 3 : 28cm、P 4 : 32cm。P 1からP 4まで3.44m、方位はN-86°-E。P 1~2間1.0m、P 2~3間1.3m、P 3~4間1.14m。天明泥流により、N-29°~35°-W方向に倒れている。

第13項 第10区画

発掘区南部中央にある。25-88・89/98-U～S-17～4

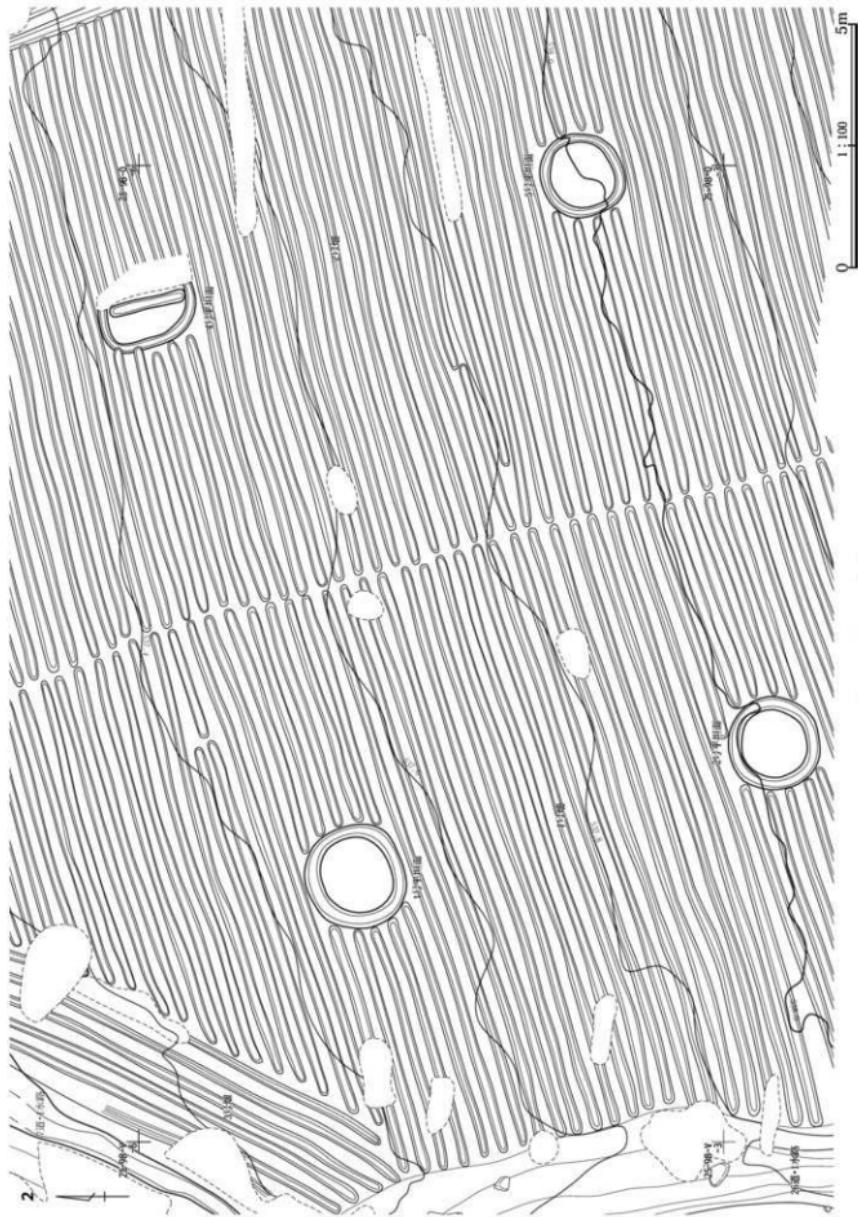


第144図 第12区画



第145図 第12区側面分図
1:100

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第146図 第122×圖加添分圖2

グリッド。最高位標高539.1m、最低位標高537.5m。北辺を7号道、東辺から南辺にかけて1号・3号水路に囲まれる。西辺には15号屋敷がある。北辺中央近くに50号建物があるが、単独の建物で、以東は畠が広がる。15号屋敷に付属する1号～3号烟と、以東にひろがる大区画の烟の両者が見られる。3号烟は南北方向に畠が切られる。平坦面が7か所確認されている。4号烟内の3号平坦面の北東に接して、木質構造物の圧痕と思われる1624号土坑がある。

1 烟

1号烟 25-89-R・S-20・21グリッド 最高位標高539.6m、最低位標高538.9m。第10区画西端にある小さな烟で、畠間溝は短く、条間が広い。15号屋敷に付属する烟であろう。東は15号屋敷に接する。小段を介して、15号屋敷より30～80cm高い位置にある。西は発掘区界に切られるが、53号溝・21号道に接するものと思われる。南は東西走る小溝で画される。小溝の上端を畠間溝が切る部分もある。以南は15号建物と53号溝・21号道に挟まれたごく狭い三角地である。北は小溝を介して7号道に接する。東西幅4m、南北長2.7mほどの範囲を占め、確認面積16.09m²。N-8°-Wの方向で5条の畠間溝が並列する。等高線とは直交気味に斜交する方向である。平均的な条間は67cm。

2号烟 25-89-N・O-23・24グリッド 最高位標高538.5m、最低位標高538.4m。第10区画西北部にある。南部は畠間溝が崩れて幅広になる。条間はやや広い。15号屋敷に付属する烟かと思われる。東は4号烟と接する。畠間溝方向は直交する。西は15号屋敷と接する。南は特定の境界なく畠間溝が途絶えるが、以南は4号烟と15号屋敷に挟まれたごく狭小な三角地である。北は小溝を介して7号道に接する。東西幅1.6m、南北長3.6mほどの範囲を占め、確認面積7.83m²。N-61°-Eの方向で9条の畠間溝が並列する。等高線とは直交気味に斜交する方向である。平均的な条間は45cm。

3号烟 25-89-N・O-17～19グリッド 最高位標高540.8m、最低位標高539.2m。第10区画西南部にある。条間はやや広い。15号屋敷の一角を占め、これに付属する烟と思われる。東は5号烟と斜交気味に直列する。西は15号屋敷53号建物に接する。南は53号溝・21号道に接する。北は15号屋敷東南端の石列に接する。東西幅5.4

m、南北長6mほどの範囲を占め、確認面積32.94m²。N-80°-Wの方向で13条の畠間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。平均的な条間は50cm。

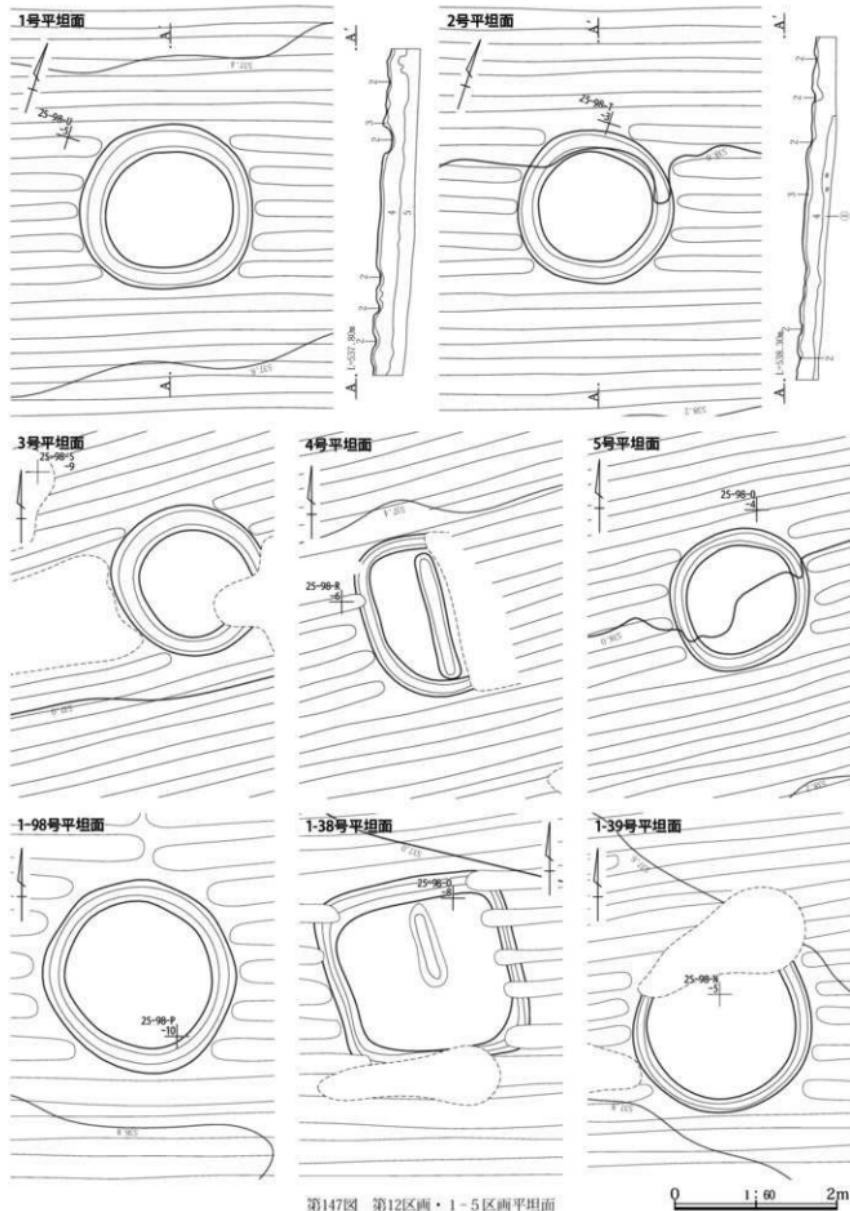
4号烟 25-89・99-E～N-21～1グリッド 最高位標高538.5m、最低位標高538m。第10区画西北部にある。他の烟とは異なり、東西方向に長い地条で、畠間溝も南北方向に、等高線と直交するように切られる。平坦面配置もこれに従って、東西方向の列をなす。第9区画の烟を90°回転させたかのような配置である。東辺北端部では50号建物に接し、以南は6号烟と接する。南への延長線が5号烟東辺に連続する。西は2号烟と接する。南部は狭い空間を置いて15号烟と接する。南辺西部は5号烟、東部は6号烟と接する。北は小溝を介して7号道に接する。東西幅15.2m、南北長34.5mほどの範囲を占め、確認面積497.75m²。N-9°-Wの方向で96条の畠間溝が並列する。等高線とはほぼ直交する方向である。平均的な条間は36cm。烟中に東西に並んで1号～4号平坦面がある。4号平坦面は烟東端中央にある。

北辺中央近くの25-89-K-25グリッドで、ヒトの左対骨の一部から中足骨にかけての骨が見つかった。軟質組織が残った状態で泥流に流された左下肢が埋まっていたものと見られる。16～20才以上の成人で、やや大柄の女性の可能性がある。西の15号屋敷27号建物周辺でも、老年後半の女性、小児、幼児の骨が見つかっているが、これら人骨に関する分析結果は第5分冊(第5章)にまとめて掲載した。

5号烟 25-89-K～N-17～22グリッド 最高位標高540.6m、最低位標高538.3m。第10区画西部、15号屋敷・3号烟の東にあたる。東は6号烟と直列する。南部は調査区界に切られる。西辺北部は15号屋敷に接し、南部は3号烟と直列する。南は53号溝・21号道下端の石列に接する。北は4号烟と接する。畠間溝方向は直交する。東西幅9m、南北長15.2mほどの範囲を占め、確認面積112.19m²。N-83°-Eの方向で41条の畠間溝が並列する。

第12区画1号・2号平坦面

- 1 天明泥流。
- 2 As-h.
- 3 褐灰色土(10YR4/1) シルト質。僅かに小石を含む。畑耕作土鉄分沈着あり。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) 小石、炭化物粒を含む。鉄分沈着あり。
- 5 黑褐色土(10YR3/2) 僅かに小石を含む。
- ① 明黄褐色シルト 鉄分沈着あり。

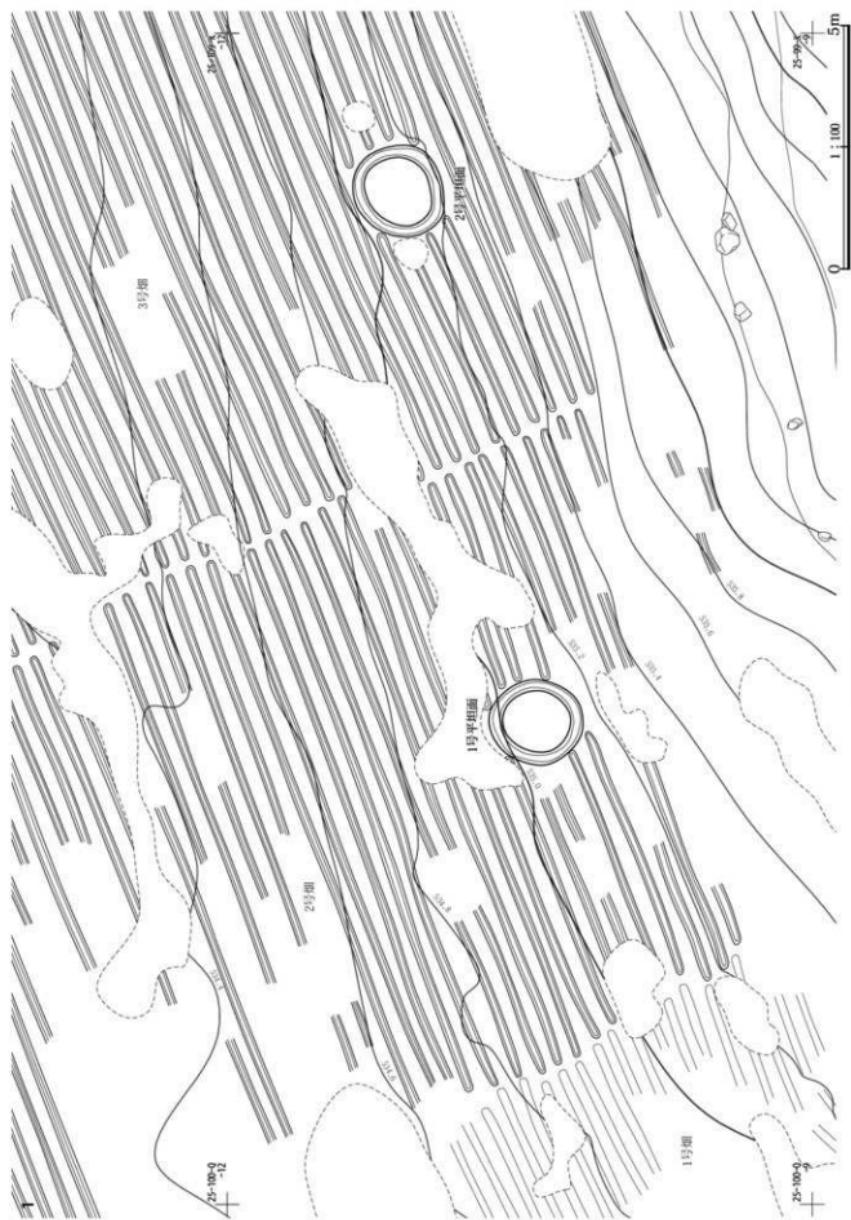


第147図 第12区画・1-5区画平坦面



第148回 第134回

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第14図 第13号断面部分図

等高線とは斜交する方向である。平均的な条間は38cm。
6号烟 25-89-E～K-17～22グリッド 最高位標高539.1m、最低位標高538.3m。第10区画南部中央にある。東は北部は6号烟、南部は1号水路の南北走部分を介して第11区画1号烟と接する。西は5号烟と直列する。南は調査区界に切られる。北は4号烟と接する。戸間溝方向は直交する。東西幅24.1m、南北長21.5mなどの範囲を占め、確認面積372.15m²。N-82°-Eの方向で56条の戸間溝が並列する。等高線とは西部は平行気味に斜交、東部は斜交する。平均的な条間は39cm。西部に5号平坦面がある。

7号烟 25-89・99-B～F-21～2グリッド 最高位標高538.7m、最低位標高537.8m。第10区画東部西寄りにある。北西隅に50号建物がある。東は8号烟と直列する。戸間溝端の境界は南部で蛇行する。西辺北部は50号建物に接し、中部は4号烟、南部は6号烟と接する。1号水路が屈曲して、南北走から東西走に代わる地点が西南隅にあたる。北辺西部は50号建物に接し、東部は7号道に接する。南は1号水路に接する。東西幅14m、南北長22.4mなどの範囲を占め、確認面積272.11m²。N-82°-Eの方向で63条の戸間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向で、4号烟とは直交、6号烟とは同方向で直列する。平均的な条間は36cm。中央東寄りに6号平坦面がある。

8号烟 25-88・89・98・99-X～B-22～3 グリッド 最高位標高538.5m、最低位標高537.5m。第10区画東部中央にある。東は9号烟と直列する。西は7号烟と直列する。戸間溝端の境界は南部で蛇行する。南は1号水路に接する。1号水路は緩やかな弧を描いて北に向きを変え。北は7号道に接する。7号道も緩やかな弧を描いて北に曲がり、これに従って北東隅の戸間溝は東の9号烟北辺から連続するように長さや方向を変えている。東西幅11.5m、南北長22.4mなどの範囲を占め、確認面積222.8m²。N-85°～87°-Eの方向で63条の戸間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。平均的な条間は36cm。中央北東寄りに7号平坦面がある。

9号烟 25-88・98-V～Y-23～4 グリッド 最高位標高538.4m、最低位標高537.4m。第10区画東端にある。東は南辺から東辺にかけて、弧状を描く3号・1号水路と南から北へ延びる26号道に接する。西は7号烟と直列

する。北は7号道に接する。7号道のカーブに合わせて、東北端では戸間溝が長さ、角度を変える。東西幅10m、南北長18mなどの範囲を占め、確認面積172.07m²。N-77°～82°-Eの方向で52条の戸間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。平均的な条間は35cm。

2 平坦面

15号屋敷に付属する1～3号烟及び5号、9号烟には平坦面はない。4号烟には東西にほぼ等間隔の列をなして4基が並ぶ。6～8号烟ではそれぞれ1基認められている。平面形はすべて円形で、中央溝はない。

1号平坦面 25-89-K・L-10L-23グリッド 4号烟西部中央にある。東の2号平坦面まで6.1m。標高538.23～538.29m。円形ないし脣張りのごく強い隅丸方形の平面形を呈する。外径161～165cm、平坦面溝幅28cm。中央溝は確認されていない。戸間溝は平坦面溝の直前で完結する。

2号平坦面 25-89-I・J-23・24グリッド 4号烟中央近くにある。東の3号平坦面まで5.9m。標高538.21～538.29m。北西～南東方向にやや長い偏円形の平面形を呈する。外径152～178cm、平坦面溝幅26cm。中央溝は確認されていない。戸間溝は平坦面溝の直前で完結する。

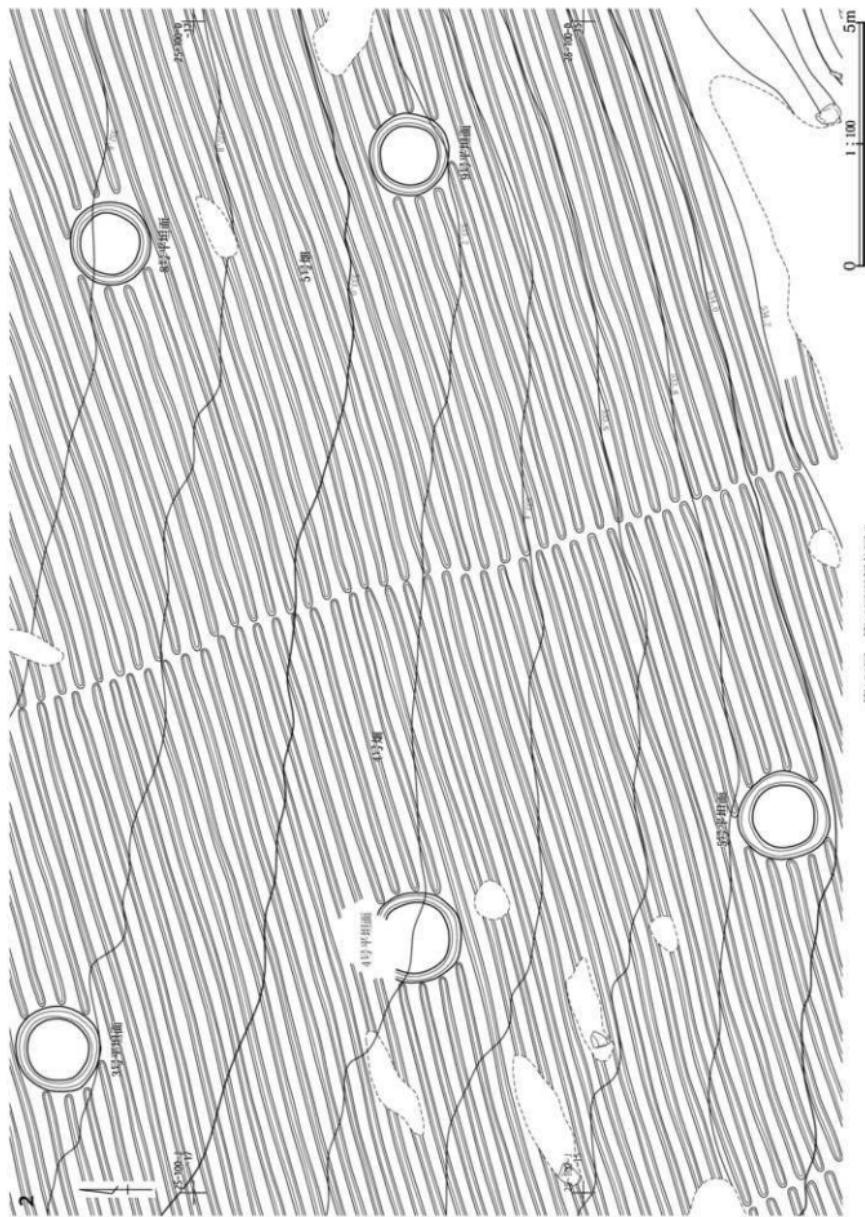
3号平坦面 25-89-H-24グリッド 4号烟東部中央にある。東の4号平坦面まで6m。標高538.14～538.19m。ほぼ円形の平面形を呈する。外径152～157cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。戸間溝は平坦面溝の直前で完結する。

4号平坦面 25-89-F-24・25グリッド 4号烟東辺中央にある。東の6号平坦面まで8.8m。標高538.09～538.16m。南北にややつぶれた偏円形の平面形を呈する。外径148～165cm、平坦面溝幅19.5cm。中央溝は確認されていない。戸間溝は平坦面溝の直前で完結する。

5号平坦面 25-89-I・J-19・20グリッド 5号烟の西寄りにある。北の2号平坦面まで15.8mある。標高538.43～538.46m。円形の平面形を呈する。外径157～170cm、平坦面溝幅24cm。中央溝は確認されていない。戸間溝は平坦面溝の直前で完結する。

6号平坦面 25-89-C・D-24グリッド 7号烟中央にある。東の7号平坦面まで11.2m。標高238.2～538.19m。円形の平面形を呈する。外径131～139cm、平坦面溝幅17.5cm。中央溝は確認されていない。戸間溝は平坦面

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第150図 第13F構造分図2

溝の直前で完結する。

7号平坦面 25-88/89-Y/A-25グリッド 8号畠中央東寄りにある。標高538.17~538.21m。北半が開いた半円形の平面形を呈する。外径165cm、平坦面溝幅17cm。中央溝は確認されていない。畠間溝は平坦面溝の直前で完結する。

3 土坑

1624号土坑 25-89-H-24・25グリッド 長軸長260cm、短軸長110cm、深さ23cm、長軸方位N-20°-W。南辺は弧状、北部は方形ないし緩い扇状の平面形を呈す。南端には木質の圧痕が見られ、発掘時には木棒の痕跡と考えられている。断面形は南部が深く、北部は徐々に浅くなる。南端の外側は僅かに盛り上がるかに見える。畠の畠・畠間溝はこの土坑を越えて連続しており、平坦面も周囲の平坦面溝が土坑南部の盛り上がりにより変形している。As-A軽石降下後に形成されたものである。周辺に見られる泥流による削除痕跡と長軸方向が近似しており、泥流の圧力による変形痕跡と考えられる。覆土は記載されていないが、天明泥流で覆われていたものと思われる。泥流による木質構造物の圧痕の可能性がある。

第14項 第11区画

遺跡中部南端にある。25-88・89/98-U~E-15~1グリッドにあたる。1号・3号水路と26号道に囲まれた狭小な区画で、1号~3号畠が認められた。いずれも以南に連続するものであろうが、地形的な制約から、さほど大きな広がりはなかったものと思われる。1号畠に2基の平坦面がある。

1 畠

1号畠 25-89-A~E-15~21グリッド 最高位標高540.0m、最低位標高538.6m。第11区画西部にある。東から南にかけて発掘区界に切られる。西及び北は1号水路に接する。東西幅14.3m、南北長24.2mほどの範囲を占め、確認面積279.64m²。N-78°-Eの方向で68条の畠間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。平均的な条間は36cm。中央付近に南北に並んで1号・2号平坦面がある。

2号畠 25-88・89-X~B-20~22グリッド 最高位標高539m、最低位標高538.5m。第11区画中部にある。南から東にかけて発掘区界に切られ、残存も悪いため詳細

が把握できない。条間が1号畠より広い。東は3号畠に接するものと思われる。西は1号畠と直列する。北は3号水路に接する。東西幅10m以上、南北長5.7mほどの範囲を占め、確認面積48.56m²。N-77°-E前後の方向で17条以上の畠間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる畠間溝の長さは3m、平均的な条間は50cm前後か。

3号畠 25-88・98-U~W-23~1グリッド 最高位標高538.5m、最低位標高538m。第11区画東部にある。南西~北東に流下する1号水路と、南から北に延びる26号道の交点を北の頂点とする、三角形状の平面形を呈する。南は発掘区界に切られる。東西幅10m以上、南北長8.3mほどの範囲を占め、確認面積43.72m²。N-63°-Eの方向で17条の畠間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。最も長く確認できる畠間溝の長さは8m、平均的な条間は51cm。

2 平坦面

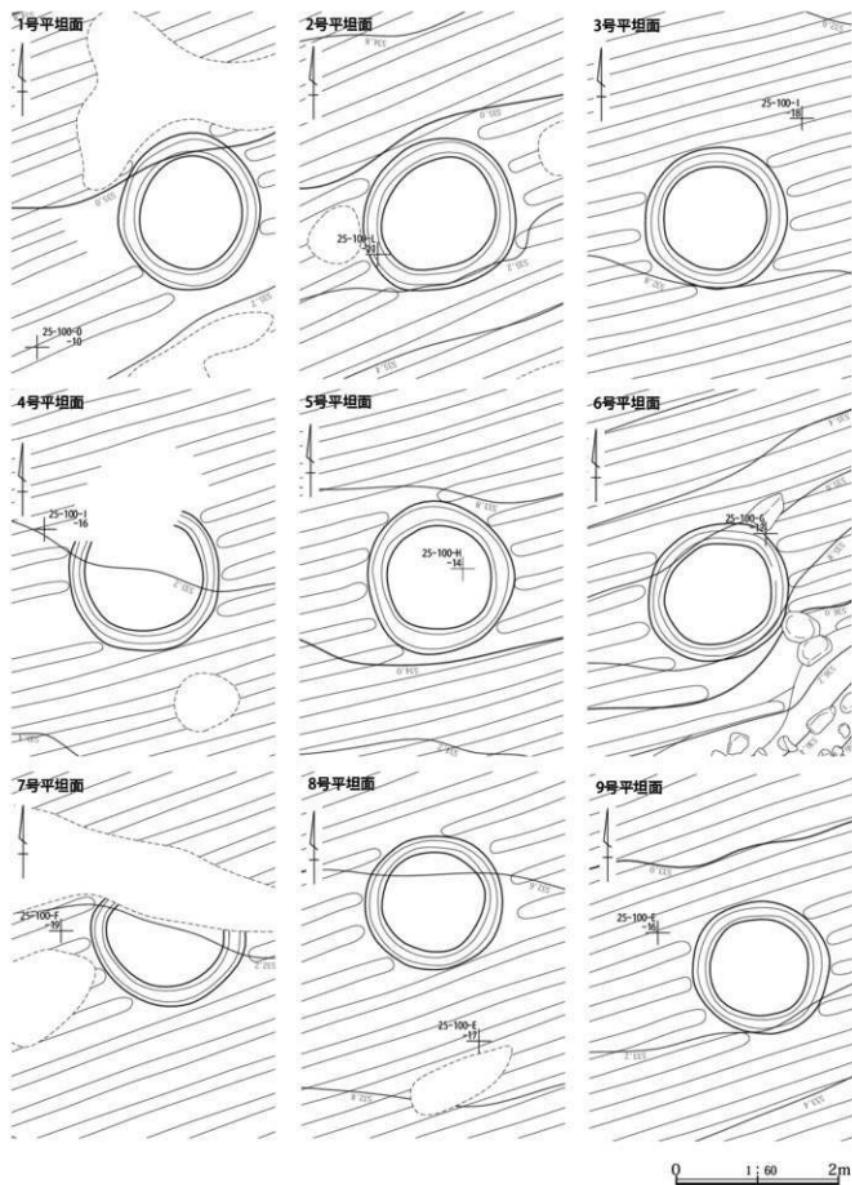
1号畠で2基の平坦面を確認した。共に円形の平面形で中央溝はない。

1号平坦面 25-89-C-18グリッド 1号畠の中央近くの位置にあるものと思われる。2号平坦面まで6.8m。標高539.08~539.2m。円形の平面形を呈する。外径188~192cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が畠間溝を切る。発掘時遺構名称5-②区1号平坦面。

2号平坦面 25-89-B・C-16グリッド 1号畠南部の中央近くの位置にあるものと思われる。標高539.67~539.82m。円形の平面形を呈する。外径184~200cm、平坦面溝幅30cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が畠間溝を切る。発掘時遺構名称5-②区2号平坦面。

第15項 第12区画

今回報告する発掘区の東端にある。25-88/98-J~U-25~15グリッドにあたる。東部が前回報告第4・5区画と入り組んでいるため、両者を併せて再記載する。前回報告の第4区画畠は、今回報告の第12区画2号畠に含まれるものとして再記載する。前回報告第5区画1号畠は、今回報告12区画3号畠に含まれるものとして再記載する。前回報告第5区画2号畠・4a号畠は、今回報告部分を併せて同一畠として捉え、1-5-2号畠として

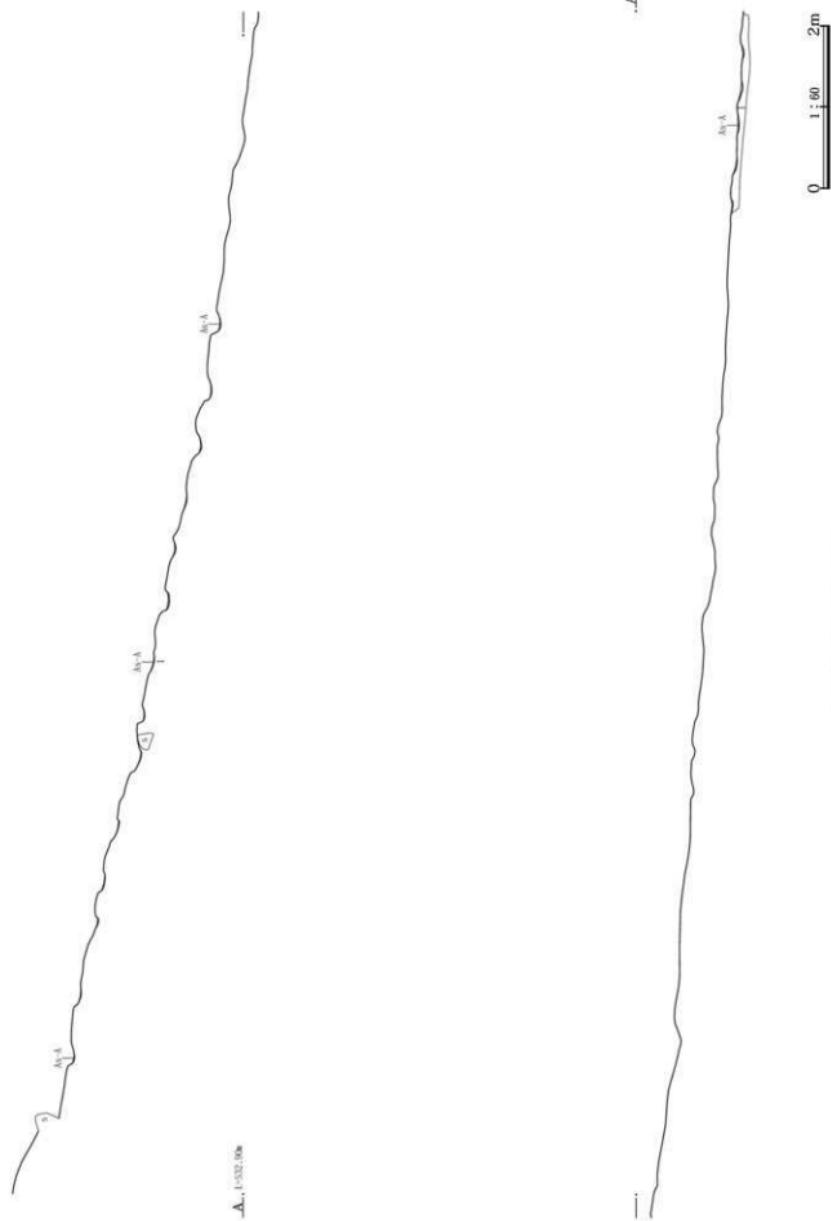


第151図 第13区画平坦面

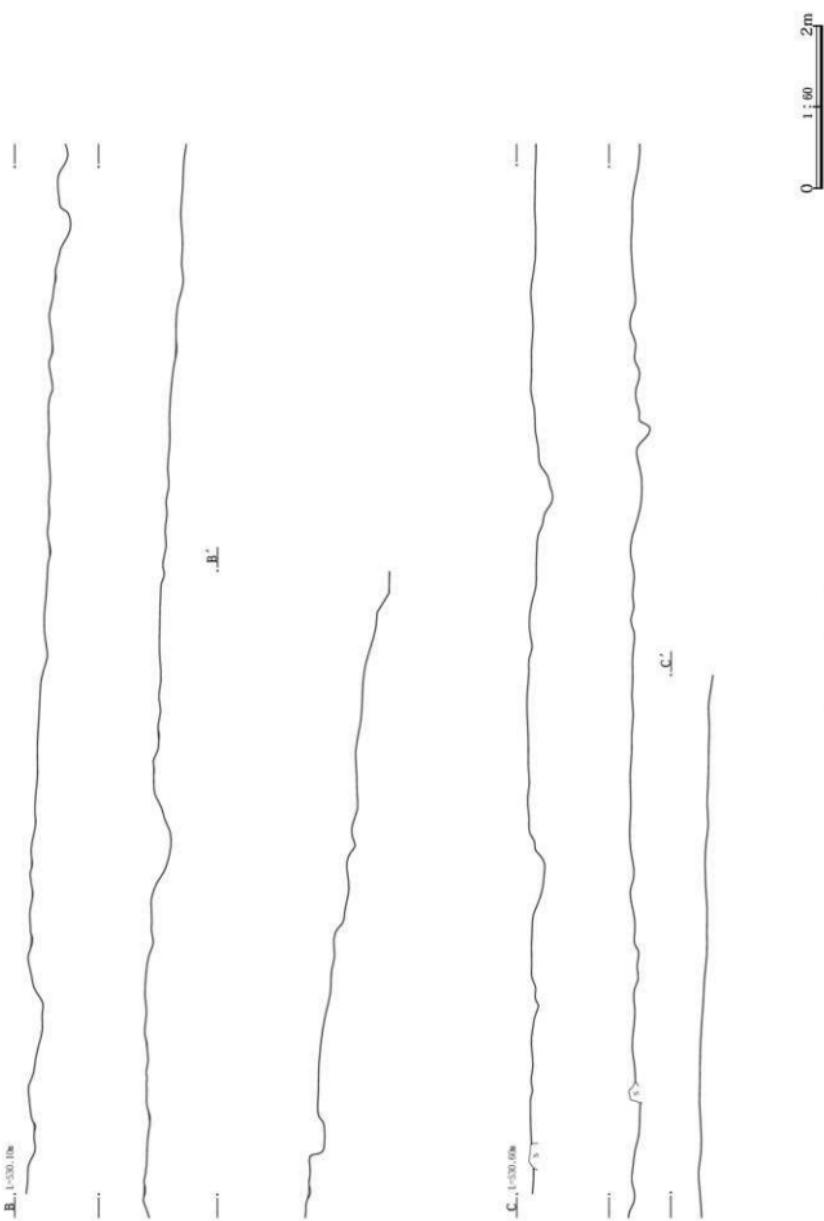


第152図 第14区画





第15図 第14(×)断面図 1



第15図 第14図面高低図2



第155図 第14区画高低図3

再記載する。前回報告第5区画3号烟は、南端部が今回の発掘で追加されたため、これを加えて再記載する。前回報告第5区画4 b号烟は、南西端部が今回の発掘で追加されたため、これを加えて1-5-4号烟として再記載する。前報告4 a号と4 b号は発掘区界を挟んで、類似した形状を示しているが、b号の条間がやや広いことなどを勘案して番号は同一としつつ、a・bの記号を付したものであった。今回報告区を加えて、1-5-2号烟と1-5-3号烟の間に条間の差があることがわかったため、番号を分けて記載することとした。これによると、第12区画2号烟と1-5-2号・1-5-3号烟との間の、遺構名を付されていない小道を烟境界として、両烟の歓間溝残存状況がかなり異なること、第12区画の平坦面の径が、他より一回り小さいことなど、顕著な差違が見られる。

1 烟

1号烟 25-88・98-R～V-25～7 グリッド 最高位標高538.5m、最低位標高537m。第12区画西端にある。東は2号烟と直列する。西は26号道・1号水路を挟んで第10・11区画と接する。南は発掘区界に達する。北は3号烟と斜交する。北部は2号烟と3号烟に挟まれた三角形状を呈して、歓間溝が徐々に短くなる。東西幅18m、南北長25.2mほどの範囲を占め、確認面積272.06m²。N-72°-Eの方向で63条の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。平均的な条間は40cm。中央に南北に並んで1号、2号平坦面がある。

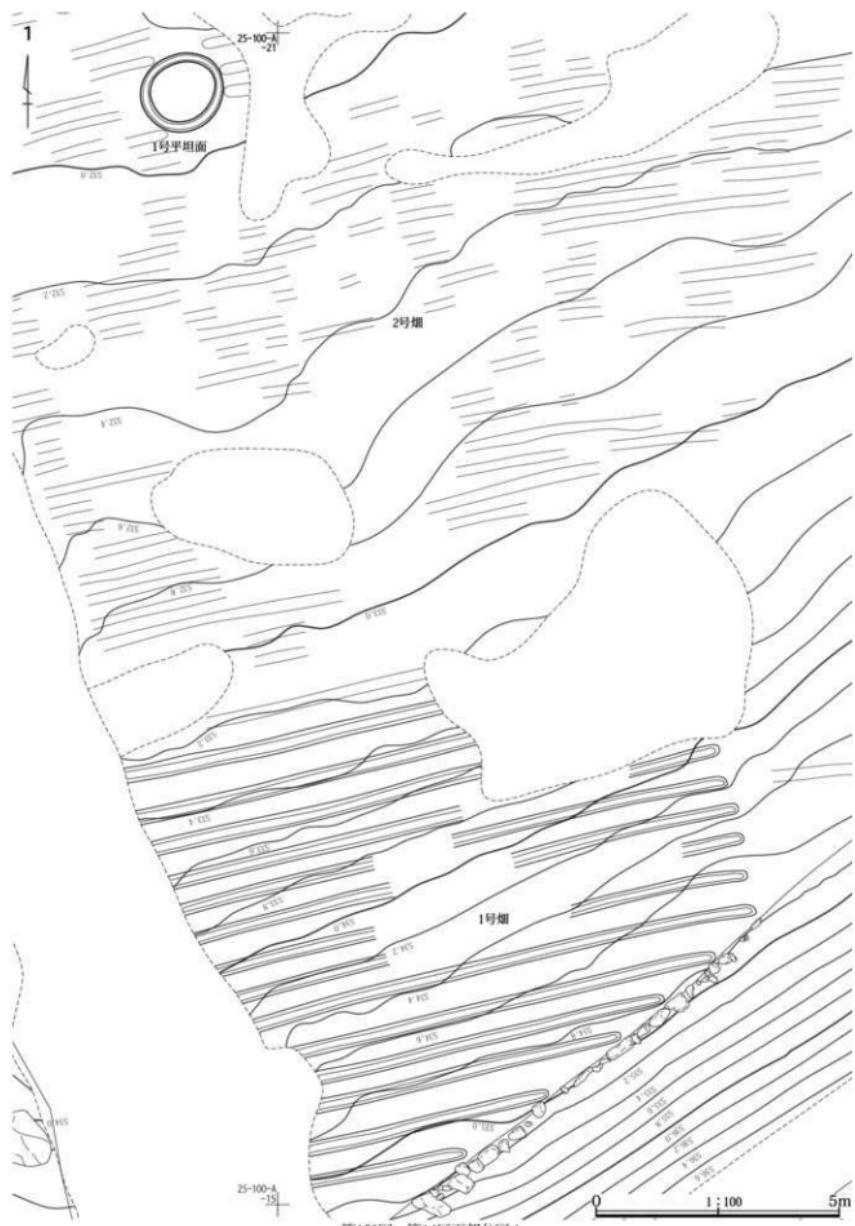
2号烟 25-98-O～T-2～11 グリッド 最高位標高538.5m、最低位標高536.6m。第12区画中部、1号烟の東にある。東部中央の一部について、前報告で第4区画とした。東は北部が1-5-2号烟と、南部は1-5-3号烟と小道を挟んで斜交しつつ直列する。西は1号烟と直列する。南は発掘区界に達する。北は3号烟と斜交する。北部は3号烟と1-5-2号烟に挟まれた三角形状を呈し

て、歓間溝が徐々に短くなる。東西幅13.1m、南北長34.5mほどの範囲を占め、確認面積405.18m²。N-76°-Eの方向で86条の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。平均的な条間は40cm。中央に南北に並んで3号～5号平坦面がある。

3号烟 25-98-Q～V-4～11 グリッド 最高位標高537.4m、最低位標高536.6m。第12区画北部西半にある幅の狭い煙である。東辺は1-5-2号烟と接し、北辺は7号道に画される。西端は7号道と26号道の交点にあたる。南辺は1号・2号両烟にまたがって、斜交する。歓間溝端が2か所で直列し、3群に分かれ。北西端が前報告第5区画1号烟にあたる。東西幅は西部が10.5m、中部が11.5m、東部が11mほどで、全体で33mほどある。確認面積83.86m²。南北長は2.2mでこの間に、N-23°～26°-Eの方向で6条の歓間溝が並列する。等高線とは直交気味に斜交する方向である。平均的な条間は44cm。

1-5-2号烟 25-98-K～R-8～15 グリッド 最高位標高536.9m、最低位標高536.1m。東半が前報告第5区画4 a号烟、北西端が同2号烟にあたる。西部と中央部に歓間溝境界がある。東は前報告第5区画5号烟と直列する。西は小道を挟んで、2号烟と斜交気味に直列する。南辺西部は1-5-3号烟、東部は1-5-4号烟と並列する。1-5-3号烟が北に張り出ため、東側は歓間溝が短い。北は7号道、1号水路に接する。北東隅は8号建物と接する。東西幅は西部7.6m、東部16m。南北長25mほどの範囲を占め、確認面積391.5m²。N-83°-Eの方向で47条の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。平均的な条間は54cm。南端西部の歓間溝境界部に円形の1号平坦面、東端中央相当位置に方形の前報告40号(1-40)平坦面がある。

1-5-3号烟 25-98-L～Q-2～9 グリッド 最高位標高537.1m、最低位標高536.8m。2号烟の東にあたる。中央部が前報告第5区画3号烟にあたる。東は北部は1



第156図 第14区画部分図1

-5-2号烟南部と直列する。南部は1-5-4号烟と直列する。西は2号烟と直列する。南は発掘区界に達する。北は1-5-2号烟西部と並列する。東西幅11.8m、南北長30mほどの範囲を占め、確認面積327.82m²。N-87°-Eの方向で61条の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。平均的な条間は50cm。中央北寄りに方形の1-38号平坦面、南寄りに1-39号平坦面がある。

1-5-4号烟 25-98-I～N-3～9グリッド 最高位標高538m、最低位標高536.7m。1-5-3号烟の東にある。ほぼ前報告の第5区画4b号烟に相当し、南端の一部が今次報告区にあたる。東は前報告第5区画7号烟と直列する。西は1-5-3号烟と直列する。南は12号石垣およびその直下にある溝に沿って、11m前後から徐々に長さを減じる。北は発掘区界にあたって、1-5-2号烟との境界は把握できない。東西幅13.65m、南北長24mほどの範囲を占め、確認面積255.14m²。N-81°-Eの方向で50条の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ並行する方向である。平均的な条間は52cm。南端に1-41号平坦面がある。

2 平坦面

1～6号平坦面がある。2号烟東の小道を挟んで東西で様相が異なる。西部では1号烟に2基、2号烟に3基があつて、それぞれ南北に並びつつ、1号-4号、2号-5号平坦面はそれぞれ東西にも並ぶ位置にあたる。平面形はいずれも円形で、4号平坦面のみが中央溝を持つ。東部でも6号平坦面、1-38号・1-39号平坦面が南北に並ぶ。1-38号、1-40号平坦面は方形で、1-38号平坦面は中央溝を持つ。西部の平坦面は径100cm弱だが、東部では250cm前後とかなり大きい。

1号平坦面 25-98-T-4・5グリッド 1号烟北部中央にある。南の2号平坦面まで7.1m、東の4号平坦面まで10.5m。標高537.42～537.54m。円形の平面形を呈する。外径208～218cm、平坦面溝幅30.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝の直前で完結する。

2号平坦面 25-98-S・T-2・3グリッド 1号烟南部中央にある。東の5号平坦面まで10.5m。標高537.97～538.07m。円形の平面形を呈する。外径187～191cm、平坦面溝幅26cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝の直前で完結する。

3号平坦面 25-98-R-8グリッド 2号烟北部中央に

ある。南の4号平坦面まで9.2m。標高536.85～536.94m。東部に擾乱があるが、ほぼ円形の平面形を呈する。外径187cm、平坦面溝幅26cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝の直前で完結する。

4号平坦面 25-98-Q-5・6グリッド 2号烟中央にある。南の5号平坦面まで7.5m。標高537.37～537.44m。東部が擾乱されるが、南北に長い隅丸長方形の平面形を呈するものと思われる。外径209cm、平坦面溝幅24cm。中央溝は南北方向に延びるが、平坦面溝とは接しない。歓間溝とは直交する方向にあたる。周囲の歓間溝は平坦面溝手前で完結するものと平坦面溝を切るもの両者が記録されている。

5号平坦面 25-98-P・Q-4グリッド 2号烟南部中央にある。東の1-39号平坦面まで11.2m。標高537.97～538.05m。円形の平面形を呈する。外径174～183cm、平坦面溝幅19.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝の手前で、あるいは接しながらも切り合わずで完結する。

1-98号平坦面 25-98-O・P-9・10グリッド 1-5-2号烟西部南端にある。西の3号平坦面まで9.5m、南の1-38号平坦面まで8m、南東の1-40号平坦面までは10.5mある。標高536.66～536.79m。円形の平面形を呈する。外径226～243cm、平坦面溝幅28.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝の手前で完結する。

1-38号平坦面 25-98-N・O-7・8グリッド 1-5-3号烟北部中央にある。長軸長300cm、短軸長280cm。平面形は南部を擾乱されるが、ほぼ方形。中央溝は南北方向に延び、北部に偏ってある。中央が深く、北部では浅い。周囲の歓間溝は平坦面溝を切り、東部では端部が平坦面内まで達する。1-39号平坦面まで13m。

1-39号平坦面 25-98-M・N-4・5グリッド 1-5-3号烟の南部中央や東寄りにある。長軸長225cm、短軸残存長170cm。平面形は北端を擾乱されるがほぼ円形。中央溝は認められていない。歓間溝は平坦面溝の手前で完結する。

第16項 第13区画

次項の14区画と共に、遺跡北部の一段低い面にある。25-100-B～T-5～21グリッドにあたる。西を10号道・5号溝、東を55号道・23号溝に画される。幅64m、奥行

第2節 浅間山天明噴火堆植物直下の遺構



第144図 第157図
第157図 第144図分図2

き30mほどの、北から北東に下る緩傾斜部で、1～5号烟を確認した。西端の1号烟は隣接する2号烟と比べても非常に残りが悪いが、他の烟はよく描った歓/歓間溝が残っている。1号烟では平坦面が確認できないが、2号・3号烟に各1基あり、4号烟では4基、5号烟では3基が南北に並ぶ。

1 烟

1号烟 25-100-N～S-5～14グリッド 最高位標高536.4m、最低位標高534m。第13区画西端にある。泥流による削剥を受けて残りが悪い。東辺中部で一部歓間溝端が確認されており、ここでは2号烟と直列する。西は5号溝、10号道に接する。南は斜面下端の石列に画される。北は発掘区界に達する。東西幅18m以上、南北長30m以上の範囲を占め、確認面積423.93m²。60条以上の歓間溝が並列する。歓方向は南部はN-45°～E前後、北東部ではN-70～79°～Eとばらつく。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは5.8m、平均的な条間は43～44cm。

2号烟 25-100-L～Q-7～15グリッド 最高位標高536.4m、最低位標高533.8m。1号烟の東にある。南部では歓間溝がごく断片的にしか確認できない。東は3号烟と直列する。西は1号烟と直列する。南は斜面下端の石列に画されるが、石列が乱れていて、境界は明確ではない。北は発掘区界に達する。東西幅12m、南北長28m以上の範囲を占め、確認面積354.54m²。N-70°～Eの方向で48条以上の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間は45cm。南部中央に1号平坦面がある。

3号烟 25-100-H～N-9～17グリッド 最高位標高536.8m、最低位標高533m。2号烟の東にある。東は4号烟と直列する。西は2号烟と直列する。南は斜面下端の石列に画されるが、石列が乱れていて、境界は明確ではない。北は発掘区界に達する。東西幅16.9m、南北長30m以上の範囲を占め、確認面積480.84m²。N-70°～Eの方向で65条の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間は45cm。南部西寄りに2号平坦面がある。

4号烟 25-100-E～K-10～19グリッド 最高位標高536.5m、最低位標高532.2m。3号烟の東にある。東は5号烟と、西は3号烟と直列する。南は斜面下端の

石列に画される。北は発掘区界に達する。東西幅14.8m、南北長35m以上の範囲を占め、確認面積441.53m²。N-75°～Eの方向で86条の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。平均的な条間は40cm。烟中央部に3号～6号平坦面が南北方向の列をなす。

5号烟 25-100-B～H-11～21グリッド 最高位標高536m、最低位標高531.8m。第13区画の東端にあたる。東は55号溝23号道に接するが、南部は攪乱されていて、境界が把握できない部分が多い。西は4号烟と直列する。南辺西部は斜面下端の石列に画される。東部は斜面が北に張り出しが、これに接する部分には歓/歓間溝が確認されていない。北は発掘区界に達する。東西幅16.5m以上、南北長32.5m以上の範囲を占め、確認面積474.74m²。N-70°～Eの方向で72条以上の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向である。平均的な条間は41cm。烟中央部に7号～9号平坦面が南北方向の列をなす。

2 平坦面

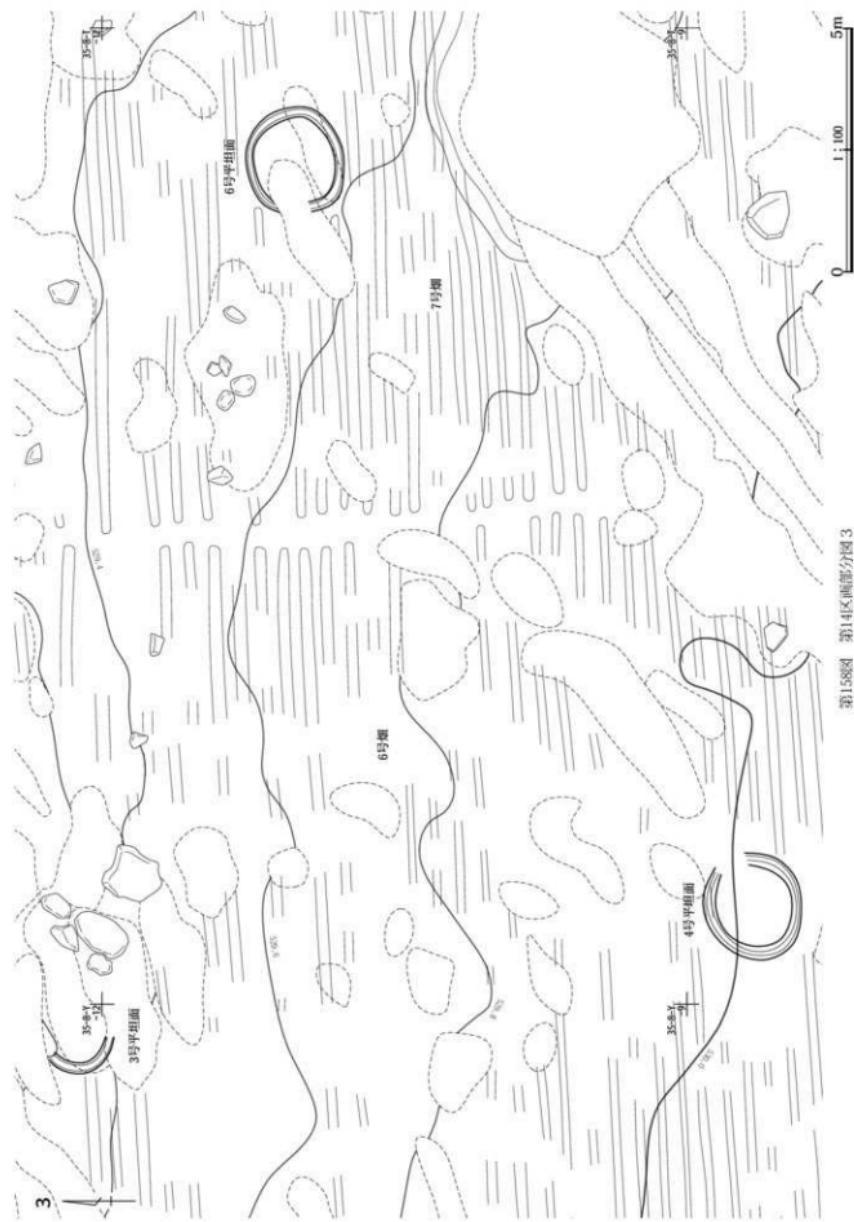
1号烟では平坦面が確認できないが、2号・3号烟には烟南部に1基あり、4号烟では4基、5号烟では3基が南北に並ぶ。いずれも円形の平面形で、径200cm以下の小さなものが多い。中央溝は無い。

1号平坦面 25-100-N-10グリッド 2号烟南部中央近くにある。東北の2号平坦面まで9.5m。標高534.97～535.14m。やや南北に長い偏円形の平面形を呈する。外径174～191cm、平坦面溝幅26cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝の直前で完結する。

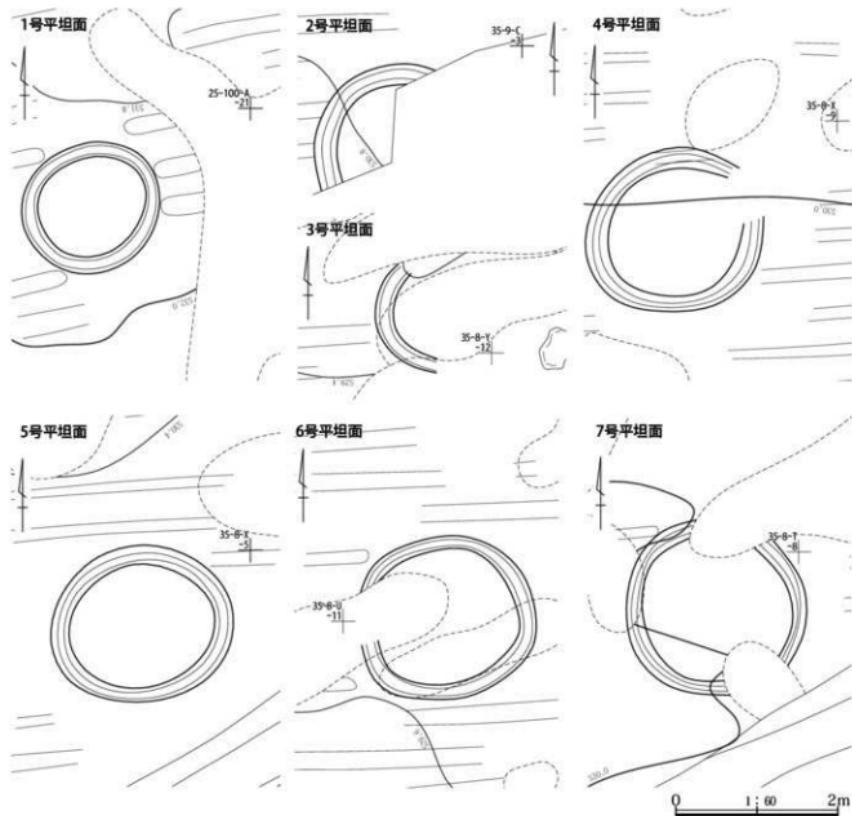
2号平坦面 25-100-K・L-10・11グリッド 3号烟南部中央からやや西寄りにある。東北の6号平坦面まで17m。標高534.14～535.23m。ややゆがんだ円形の平面形を呈する。外径182～187cm、平坦面溝幅21.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

3号平坦面 25-100-I-17グリッド 4号烟中央北部にある。南東の4号平坦面まで6m、東北の7号平坦面まで13.5m。標高532.72～532.8m。円形の平面形を呈する。外径174cm、平坦面溝幅24cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

4号平坦面 25-100-J-15・16グリッド 4号烟北部中央にある。南東の5号平坦面まで6m、東北の8号平坦



第14区画割分図3
第158図



第159図 第14区画平坦面

面まで13.5m。標高533.19～533.25m。北部に擾乱が入るが、ほぼ円形の平面形を呈する。外径187cm、平坦面溝幅21.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝の直前で完結する。

5号平坦面 25-100-G・H-13・14グリッド 4号畠中央南寄りにある。南東の6号平坦面まで7.5m、東北の9号平坦面まで14m。標高533.81～533.98m。円形の平面形を呈する。外径183～191cm、平坦面溝幅32.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

6号平坦面 25-100-F・G-11・12グリッド 4号畠南

辺中央にある。標高535.57～535.83m。ほぼ円形の平面形を呈する。外径160～178cm、平坦面溝幅24cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

7号平坦面 25-100-E-18・19グリッド 5号畠北部中央にある。南東の8号平坦面まで5m。標高532.2～532.28m。北半が擾乱されるが、ほぼ円形の平面形を呈するものと思われる。外径187cm、平坦面溝幅23cm。中央溝は確認されていない。歛間溝は平坦面溝直前で完結する。

8号平坦面 25-100-D・E-17グリッド 5号畠中央近

くにある。南東の9号平坦面まで4.8m。標高532.57m～532.69m。円形の平面形を呈する。外径174～174cm、平坦面溝幅24cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝直前で完結する。

9号平坦面 25-100-D-15・16グリッド 5号畑南部中央にある。標高533.03m～533.24m。円形の平面形を呈する。外径170cm、平坦面溝幅24cm。中央溝は確認されていない。歓間溝は平坦面溝直前で、あるいは接しながらも切り合わずに完結する。

第17項 第14区画

13区画と共に、遺跡北部の一段低い面にある。25-98～100/35-8～10-N～F-15グリッドにあたる。東西幅164m、南北の奥行き95mほどの三角形に近い形状の範囲を占める。西を55号道、23号溝に画され、南は傾斜下端の石列や19号・24号道に画される。東から北にかけては発掘区界に切られるが、以北は急傾斜で吾妻川に下っており、この方向に畑が大きく広がることはない。4号畑相当部の北には吾妻川との間に中段がある。本書で前原遺跡として報告する小規模な畑跡が確認されている。南西隅の1号畑及び南東部の斜面際にあたるとした部分は比較的残りが良いが、他は広く天明泥流に削削されていて、歓間溝痕跡が斑状に残される。畑面の状態は非常に悪い。1号～7号の畑番号を付したが、各畑の範囲・規模を把握することはできない。1号・2号畑は残存状況が大きく異なるが、歓間溝の方向は近く、連続する畑であった可能性がある。4号畑は非常に大きな範囲を占めるが、歓間溝の痕跡がごく断片的に残るに過ぎない。2号畑及び畑面が比較的良好保存されている5～7号畑南部では平坦面が認められる。5号畑南西隅に45号建物がある。

1 畑

1号畑 25-99・100-W～A-14～17グリッド 最高位標高535.1m、最低位標高533.2m。第14区画の南西隅にあたる。この部分は歓間溝の残りが良く、上下端が把握されている。東は特定の境界なく歓間溝端部が完結するが、以東にもごく微弱な歓間溝痕跡が認められる。西は現道下に当たり、擾乱されているが、23号道、55号溝に接するまで広がるものと思われる。南は斜面下端の石列に画される。北は特定の境界施設なく明瞭な歓間溝が捉えら

れなくなり、2号畑とした痕跡的な歓間溝群と並列する。東西幅10.5m、南北長9.3mほどの範囲を占め、確認面積98.96m²。N-77°-Eの方向で15条の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間は66cm。

2号畑 25-99・100-V～D-17～24グリッド 最高位標高533.1m、最低位標高531.4m。第14区画西端にある。1号畑の北にあたる。東は特定の境界なく歓間溝の連続が捉えられなくなる。4号畑とした歓間溝群とは30m近く離れている。西は現道下に当たり、擾乱されている。23号道、55号溝に接したものと思われる。南は西部は1号畑と並列するが、東部は特定の境界施設なく歓間溝の連続が捉えられなくなる。北でも特定の境界施設なく、明瞭な歓間溝が捉えられなくなる。やや離れて3号畑とした痕跡的な歓間溝群があるが、これとは歓方向が異なる。東西幅28.4m、南北長32mほどの範囲を占め、確認面積846.8m²。N-79°-Eの方向で50条以上の歓間溝が並列する。等高線とはほぼ平行する。最も長く確認できる歓間溝の長さは13.7m、平均的な条間は50cm前後。歓間溝群中央近くに1号平坦面がある。

3号畑 35-9・10-X～A-1～6グリッド 第14区画北西隅にある、断続的な歓間溝痕跡を3号畑とした。最高位標高531.3m、最低位標高531m。東は特定の境界なく歓間溝の連続が捉えられなくなる。4号畑とした歓間溝群とは35m近く離れている。西は発掘区界に切られる。南は特定の境界施設なく歓間溝の連続が捉えられなくなる。北は発掘区界に切られる。東西幅12m以上、南北長18m以上ほどの範囲を占め、確認面積277.28m²。歓方向は東西方向を基本とするが、ばらつきが大きい。13条以上が数えられる。等高線とは平行に近いものと思われる。最も長く確認できる歓間溝の長さは2.6m。条間は捉えがたい。

4号畑 25・35-99・9-H～O-25～16グリッド 最高位標高531.4m、最低位標高528.8m。第14区画中部から西部にかけての広い範囲を占めるが、歓間溝痕跡は東寄りの一部で認められるに過ぎない。比較的残りの良い5号畑南部の歓間溝痕跡が45号建物西辺の延長線上で途切れため、これを東辺として5号畑の境界にあたるものと考えた。西の3号・2号畑との間には特定の境界が捉えがたい。南は西部は斜面下の石列、中部は斜面下端、

東部は24号道で画される。北は発掘区界に切られる。東西幅23m以上、南北長24号道から確認できる北端の歓間溝まで43mほどの範囲を占め、確認面積3488.43m²。N-90°の方向で歓間溝が並列する。等高線とはほぼ平行する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは22.9m、平均的な条間は北部では30cm前後と狭く、南端では50cm前後と広い。

5号烟 25-99/35-8・9-Y~G-25~16グリッド 最高位標高531.2m、最低位標高528.8m。第14区画中部東寄りにある。北部は広く天明泥流に削剥されて、痕跡的な歓間溝しか残っていない。南東部では比較的残りが良く、歓間溝端部や平坦面が認められる。南西隅に45号建物がある。東は6号烟と直列する。西は歓間溝痕跡が、45号建物西側の延長線上で途切れるため、これを4号・5号烟の境界とした。南は19号道に接する。北は発掘区界に切られる。北西端に残る数条の歓間溝痕跡は南部のそれとは方向が異なる。東西幅30m、南北長53.6mほどの範囲を占め、確認面積1663.98m²。N-89°-Eの方向で60条以上の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。最も長く確認できる歓間溝の長さは26.3m、平均的な条間は52cm。南端中央東寄りに2号平坦面がある。

6号烟 35-8・9-V~A-3~15グリッド 最高位標高530.6m、最低位標高528.8m。第14区画東部にある。北半は広く天明泥流に削剥されるが、平坦面痕跡も残っている。南西部は比較的よく保存されていて、歓間溝の端部が認められる。東は7号烟と、西は5号烟と直列する。南は19号道に接する。北は発掘区界に切られる。東西幅17.2m、南北長45mほどの範囲を占め、確認面積604.55m²。N-86°-Eの方向で60条以上の歓間溝が並列する。等高線とは平行気味に斜交する方向である。平均的な条間は47cm。北部中央西寄りに3号平坦面、中央西寄りに4号平坦面、南端部西寄りに5号平坦面があつて、南北に列をなす。

7号烟 35-8-N~V-6~13グリッド 最高位標高530.4m、最低位標高529m。第14区画東端にある。北半は広く天明泥流に削剥されるが、平坦面痕跡も残っている。南西部は比較的よく保存されていて、歓間溝の端部が認められる。北辺を底辺、南東辺を斜辺とする三角形の範囲である。東南辺が19号道と接する。西は6

号烟と直列する。北は発掘区界に切られる。東西幅32.7m、南北長26.3mほどの範囲を占め、確認面積527.33m²。N-86°-Eの方向で42条以上の歓間溝が並列する。等高線とは斜交する方向にあたる。最も長く確認できる歓間溝の長さは10.3m、平均的な条間は50cmほど。

2 平坦面

天明泥流による削剥が激しい2号烟で1基、5号烟では南端に1基が認められている。6号烟の3~5号平坦面、7号烟の6号・7号平坦面では、南北に列をなす様相も認められた。いずれも円形の平面形で、中央溝は無い。1号平坦面は他に比して小さい。

1号平坦面 35-10-A-20グリッド 2号烟で歓間溝痕跡が確認された範囲の中央西寄りにある。標高531.85~531.95m。ややゆがんだ円形の平面形を呈する。外径161~170cm、平坦面溝幅19.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝痕跡が微弱で、平坦面との関係が把握できないが、歓間溝と平坦面溝は接しながらも切り合わない。

2号平坦面 35-9-C-2 グリッド 5号烟の南端中央に、19号道に接するようある。標高530.77~530.89m。南部から東部にかけて発掘区界に切られるが円形の平面形を呈したものと思われる。外径174cm以上、平坦面溝幅28cm。中央溝は確認されていない。平坦面溝が歓間溝を切る。発掘時遺構名称4区1号平坦面。

3号平坦面 35-8-Y-11・12グリッド 6号烟北部中央西寄りにある。標高28.4~529.28m。円形の平面形を呈するものと思われるが、東部を大きく搅乱される。外径144cm以上、平坦面溝幅22cm。中央溝は確認されていない。歓間溝痕跡が微弱で、平坦面との関係が把握できない。発掘時遺構名称4区2号平坦面。

4号平坦面 35-8-X-8 グリッド 6号烟南部中央にある。標高529.94~530m。円形の平面形を呈する。外径200~220cm、平坦面溝幅27.5cm。中央溝は確認されていない。歓間溝痕跡が微弱で、平坦面との関係が把握できない。発掘時遺構名称4区3号平坦面。

5号平坦面 35-8-X-4・5 グリッド 6号烟の南端中央に、19号道に接するようある。標高530.46~530.54m。やや東西に長い偏円形の平面形を呈する。外径195~225cm、平坦面溝幅25cm。中央溝は確認されていない。歓間溝痕跡が微弱で、平坦面との関係が把握できない。発掘時遺構名称4区4号平坦面。

6号平坦面 35-8-T-10・11グリッド 7号烟西部にある。標高529.47～529.59m。円形の平面形を呈する。外径205～220cm、平坦面溝幅22.5cm。中央溝は確認されていない。歛間溝痕跡が微弱で、平坦面との関係が把握できない。発掘時遺構名称4区5号平坦面。

7号平坦面 35-8-S・T-7・8グリッド 7号烟の南端西部に、19号道に接するようにある。標高529.97～530.05m。円形の平面形を呈する。外径215～225cm、平坦面溝幅20cm。中央溝は確認されていない。歛間溝痕跡が微弱で、平坦面との関係が把握できない。発掘時遺構名称4区6号平坦面。

第3節 補遺

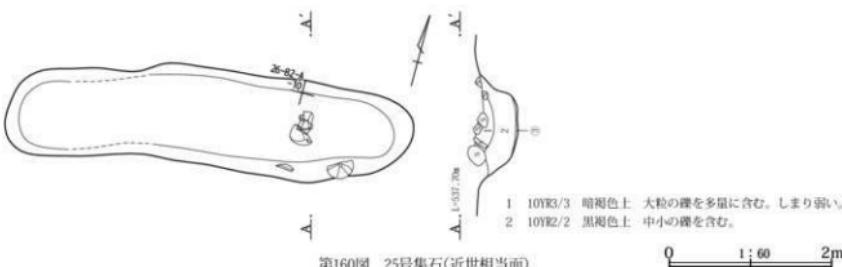
本章では、石川原遺跡(2)から記載が漏れた、中・近世及び古代相当面に帰属する遺構について記載する。81号焼土については、遺構図面を追加し、本文記載及び遺構写真を再掲した。

25号集石 25-89-J・K-25グリッド 碓頂部標高537.6m、土坑部底面標高536.90m。東西に長い土坑の上面東端近くに、石臼片を含む円礫、亜角礫が集中する。土坑は長軸長5m、短軸長1.2m、礫頂部からの深さ60cm、長軸方位N-78°~E。礫を含む黒褐色土で埋まる。近世相当面で確認されている。

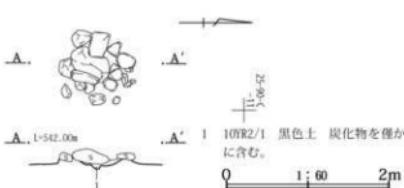
26号集石 25-90-C-11グリッド 105号竪穴建物の上位、81号焼土の西接するようある。礫頂部標高541.9m、確認面標高541.79mで、81号焼土より20cmほど高い位置にある。南北95cm、東西92cmほどの範囲に円礫、亜角礫が集中する。礫の下部は15cmほど、浅い皿状に掘くぼめられていて、下層が褐灰色土、上層が炭化物を僅かに含む黒色土で埋没する。古代相当面で確認されている。写真記録を欠く。

81号焼土A 25-90-B-11グリッド 確認面標高541.58m、54cm×51cmの、ゆがんだ円形の範囲にひろがる。105号竪穴建物覆土上位にある。竪穴建物床面からは8cm上位にある。隣接するB焼土との間は試掘溝に切られているが、掘り方では2か所の独立した凹みが認められているため、A・B両者に区分した。長軸長50cm、短軸長40cm、深さ2~3cmの東西に長い長円形平面の、浅い凹みの上面を覆う。写真記録から見ると、地山は小礫を含む暗褐色土で、凹み中に灰黄褐色ロームが入る。焼土化はごく弱いようだが、東北周縁部にやや強い赤色が見られる。6cmの厚さがある。灰層が南にあって、こちらから燃料が供給されたものかと思われる。炭化物等に関する記載はない。

81号焼土B 25-90-B・C-11グリッド 確認面標高541.58m、45cm×確認長23cmの、ゆがんだ円形の範囲にひろがる。焼土東部は試掘溝に切られるが、掘り方では長軸長38cm、短軸長27cmの南北に長い長円形の凹みが認められ、焼土はこれを覆う。Aと同じく凹み中に灰黄褐色ロームが入るもので、焼土化はごく弱いようだ。2cmの厚さがある。灰、炭化物等に関する記載はない。



第160図 25号集石(近世相当面)



第161図 26号集石(古代相当面)



第162図 81号焼土(古代相当面)

第4節 付 石川原遺跡の天明泥流下畑遺構をめぐって

1 石川原遺跡の天明泥流下畑

石川原遺跡の天明泥流下畑には、単位畑の規模、形態や条間、平坦面配置などによって、いくつかの形態が見られる。最も特徴的であるのが、条間が比較的狭く、規格的な長さの畠が多数並列した単位畑が、何列も並ぶ畑である。遺跡西部の第9区画から、前報告に記載した1-1～4区画にかけてが典型的であり、第4・6・12・13区画でも、規則的な平坦面配置を持つ、形状の揃った単位畑が、何単位も連続する。

類似した形態ながら、畠の状態や条間、平坦面のあり方などが異なる畑がこれに介在する。10区画4号畑は、同4～9号畑や、7号道を挟んで北にある第10区画の畑が東西方向の畠であるのに対し、南北方向の畠を持つ。前報告1-8区画、1-10区画も、周囲の畑と直交する畠方向を持つ。第1区画2号、4号畑は平坦面が1基しかなく、同6号畑や第4区画27・28号畑、第5区画8・9号畑は、相当の広さがあるのだが、平坦面は認められない。一方、同じ第5区画1・3号畑にまたがっては、8か所もの平坦面が密にある。

条間が前述の畑よりあきらかに広い畑もある。6号屋敷南の25号・26号畑、第10区画4号畑西半部は、周辺畑との連続性を感じさせつつも、条間が広い。第9区画13号畑も周辺畑より広い条間で、東側を小溝に画され、単位畑の形状や並び方も周囲の畑とは異なっている。1-9-2号畑や1-7-2号畑北部も、これに類似した区画を有する。畠上の空隙に石膏を流し込むことによって、サトイモと思われる根茎のキャストが得られたり、種子を点蒔きしたと思われる痕跡が観察されるのは、こうした畑に多い。

屋敷やヤックラの近くなどには、畠長が短く、条間がさらに広く、小範囲で完結する畑が見られる。屋敷が多い第4区画周辺には、9号屋敷西の11号畑や南の20号畑、6号屋敷西の24号畑、22号建物南の30号畑、1号屋敷南側の2号・4号・5号畑などがあり、1号ヤックラ西の第5区画7号・12号畑なども類似した形態の畑である。

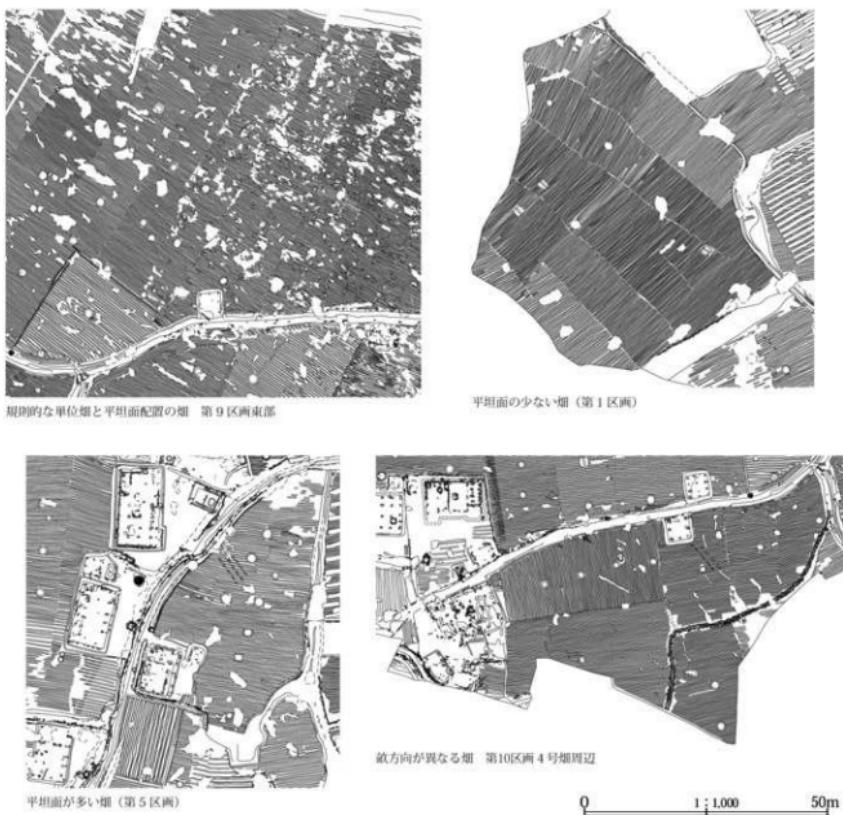
12号屋敷の南に接する第5区画5号畑は、南北方向に長い畠を持つ。34号畑は道・溝とやや高い位置にある33号畑を限る石垣に囲まれた狭い三角地にあって、土地区画の隙間を埋めるように作られた畑である。畠が短く、条間は広い。16号畑の南端部や、31号畑の北端部も類似した性格であるかもしれない。前栽畑などと考えられる畑である。

4号屋敷の南に接する第9区画16号畑は、南北方向に延びる畠を持つ、条間の広い畑であるが、西に接する25号道との境界に、高い杭列、あるいは垣根のような構造を作り、長さ160～180cmほどの削材を、道脇の斜面に立てて並べている。当時の人の身長を超える高さで、さらに竹や麻穂がこの杭材と組み合って、垣根あるいは柵のような構造をなしていた可能性もある。北辺には2本の杭が見られるものの、西辺を除く三方が開放状態であることからみると、畑を囲おうとする目隠しや地境表示ではなく、特定方向の風よけ等の機能を持つ施設であろうか。

上記畑形態の差違は、それぞれの畑の作物や耕作者が異なることによって生じたものではないかと考えられる。これに対して、畑面の状況が農作業の段階の差違を表す場合も認められる。

前報告1-7区画では、東部が整った畠/畠間溝で構成される畑であるのに対し、西部は畑面が荒れて、畠/畠間溝が痕跡的にしか捉えられない。この部分では、As-A降下後に何らかの耕作行動があって、これにより以前の畑の畠/畠間溝が破壊され、痕跡化したのである。第4区画14号畑も、東の13号畑、西の21号畑、南の17号畑でいずれも良好な畑面が捉えられているにもかかわらず、畠/畠間溝が痕跡的にしか捉えられず、畑面の状態が非常に悪い。

様々な形態、あるいは状態の畑が見られるのであるが、残念ながら、それぞれの畑の作物や耕作の様態を、直接的に把握できるデータは得られていない。ここでは、冒頭に示した、「条間が比較的狭く、規格的な長さの畠が多数並列した単位畑が、畠同志が直列するように、何列も並ぶ畑」について、四半世紀近くも継続してきた、八ヶツダム地区の天明泥流下畑遺構の調査を振り返りながら再考し、まとめに替えた。



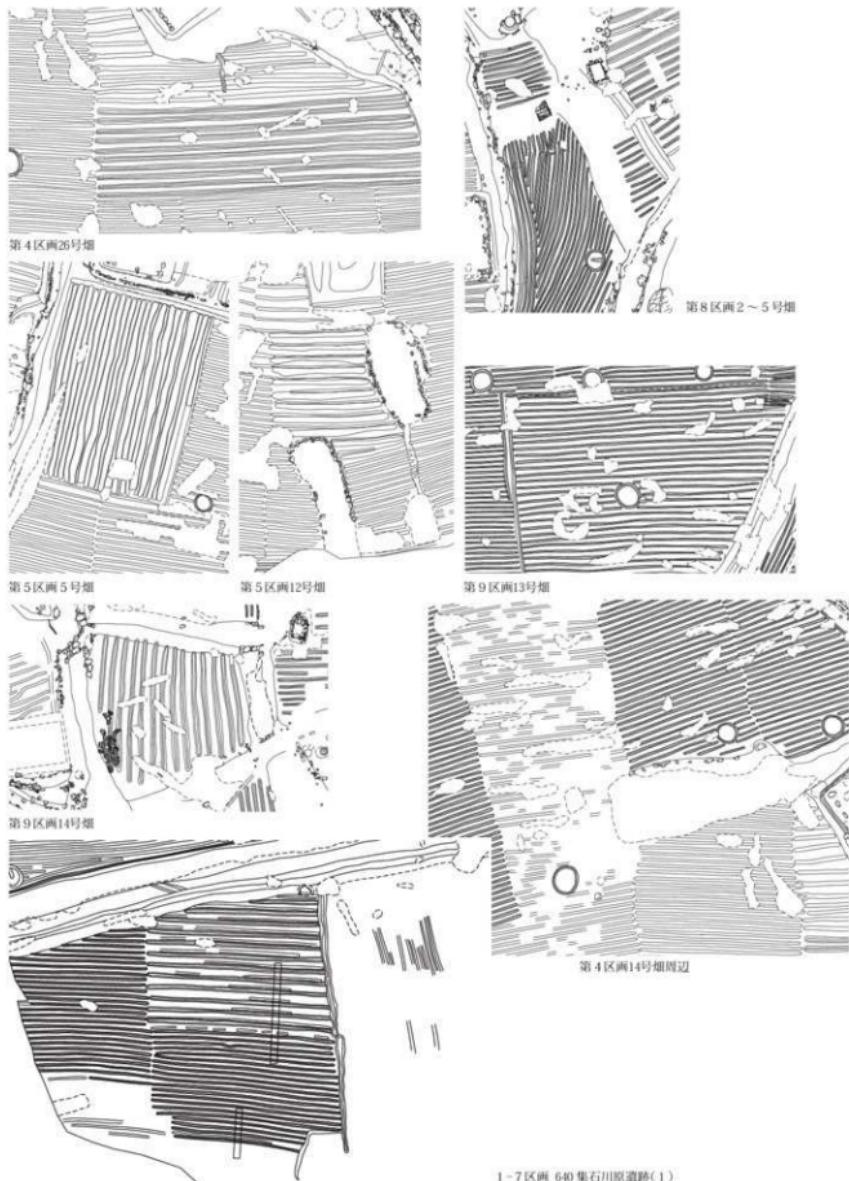
第163図 畑のバリエーション 1

2 耕地遺構の観察と記録

石川原遺跡を含む八ッ場ダム関連長野原地域では、中位段丘面・下位段丘面の天明泥流下面に広い畑遺構が認められるのが常である。特にダム湛水による水没地区では、天明泥流下の畑がごく広範囲に広がる可能性が把握されていた。加えて、僅か200余年前の遺跡であるため、当時の村の姿や農事の様態、また災害の状況を示す文献記録や口碑伝承も残されていて、発掘遺構とそれらの資料を直接対比することができる。浅間山や榛名山起源のテフラに覆われた耕地遺構の発掘例が多い群馬県にあつ

ても、他に類を見ない調査となるであろうことが、発掘調査の初期段階から予測されていた。

耕地遺構はテフラや洪水堆積物で被覆されるなどにより保存される。水田は畦畔によって区画される平坦な田面の集合として、畑遺構は連続する畝・畝間溝群等として発掘担当者に認識されることになる。さらにこの地域では、As-A軽石と、これに先行するAs-A灰とされる火山灰^[1]及び、後にこの畑をすっかり呑み込んでしまうことになる天明泥流という、ごく短時間に、縦起的に形成された三つの鍵層があり、これによって被覆された、重層する旧地表面、耕作地面を観察することができる。



第164図 畑のバリエーション2

從前から、天明浅間噴火の文書記録とテフラの堆積状況とを緻密に対比し、火山活動の詳細な経過やこれに対する人々の対応を追う研究が行われてきた⁽²⁾。旧地表面の状態と農事暦を対照することによって、圃場における行動を復元する手法も示されていた⁽³⁾。

八ッ場ダム関連遺跡の耕地調査ではこうした視点が継承され、「調査を通じて、畑遺構の存在だけでなく、その畑がどう耕作されていたかを確認し、天明浅間災害に直面した人々の営みを検証しうる資料を蓄積するよう努めてきた。」⁽⁴⁾のであった。1997年から始まった久々戸遺跡の調査では、畠の断面におけるAs-A火山灰、同軽石、天明泥流のあり方が、その畑の耕作状況を示すものとして捉えられた。これにより、畠の等倍断面図が畔断面の観察及び記載が記録作成の基本に据えられ、この観察結果を基礎に、畠断面の様態が9類に分類された。こうした観察結果と、当地での農事慣行の聞き取りや文書資料から想定される耕作行動とが関連づけられ、降灰、軽石降下などに対応した農作業や、当該畠の作物などが考えられることになる。また、畑地条の形状から、近世期の耕地拡大の具体的な様相を読み取る可能性も示されていった⁽⁵⁾。

3 畑作物の追求

耕地遺構の発掘調査に当たって、最も重視されるべき視点の一つが、作物、すなわちその圃場で何が栽培されていたか、を追求することであるのは言俟たない。水田がおおよそイネに特化した圃場であるのに対し、畑では様々な作物が栽培される。主食を担うものだけでも稲穀・菽穀類、ソバ、芋、根菜があり、これに葉菜類や、後述する大麻を初めとする工芸作物も加えて、多種多様な作物の圃場となり得る。また、単一の作物に限らず、混作され、あるいは多毛作など、耕作・經營形態も多様である。従って、水田遺構と畑遺構とでは、発掘調査において採取されるべきデータが異なる。「水田が見つかった」と「畑が見つかった」というのは必ずしも等価ではない。ところが、発掘された畑で栽培された作物が、それとして認識される事例はごく少ない。群馬県内では、渋川市中村遺跡⁽⁷⁾で、泥流に密閉された状態で残存していたダイズやクワ、中棚II遺跡⁽⁴⁾や伊勢崎市宮芝前遺跡⁽⁸⁾で石膏キャストが採取されたサトイモなどが思い

浮かぶに過ぎない。いずれも、天明泥流下の耕地遺構に伴うものである。また、畠の畠・畠間溝や、群在するそれらが形成する地条の形態を、直接的に作物と結び付けることもできない。

発掘調査における一般的な認識器官である肉眼に依る観察だけでは、畑作物の問題は解決できない。この事はつとに認識されており、八ッ場ダム関連遺跡発掘の初期には、植物珪酸体分析を中心とし、花粉分析、種実の抽出等が行われている^{(1)~(4)}。遺構の状況と植物珪酸体や花粉など微化石の産状を、相互に関連づけてみるためのサンプリングや、土壤の微細形態学的分析、理化学分析や、地力評価も行われた。

植物珪酸体の概況を見ると、イネ・オオムギが多少の差はある、ほとんどの遺跡で検出されているほか、アワ・キビ・ヒエなどの雜穀栽培を示唆する可能性のある、キビ族型・ヒエ属型の珪酸体も見られる。花粉分析では、東宮遺跡でソバ属及びイネが認められ、川原湯勝沼遺跡、尾坂遺跡でもソバ属が認められた。久々戸遺跡橋台地点では畠間溝部に1500個/gのイネ機動細胞珪酸体が認められたのに対し、畠上ではイネ珪酸体が認められなかった。中棚II遺跡51号畠ではサトイモの石膏キャストが採取され、畠間相当部分でムギ類の頸珪酸体類似物やイネの短細胞列・機動細胞列が検出されている。これからは、畠上がイモの作付け面で、畠間に敷き藁があったと言う解釈が可能である。

東宮遺跡と尾坂遺跡ではソバ花粉と共に回虫卵が確認されており、久々戸第6地点の「下肥置き場」とされた円形平坦面からは、2300個/gのイネ機動細胞珪酸体が認められて、稻藁と人糞による施肥があった可能性が示された。

イネ・ムギの珪酸体が通有に認められたところから、陸稻や麦が作られていた、あるいは、回虫卵の検出も含めて、イネやムギの藁を用いた肥料の使用が考えられた。ソバ花粉も重視され、東宮遺跡の分析報告では畑作物の主体はソバで、周辺の水田でイネが作られていたか、田畑が転換されたものとの想定が見られる。

須永薫子らは天明泥流下畑の理化学的特徴および地力評価を行った^{(4)~(5)}。久々戸遺跡の畑は、円形平坦面を伴う畠密度の高い畑で、南北方向の畠を有する部分と、東西方向の畠を有する部分及び畠のない、畑とは想定さ

第1表 八ツ場ダム地域の天明泥流下畠の発掘と自然科学分析

遺跡名	報告年	文献	植物珪 酸体	花粉・ 寄生虫卵	植物遺 体同定	備考
1 下田	H14	1	○			イネ・オオムギ等の珪酸体
2 東宮	H14	1	○	○	○	イネ・オオムギ・ヒエ属等の珪酸体。イネ属・ソバ属の花粉、回虫卵 麦畑を想定
3 川原潟勝沼	H14	1	○	○		イネ等の珪酸体。ソバ属花粉。ソバ栽培を想定。
4 尾坂	H14	1	○	○		畠上部で高密度のイネ珪酸体。ソバ属花粉。円形遺構から回虫卵。
5 石畑	H14	1	○			イネ属等の珪酸体。
6 二社平	H14	1	○			イネ・オオムギ属の珪酸体。
7 久々戸	H15	2	○	○		イネ・オオムギ・ヒエ属等の珪酸体。畠間に高密度でイネの珪酸体が出る例あり。イネ属・ソバ属の花粉・下肥置き場(平坦面)で回虫卵。陸稲栽培とムギ・ヒエを想定
8 中耕Ⅱ	H15	2	○	○		理化学分析・地質評価・微細形態・サトイモキャスト イネ・ムギ・ヒエ属の珪酸体。それぞれ高密度の花粉。花粉には栽培植物なし。点蒔きの畑、サトイモ畑あり。
9 下原	H15	2	○	○		イネ・ムギの珪酸体が高密度。ヒエ等もある。ソバ花粉
10 横堀中村	H15	2	○			イネ・ヒエ等の珪酸体。
11 久々戸	H17	3			○	植物痕FT-IR、顕微鏡観察からも同定できない。双子葉植物。
12 中耕Ⅲ	H17	3				
13 西ノ上	H17	3				植物痕跡：「イネ科の植物であると思われる」
14 川原潟勝沼	H17	4				歴史断面から、麦・雜穀栽培畑として耕作過程を復元
15 下原	H18	5	○			イネ・ムギ等の植物珪酸体。隣接する水田を上回るイネ目珪酸体密度。
16 上郷岡原	H19	6	○			平坦面部分で高密度のイネ珪酸体。アサの葉、茎、種子等があるとするが、同定されていない。麻栽培の提唱
17 上郷阿原	H20	7				草・葉出土状況写真あるが、同定されていない。
18 上郷西	H20	8				
19 上郷岡原	H21	9				
20 東宮	H24	10				建物内でオオムギ・ソバ・アサ種実出土。
21 長野原城	H26	11				
22 町	H27	12				建物内でヒエ・アワ・ソバ・アサ種実出土。
23 尾坂	H28	13			○	植物遺体同定→単子葉植物・双子葉植物
24 久々戸	H29	14				
25 東宮	H29	15				「書上帳」による麻烟説批判
26 下田	H29	16				
27 東宮	H30	17				
28 西宮	H30	18				「麻の茎に似ている植物痕」
29 尾坂	H30	19				
30 石川原	H30	20				
31 下潟原	H30	21				
32 下原	H31	22				
33 西ノ上	H31	23				
34 川原潟勝沼	R1	24				
35 下田	R2	25				
36 下潟原	R2	26				
37 中耕Ⅱ	R2	27				
38 西宮	R2	28				
39 石川原	R2	29	○		○	植物遺体同定→草本

文献

- 1 「八ツ場ダム発掘調査集成(1)」群理文第303集 2002
 2 「久々戸・中耕Ⅱ・下原・横堀中村道路」群理文第319集 2003
 3 「久々戸(1)・中耕Ⅱ(2)・西ノ上・上郷A」群理文第349集 2005
 4 「川原潟勝沼道路(2)」群理文第356集 2005
 5 「下原遺跡(3)」群理文第389集 2006
 6 「上郷岡原遺跡」群理文第410集 2007
 7 「上郷岡原遺跡(2)」群理文第438集 2008
 8 「上郷西道路」群理文第448集 2008
 9 「上郷岡原遺跡(2)」群理文第471集 2009
 10 「東宮遺跡(2)」群理文第536集 2012
 11 「長野原城跡・林中原1遺跡」群理文第586集 2014
 12 「町遺跡」群理文第593集 2015
 13 「尾坂遺跡(2)」群理文第618集 2016
 14 「上原畠遺跡(2)・久々戸道路(3)」群理文第627集 2017
 15 「東宮遺跡(3)」群理文第628集 2017
 16 「下田遺跡(2)」群理文第629集 2017
- 17 「東宮道路(4)」群理文第633集 2018
 18 「西宮道路(1)・西宮岩陰」群理文第634集 2018
 19 「尾坂遺跡(3)」群理文第638集 2018
 20 「石川原遺跡(1)」群理文第640集 2018
 21 「下潟原遺跡」群理文第641集 2018
 22 「下原遺跡(3)」群理文第647集 2019
 23 「西ノ上道路(2)」群理文第651集 2019
 24 「川原潟勝沼道路(3)」群理文第658集 2019
 25 「下田遺跡(3)」群理文第665集 2020
 26 「下潟原遺跡(2)」群理文第666集 2020
 27 「林中原1遺跡(2)・中耕Ⅱ道路(2)」群理文第667集 2020
 28 「西宮道路(2)」群理文第670集 2020
 29 「石川原遺跡(2)」群理文第671集 2020

れない部分の3者から試料を採取している。下原の畑も平坦面を伴う畝密度の高い畑で東西方向の畝を有する部分と、対象区として畝のない部分での試料採取が行われている。両遺跡共に畑部分と畝のない部分との差は顕著で、埋没畑には畑としての土壤構造、作物生育環境の化学性が保持されている事がわかった。また、畝の形状が異なる人々では、試料採取地点間の化学性が変化に富んでおり、畝形状の変化の少ない下原では化学性の変化が少ないとから、人々では一筆ごとに栽培作物や施肥方法、耕作者等が異なったことが考えられた。

発掘調査初期段階で、様々な分析を各遺跡で行い、共通点や相違点を抽出することにより、以後の発掘調査の課題を明確化しようとする意識が読み取られる。

4 大麻畑の「発見」

その後しばらくの間、長野原地区の発掘調査は、ダム建設により水没する集落が移転するため、代替地にかかる遺跡を中心に行われた。天明泥流の及ばないような、比較的高い標高の場所にある遺跡が多く調査され、泥流下の耕地遺構調査は、吾妻渓谷を下った東吾妻町地域で多く行われるようになる。

東吾妻町上郷岡原遺跡の発掘調査では、天明泥流下畑の検討が新しい視点から行われた。地域の歴史的背景を含めて、大麻畑の存在が示されたのである^{(5)・(10)}。

吾妻の大麻は、質量共に優れた上州の名産として知られていた。中でも、上郷岡原遺跡のある東吾妻町三島の麻生産は高名で、現在でも岩島麻保存会によって大麻栽培、精麻生産が継承されている。群馬県選定保存技術第1号であり、栽培法に関する聞き取りや、関連する文献資料を収録した無形文化財緊急調査報告書が1977年に群馬県教育委員会から刊行されるなど、まとまった資料もある⁽¹¹⁾。上郷岡原遺跡で発掘された天明泥流下畑の状況は、これら資料や伝承される大麻栽培法から想定される麻畑と近いものとされた。

加えて、畑内の円形平坦面から、最大6100個/gにも及ぶイネ科植物珪酸体が検出されたことが注目された。これは、同遺跡で調査された天明泥流下水田遺構で検出されたそれを超える密度であり、加えてムギ、キビ族型、ヒエ属も確認されている。聞き取り、文献資料の記載を併せて、敷き藁を伴う厩肥を畑にまいたために、穀類の珪

酸体が高密度となったという解釈がなされ、大麻畑からイネやムギ、雜穀の珪酸体が検出される理由付けがなされた。さらに、畑に桶を置いて、その中の肥料を播いたという事例も聴取された。これによれば、肥料は桶の中にあって、直接畑面には接しない。中棚Ⅱ遺跡でみられたような、平坦面の内外で珪酸体量や化学特性に差がないことの説明が可能になった。

大麻畑の発見は、吾妻地域の大麻が近世期における商品流通の進展に乗って、当地の社会経済に大きく寄与していたという、文献資料から読み取られる時代性、地域性と、見事に合致するイメージを提供した。また同時に、発掘調査時に生じたいくつもの諸課題を一挙に解決するものでもあったのである。

とはいって、上郷岡原遺跡でも、天明泥流下畑のすべてが大麻畑と考えたわけではない。方向を揃えた植物遺体が多く残り、As-A軽石が畝頂部と畝間溝にあって、軽石下降後の耕作等が見られないものが収穫前の大麻畑、植物遺体の集積が見られ、As-A軽石が覆う畑を収穫後の大麻畑として提示したものであって、他にも「休耕畠であったのかあるいは、泥流により押しつぶされたのか」「自給自足用の畑」「麻畑と同じような畝とサクを持つ畑」「複雑な畝とサクの走行を有する畑」「畝を高く盛った畑」等の表現で、畑の多様性を示している⁽¹⁰⁾。しかし、天明泥流下に広がる畑は収穫前の大麻畑である、というイメージは非常に強いものとして、筆者を含め、多くの担当者に共有されていった。

この結果、と言って良いのだろうか、「畑跡の調査が蓄積し、様々な視点からイネ科作物の他にアサなどの経営作物が予想されたため、最近の発掘調査では植物珪酸体分析は行われていない。」⁽¹²⁾ことになる。現実問題として、大麻は通常の発掘調査時に行われるような、自然科学分析等では検出が難しい。中棚Ⅱ遺跡の植物珪酸体分析にあたっては、アサの葉、クワの葉起源の植物珪酸体の可能性に關しても留意され、現生のアサから抽出したアサ珪酸体を比較資料として検出に努めたが、検出されなかったとの付記がある⁽⁴⁾。アサは特徴的な植物珪酸体などを生成しないし、生産量もイネ科植物に比して格段に少ないのである⁽¹³⁾。加えて、茎を纖維料として収穫するという作物としての特性上、開花、結実前に植物体が畑から搬出されるので、圃場内に種実や花粉が残

される状況は限られる。自然科学分析を行っても、水田遺構からイネの植物珪酸体が得られるような、大麻畠としての直接的な証拠が得られるわけではない。大麻畠を前提とする以上、これ以上の作物追求は成果が求めがたいことになる。多くの発掘担当者にとって、分析を継続する意義は認めがたかったのであろう。作物を追求するという視点自体が、希薄になってしまったようだ。

しかし、大麻畠であることの根拠は、実はそれほど明確に示されたものではない。上郷岡原遺跡では、Ⅲ区1面10号畠5号円形平坦面からアサ種子片1点が出土したこと及び「畠一面には、最大長約1.8mの植物遺体が検出され、岩島麻保存会の丸橋幸一氏により、大麻であることが確認された。」ことを根拠としている⁽⁶⁾。

大麻種子の出土は、上郷岡原遺跡の他、東宮遺跡、石川原遺跡、町遺跡等でも見られ、当地で大麻が栽培されていたことを示すものとして良いが、その畠が埋没時に大麻の圃場であったか否かは、これのみによって確定することはできない。

畠面に残された植物の痕跡から、原植物を同定しようとする試みも、残念ながら成果を上げたとは言いにくい。「根切り」「葉切り」の痕跡や「畠一面」に広がる植物痕跡とされるものについては、出土状況写真は提示されているものの、植物体や葉の形状がそれと認識できる記録の作成には成功していない。こうした植物痕跡は微弱なもの、発掘時には明瞭ながら、急速に劣化してしまうものが多く、的確な記録化の方法が見いだせていない。同種調査の経験者としては、発掘時の担当者による印象を尊重したいが、それと認識できるような客観的な記録がない点には注意しなくてはならない。当該植物の同定に向けた分析も、上郷岡原遺跡では行われなかった。久々戸遺跡ではFT-IRによる赤外線吸収スペクトル計測及び組織観察による同定を試みたが、双子葉植物との判断で、尾坂遺跡でも組織観察で單子葉植物、双子葉植物とされた⁽¹¹⁾。石川原遺跡では鉄分に置換された痕跡であったために草本との判断にとどまっている。石川原遺跡7号道や25号道で確認された、外皮が剥がれた状態の麻殻の存在が、この地の大麻栽培に最も肉薄した分析結果と言えるだろうが、その麻がその畠で栽培されていたものか否かは、やはり確認し得ない。発掘結果による大麻畠としての証明は、十分になされたわけではなかった。



5月中耕後の大麻畠



収穫期の大麻畠



収穫期の大麻の根元



収穫作業直後の大麻畠

写真1 栃木県鹿沼市の大麻畠



六 播種



七 肥やしちらし・八 上掛け



九 (欲さくり)



十一 植入



十二 麻切り

5 大麻畠の様相

ここでは、大麻栽培や麻畠の様相を、文献資料や現在行われている大麻栽培の工程と併せて確認する。現行の大麻栽培例としては、栃木県鹿沼市の大麻栽培農家、大森由久氏、大森芳樹氏の大麻畠を紹介する。大森氏は八代続く大麻農家で、現在でも広い畠を持って商業的大麻栽培を行っておられる。2015年から2020年にかけて、時々に畠の状況を観察させていただき、特に2018年7月18日には大森由久氏から詳しくお話を伺った⁽¹⁵⁾。

播種 3月末から4月上旬に播種機を用いて播種を行った。播種機は明治15年に発明されたもので、この発明以前は当然手蒔きであった。条間は、現行の播種機で21.5cmほど、明治期の草野正行「大麻栽培法」⁽¹⁶⁾では6寸5分、大正期のものになるが、富沢清十郎「大麻栽培法」⁽¹⁷⁾では8寸とある。手蒔きの時代である貞享元(1684)年の会津農書にも「常ノ畦ヲ四ツ計ノ積ニシテ」とあって、2尺から2尺5寸幅の畠に4条播くことが勧められている⁽¹⁸⁾。播種機でも、手蒔きでも、狭ければ20cm以下、広くても25cm足らずである。大麻栽培の特性として、枝葉を茂らせずに茎の伸張を図るため、非常に密植であることがわかる。

「麻榮業図」⁽¹⁹⁾は、鹿沼地方における麻栽培から精麻の出荷に至る様子を、全29葉にわたって、工程を追って詳しく描いたものである。播種機発明後、明治25年の作であるが、播種図には手蒔きの様子が描かれる。升に種子を入れた女性が、畠間に種子を播く。籠を持った女性も見えるが、これは次図の「肥やしちらし」を行う男性と同じ籠であるように見える。同じく播種時の作業として、

写真2 光信「麻榮業図」による大麻畠の耕作工程

第4節 付 石川原遺跡の天明泥流下畑造構をめぐって

「肥やしちらし」と「土掛け」の図がある。籠に入れた肥やしを撒き、すり足で、畝部の土を畝間溝中に撒かれた種にかけて覆う様子を描いたものである。岩島でも同様に、鳥害を防ぐためとして、播種後には足の裏で土かけを行うという⁽¹¹⁾。こうした播種方法は、特に大麻に限ったことではなく、雑穀類でも同様の方法が採られるが、これによって、播種後の畑面は、ほぼ平らになる。

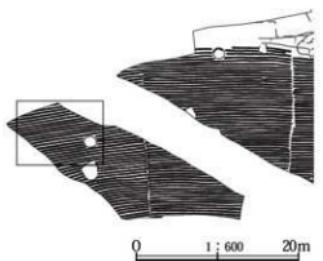
中耕・除草 4月22日と5月8日に中耕除草を行った。播種時に土かけした畑は、晴天と雨の繰り返しで締まるため、第1回の中耕は幅の狭い刃の耕作具で表土を碎く。第2回には幅の広い刃を用いて深かきする。とはいっても、畑面に刃を打ち込む様な、深くまで人為が及ぶような作業ではなく、後退しながら麻掻きを引くものである。「麻榮業園」では中耕を「歎さくり」として描いている。麻の丈から見ると、5月頃の第2回目の中耕に相当するのだろう。柄角の狭い鍬が用いられていて、畑の表面を削るような作業である。大麻畑で歎/歎間溝が形成されるのは、この作業による。

追肥・風入れ 5月22日には成長が遅れている大麻に追肥を行った。この時には大麻は60~120cmに成長している。5月31日、160cmほどまで伸びたところで、成長が遅いものや虫に食べられて折れた麻などを間引いた。麻は密集して作るために、湿気が多く、風通しが悪いと病気になる。特に根元の風通しが重要である。風通しを良くするために周辺の草刈りを行ったり、「風入れ」をする

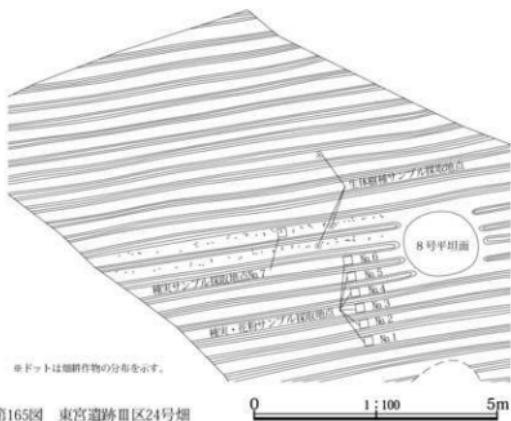
が、中耕後の畑面に、さほど積極的に働きかけることはない。

収穫 2016年には7月2日から収穫が始まられている。筆者が畑を訪れた7月18日は収穫の中盤に当たっていて、8月8日に最後の収穫が終了している。この時の大麻は、250~280cm、高い物では350cmに達する。

天明3年は天明飢饉の中でも最も厳しい年と言われるが、2019年、2020年も、大麻成長期の天候が良くなかつた。2019年7月は東日本では12年ぶりに月平均気温が低くなつた。梅雨前線が本州の南岸付近に停滞し、降水量も多く、全国的に日照時間が少い年であった。このため、大森氏宅で収穫作業が始まったのは8月に入ってからとなり、収穫作業が8月下旬まで続いた。2020年7月も、活発な梅雨前線の影響で長期間にわたって大雨となり、収穫作業が本格化したのは、やはり8月1日の梅雨明け宣言以後となった。両年とも、主に晴天日を待って収穫作業が停滞、遅延したためだそうで、畑面の状況が平年と大きく異なるわけではなかった。長野県の例になるが、青貝村「卯年免相定之事」に書かれたこの年の年貢損免高には「麻畑」が含まれない。天明2年には損免が計上されていないが、元年、3年から8年にはすべて麻畠分の損免が記載されている⁽²⁰⁾。そうすると、天明3年の天候は、特に大麻に限って言えば、その年の収穫に大きな影響を与えたかった可能性が高い。もちろん、浅間山の噴火がなければ、という仮定の上でのことではあ



群馬文第514集東宮遺跡(1)
第96図・第100図



※ドットは細耕作物の分布を示す。

第165図 東宮遺跡Ⅲ区24号畑

るが。

収穫法には、大麻を根元から刈り取る場合と、根ごと引き抜く場合がある。享保2(1717)年の「農業図絵」⁽²¹⁾は、金沢近郊の大麻作を描いたものであるが、これには「麻刈」があって、鎌で大麻を刈り取るように見える作業がある。鳥取県日野郡宮内村地方では根元から刈り取るなどの例もある⁽²²⁾が、多くは引き抜きによっている。会津農書にも「引・立」とあって、抜く作業が示される⁽²³⁾。大森氏宅では、5、6本の茎を握って、根を折るように一気に引き抜く。岩島でも同様に引き抜きによる。「麻榮葉図」では「麻切り」とあるが、描かれているのはやはり麻を抜く作業である。

引き抜いた麻は、「オキリボウチョウ」という、刃渡り50cmもある直刀様の刃物で根を切り、葉を落として、茎だけにする。「ネキリ」「ハウチ」の作業である。この後、殺菌や洗浄のための「ユカケ」を行い、さらに数日乾燥させるという作業が続く。播種以後、もっとも人數を掛け、集約的に行う作業である。収穫前までは、前述の通り、大麻畠内への立ち入りがほとんどないために、中耕時に形成された畝/畝間溝は、雑草に覆われつつも、比較的良好く残っている。しかし、収穫時の根ごと引き抜く作業や、人々の畑内移動によって、畝間溝は乱され、畑面が荒れる。

6 大麻畠の検討

ここでは、前項で見た大麻畠の様相と、石川原遺跡の泥流下畠の様相と、畝/畝間溝の残存状況と条間・中耕・培土の時期をポイントとして比較検討する。

畝・畝間溝と条間 石川原遺跡の畠では、泥流に削除された部分を除くと、畝/畝間溝が明瞭に残されている場合が多い。大麻畠の畝・畝間溝は、中耕・除草時に形成され、この時が最も明瞭である。しかし、中耕作業は、地表への働きかけがさほど強いものではない事は先に見たとおりである。畝間溝は弱く、泥流下畠で見られる明瞭なそれとは必ずしも合致しない。

畠の条間から見ると、石川原遺跡で発掘された畠に、条間30cmを下回るものはない。最も狭い第14区画4号畠は、非常に残りの悪い畠の一部で、図上で読み取った30cmという計測値があるが、不安定である。次いで第6区画4号・5号畠などの条間35cmがあるが、35cm以

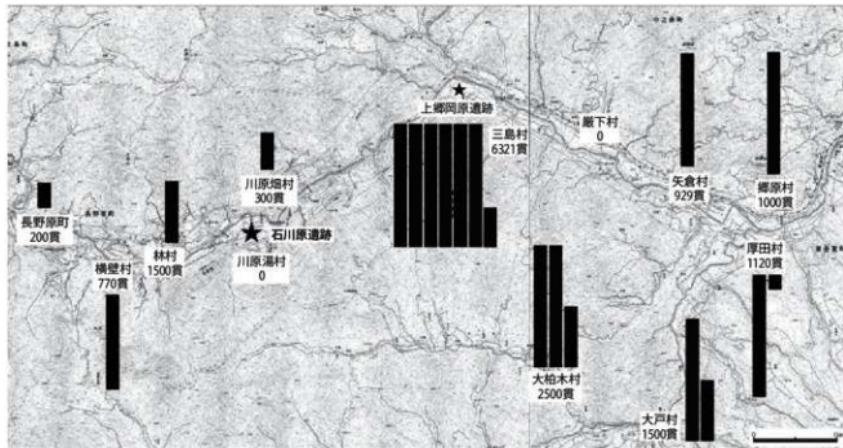
下の条間を持つ畠は条間が計測できた143枚の畠中4枚(2.8%)、40cm以下でも24枚(16.8%)しかない。条間41cmから55cmの畠が最も多く、84枚あって全体の6割近くを占める。

筆者は、畠の形状及び植物遺体等の分析の両面から見て、「麻畠」として捉えられる最も有力な例は、東宮遺跡Ⅲ区24号畠であろうと思っていた。畝/畝間溝が密接して連続し、平坦面が伴う畠が並ぶ中にある。採取された埋没土壌試料6点(各300cc)から、少量のイネ、ムギ、ソバと共に、アサが出土している。アサは7試料中4試料から核片が得られており、特に試料5からは、栽培植物の種実の中では最も多い16片が検出されている。同試料からの花粉分析でもソバ、イネ、ムギと共に、アサが検出されている。また、畝頂部には作物の根本の痕跡が残されていて、1年生の双子葉植物と判断されているものである。しかしこの畠にして、条間は34cmある⁽²⁴⁾。上郷岡原遺跡で収穫前の麻畠とされた16区画1・2・4・6号畠も、条間は35~40cmある⁽²⁵⁾。先に挙げた大麻播種時の条間20cm~25cmに比すると、これでもかなり広いことになる。これでは、大麻畠と断ることはできないし、もしこれらが大麻畠であったとしても、石川原遺跡の中では主体的な存在ではない。

中耕・培土 石川原遺跡では、畝断面の詳細な記録が採取されておらず、また、畝間溝内のAs-A灰石を除去しない状態で図面記録を作成した部分すらあって、畝の詳細を把握できないのだが、畝断面の形状分類で1・3・4類に当たる、As-A灰やAs-A灰石が畝内にある畠の存在が問題になる。それぞれ、灰や灰石の降下後に培土等の作業がなされているものである。As-A灰は6月26日降下、As-A灰石は7月27日から29日にかけて降下したとされている。2018年の大森氏宅では、7月2日に既に収穫が始まっており、As-A灰石はもちろん、As-A灰の降下時であっても、大麻はすでに収穫間に近いまで成長している。培土は基本的に行われないし、密植された大麻畠では、灰を払い、風を入れなどの作業はあったかもしれないが、培土作業が行える状態ではない。As-A灰、灰石を含む培土がある畠は、麻畠ではないと考えるべきだろう。

7 天明泥流下畠の評価

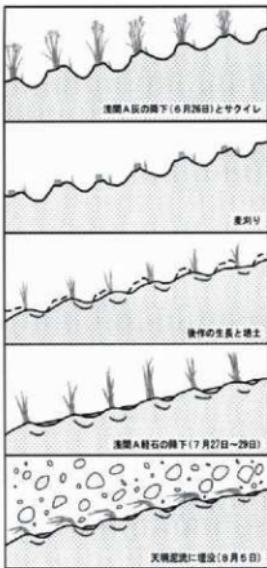
東宮遺跡の考察では⁽²⁶⁾、上郷岡原遺跡の畠面における



第166図 「上野国郡村誌」から見た川原湯村周辺の大麻生産

る大麻痕跡を評価しつつも、「天明三年八月 吾妻郡大柏木村畑方作秋作小前書上帳」(以下「書上帳」)⁽²⁴⁾を引いて、「最も多く栽培されていたのは粟・稗・蕎麦であり、麻は6%であり全体から見ると極めて少ない」また、「食料を確保するために畑の大部分では、粟・稗・蕎麦が大々的に植えられていた」として、麻畑説を批判した。「書上帳」は天明浅間噴火に際して「焼砂泥灰等」が降って、秋作の畑作物が枯損したことを記す。天明3年9月に名主の久右衛門以下が連名で作成した文書で、個別農家の生産規模を知る資料として高く評価されている文書である⁽²⁵⁾。奥書には、大柏木村の畑58町5畝23歩が被災し、このうちに、麻畑4町1反3畝18歩が含まれると記されている。大森氏によると、大麻作にとって、最も打撃の大きな天災は降雹であるそうだが、灰や軽石の落下も同様かそれ以上の災害をもたらしたのであろう。とはいっても、ここに記された大柏木村の麻畑は、僅か4町歩。さほど広いものではない。被災畠の5割近く、28町4反余を占めたのは、主食用の粟を作っていた畑であった。

「吾妻郡村誌」には、大柏木村の産物として、大麻2500貫の記載がある。明治初期、大柏木村は、吾妻郡の本場三島村の6321貫に次ぐ生産高を持つ、一大麻产地となるのである⁽²⁶⁾。にもかかわらず、天明三年の大柏木村には、さほど大きな麻畑はないことになる。「書上帳」は、良質



群理文第356集川原湯勝沼遺跡(2)図72

第167図 川原湯勝沼遺跡の歓断面解釈

の大麻産地としてイメージされる吾妻地域においても、当然ながら主食穀物生産を担う耕地のほうが、より広く拓かれていたことを示している。

さらに、石川原遺跡に引きつけて言えば、明治期以降のこととは言え、大柏木村や長野原地域の大麻は、三島の麻に比すれば「木の皮」にも等しいものとおとしめられている⁽³⁰⁾。また「吾妻郡村誌」によれば、現長野原町域の各村の麻生産量はさほど大きなものではなく、石川原遺跡の属する川原湯村に至っては、産物としての麻の記載すらない。

これらのことから逆照射すれば、三島麻の本場にある上郷岡原遺跡に広大な麻畑があったとしても、これを以て石川原遺跡の天明泥流下畑を、ただちに大麻畑とすることはできない。麻殻や大麻種子、あるいは麻引金の出土が示すように、石川原遺跡はじめ長野原地区の泥流下畑でも、大麻は確かに栽培されていたであろう。しかし、それは泥流下の主要な景観をなすような存在ではないと見たほうが良い。

石川原遺跡の中で大麻畑を探すとすれば、前報告1-7区画や、第4区画14号畑のような、畑面が荒れて、歓/歛間溝が痕跡的にしか捉えられない畑を、大麻収穫後の畑として考えたほうが、近いのかもしれない。麻茎をまとめて引き抜き、束ね、また根切り、葉打ちをし、麻茎を積み、湯掛け場へ搬出するなど、多種の作業を行う。このため、畑面は大きく乱され、歓/歛間溝が破壊される。薄いAs-A灰は確認できないであろうし、As-A軽石降下後に収穫した畑であればAs-A軽石の混土が形成され、降下前に収穫が終わっていれば荒れた地表面をAs-A軽石が覆うことになる。上郷岡原遺跡でも観察された、収穫後の畑とされたものに相当する可能性が高い。こうした畑は、石川原遺跡の中でもごく狭い面積しか占めていないが、麻産地ではない川原湯村の遺跡と考えれば、こちらのほうがふわわしい景観だろう。

先に東宮遺跡Ⅲ区24号畑を見たが、分析担当者はこの畑に対して、複数の作物を輪作したとする見解を示している⁽³¹⁾。これより前、平成17年段階には既に、泥流下畑の様相を総合的に説明するものとして、As-A灰降下時の麦作と後作を組み合わせた耕作形態、麦収穫後で、麦成育中に作付けされた後作物成育中にAs-A軽石降下し、天明泥流によって被覆されたというストーリーが提示さ

れていた⁽⁷⁾。先に掲げた植物珪酸体分析等の結果や、「書上帳」に記された被災作物の様態と照合すると、こうした考え方のほうがより整合的であると思われる。これがなぜ顧みられなくなり、大麻畑説に依るようになったか。今後の畑遺構調査のためにも、反省的に検討することが必要だろう。

謝辞

当初の想定とは違う結論になってしまったが、本項の執筆にあたり、大森由久氏、大森芳紀氏、高安淳一氏には、多くのご教示をいただいた。また、福田純一氏にはご所蔵の麻栄業図の掲載をお許しいただき、高安氏には麻栄業図の写真を提供していただいた。記して感謝申し上げる。

注

- (1) 「八ツ場ダム発掘調査集成(1)」群理文第303集 2002
- (2) 荒牧重雄 1993 「浅間天明の噴火の推移と問題点」『火山考古学』 古今書院
- (3) 原田恒弘・能登 健 1984 「火山災害の季節」『群馬県立歴史博物館紀要』5
- (4) 「久々戸(2)・中郷(2)・西ノ上・上郷」群理文第349集 2005
- (5) 福永薰子・坂上寛一・関 俊明 2003 「浅間山噴火(1783年)に伴う泥流により埋没した畑遺構土壤の理化学的特徴」ペドロジスト47(1)
- 福永薰子 2011 「理没畑遺構土壤の理化学性と微細形態学的特徴」 地球環境 16(2) 国際環境研究協会
- (6) 「上郷岡原遺跡」群理文第410集 2007
- 「上郷岡原遺跡(2)」群理文第438集 2008
- (7) 「川原湯沼遺跡(2)」群理文第356集 2005
- (8) 「中村遺跡」渋川市教育委員会1986
- (9) 伊勢崎市教育委員会 2003 「宮柴前遺跡I・II」伊勢崎市文化財調査報告書49
福田 駿 2017 「宮柴前遺跡のサトイモ石膏型から判るもの」『群馬文化』332 群馬県地域文化研究協議会
- (10) 猪崎修一郎 2009 「上郷岡原遺跡」「JFG遺跡研究会会報」106
- (11) 群馬県教育委員会 1978 「岩島の麻」群馬県無形文化財緊急調査報告書1
丸山不二夫「上州岩島の精麻を追って」私家版 2002
- (12) 「下田遺跡(3)」群理文第665集 2020
- (13) 石川莉英・伊藤義人・小原奈津子 2017 「麻類を主とした植物織維の生体遺物による鑑別」『昭和女子大学大学院生活機能研究科紀要』26
- (14) 「尾坂遺跡(2)」群理文第618集 2016
- (15) 以下の記載は、大森由久氏からのご教示(2018年7月聴取)及び大森芳紀氏による「野州麻紙工房・野州麻紡製炭所」ホームページ(<https://yashasasa.com/>)内の「麻の手仕事日記」2018・2019・2020を利用して。また、写真1は2016年に洞口が撮影したものである。
- (16) 草野正行 1888 「大麻栽培法」(『明治農書全集』第五巻特用作物農山漁村文化協会 1984)
- (17) 富沢清十郎 1913 「大麻栽培法」有隣堂書店
- (18) 佐瀬与次右衛門 1684 「会津農書」(『日本農書全集第』19巻 農山漁村文化協会1982)
- (19) 「麻栄業図」栄信画 1892
柄木県立博物館編 1999 「麻 大いなる織維」

- (20) 長野県大町市田中村家住宅の展示資料
- (21) 上屋又三郎 1717『農業図鑑』(『日本農書全集』26 農山漁村文化協会1983)
- (22) 群馬県内務部 1915『三稟及大麻栽培法』農事叢書第五
- (23) 『東宮遺跡(3)』群理文第26集
- (24) 『群馬史』資料編11 近世3所収 群馬県 1980
ここに書き上げられた煙の面積を集計すると、総面積58町2反29歩、麻畠は3町7反8畝12歩になる。注23ではこの面積を基に、総畠面積に対する麻畠の比率を6.5%とし、注25では奥書の面積を探つて7.1%としている。
- (25) 新井鏡久 2015『近世関東煙作農村の商品生産と舟運』成文堂
- (26) 『上野国郡誌』11吾妻郡 群馬県文化事業振興会 1985

参考

- 新井房夫 1993「上州の火山噴火の歴史」『火山災考古学』古今書院
- 安藤 廣太郎 1990「下野國大麻栽培製造法」『農事試験場特別報告(7)』
- 藤崎茂雄ほか 2019『大麻』 農山漁村文化協会
- 閔 俊明 2003「7月27日～29日降下浅間A軽石の「鍵層」としての位置づけ」『研究紀要』21 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 閔 俊明 2006「天明噴火の被害と発掘調査」『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書』1783浅間山天明噴火・中央防災会議
- 高安淳一 2017『大麻という農作物』大麻博物館
- 高橋重郎 1890『大麻栽培法及び製造法実験録』三島麻取扱所
- 田中勘三郎 1901『耕作各論』博文館
- 田村古茂 1881『農業白書』(『日本農書全集』21 農山漁村文化協会1981)
- 津田南浦 1905『農家務案内』修学堂
- 北海道庁領民部農工課 1904『北海道農桑提要』
- 町田 博ほか 1963「大麻の播種期と栽植密度」『信州大学織維学部付属農場業績報告』3
- 宮負定雄 1826『農業要集』(『日本農書全集』第3巻 農山漁村文化協会 1979)
- 安井慎也 2006「天明3年浅間山噴火の経過と灾害」『災害教訓の継承に関する専門調査会報告書』1783浅間山天明噴火・中央防災会議
- 横井時敬 1904『工芸作物の話』富山房
- 吉川祐輝 1919『織物作物』『工芸作物各論』第1巻 成美堂書店